㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第238集

浜川遺跡群

北陸新幹線地域埋蔵文化財
発掘調査報告書第9集

1998

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本鉄道建設公団

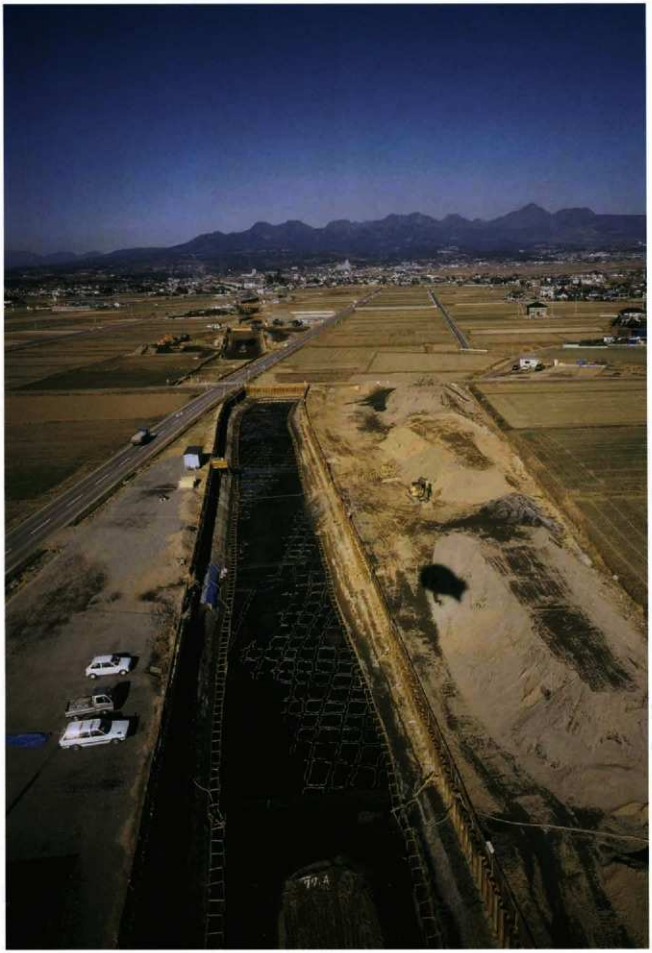
㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第238集

浜川遺跡群

北陸新幹線地域埋蔵文化財
発掘調査報告書第9集

1998

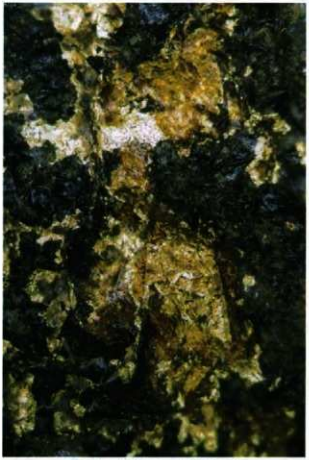
群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本鉄道建設公団



浜川遺跡群全景

浜川高田遺跡　中・近世遺構群

浜川高田遺跡　16－4号溝出土の板碑



左板碑　枠線部分の顕微鏡写真

序

北陸新幹線建設事業は、本年10月１日長野行新幹線として東京－長野間に開通しました。この建設工事に伴う事前の埋蔵文化財調査は35ヶ所におよび、平成３年～７年の間、県教育委員会から委託を受け、㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団が調査しました。本書の取り扱う範囲は、高崎市の北部に位置する浜川館、浜川高田、浜川長町遺跡の３遺跡です。平成５～６年まで発掘調査、平成９年度に整理、報告書作成作業を実施しました。

遺跡調査の特徴は、榛名山の南麓に厚く堆積する泥流層下、地表下４～４．５メートルにまでおよぶ深所調査にあり、浅間Ｂ軽石、榛名－渋川テフラ、榛名－伊香保テフラ、浅間Ｃ軽石層下の４～５面に達する複数面調査が必要であったことです。発掘前には事前の遺跡認定に困難が伴い、調査にはいってからは安全対策で専門的なコンサルタントが必要であり、湧水対策、Ｈ鋼による掘削面までの崩落対策など、当事業団としてもかつてない万全の安全体制で望みました。

このように、発掘技術、安全対策上の新技術に裏打ちされた調査で明らかになった遺構には、中世館跡の「高田屋敷」、「与平屋敷」に伴う遺構群と、極めて保存状態の良い古墳時代の水田があり、めざましい成果を上げることが出来ました。

お世話になった日本鉄道建設公団、県教育委員会文化財保護課、高崎市教育委員会には深甚の謝意を表し、本書の刊行が地域の歴史理解の一助となることを念じつつ序の言葉といたします。

平成10年３月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長　小寺弘之

例　言

1．本書は、北陸新幹線建設に伴う事前調査として実施した「浜川館遺跡」、「浜川高田遺跡」(事業名称高田屋敷)、「浜川長町遺跡」の調査報告書である。

2．遺跡は、群馬県高崎市浜川町字館、高田、長町に所在する。

3．３つの遺跡は連続して展開し、総延長が１km以上におよぶ。そのため、新幹線の路線内を走る市道によって分割し、それぞれの所在する町名と字名を併せて遺跡名称とした。

4．本発掘調査は、群馬県教育委員会を通じ、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が日本鉄道建設公団より委託を受けて実施した。

5．発掘調査期間は下記のとおりである。

浜川館、浜川高田遺跡　平成５年６月１日～平成６年３月31日

浜川長町遺跡　平成５年７月１日～平成６年３月31日

6．発掘調査組織は下記の通りである。

事務担当　常務理事　中村英一　事務局長　近藤功　管理部長　佐藤勉　調査研究部長　神保侑史　庶務課長　斉藤俊一　調査研究第１課長　真下高幸　庶務課係長代理　国定均、笠原秀樹　主任　須田朋子、吉田有光、柳岡良宏　主事　船津茂、高橋定義　非常勤嘱託　松下登　臨時職員　吉田恵子、角田みづほ、松井美智代、塩浦ひろみ、内山佳子、角田正子

発掘担当　浜川館遺跡　主任調査研究員　岩崎泰一　調査研究員　深沢敦仁、津島秀章

浜川高田遺跡　専門員　綿貫邦男　主任調査研究員　南雲芳明（～９月）、金井武（12月～）　調査研究員　黒田晃（10月～）、井上昌美（～11月）

浜川長町遺跡　専門員　中束耕志　主任調査研究員　洞口正史（～11月）　調査研究員　桜井美枝（12月～）、大竹正隆

7．整理事業は、群馬県教育委員会を通じ、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が日本鉄道建設公団の委託を受けて実施した。

8．整理期間は平成９年４月１日～平成10年３月31日である。

9．整理組織は下記のとおりである。

事務担当　常務理事　菅野清　事務局長　原田恒弘　管理部長　渡辺健　副事務局長（調査研究第１部長兼務）赤山容造　調査研究第２部長　神保侑史　総務課長　小渕淳　調査研究第３課長　真下高幸　総務係長　笠原秀樹　経理係長　井上剛　係長代理　須田朋子　主任　吉田有光、柳岡良宏、岡島伸昌　主事　宮崎忠司　非常勤嘱託　大澤友治　臨時職員　吉田恵子、内山佳子、星野美智子、羽鳥京子、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、本地友美、狩野真子

整理担当　主任調査研究員　桜井美枝

10．報告書作成関係者

編　集　桜井美枝

本文執筆　第２章　深沢敦仁、第５章（第２節・６中・近世１）掘立柱建物　綿貫邦男、その他　桜井美枝

遺構写真　発掘調査担当者

遺物写真　佐藤元彦

整理補助　大友幸江、六本木弘子、高柳哲子、中橋たみ子、渡辺八千代、斉藤智子、黒崎京子

機械実測　田所順子、木原幸子

木器・金属器保存処理　関邦一、土橋まり子、小村浩一、萩原妙子

木器作図およびプレパラート作成　高橋真樹子、田中富子、田中のぶ子

11. 委託関係

遺構写真測量　株式会社　技研

古環境分析　株式会社　古環境研究所

樹種・種実同定　株式会社　パレオ・ラボ

石材鑑定　飯島静男（群馬地質研究会）

人骨鑑定　楢崎修一郎（群馬県立自然史博物館）

12. 出土遺物・図面等の資料は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

13. 本遺跡の発掘調査および報告書作成にあたり、下記の諸氏・諸機関にご教示・ご指導をいただいた。また、発掘調査にあたっては、高崎市・前橋市・藤岡市・群馬町・箕郷町などの多くの方々に作業員としてご協力いただいた。記して謝意を表する次第である。(順不同・敬称略)

高崎市教育委員会、永嶋正春、宮崎重雄、石井榮一、神宮善彦

凡　例

1　本書の遺構番号は、原則として発掘調査時に付したものをそのまま使用している。ただし、浜川長町遺跡の溝については、調査時に区画ごと、調査面ごとにナンバーを付してあったため、非常に煩雑であった。そのため、報告書作成時に新たに付け直した。また、浜川高田遺跡でも一部遺構名の重複や不適切な名称があったため、名称を変更したものがあった。名称を変更した遺構の報告書掲載名称と調査時の旧名称の対比は下記の表の通り。なお、遺物の注記は旧名称のままである。

浜川高田

掲載名称	旧名称	掲載名称	旧名称
15-16土坑	15-14溝	5- 3墓	5- 1土坑
16-14土坑	16- 2井戸	15-10井戸	15- 4土坑
16-15土坑	16- 4井戸	5- 4溝	5- 2溝（遺構名重複）
26- 4土坑	26- 1井戸	27-15溝	遺構名称なし

浜川長町

掲載名称	旧名称	掲載名称	旧名称
1- 1溝	FA～C経石上部1溝	2- 4溝	FP下溝
1- 2溝	〃　2溝	2- 5溝	泥流上面1溝
1- 3溝	〃　3溝	3- 1溝	有馬パミス下1溝
1- 4溝	〃　4溝	3- 2溝	遺構名称なし
1- 5溝	FA下1溝	4- 1溝	遺構名称なし(FA下)
1- 6溝	中・近世溝	4- 2溝	泥流上面溝
1- 7溝	〃	6- 1溝	溝①
1- 8溝	〃	6- 2溝	溝②
1- 9溝	〃	6- 3溝	溝③
2- 1溝	C下溝	6- 4溝	溝④
2- 2溝	FA下1溝	6- 5溝	溝④（遺構名重複）
2- 3溝	遺構名称なし		

2　各遺構実測図の縮尺は、原則として以下のとおりであるが、一部統一できない部分もあった。基準としてスケールを配しているので、そちらを参照されたい。

住居：1／60　竈：1／30　土坑・井戸・墓壙：1／40　掘立柱建物：1／80　溝：1／80

水田全体図：1／200　水田部分図：1／80、1／100

3　遺構断面実測図・等高線等に記した数値はいずれも海抜標高を示す。

4　遺構実測図中の方位記号は、国家座標の北を示す。（国家座標第IX系）

5　遺物実測図の縮尺は原則として下記のとおりだが、統一できない部分もあり、縮尺を参照されたい。

土　器　土師器甕・坩、須恵器壺、軟質陶器鍋・鉢・火鉢等：1／4

弥生土器、土師器坏・高坏、須恵器坏、土師質土器皿、軟質陶器香炉等：1／3

石　器　管玉・白玉：1／1　石製模造品：1／2　敲石・砥石（小型）・硯：1／3　多孔石・

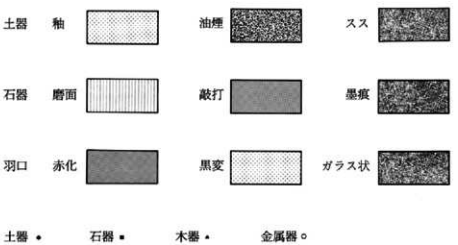
凹石・石造物・板碑・石臼・砥石（大型）：1／4

金属器　銅銭：4／5　　小刀：1／3　　その他：1／2

木　器　椀・曲物等小形の木製品：1／3　　杭・建築材等大形の木製品：1／4

6　遺物写真の縮尺は、土器・石器・金属器は原則として遺物実測図に一致する。ただし、木器のうち大型のものは1／6、小型のものは1／5にしてある。また、遺構写真の縮尺は不統一である。

7　遺構・遺物実測図中のスクリーントーンおよびシンボルマークは以下のことを示す。



8　遺物観察表中には、以下の略称を使用している。

軟質陶：軟質陶器　　焼締陶：焼締陶器　　土師質：土師質土器

9　遺構図、遺物実測図、遺物観察表、写真図版の遺物番号は一致する。

10　遺物観察表中の色調は、農林水産技術会議事務局監修（財）日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帳』1991年度版を使用している。

11　水田面の面積は、プラニメーターで3回計測し、その平均値を用いている。

12　遺物の注記は、遺跡略号に続けて、区、遺構名、遺物ナンバーの順に記載してある。各遺跡の略号は浜川館：HS-040、浜川高田：HS-050、浜川長町：HS-060である。

目　次

巻頭図版
序
凡例
目次
挿図目次
表目次

第１章　発掘調査の経過
　第１節　調査に至る経緯と調査の経過 ……1
　第２節　調査の方法 ……3
第２章　遺跡周辺の環境 ……5
第３章　浜川館遺跡
　第１節　調査の概要……16
　第２節　検出された遺構と遺物……18
　　1　浅間Ｃ軽石（As-C）下 ……18
　　2　榛名－渋川テフラ（Hr-FA）下 ……24
　　3　榛名－伊香保テフラ（Hr-FP）下 ……34
　　4　泥流堆積物上面……41
　　5　浅間Ｂ軽石（As-B）下 ……46
　　6　中・近世……50
第４章　浜川高田遺跡
　第１節　調査の概要……64
　第２節　検出された遺構と遺物……66
　　1　浅間Ｃ軽石（As-C）下位 ……66
　　2　浅間Ｃ軽石（As-C）直下 ……66
　　3　榛名－渋川テフラ（Hr-FA）下 ……68
　　4　榛名－伊香保テフラ（Hr-FP）下 ……78
　　5　浅間Ｂ軽石（As-B）下 ……80
　　6　中・近世……84
第５章　浜川長町遺跡
　第１節　調査の概要 ……200
　第２節　検出された遺構と遺物 ……202
　　1　浅間Ｃ軽石（As-C）下……202
　　2　榛名－有馬火山灰（Hr-AA）？下……208
　　3　榛名－渋川テフラ（Hr-FA）下……213

4　榛名－伊香保テフラ（Hr-FP）下 ……221
5　泥流堆積物上面 ……222
6　浅間B軽石（As-B）下……232
7　中・近世 ……236
8　遺構外出土遺物 ……242
第6章　まとめ　－浜川遺跡群の遺構について－
第1節　浜川遺跡群の水田址 ……243
第2節　浜川高田遺跡の中・近世遺構 ……248
遺物観察表 ……252
付編　自然化学分析
1　群馬県、浜川遺跡群における自然科学分析 ……280
2　浜川遺跡群出土木材の樹種同定 ……336
3　浜川長町遺跡1号住居の植物遺体 ……361
4　浜川高田遺跡出土人骨 ……365
抄録
写真図版

挿図目次

第1図　遺跡位置図 ……2
第2図　調査区位置図 ……3
第3図　北陸新幹線地区及び遺跡位置図（部分） ……4
第4図　浜川遺跡群位置図 ……5
第5図　浜川遺跡群周辺地形区分図 ……6
第6図　「Hr-FA泥流」および「Hr-FP泥流」堆積範囲推定図……7
第7図　周辺遺跡図① ……11
第8図　周辺遺跡図② ……14
第9図　浜川館遺跡基本土層（1） ……16
第10図　浜川館遺跡基本土層（2） ……17
第11図　As-C下水田4・5号大畦セクション ……18
第12図　As-C下水田4・5号大畦 ……19
第13図　As-C下水田1号大畦 ……20
第14図　As-C下水田2号大畦 ……21
第15図　As-C下水田出土木製品（1） ……22
第16図　As-C下水田出土木製品（2） ……23
第17図　Hr-FA下水田1号大畦セクション ……24
第18図　Hr-FA下水田1号大畦 ……25
第19図　Hr-FA下水田3号大畦木材出土状況 ……27
第20図　Hr-FA下水田3号大畦水口部分木材出土状況 ……28
第21図　Hr-FA下水田5号大畦 ……29
第22図　Hr-FA下水田出土遺物（1） ……30
第23図　Hr-FA下水田出土遺物（2） ……31
第24図　Hr-FA下水田出土遺物（3） ……32
第25図　Hr-FA下水田出土遺物（4） ……33
第26図　Hr-FP下水田溝セクション ……34
第27図　Hr-FP下水田溝 ……35
第28図　Hr-FP下水田6号大畦 ……36
第29図　Hr-FP下水田4号大畦 ……37
第30図　Hr-FP泥流下層出土木製品（1） ……38
第31図　Hr-FP泥流下層出土木製品（2） ……39
第32図　Hr-FP泥流上面全体図 ……40
第33図　1号住居 ……41
第34図　1号住居、出土遺物（1） ……42
第35図　1号住居出土遺物（2） ……43
第36図　2号住居 ……43
第37図　2号住居、出土遺物 ……44
第38図　1・11・59号土坑、13号溝 ……45
第39図　26・30号溝 ……46
第40図　As-B下水田 ……47

第41図　As-B下水出および出土遺物 ……48
第42図　5号溝 ……49
第43図　3～10号土坑 ……51
第44図　1・2号溝 ……53
第45図　3・4・12号溝 ……54
第46図　6・7・8・10号溝 ……55
第47図　9・11号溝 ……56
第48図　14・15・17・18号溝 ……57
第49図　19～23号溝 ……59
第50図　16・27・28・31号溝 ……60
第51図　24・25号溝 ……61
第52図　溝出土遺物 ……62
第53図　柱列 ……62
第54図　中・近世水田耕作痕 ……63
第55図　浜川高田遺跡基本土層（1） ……64
第56図　浜川高田遺跡基本土層（2） ……65
第57図　As-C下位全体図 ……66
第58図　As-C下水田2・3号大畦、出土遺物 ……67
第59図　Hr-FA下水田1・2号大畦、1・2号溝 ……69
第60図　Hr-FA下水田4号大畦 ……71
第61図　Hr-FA下水田9号大畦、3号溝 ……72
第62図　Hr-FA下水田11号大畦 ……73
第63図　Hr-FA下水田出土遺物（1） ……74
第64図　Hr-FA下水田出土遺物（2） ……75
第65図　Hr-FA下水田出土遺物（3） ……76
第66図　Hr-FA下水田出土遺物（4） ……77
第67図　Hr-FP下水田1・2号大畦セクション ……78
第68図　Hr-FP下水田1・2号大畦 ……79
第69図　As-B下水田セクション ……80
第70図　As-B下水田27区北西 ……81
第71図　As-B下水田28・38区 ……82
第72図　As-B下水田足跡石青盤転本、出土遺物 ……83
第73図　5-1～6号掘立柱建物 ……85
第74図　15-1～3号掘立柱建物 ……87
第75図　15-4・5号掘立柱建物 ……88
第76図　15-6号掘立柱建物 ……89
第77図　16-2、26-1・2・5号掘立柱建物 ……90
第78図　26-3・6号掘立柱建物 ……91
第79図　27-2号掘立柱建物 ……92
第80図　27-3・5号掘立柱建物 ……93
第81図　27-7～11号掘立柱建物 ……95
第82図　27-12～14号掘立柱建物 ……96
第83図　4-1・2、5-2号土坑 ……97
第84図　15-1～3号土坑 ……98
第85図　15-5～10号土坑 ……99
第86図　15-11～16号土坑 ……100
第87図　16-1・2号土坑 ……101
第88図　16-3～11号土坑 ……103
第89図　16-12～15、26-1・2号土坑 ……104
第90図　26-4～6号土坑 ……105
第91図　27-1～4号土坑 ……106
第92図　27-6～8号土坑 ……107
第93図　27-9・10号土坑 ……108
第94図　27-11～17号土坑 ……109
第95図　5-1～3号墓壙 ……110
第96図　15-1、26-1、27-1号墓壙 ……111
第97図　15-1～3号井戸 ……112
第98図　15-4・5号井戸 ……113
第99図　15-6・7号井戸 ……114
第100図　15-8～10号井戸 ……115
第101図　16-1・3、26-2号井戸 ……116
第102図　26-3～5号井戸 ……117
第103図　26-6・7、27-1号井戸 ……118
第104図　27-2～4号井戸 ……119
第105図　27-5号井戸、5-1・2号溝 ……120
第106図　5-3・4、15-5・6号溝 ……121
第107図　15-2・4号溝セクション ……122
第108図　15-1～4号溝 ……123
第109図　15-7～9号溝 ……124
第110図　15-10・11号溝 ……125
第111図　16-1・3号溝 ……127
第112図　16-2・7・8号溝 ……128
第113図　16-4～6号溝 ……129
第114図　26-2・3・7号溝 ……131
第115図　26-4号溝 ……132
第116図　27-1～3号溝 ……133
第117図　27-4・5号溝 ……135
第118図　27-6号溝 ……136
第119図　27-7・11号溝 ……137
第120図　27-8・10号溝 ……138
第121図　27-9・12・13号溝 ……139
第122図　27-14・15号溝 ……140
第123図　1号集石 ……141
第124図　2号集石、炉 ……142
第125図　27-9号掘立柱建物、15-1・2号土坑出土遺物 ……142
第126図　15-2・3・6号土坑出土遺物 ……143
第127図　15-16、16-3・6・14・15、26-2・4号土坑出土遺物 ……144
第128図　26-4・6、27-1・2・4・9号土坑出土遺物 ……145
第129図　27-9号土坑出土遺物 ……146
第130図　27-9・10・14号土坑出土遺物 ……147
第131図　27-14号土坑、5-1号墓壙出土遺物 ……148
第132図　5-1～3、15-1、26-1、27-1号墓壙出土遺物 ……149
第133図　27-1号墓壙、15-1号井戸出土遺物 ……150
第134図　15-2～5号井戸出土遺物 ……151
第135図　15-5・6号井戸出土遺物 ……152
第136図　15-6号井戸出土遺物 ……153
第137図　15-6号井戸出土遺物 ……154
第138図　15-6号井戸出土遺物 ……155
第139図　15-6号井戸出土遺物 ……156
第140図　15-6号井戸出土遺物 ……157
第141図　15-6号井戸出土遺物 ……158
第142図　15-6号井戸出土遺物 ……159
第143図　15-6・7号井戸出土遺物 ……160
第144図　15-7号井戸出土遺物 ……161
第145図　15-7号井戸出土遺物 ……162
第146図　15-7・8号井戸出土遺物 ……163
第147図　15-8、26-2号井戸出土遺物 ……164
第148図　26-2・4・6号井戸出土遺物 ……165
第149図　26-6、27-3号井戸出土遺物 ……166
第150図　27-4号井戸出土遺物 ……167
第151図　27-5号井戸、5-1、15-1号溝出土遺物 ……168
第152図　15-1号溝出土遺物 ……169
第153図　15-1～3号溝出土遺物 ……170
第154図　15-3号溝出土遺物 ……171
第155図　15-6・8号溝出土遺物 ……172
第156図　15-8号溝出土遺物 ……173
第157図　15-8号溝出土遺物 ……174
第158図　15-8号溝出土遺物 ……175
第159図　15-8号溝出土遺物 ……176
第160図　15-8号溝出土遺物 ……177
第161図　15-8～10号溝出土遺物 ……178
第162図　15-10号溝出土遺物 ……179
第163図　15-10号溝出土遺物 ……180

第164図　15-10号溝出土遺物 ……181
第165図　15-10・11号溝出土遺物 ……182
第166図　16-1～4号溝出土遺物 ……183
第167図　16-4号溝出土遺物 ……184
第168図　16-4号溝出土遺物 ……185
第169図　16-4～6号溝出土遺物 ……186
第170図　16-6号溝出土遺物 ……187
第171図　16-6号溝出土遺物 ……188
第172図　26-2・4号溝出土遺物 ……189
第173図　26-4号溝出土遺物 ……190
第174図　26-4号溝出土遺物 ……191
第175図　26-4号溝出土遺物 ……192
第176図　26-7、27-1・2号溝出土遺物 ……193
第177図　27-2～6号溝出土遺物 ……194
第178図　27-6号溝出土遺物 ……195
第179図　27-7・9・12～14号溝出土遺物 ……196
第180図　1・2号集石、炉出土遺物 ……197
第181図　ピット出土遺物 ……197
第182図　遺構外出土遺物 ……198
第183図　遺構外出土遺物 ……199
第184図　浜川長町遺跡基本土層（1） ……200
第185図　浜川長町遺跡基本土層（2） ……201
第186図　As-C下1区画全体図 ……202
第187図　As-C下水田2～4区画全体図 ……折込
第188図　1区画As-C下遺物出土状況 ……205
第189図　1区画As-C下杭、木株 ……206
第190図　2区画As-C下水田2-1号溝 ……207
第191図　As-C下出土遺物 ……208
第192図　Hr-AA下2～4区画全体図 ……折込
第193図　Hr-AA下1区画全体図、1-1・2号溝 ……211
第194図　1-3・4、3-1号溝 ……212
第195図　Hr-AA下1区出土遺物 ……213
第196図　Hr-FA下水田1区画北端、1-5号溝 ……215
第197図　Hr-FA下水田1区画（38区B-17グリッド付近） ……216
第198図　Hr-FA下水田1区画（38区T-14グリッド付近） ……217
第199図　Hr-FA下水田1区画（38区Q-10グリッド付近） ……218
第200図　Hr-FA下水田1区画南端部 ……219
第201図　2-2・3号溝 ……220
第202図　Hr-FP下2区画試掘坑全体図、2-4号溝 ……221
第203図　Hr-FP泥流上面全体図 ……222
第204図　1号住居 ……223
第205図　1号住居炭化材出土状況 ……224
第206図　1号住居、出土遺物（1） ……225
第207図　1号住居出土遺物（2） ……226
第208図　1号住居出土遺物（3） ……227
第209図　Hr-FP泥流上面4区画全体図、2号住居 ……228
第210図　Hr-FP泥流上面6区画全体図、6-1～3・6号土坑 ……229
第211図　4-2号溝 ……230
第212図　Hr-FP泥流上面1・2区画全体図、
石列、1・2号炭化物集中 ……231
第213図　As-B下水田1区画（38区T-13グリッド付近） ……233
第214図　As-B下水田1区画（38区O-9グリッド付近） ……234
第215図　As-B下水田1区画（38区I-5グリッド付近） ……235
第216図　中・近世1区画全体図、1-6・7号溝 ……237
第217図　1-8・9号溝 ……238
第218図　中・近世2区画全体図、2-5号溝 ……239
第219図　中・近世3・6区画全体図、3-2号溝 ……240
第220図　6-1～5号溝 ……241
第221図　3区画溝群 ……242
第222図　遺構外出土遺物 ……242
第223図　浜川遺跡群水田全体図 ……折込
第224図　「高田屋敷」、「与平屋敷」と
浜川高田遺跡中・近世遺構群 ……折込
第225図　分析試料採取位置図 ……288
第226図　浜川館遺跡地質柱状図 ……289
第227図　浜川高田遺跡地質柱状図 ……290
第228図　浜川長町遺跡地質柱状図 ……291
第229図　プラント・オパール分析試料採取地点 ……297
第230図　浜川館遺跡に於ける植物珪酸体分析結果 ……300
第231図　浜川高田遺跡5区中央部Hr-FP直下
畠状遺構における植物珪酸体分析結果 ……302
第232図　浜川高田遺跡深堀トレンチにおける
植物珪酸体分析結果 ……303
第233図　浜川高田遺跡5区第1～3地点の
植物珪酸体分析結果 ……304
第234図　浜川高田遺跡15・16区No.1・5地点の
植物珪酸体分析結果 ……305
第235図　浜川高田遺跡27区No.2地点の
植物珪酸体分析結果 ……307
第236図　浜川長町遺跡4区画の植物珪酸体分析結果 ……308
第237図　浜川長町遺跡1区画の植物珪酸体分析結果 ……309
第238図　浜川館遺跡における主要花粉組成図 ……316
第239図　浜川高田遺跡15・16区における主要花粉組成図 ……320
第240図　浜川高田遺跡26・27区No.2地点における
主要花粉組成図 ……321
第241図　浜川長町遺跡1区画における
主要花粉組成図（1） ……323
第242図　浜川長町遺跡1区画における
主要花粉組成図（2） ……324
第243図　試料の採取地点 ……332
第244図　X線解析図 ……335
第245図　浜川高田遺跡の樹種別一覧 ……349
第246図　浜川長町遺跡の樹種別一覧 ……349
第247図　機動細胞珪酸体（ウシクサ族）の各部名称 ……361
第248図　浜川長町遺跡1号住居出土植物遺体の分析結果 ……363

表目次

第1表　周辺遺跡一覧① ……10
第2表　周辺遺跡一覧② ……12・13
第3表　浜川高田遺跡深堀トレンチの屈折率測定結果 ……291
第4表　浜川高田遺跡におけるイネの検出状況 ……294
第5表　浜川長町遺跡各地点・各層準における
イネの植物珪酸体の検出状況 ……295
第6表　浜川館遺跡における植物珪酸体分析結果 ……298
第7表　浜川館遺跡における植物体生産量の推定値 ……299
第8表　浜川高田遺跡の植物珪酸体分析結果 ……301
第9表　浜川高田遺跡の主な分類群の植物体量の推定値 ……302
第10表　浜川高田遺跡15・16区における
植物珪酸体分析結果 ……305
第11表　浜川高田遺跡15・16区における
植物体生産量の推定値 ……305
第12表　浜川高田遺跡26・27区における
植物珪酸体分析結果 ……306

第13表　浜川高田遺跡26・27区における
植物体生産量の推定値 ……306
第14表　浜川長町遺跡における植物珪酸体分析結果 ……307
第15表　浜川長町遺跡における植物体生産量の推定値 ……307
第16表　浜川館遺跡における花粉分析結果 ……315
第17表　浜川高田遺跡5区第1地点における花粉分析結果 ……317
第18表　浜川高田遺跡15・16区における花粉分析結果 ……318
第19表　浜川高田遺跡26・27区における花粉分析結果 ……319
第20表　浜川長町遺跡における花粉分析結果 ……322
第21表　種実同定分析結果 ……327
第22表　土壌断面の性質 ……333
第23表　土壌の理化学性 ……334
第24表　黒ボク土の諸性質と降下テフラの年代 ……334
第25表　浜川館遺跡Hr-FP泥流（VI層）
出土木製品とその樹種 ……348
第26表　浜川館遺跡6世紀初頭および
古墳前期出土木製品とその樹種 ……348
第27表　5－1土壙墓出土人骨の歯の計測表 ……367
第28表　5－1土壙墓出土人骨の咬耗度 ……367
第29表　5－1土壙墓出土人骨の歯の非計測的形質 ……368
第30表　5－3土壙墓出土人骨の歯の計測表 ……368
第31表　5－3土壙墓出土人骨の歯の咬耗度 ……369
第32表　5－3土壙墓出土人骨の歯の非計測的形質 ……369
第33表　浜川高田遺跡出土人骨の歯の計測値比較表 ……370
第34表　5－1土壙墓出土歯残存表 ……371
第35表　5－3土壙墓出土歯残存表 ……372

写真目次

写真1　遺跡周辺航空写真① ……11
写真2　遺跡周辺航空写真② ……15
写真3　植物珪酸体の顕微鏡写真（1） ……310
写真4　植物珪酸体の顕微鏡写真（2） ……311
写真5　浜川遺跡群出土の花粉・胞子 ……325
写真6　浜川遺跡群出土の種実 ……328
写真7　No.1地点試料4の電子顕微鏡（SEM）写真 ……335
写真8　No.1地点試料4のEPMA分析 ……335
写真9　出土木材樹種の顕微鏡写真（1） ……350
写真10　出土木材樹種の顕微鏡写真（2） ……351
写真11　出土木材樹種の顕微鏡写真（3） ……352
写真12　出土木材樹種の顕微鏡写真（4） ……353
写真13　出土木材樹種の顕微鏡写真（5） ……354
写真14　出土木材樹種の顕微鏡写真（6） ……355
写真15　出土木材樹種の顕微鏡写真（7） ……356
写真16　出土木材樹種の顕微鏡写真（8） ……357
写真17　出土木材樹種の顕微鏡写真（9） ……358
写真18　出土木材樹種の顕微鏡写真（10） ……359
写真19　出土木材樹種の顕微鏡写真（11） ……360
写真20　植物珪酸体の顕微鏡写真（1） ……363
写真21　植物珪酸体の顕微鏡写真（2） ……364
写真22　5-1土壙墓全景（上）と出土歯 ……371
写真23　5-3土壙墓全景（上）と出土歯 ……372

写真図版目次

PL 1　浜川館As-C下水田
PL 2　〃　As-C下水田
PL 3　〃　Hr-FA下水田
PL 4　〃　Hr-FA下水田
PL 5　〃　Hr-FA、Hr-FP下水田
PL 6　〃　Hr-FP下水田
PL 7　〃　Hr-FP下水田、1号住居
PL 8　〃　2号住居、1・11・59号土坑、13・30号溝
PL 9　〃　As-B下水田
PL10　〃　3～10号土坑、1～3号溝
PL11　〃　4・7・9・14・16～21号溝
PL12　〃　22・24・25・31号溝、中世水田
PL13　浜川高田As-C下位、As-C下水田
PL14　〃　As-C下水田
PL15　〃　As-C下水田
PL16　〃　Hr-FA下水田
PL17　〃　Hr-FA下水田
PL18　〃　Hr-FA下水田
PL19　〃　Hr-FA、Hr-FP下水田
PL20　〃　Hr-FP下水田
PL21　〃　Hr-FP、As-B下水田
PL22　〃　As-B下水田
PL23　〃　中・近世面
PL24　〃　中・近世面
PL25　〃　中・近世面
PL26　〃　5-1～6、15-2～6、16-2号掘立柱建物
PL27　〃　26-1～3・5・6、27-2・3・5号掘立柱建物
PL28　〃　27-7～11号掘立柱建物、
4-1・2、5-2、15-1号土坑
PL29　〃　15-2・3・5～7・13・16、16-1・2号土坑
PL30　〃　16-3～8・10・14号土坑
PL31　〃　16-15、26-1・4・5、27-2～4号土坑
PL32　〃　27-8～10・14号土坑、5-1・2号墓壙
PL33　〃　5-3、15-1、26-1号墓壙、
26-2号土坑、15-1～4号井戸
PL34　〃　15-5～10、16-1号井戸
PL35　〃　16-3、26-2～7、27-1号井戸
PL36　〃　27-2～5号井戸、5-1～4、15-1・3・4号溝
PL37　〃　15-1・8・10・11、16-2～4号溝
PL38　〃　16-4～6・8、26-2・4号溝
PL39　〃　26-7、27-1～7・11号溝
PL40　〃　27-8～10・12～14号溝、27-1・2号集石、炉
PL41　浜川長町As-C下水田
PL42　〃　As-C下水田
PL43　〃　Hr-AA下
PL44　〃　Hr-FA下水田
PL45　〃　Hr-FA下水田
PL46　〃　1号住居
PL47　〃　1・2号住居、6-1～3・6号土坑
PL48　〃　4-2号溝、石列、1・2号炭化物集中

PL49　〃　As-B下水田
PL50　〃　As-B下水田、6-1～5号溝
PL51　浜川館As-C下水田出土遺物
PL52　〃　Hr-FA下水田出土遺物（1）
PL53　〃　Hr-FA下水田出土遺物（2）
PL54　〃　Hr-FP泥流下層出土木製品（1）
PL55　〃　Hr-FP泥流下層出土木製品（2）
PL56　〃　1・2号住居、As-B下水田、7・9号溝出土遺物
PL57　浜川高田As-C・Hr-FA下水田出土遺物
PL58　〃　Hr-FA・As-B下水田、27-9号盤立、15-1・2号土坑出土遺物
PL59　〃　15-2・3・6・16、16-6・14・15、26-2号土坑出土遺物
PL60　〃　16-3、26-4・6、27-1・2・9号土坑
PL61　〃　27-9号土坑出土遺物
PL62　〃　27-9・10・14号土坑出土遺物
PL63　〃　27-14号土坑、5-1～3、15-1号墓壙出土遺物
PL64　〃　26-1、27-1号墓壙、15-1・2号井戸出土遺物
PL65　〃　15-2～6号井戸出土遺物
PL66　〃　15-6号井戸出土遺物
PL67　〃　15-6号井戸出土遺物
PL68　〃　15-6号井戸出土遺物
PL69　〃　15-6号井戸出土遺物
PL70　〃　15-6号井戸出土遺物
PL71　〃　15-6号井戸出土遺物
PL72　〃　15-6・7号井戸出土遺物
PL73　〃　15-7号井戸出土遺物
PL74　〃　15-8号井戸出土遺物
PL75　〃　15-8、26-2号井戸出土遺物
PL76　〃　26-4・6、27-3号井戸出土遺物
PL77　〃　27-3・4号井戸出土遺物
PL78　〃　27-4・5号井戸、5-1、15-1号溝出土遺物
PL79　〃　15-1号溝出土遺物
PL80　〃　15-1～3号溝出土遺物
PL81　〃　15-3・6・8号溝出土遺物
PL82　〃　15-8号溝出土遺物
PL83　〃　15-8号溝出土遺物
PL84　〃　15-8号溝出土遺物
PL85　〃　15-8号溝出土遺物
PL86　〃　15-8～10号溝出土遺物
PL87　〃　15-10号溝出土遺物
PL88　〃　15-10号溝出土遺物
PL89　〃　15-10・11号溝出土遺物
PL90　〃　16-1～4号溝出土遺物
PL91　〃　16-4号溝出土遺物
PL92　〃　16-4～6号溝出土遺物
PL93　〃　16-6、26-2号溝出土遺物
PL94　〃　26-2・4号溝出土遺物
PL95　〃　26-4号溝出土遺物
PL96　〃　26-4・7、27-1・2号溝出土遺物
PL97　〃　27-2～6号溝出土遺物
PL98　〃　27-6・7・9・10・12～14号溝出土遺物
PL99　〃　集石、炉、ピット、遺構外出土遺物
PL100　〃　遺構外出土遺物
PL101　〃　As-B下水田足跡石膏形（1）
PL102　〃　As-B下水田足跡石膏形（2）
PL103　浜川長町As-C、Hr-AA？、Hr-FA下面、1号住居出土遺物
PL104　〃　1・2号住居、石列、炭化物集中、遺構外出土遺物

付図目次

付図1　浜川館遺跡As-C下水田全体図
付図2　〃　Hr-FA下水田全体図
付図3　〃　Hr-FP下水田全体図
付図4　〃　As-B下水田全体図
付図5　〃　中・近世遺構全体図
付図6　浜川高田遺跡As-C下水田全体図
付図7　浜川高田遺跡Hr-FA下水田全体図
付図8　〃　Hr-FP下水田全体図
付図9　〃　As-B下水田全体図
付図10　〃　中・近世遺構全体図
付図11　浜川長町遺跡Hr-FA下水田全体図
付図12　〃　As-B下水田全体図

第１章　発掘調査の経過

第１節　調査に至る経緯と調査の経過

１　調査に至る経緯

北陸新幹線建設は、全国新幹線鉄道整備法（昭和45年）に基づき、昭和47年６月に基本計画が決定、昭和48年11月に整備計画決定と同時に運輸大臣から建設の指示を受けた。北陸新幹線の全体計画は高崎市から石川県小松市を結ぶ総延長373kmにおよぶ。このうち群馬県域内は高崎－軽井沢間の42.1kmでうち24.7km（59%）がトンネルとなっている。高崎駅で上越新幹線から分岐し、高崎市－箕郷町－榛名町－倉淵村－安中市－松井田町の２市３町１村を通る。

県教育委員会では、昭和55年に日本鉄道建設公団からの依頼を受け、北陸新幹線計画地域環境調査の一環としての文化財調査を実施した。調査の結果、対象地域において360ヶ所の文化財が確認され、翌56年に「北陸新幹線地域環境影響評価報告書（文化財）」としてまとめられ、日本鉄道建設公団に提出された。

平成元年に入って日本鉄道建設公団と県教育委員会との間で文化財の扱いに関する協議が始まり、（１）発掘に関しては、日本鉄道建設公団と文化財保護委員会が昭和41年に取り交わした覚書に基づくこと、（２）埋蔵文化財の重要度、規模等に応じた調査体制の確保、（３）沿線の分布調査の実施、（４）発掘調査は公団と県教育委員会が委託契約を結び(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団と再委託して実施すること、（５）公団と県教育委員会との協定書は発掘調査と整理事業について各々別途に結ぶこと、等の事項についての協議が行われた。これを受けて県教育委員会は、関連市町の協力を得て北陸新幹線建設予定地内の埋蔵文化財現地調査を実施。調査結果を「北陸新幹線（群馬県内）地域埋蔵文化財一覧表（付地図）」として、公団高崎建設局長あてに回答した。

平成２年11月には、日本鉄道建設公団高崎建設局長と群馬県教育委員会教育長との間で「北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財包蔵地発掘調査の実施に関する協定書」が締結され、平成３年２月、高崎市行力春名社遺跡を皮切りに(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により発掘調査が開始された。

平成３年度から調査は本格化、同年６月に1998年の冬季オリンピックの開催地に長野市が決定したこともあって、調査に拍車がかかった。しかしその一方では用地買収が難航し、発掘調査計画にも大きく影響することとなる。加えて榛名山からの泥流が厚く堆積する地域であり、深所での調査が予想された。そのため、高崎市浜川地区から箕郷町下芝地区にかけては、シートパイルの打設等の安全対策を講じての調査となった。以上様々な困難を抱えながら、北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査は推進され、平成７年度にすべての調査が終了した。

平成６年度からは発掘調査と並行して整理事業が開始され、平成11年度に終了予定である。

２　浜川遺跡群の調査経過

高崎市浜川地区のうち県道前橋－安中線以北の発掘調査は、平成５年６月から着手された。着手にあたっては、先述の「北陸新幹線（群馬県内）地域埋蔵文化財一覧表（付地図）」により前橋－安中線以北、箕郷線以東の路線内、全長1,200mあまりの地域が対象となった。調査区は、路線内を走る既存の市道によってほぼ３等分された。遺跡名称は遺跡所在地の町名と字名をとるという原則に従い、南から「浜川館」、「浜

川高田」、「浜川長町」とした。

３遺跡には調査班各１班が配属され、ほぼ同時に調査を開始した。この地域は、椿名山からの泥流が厚く堆積しており、先行する行力椿名社遺跡では地表下約４ｍの深さで住居が見つかっている。浜川地域の事前のボーリング調査、試掘調査でも、表土下３～４ｍの深さに椿名－浜川テフラ（以下Hr-FA）や浅間Ｃ軽石（以下As-C）の堆積が認められ、かなりの深所での調査が予想された。そのため、調査の方針としては、泥流上面まで明かり掘削で調査した後泥流下の試掘を行う、遺構が検出された場合は安全対策を施して調査を行うこととなった。

各遺跡とも泥流上面の調査では、中･近世の遺構や浅間Ｂ軽石（以下As-B）下から水田址などを検出、調査の終了した区画から試掘調査を行った。その結果、椿名－伊香保テフラ（以下Hr-FP）、Hr-FA、As-C下の各面で水田が見つかり、調査区域のほぼ全域に展開していることが予想された。これを受け、安全対策に関するコンサルタントと調査方法について検討、鋼矢板山止め法（シートパイル）を行うこととなった。10月以降、シートパイルの打設が始まり12月初旬ですべて完了となる。

泥流下の調査は、安全対策の完了した区画から順次着手、Hr-FP、Hr-FA、As-C下の各面で水田や溝などの遺構を検出した。途中浜川長町遺跡で、湧水のためシートパイルが傾き、調査区を一部埋め戻す事態となったが、３月末をもってすべての調査を終了した。

3　整理作業の経過

浜川館、浜川高田、浜川長町遺跡の整理作業は、浜川遺跡群として同一事業として行われることとなった。これは、３遺跡が一連のものであり、遺跡の理解の上から分離しがたいことにもよる。整理作業は平成９年度に行われ、報告書を刊行する。

なお、浜川高田遺跡については、発掘調査時には隣接地に既知の館址である高田屋敷が所在するため、「高田屋敷遺跡」という名称を用いていた。しかし、調査の結果、屋敷の外堀が一部調査区内で発見されたものの、大半は外郭に位置していた。また、屋敷以外の水田址などが全面的に発見されており、遺跡名称から予想される遺跡の性格が、実体と一致しない印象を与える。そこで整理作業の段階で、従来の原則通り、浜川高田遺跡に変更した。従って、本報告以前の文献で北陸新幹線関連の「高田屋敷遺跡」となっているものは、すべて浜川高田遺跡に一致する。

第１図　遺跡位置図

第２節　調査の方法

１　遺跡名称と略号

北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘事業では、関連する遺跡について、名称および略号の付け方を統一した。

遺跡名称については、原則として市に所在する遺跡については所在地の町名と字名を、町村に所在する遺跡は大字と小字名をとることとした。ただし、既に調査されている遺跡に隣接する場合や、遺跡地の性格が調査以前に判明している場合などは、この原則によらないで適切な名称を付けた。浜川高田遺跡でも、調査時には先述のように原則によらない名称を付していた。

遺跡略号は、名称の簡略化により調査の効率化を図るとともに、同一事業における各遺跡の位置関係の理解を容易にすることを目的とする。各遺跡の略号は、浜川館：HS-040、浜川高田：HS-050、浜川長町：HS-060となっている。遺物の注記などはこの略号をもって遺跡名に変えている。略号の付け方の詳細については、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　1994　『行力春名社遺跡』を参照されたい。

２　調査区画の設置

北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘事業では、これに関連する遺跡調査について調査区画を統一している。

区画の設置については、国土座標を基本として、「地区」（大区画）、「区」（中区画）、「グリッド」（小区画）に分け、最小５ｍの区画まで設置した。区画の起点は、高崎駅南東、国土座標のＸ＝＋35,000.0Ｍ、Ｙ＝－73,000.0Ｍの地点とした。

「地区」は一辺１km四方の区画で、北陸新幹線路線部の調査対象地域に沿って25地区を設定。高崎側から安中方面へ向かって１～24（ただし13地区の南は13-1地区とした）のナンバーを付した。

「区」は一辺100ｍ四方の区画で、「地区」内を100等分している。南東隅を起点として東→西を優先して南→北へ１～100区とした。

「グリッド」は一辺５ｍ四方の区画で、「区」内を400等分している。縦横を20等分し、東西方向の分割線を南から北へ向かって１～20、南北方向の分割線を東から西へＡ～Ｔとし、その交点にアルファベットと数字を用いてＡ－１～Ｔ－20までの名称を付した。グリッドの名称は、南東隅の交点の名称をあてる。

呼称については、「１地区、１区、Ａ－１グリッド」のように大中小の３つの区画をそのまま用いて表している。

浜川遺跡群は、この調査区画の11地区北側から10地区を抜け、12地区の東端の部分にあたる。

第２図　調査区位置図
（Ｓ＝1/5000）

第３図　北陸新幹線地区及び遺跡位置図（部分）
（S＝1/50,000）

第２章　遺跡周辺の環境

１　周辺の環境

（１）地理・地勢的環境（第４図）

浜川遺跡群は、地理的には、いずれも群馬県高崎市浜川町に所在する。

高崎市は群馬県の西部に位置し、本県のほぼ中央を北から南へと流れる利根川の右岸にあり、その大半を関東平野が占める。浜川町は、その高崎市の北西部、ほぼ南北方向に走行する主要地方道高崎・榛名・吾妻線と井野川に挟まれた一帯にある。現標高では、110m～140m付近である。

また、浜川遺跡群は、地勢的には、榛名山(最高峰掃部ケ岳標高1448m)東南麓に位置する。

榛名山東南麓は、現在では、広範囲を「相馬ケ原扇状地」(約1.3～1.4万年前に形成が終了[1])が占め、その範囲内に端を発する河川が多数存在し、さらに「白川扇状地」と呼ばれる扇状地形(約1,300～1,350年前に形成が終了[2])が小規模に展開している状況にある。本遺跡群は、その扇状地形内にある。

本遺跡群の西方約1.2kmに流れる榛名白川は、榛名山鷹ノ巣山付近に端を発しており、やがて烏川に合流する。この河川は、「相馬ケ原扇状地」形成以前から流れている河川であり、のちの「白川扇状地」と呼ばれる扇状地形の形成の一因を担う河川として重要である。また、本遺跡群の東方約0.5kmに流れる井野川は、「相馬ケ原扇状地」の扇央部の一部に端を発し、やがて烏川に合流する。この河川は、「相馬ケ原扇状地」形成以後に流れ出したと考えられており[3]、原始・古代からこの地の人々の営みに大きな影響を与えてきた河川として重要である。

註(1)　早田勉　1990　「群馬県の自然と風土」『群馬県史』資料編１に拠る。
(2)　大竹正隆　1994　「ボーリングデータによる古墳時代後期地形復元の試み」『行力春名社遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団を参考にした。
(3)　澤口宏　1982　「日高遺跡付近の地形」『日高遺跡』　群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団を参考にした。

第４図　浜川遺跡群位置図（Ｓ＝1/50,000「榛名山」「前橋」国土地理院）

（２）所謂「白川扇状地」について（第５図）

榛名山東南麓に小規模に広がる「白川扇状地」と呼ばれる扇状地形に関しては、現在のところ、地質学的に明確な定義がなされていない。

本稿では、可能な限り、この扇状地形について述べる。なお、文中でのテフラの呼称は「Hr-FA」（≒Hr-S）、「Hr-FA泥流」（≒Ｓ洪水堆積物）、「Hr-FP」（≒Hr-I）、「Hr-FP泥流」（≒Ｉ洪水堆積物）、とする。但し、各文献中の用語を引用する場合には、その限りではない。

【従来の指摘】　＜扇状地に関する指摘＞　この扇状地形の範囲を明示したのは早田勉氏である[1]が、それ以前にもこの扇状地形に関する指摘はなされていた。

1971年、森山昭雄氏は榛名山東・南山麓の地形を分析する中で、“白川の扇状地”と称し、この地形を指した[2]。その後、1979年と1982年、澤口宏氏は日高遺跡周辺の地形を分析の中で、この地形を“白川扇状地”と称し、その内容にも僅かに触れた[3][4]。1988年、田口一郎氏は、生原遺跡群の調査報告の中で、“この扇状地を仮称「白川扇状地」と呼称しておきたい”とし、その原因と範囲等に言及した[5]。1989年、早田勉氏は古墳時代の榛名火山の活動とその災害を分析する中で、この地形を便宜的に「榛名白川扇状地」と称した[6]。そして、1990年、同氏は群馬県全域の地形分析の中で“ＦＨ(完新世扇状地)”と称し、この地形の範囲を示した[1]。さらに、1994年、大竹正隆氏はこの地形を「白川扇状地」と称し、この地形の分析を精力的に行った[7]。

＜火砕流・洪水堆積物に関する指摘＞　火砕流・洪水堆積物について明示したのも早田勉氏である[6]が、それ以前にもこの地域の火砕流・洪水堆積物に関する指摘はなされていた。

1962年、新井房夫氏は古墳時代の榛名火山の活動に伴う火砕流を“沼尾川 pyroclastic flow deposit”と称した[8]。その後、1971年、森山昭雄氏はこの火砕流を「二ツ岳第１軽石流(FPF-1)」と「二ツ岳第２軽石流(FPF-2)」に分けた[2]。そして、1989年、早田勉氏は火山活動のメカニズムを踏まえ、火砕流と洪水堆積物を分離して考えた[6]。さらに、1994年、大竹正隆氏は従来の研究を振り返り、火砕流と洪水堆積物に関する用語の混乱を整理した[9]。1995年、澤口宏氏はこの堆積物層を「二ツ岳噴出物の再堆積層」と称した[10]

【扇状地の形成要因】　この点は、「Hr-FA泥流」と「Hr-FP泥流」の流入に拠るところが大きい、といえる。

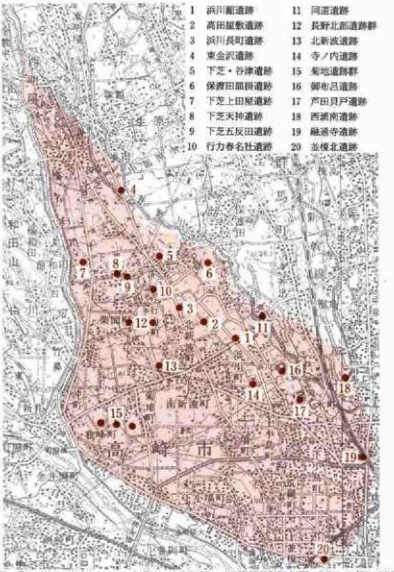
第５図　浜川遺跡群周辺地形区分図（Ｓ＝1/50,000「榛名山「前橋」国土地理院）

だが、大竹氏の「古墳時代後期に榛名火山の活動によって供給された火山泥流などが現白川扇状地の地形を形成したのではなく、もともと扇状地が旧地形として存在し、その上部を比較的薄く覆っているということも考えられることである。」という指摘[9]は考慮すべきで、他の形成要因があった可能性もある。

【扇状地の範囲】　従来の指摘に基づけば、扇頂部は箕郷町西明屋付近、扇側は榛名白川(西の扇側)と井野川(東の扇側)と考えられる。扇端部は高崎市大八木町付近(現標高105m付近)と考えられるが、主な形成要因が洪水堆積物の流入であるならば、さらに低いところまで広がるかもしれない。

ちなみに、「Hr-FA泥流」「Hr-FP泥流」の堆積推定範囲を示しておく(第6図)。最下端(南端)は、現時点では、高崎市・並榎北遺跡(現標高99m)である（河川に流入した泥流はさらに下方までいっている。）。

【扇状地の形成時期】　主な形成要因が洪水堆積物の流入ならば、形成の開始は「Hr-FA泥流」の流入開始と近い時期と考えられ、5世紀末または6世紀初頭といえる[11]。但し、大竹氏の指摘を重視すれば、これより時期を遡らせて考える必要がある。形成の終了は「Hr-FP泥流」の流入の終わりとほぼ同一と考えられ、7世紀（前半）と推定される[12]。



第6図　「Hr-FA泥流」および「Hr-FP泥流」堆積範囲推定図（S≒1/75,000）
（S＝1/50,000「榛名山」「前橋」国土地理院　をもとに作成）

註(1)早田勉　1990「付図2群馬県内主要地域の地形分類図」『群馬県史資料編1』
(2)森山昭雄　1971「榛名火山東・南麓地形－とくに軽石流の地形について－」『愛知教育大学地理学報告』36・37
(3)澤口宏　1979『3.日高遺跡の地理的環境』『日高遺跡(1)』高崎市教育委員会
(4)澤口宏　1982「1．日高遺跡付近の地形」『日高遺跡』(財)群馬県埋蔵文化調査事業団
(5)田口一郎　1988「II　生原遺跡群周辺の環境」『海行A・B遺跡』箕郷町教育委員会
(6)早田勉　1989「6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害」『第四紀研究』27-4
(7)大竹正隆　1994「〔3〕ボーリングデータによる古墳時代後期の地形復元の試み」『行力春名社遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
(8)新井房夫　1962「関東盆地北西部地域の第四紀編年」『群馬大学紀要　自然科学編』16－4
(9)大竹正隆　1994「FA泥流・FP泥流についての覚書」『行力春名社遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
(10)澤口宏　1995「第1章　地形・地質」『群馬町誌　資料編4』
(11)年代の根拠は、Hr-Sの年代が5世紀末または6世紀初頭と考えられており、さらに早田氏によってHr-SとS洪水堆積物の時間差が短いとされていることによる。
(12)年代の根拠は、扇状地内には洪水堆積物上に作られた行力春名社神社古墳や浜川長町遺跡1号住居の年代の目安とした。

2　周辺の遺跡（１）～旧石器時代から古墳時代まで～

第７図に示された範囲を中心に、旧石器時代から古墳時代までを概観する。

【旧石器時代】椛名山東南麓は遺跡の希薄な地域だが、近年の箕郷町・椛名町内の調査により、資料の増加が著しい[1]。その殆どは、椛名白川右岸の白川軽石流堆積物で形成された古期扇状面の「十文字面」にある。

和田山古墳群遺跡（第７図23）では、ＡＴ下暗褐色土中からナイフ形石器や剥片が20数点検出された。

なお、椛名白川左岸より東については、明確な調査事例はないが、高崎市・龍通寺遺跡で槍先型尖頭器１点が発見されており、遺跡の存在を示唆している[2]。

【縄文時代】前～後期までの遺跡がある。椛名山東南麓は、遺跡の希薄な地域であったが、近年の箕郷町・椛名町内の調査によって、資料の増加が著しい[1]。その多くは、椛名白川右岸の白川軽石流堆積物で形成された古期扇状面の「十文字面」にある。和田山古墳群遺跡では黒浜式期の土坑、黒浜・有尾式併行期の住居、加曽利ＥⅢ式期の住居、堀之内式期の土坑が検出されている。

なお、椛名白川左岸より東については、下芝谷ツ古墳（第７図12・Ｄ）の基底面から諸磯式期の土器片が出土しており、所謂「白川扇状地」内での遺跡の存在を示唆している。さらに、熊野堂遺跡（第７図13）で諸磯ｂ式期の住居、三ツ寺Ⅱ遺跡（第７図16）で黒浜式および諸磯ｂ式期の住居と土坑、保渡田Ⅶ遺跡（第７図22）で諸磯ａ式期ほか前期の土坑、熊野堂遺跡に隣接する雨壺遺跡では阿玉台式期の住居や土坑の検出など、遺跡は点在している。

【弥生時代】中期後半と後期の遺跡がある。縄文時代に比べると、遺跡数は激増している。

中期後半（竜見町式期）の遺物は雨壺遺跡で見られるが、遺跡分布としては単発的である。

後期中葉（樽式２期）の遺跡は急増する[3]。熊野堂遺跡、井出村東遺跡（第７図14）、雨壺遺跡、西浦南遺跡（熊野堂遺跡に隣接）での住居群や西浦南遺跡での方形周溝墓群の検出はそれを物語っている。しかし、後期中葉（樽式２期）の遺跡は、浜川遺跡群周辺では検出されていない。辛うじて、浜川高田遺跡（第７図２）の浅間Ｃ軽石（以下、As-C）下水田耕土中から後期中～後葉（樽式２～３期）の甕が出土しており、僅かながら遺跡の存在が示唆できる程度である。

【古墳時代】前～後期まで遺跡は多い。特に、中期後半（≒５世紀後半）の遺跡は充実している。

３世紀末～４世紀初頭、弥生時代後期末から古墳時代初頭にかけての時期（樽式系Ⅰ～Ⅱ段階）に、この地域への本格的な分布が始まる[4]。保渡田Ⅶ遺跡（第７図22）はそれを示す良好な資料である。浜川高田遺跡では、As-C下水田の耕土中よりパレス壺の破片が出土している。また、この時期にAs-Cが降下しており、浜川遺跡群（第７図１～３）や御布呂遺跡（第７図８・10）、芦田貝戸遺跡（第７図９）、熊野堂遺跡、同遺跡（第７図18）などで検出のAs-C下水田が、この時期の水田であることが理解できる。検出された水田がいずれも充実していることから、外来の文化を取り入れながら、前代の文化を変質させていくこの時期において、既にこの地域が安定した生活領域を確立させていたことが十分に推測できる。この点は重要である。熊野堂遺跡ではこの時期の前方後方形周溝墓が検出されている。

５世紀前半の遺跡は行力春名社遺跡（第７図４）の石製模造品工房や下芝五反田遺跡（第７図６）、下芝天神遺跡（第７図７）の住居がある。この時期の遺跡は前後の時期に比して少ないが、調査面積が極狭ながらも確実な遺跡の検出という点を考慮すると、火山性洪水堆積物下に他の遺構が存在する可能性は高い。

５世紀後半の遺跡は、集落・生産・古墳・豪族居館・祭祀と各要素とも充実しており、総合的な社会復元を可能にするだけの内容をもっている。なお、椛名－渋川テフラ（以下、Hr-Ⅰ：≒FA）の降下は５世紀末または６世紀初頭と考えられており、この時期の遺跡の多くには、覆土中にこのテフラが堆積している。

集落遺跡としては、下芝五反田遺跡（第７図５・６）、下芝天神遺跡、芦田貝戸遺跡、熊野堂遺跡、井出村東遺跡、三ツ寺Ⅱ遺跡（第７図16）、三ツ寺Ⅲ遺跡（第７図17）が挙げられる。下芝五反田遺跡・下芝天神遺跡はHr-Iに伴う火山性洪水堆積物下から検出された遺跡であり、他遺跡に比べて情報量は格段に多い。この両遺跡では、５世紀前半からの連続性が把握できる資料が検出されている。また、芦田貝戸遺跡では、水田脇の微高地に作業小屋的な竪穴住居群が検出されている。

生産遺跡としては、浜川遺跡群、御布呂遺跡、芦田貝戸遺跡、熊野堂遺跡、同道遺跡、井出地区遺跡群Ａ区（第７図19）での水田遺構、下芝五反田遺跡、下芝天神遺跡、芦田貝戸遺跡での畠遺構が挙げられる。

水田遺構に関しては、いずれも水路を完備させた、典型的な小区画水田である。芦田貝戸遺跡では、小畦畔設置段階の水田面が検出されている。さらに同遺跡では、砂層下水田と呼んでいる、所謂「FA下水田」よりも下層、かつAs-C下水田よりも上層、の水田面が検出されており、興味深い。

墳墓としては、保渡田３古墳（第７図Ａ～Ｃ）、下芝谷ツ古墳（第７図Ｄ）、浜川谷津遺跡１・２号墳（第７図Ｅ・Ｆ）、明神山古墳（第７図Ｍ）がある。また、浜川遺跡群より南南東約３Kmに上並榎稲荷山古墳（前方後円墳：消滅）もある。群馬県内で、５世紀後半の前方後円墳がこれだけ集中する地区は他になく、この時期の一大勢力であったことを伺わせる[5]。

豪族居館としては、三ツ寺Ⅰ遺跡（第７図15）がある。

祭祀遺構としては、三ツ寺Ⅰ遺跡内での一連の祭祀遺構、浜川館遺跡、芦田貝戸遺跡での水田祭祀、下芝天神遺跡、上井出遺跡（第７図20）での土器集積祭祀、保渡田Ⅶ遺跡や保渡田八幡塚古墳での埴輪樹立祭祀、など多種多様な祭祀が検出されている。また、この地域は渡来系遺物の集中地域でもあり、下芝五反田遺跡での韓式系土器や下芝谷ツ古墳の一連の遺物等は、渡来系文化の影響を色濃くしている。

なお、この５世紀後半をこの地域の開発の大きな画期とする考えがある[6]。この点に関しては、北陸新幹線関連の一連の調査成果が公表されつつある今日においては、再検討の余地はあるように思われる。

６世紀の遺跡は５世紀代に比べると減少する。集落遺跡は浜川遺跡群周辺では検出されていない。熊野堂遺跡、井出村東遺跡、三ツ寺Ⅱ遺跡、三ツ寺Ⅲ遺跡など、井野川左岸で多数検出されている。

生産遺跡は、浜川遺跡群、御布呂遺跡、芦田貝戸遺跡、熊野堂遺跡、同道遺跡、井出地区遺跡群Ａ区での水田遺構がある。榛名－伊香保テフラ（以下、Hr-I：≒FP）直下の小区画が検出されている。

墳墓は榛名白川右岸の丘陵上に和田山古墳群（第７図Ｐ）が形成され、井野川左岸には井出地区古墳群（第７図Ｌ）が形成されている。前者は豊富な形象埴輪群を伴う群集墳である。また、後者は保渡田３古墳の被葬者と関連があるセカンダリークラスの古墳群でありながら、保渡田３古墳の勢力の衰退後も古墳を造り続けており、この地の６世紀の在り方を知る上では大変興味深い古墳群である。

豪族居館である三ツ寺Ⅰ遺跡はHr-S降下時には、既に機能を停止していた。

６世紀中頃以降にはHr-I降下とそれに伴う洪水堆積の２次災害によって、浜川遺跡群周辺地域は完全に衰退してしまう。遺跡は西の台地と東の平野に分散してしまう。

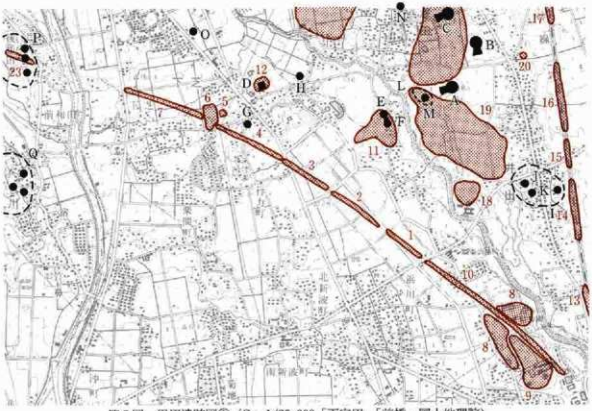
註

(1) (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団　1995　『年報』14
(2)大塚昌彦　1990　「榛名山東南麓の埴先型尖頭器について」『群馬考古学手帳』Vol. 1
(3)若狭　徹　1990　「井野川流域を中心とした弥生時代後期遺跡群の動態」『群馬文化』220
(4)若狭　徹　1990　「群馬県における弥生土器の崩壊過程」『群馬考古学手帳』Vol. 1
(5)石井克己・梅沢重昭　1994　「日本の古代遺跡を掘る４　黒井峯遺跡」読売新聞社
(6)能登　健　1990　「三ツ寺Ⅰ遺跡の成立とその背景－５世紀代における河川移動に伴う水田耕地の拡大について－」『古代文化』42-2

第１表　周辺遺跡一覧①（旧石器時代～古墳時代）

NO	遺跡名	所在地	遺跡の主な内容	報告書等文献
1	浜川館遺跡	高崎市浜川町字館ほか	古墳時代水田（３面）・水田祭祀跡	本報告書
2	浜川高田遺跡	高崎市浜川町字高田	古墳時代水田（３面）・水田祭祀跡	本報告書
3	浜川長町遺跡	高崎市浜川町字長町ほか	古墳時代水田（３面）・古墳時代溝 古墳時代後期住居	本報告書
4	行力春名社遺跡	高崎市行力町字春名社ほか	古墳時代中期溶石製模造品工房	「行力春名社遺跡」1994　(財)群埋文
5	下芝五反田遺跡 （箕郷町調査）	箕郷町下芝字五反田	古墳時代水田・祭祀跡・中～後期住居・畠	「下芝五反田遺跡　現地説明会資料」 1992　箕郷町
6	下芝五反田遺跡 （群埋文・箕郷町調査）	箕郷町下芝字五反田ほか	古墳時代中～後期住居・平地式建物・畠・祭祀跡	①「年報12」1993　②「年報13」1994 ③「年報14」1995　全て(財)群埋文
7	下芝天神遺跡	箕郷町下芝字天神ほか	古墳時代中～後期住居・畠（３面）・道跡・祭祀跡	①「年報13」1994　②「年報14」1995 全て(財)群埋文
8	御布呂遺跡(高崎市調査)	高崎市浜川町字御布呂ほか	古墳時代水田（３面）	①「矢島・御布呂遺跡1979　②「御布呂遺跡」1980　全て高崎市
9	芦田貝戸遺跡 （高崎市調査）	高崎市浜川町字芦田貝戸	古墳時代水田（４面）・水田祭祀跡 古墳時代大溝・古墳時代中～後期住居	①「芦田貝戸遺跡」1979　②「芦田貝戸遺跡Ⅱ」1980　③「浜川芦田貝戸遺跡Ⅲ」1990　全て高崎市
10	御布呂遺跡・餅井貝戸遺跡(群埋文調査)	高崎市浜川町字御布呂ほか	古墳時代水田（２面） 古墳時代大溝（旧河道？）	①「年報12」1993　②「年報13」1994 ③「年報14」1995　全て(財)群埋文
11	谷津・道場遺跡	高崎市浜川町字谷津・道場	中期末(or後期初)古墳２基	「道場遺跡群」1989　高崎市
12	下芝・谷ツ遺跡	箕郷町下芝字谷ツ	FA泥流堆積古墳(下芝谷ツ古墳群)	「日本考古学年報39」1986
13	熊野堂遺跡	高崎市大八木町字熊野堂、 群馬町井出字東下井出ほか	縄文時代前期住居、弥生時代中期末～古墳時代住居、古墳時代前期前方後方形周溝墓	①「熊野堂遺跡Ⅱ」1984　②「熊野堂遺跡第Ⅲ地区・周囲遺跡」1984　③「熊野堂遺跡Ⅲ」1990 全て(財)群埋文
14	井出村東遺跡	群馬町井出字村東	弥生時代後期～古墳時代後期住居	「井出村東遺跡」1983　遺跡調査会
15	ミツ寺Ⅰ遺跡	群馬町ミツ寺字藤塚道上	古墳時代豪族居館	「ミツ寺Ⅰ遺跡」1988　(財)群埋文
16	ミツ寺Ⅱ遺跡	群馬町ミツ寺字桁街道ほか	縄文時代前期住居、弥生時代後期～古墳時代後期住居	「ミツ寺Ⅱ遺跡」1991　(財)群埋文
17	ミツ寺Ⅲ遺跡	群馬町ミツ寺字鍛冶街道	古墳時代後期住居	「ミツ寺Ⅲ遺跡・保渡田遺跡・中里天神塚古墳」1985　(財)群埋文
18	岡道遺跡	群馬町井出字岡道	古墳時代水田（３面）	「岡道遺跡」1983　(財)群埋文
19	井出地区遺跡群(A区)	群馬町井出字元井出ほか	古墳時代水田（２面）・中期～後期古墳群	①「井出地区遺跡群」1992　②「井出地区遺跡群現地説明会資料」1998　全て群馬町
20	上井出遺跡	群馬町井出字上井出	古墳時代中期末(or後期初)祭祀跡	「群馬考古学手帳Vol.3」1992
21	保渡田遺跡	群馬町保渡田字地蔵前	古墳時代水田？	「保渡田遺跡」1983　群馬町
22	保渡田Ⅳ遺跡	群馬町保渡田字八幡塚ほか	縄文時代前期土坑、古墳時代前期住居、保渡田古墳群関連の遺跡群	①「保渡田遺跡群第Ⅵ次(1)」1989 ②「保渡田Ⅷ遺跡1990　全て群馬町
23	和田山古墳群遺跡	箕郷町和田山字天神前ほか	旧石器ユニット、縄文時代前～中期住居、古墳時代後期古墳群、古墳時代後期住居・畠	①「年報13」1994　②「年報14」1995 ③「年報15」1996　全て(財)群埋文

	古墳名	所在地	①墳形　②規模　③時期	参考文献等
A	井出二子山古墳	群馬町井出字二子塚	①前方後円墳 ②108m ③5世紀後半	「ミツ寺Ⅰ遺跡」1988　(財)群埋文
B	保渡田八幡塚古墳	群馬町保渡田字薬師塚	①前方後円墳 ②102m ③6世紀末	「ミツ寺Ⅰ遺跡」1988　(財)群埋文
C	保渡田薬師塚古墳	群馬町保渡田字薬師塚	①前方後円墳 105m ③5世紀末	「保渡田Ⅷ遺跡」1990　群馬町
D	下芝谷ツ古墳	箕郷町下芝字谷ツ	①方墳 ②約20m ③6世紀	「日本考古学年報39」1986
E	浜川谷津遺跡１号墳	高崎市浜川町字谷津	①円墳 ②径6.9M ③5世紀末頃	「道場遺跡群」1989　高崎市
F	浜川谷津遺跡２号墳	高崎市浜川町字谷津	①円？墳方後円？墳 ③5世紀末頃	「道場遺跡群」1989　高崎市
G	椎名社神社古墳	高崎市行力町字椎名社	①円墳 ②径25m？ ③7世紀中	「高崎の散歩道　第7集」1978　高崎市
F	愛宕塚古墳	群馬町保渡田字阿弥陀	①円墳	「群馬町の遺跡」1986　群馬町
I	井出古墳群	群馬町井出字下布留ほか	①円墳群	「群馬町の遺跡」1986　群馬町
J	賀海坊古墳	群馬町井出字下布留	①円墳	「熊野道遺跡(2)」1990　群馬町
K	御厨山古墳	群馬町井出字下布留	①円墳	「熊野道遺跡(2)」1990　群馬町
L	井出地区古墳群	群馬町井出字元井出ほか	①円墳群(M.明神山古墳を含む) ③5世紀末～6世紀前半	「井出地区遺跡群発掘調査現地説明会資料」1998　群馬町
M	明神山古墳	群馬町井出字北畑	①帆立貝式古墳 ②径25m ③6世紀末	「井出地区遺跡群発掘調査現地説明会資料」1998　群馬町
N	天子塚古墳	群馬町保渡田字壁敷廻	①円墳	「群馬都市計画区域図10」1990 群馬町
O	四ツ谷古墳(推定)	箕郷町上芝字四ツ谷	①円墳	「箕郷町史」1975　箕郷町
P	和田山古墳群	箕郷町和田山字天神前ほか	①円墳群 ②6世紀後半～7世紀前半	①「年報13」1994 ②「年報14」1995 ③「年報15」1996 全て(財)群埋文
Q	山口古墳群	箕郷町白川字山口ほか	①円墳群	「浜川芦田貝戸遺跡Ⅲ」1994　高崎市



第７図　周辺遺跡図①（S＝1/25,000「下室田」「前橋」国土地理院）

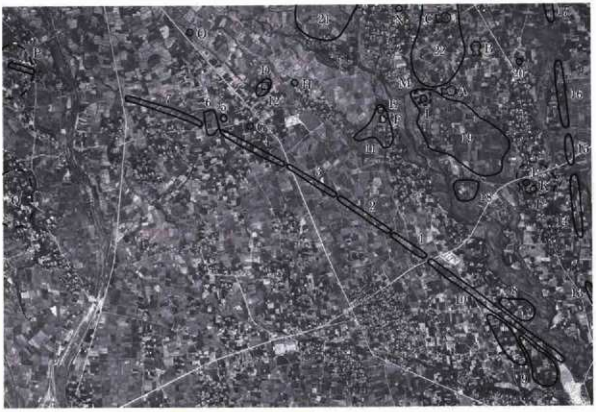


写真１　遺跡周辺航空写真①（S≒1/25,000国土地理院）

3　周辺の遺跡（２）～奈良・平安時代から室町時代まで～

第８図に示された範囲を中心に、奈良時代以降を概観してみる。

【奈良時代～平安時代】遺跡数は多いが、明確な奈良時代の遺構・遺物は少ない。６世紀代に活発であった、火山泥流の堆積も７世紀代には沈静化し、この地の地形は一変してしまった。荒廃したこの地に人々がいつ頃、戻って来たのかを示す資料は重要である。椋名社神社古墳、浜川長町遺跡(第８図３）１号住居などはそれを示唆する資料であり、概ね７世紀前半には少しづつ、人々の痕跡が伺える。

東山道は、９世紀後半以降のものと考えられるが、芦田貝戸遺跡などで、それに推定される道路状遺構が検出されている。

平安時代の集落は点在している。浜川館遺跡(第８図１)、椋名社遺跡(第８図６)、道場遺跡(第８図16)などで住居が検出されている。特に、館遺跡(第８図19)では、灰釉陶器の出土を含む、平安時代の住居を多く検出している点は、注目される。

12世紀初頭の水田は広域に確認されている。1108年(天仁元年)降下の浅間Ｂ軽石が広域に堆積しており、その直下からの水田検出事例が極めて多い。第８図のほとんどの遺跡で確認されている。なお、この水田の開田時期については、大きな手がかりとして北新波遺跡Ａ区SI２や菊地遺跡が水田耕土下から検出されていることが挙げられる。これらの遺構からの出土遺物の年代は概ね11世紀後半以降と考えられるが、今後一層の検討が必要である。

【鎌倉時代～室町時代】遺跡数は多い。特に、中世・長野氏の開発拠点であるため、それに関連する遺跡が充実している。遺跡調査によって解明された城館址は以下の５つである。

矢島遺跡(第８図21)は、16世紀の矢島砦(第８図Ｅ)に比定される。この砦は長野氏の重臣、矢島久左衛門貞勝の砦である。年代については、13世紀築造のものが16世紀に改修、利用された可能性もある。

道場遺跡(第８図16)は、乙業館（第８図Ｉ）の一部と推定される。この館は、長野氏のこの地の開発の第一歩として築いた館であり、長野乙業のものとされている。なお、浜川館(第８図Ａ)の城主とされる長野隆業は乙業の息子である。

浜川高田遺跡(第８図２)と高田遺跡(第８図18)は、高田屋敷(第８図Ｂ)に比定される。この屋敷は妙義に拠点のあった高田氏との関係が推定される、長野氏武士団の居館である。

北新波の砦址(第８図12)は、16世紀の北新波砦(第８図Ｊ)に比定される。この砦の城主は、新波新右衛門と推定される。２つの河川を外防線とした、強固な砦である。現在、一部が整備されている。

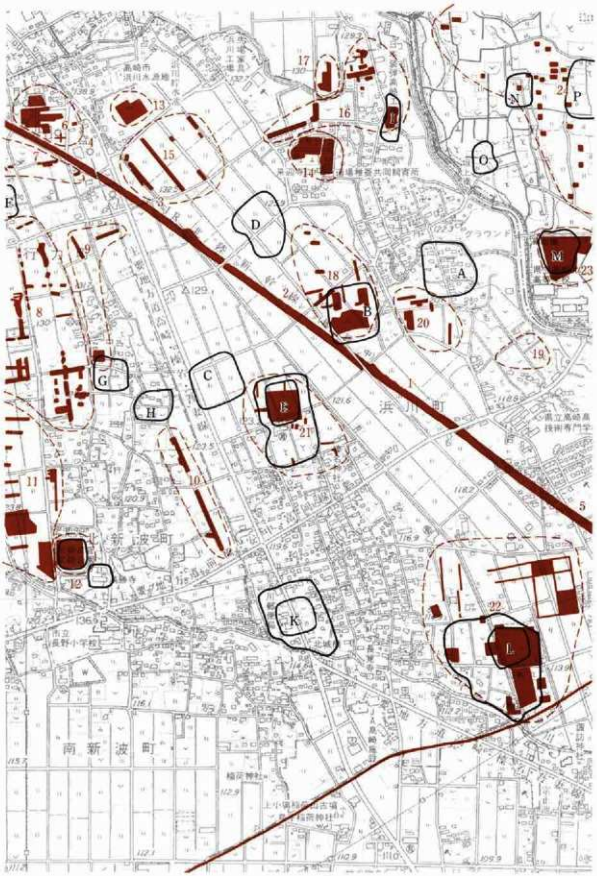
寺ノ内遺跡(第８図22)は14～16世紀の寺ノ内館(第８図Ｌ)に比定される。長野氏に関わる人々の屋敷、と推測される。

第２表　周辺遺跡一覧②（奈良・平安時代～室町時代）

No.	遺跡名	所在地	遺跡の主な内容	報告書等文献
1	浜川館遺跡	高崎市浜川町字館ほか	平安時代水田・住居	本報告書
2	浜川高田遺跡	高崎市浜川町字高田ほか	平安時代水田、中世館(高田屋敷)の一部	本報告書
3	浜川長町遺跡	高崎市浜川町字長町ほか	平安時代水田	本報告書
4	行力春名社遺跡	高崎市行力町字春名社ほか	奈良・平安時代掘立柱建物・平安時代水田、中世大溝、近世溝	『行力春名社遺跡』1994　(財)群埋文
5	御布呂遺跡・新井貝戸遺跡(群埋文調査)	高崎市浜川町字御布呂ほか	平安時代水田・住居、中世溝	①『年報13』1994　②『年報14』1995　ともに(財)群埋文

NO	遺跡名	所在地	遺跡の主な内容	報告書等文献
6	椋名社遺跡	高崎市行力町字春名社	平安時代住居、中世館関連遺構	①「行力遺跡群椋名社遺跡」1990 ②「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 全て高崎市
7	一丁目・椋名社西遺跡	高崎市行力町字一丁目ほか	平安時代水田	①「長野北部遺跡群―丁田・椋名社西遺跡」1988 ②「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 全て高崎市
8	中屋敷西・江原・上屋敷・殿木遺跡	高崎市行力町字中屋敷西ほか 高崎市東岡町字殿田	平安時代水田・住居、中世堀	①「長野北部遺跡 中屋敷西（Ⅰ）・殿田・清水（Ⅰ）・舞台（Ⅰ）遺跡」1983 ②「長野北部遺跡群 江原（Ⅰ）・中屋敷西（Ⅱ）・上屋敷（Ⅰ）遺跡」1984 ③「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 全て高崎市
9	中屋敷遺跡	高崎市行力町字中屋敷	平安時代水田	①「長野北部遺跡群 中屋敷（Ⅰ）・舞台（Ⅲ）遺跡 1985 ②「長野北部遺跡群 六反田・中屋敷（Ⅱ）遺跡」1986 全て高崎市
10	六反田遺跡	高崎市北新波町字六反田ほか	平安時代水田	①「長野北部遺跡群 六反田・中屋敷（Ⅱ）遺跡」1986 ②「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 全て高崎市
11	北新波遺跡	高崎市北新波町字古城ほか	平安時代水田・住居	①「北新波遺跡」1982 ②「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 全て高崎市
12	北新波の砦址	高崎市北新波町字古城ほか	中世館（北新波砦）・井戸・土壙・土塁の痕跡	①「北新波の砦址－古城（Ⅱ）」1985 ②「北新波の砦址－古城（Ⅲ）」1986 ③「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 全て高崎市
13	浜川北遺跡（西区）	高崎市浜川町字踏分	平安時代水田、近世溝	「浜川北遺跡」1989 高崎市
14	浜川北遺跡（東区）	高崎市浜川町字谷津	平安時代住居、中世館関連遺構	①「浜川北遺跡」1989 ②「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 全て高崎市
15	長町・踏分遺跡	高崎市浜川町字長町ほか	平安時代水田	「道場遺跡群」1989 高崎市
16	谷津・道場遺跡	高崎市浜川町字谷津ほか	平安時代住居・水田、中世館（乙業館）の一部	①「道場遺跡群」1989 ②「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 全て高崎市
17	保渡田皿掛遺跡	群馬町保渡田字皿掛	平安時代水田	「保渡田冥神前皿掛遺跡」1988 群馬町
18	高田遺跡	高崎市浜川町字高田	平安時代水田、中世館（高田屋敷）	①「道場遺跡群」1989 高崎市 ②「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 全て高崎市
19	館遺跡（1977年度調査）	高崎市浜川町字館	平安時代水田・住居（灰釉陶器の出土多い）中世堀立柱建物、井戸	①「寺ノ内遺跡」1979 ②「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 全て高崎市
20	館遺跡（1988年度調査）	高崎市浜川町字館	中世館（浜川館）の一部	①「道場遺跡群」1989 高崎市 ②「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 全て高崎市
21	矢島遺跡	高崎市浜川町字矢島	中世館（矢島砦）	①「矢島・鄧布呂遺跡」1979 ②「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 全て高崎市
22	寺ノ内遺跡	高崎市浜川町字町東ほか	中世館（寺ノ内館）	①「寺ノ内遺跡」1979 ②「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 全て高崎市
23	同道遺跡	群馬町井出字同道	平安時代水田	「同道遺跡」1983 （財）群埋文
24	井出地区遺跡群（A区）	群馬町井出字元井出ほか	平安時代水田	「井出地区遺跡群」1992 群馬町

	名称	所在地	①遺構形式 ②築城年代 ③築城者	引用文献
A	浜川館	高崎市浜川町字館	①複郭 ②15世紀 ③長野業柔か？	「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 高崎市
B	高田屋敷	高崎市浜川町字高田	①方形館（囲郭か？） ②不明（13世紀中頃の「聖観音座像」が出土。） ③高田氏か	「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 高崎市
C	長町屋敷	高崎市浜川町字長町	①単郭（方形郭） ②不明 ③不明	「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 高崎市
D	与平屋敷	高崎市浜川町字与平	①囲郭か？ ②室町時代か？ ３不明	「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 高崎市
E	矢島の砦	高崎市浜川町字矢島	①複郭（囲郭） ②13世紀か？、16世紀の改修 ③矢島久右衛門貞勝	「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 高崎市
F	行力上屋敷	高崎市行力町字上屋敷	①単郭か？ ②不明 ③不明（長野氏か上杉氏に関係する者）	「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 高崎市
G	行力中屋敷	高崎市行力町字中屋敷	①単郭 ②室町時代 ③不明	「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 高崎市
H	行力下屋敷	高崎市行力町字下屋敷	①単郭 ②室町時代 ③不明	「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 高崎市
I	乙業館	高崎市浜川町字道場	①単郭か？ ②室町時代 ③長野乙業	「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 高崎市
J	北新波の砦	高崎市北新波町古城	①複郭 ②16世紀 ③新波氏か？	「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 高崎市
K	北爪の砦	高崎市浜川町字北爪	①複郭（囲郭） ②16世紀 ③北爪周防守（土佐守）政勝か？	「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 高崎市
L	寺ノ内館	高崎市浜川町東	①複郭（囲郭） ②室町時代 ③不明	「新編高崎市史資料編３中世Ⅰ」1996 高崎市
M	同道館	群馬町井出同道	②16世紀	「群馬県の中世城館跡」1988 群馬県
N	元井出館	群馬町井出元井出	②16世紀 ③長野氏	「群馬県の中世城館跡」1988 群馬県
O	花咲寺館	群馬町井出元井出ほか	②16世紀 ③長野氏	「群馬県の中世城館跡」1988 群馬県
P	熊野堂館	高崎市大八木町熊野堂		「群馬県の中世城館跡」1988 群馬県


A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
浜川町
新波町
南新波町
高崎市
浜川水路地
高崎市共同観音所
グラウンド
高崎高
高崎高
技術専門学
市立
長野小学校
稲荷神社
上小塚稲荷古墳
稲荷神社

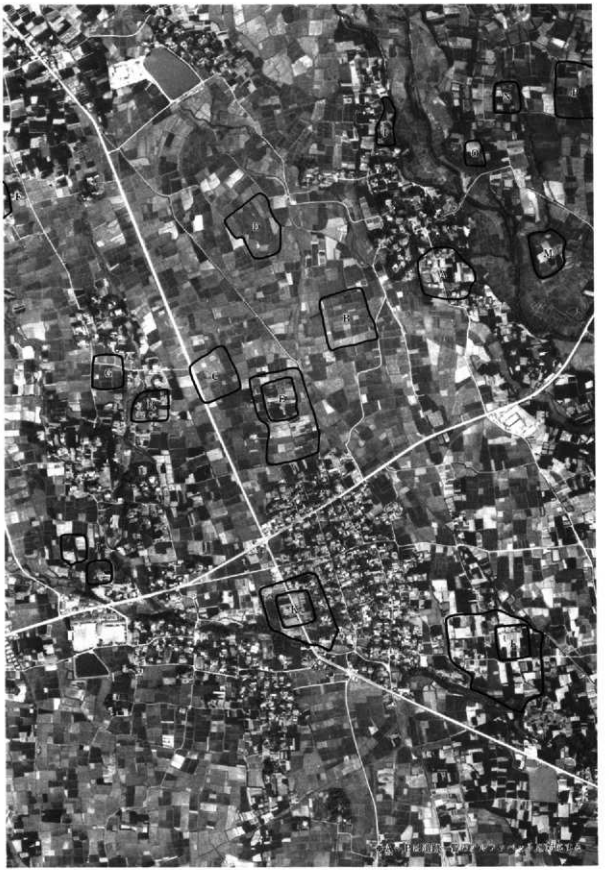


写真2　遺跡周辺航空写真　②

第３章　浜川館遺跡

第１節　調査の概要

１　調査の概要

浜川館遺跡は、11地区82・92～94区、10地区４・５区にあたる。

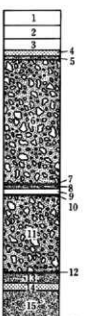
調査は、上位から浅間Ｂ軽石（以下As-B）下、榛名－渋川テフラ（以下Hr-FA）下、榛名－伊香保テフラ（以下Hr-FP）下、浅間Ｃ軽石（以下As-C）直下の合計４面で行った。ただし、As-B下の調査では、軽石の堆積が一部に限られたので、その他の部分は泥流堆積物の上面まで掘削して遺構確認を行った。また、中・近世の遺構についても、この面で確認した。そのため、As-B降下以前から中・近世までの遺構を、同一の面で調査している。したがって、以下では中・近世の遺構と、As-B降下以前の遺構に分けて記載する。遺構名称は、各面を通して種別に通しナンバーを付してある。また、As-Cの下位に黒色土の堆積が認められ試掘を行ったが、水田などの遺構は見つからなかった。そのため、それ以上の調査は行っていない。

２　基本土層（第９・10図）

浜川館遺跡は、「白川扇状地」の末端に位置しており、周囲一帯が水田地帯となっている。北西から南東方向に非常に緩やかに傾斜した地形で、調査区は、その傾斜に沿うように南東から北西方向に延びている。基本的な土層の堆積状況には地点による差は見られないが、下層についても地表面の傾斜と同様に南東方向に向かって緩く傾斜している。

遺跡周辺は、現代の圃場整備によって上部を一部削平されている。削平は階段状に行われたために、掘削が深くおよんだ部分では泥流堆積物の上面まで削られていた。そのため、浅間Ａ軽石（以下As-A）は一部の遺構覆土内で、As-B（４層）も調査区の北半と南端で確認されたのみである。

As-Bの下位にはHr-FPに伴う泥流層（６層）が1.2～1.4m程の厚さで堆積し、その直下にHr-FPの降下火山灰層が認められた。泥流中には加工材を含む大形の木材などが混入していた他、下位にしばしば植物遺体を多量に含む薄い泥炭層を含んでいた。Hr-FP下には水田耕土となる黒色土、シルト、植物遺体の凝集層が薄く堆積していた（７～９層）。これらの層は一部攪拌されたような状況を呈する部分があり、水田耕作が９層にまでおよんでいたことがわかる。

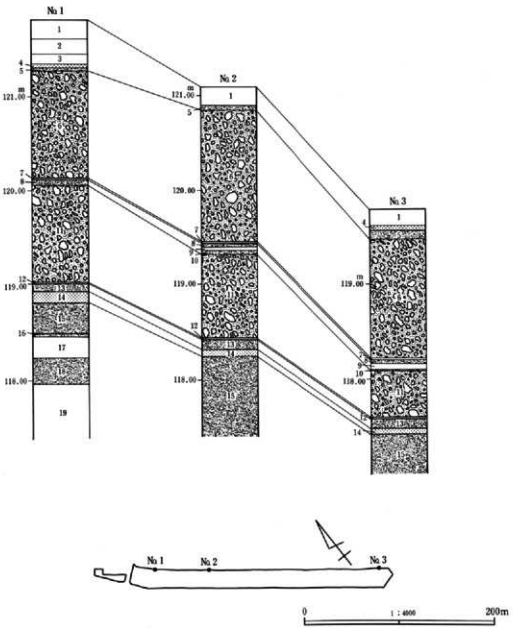


1　現表土　現代の耕作土。
2　圃場整備時の客土。
3　暗褐色土　As-B少量含む。
4　As-B
5　黒色土　As-B下水田耕作土。
6　Hr-FP泥流。下位に薄い黒色土層含む。
7　Hr-FP
8　黒色粘質土　Hr-FP下水田耕作土。植物遺体多量に含む。
9　灰白色粘質土
10　黒色土　多量の植物遺体含む。
11　Hr-FA泥流。
12　Hr-FA
13　黒色粘質土　Hr-FA下水田耕作土。下位にAs-C混入。
14　As-C
15　黒色粘質土　As-C下水田耕作土。
16　黒色土
17　灰色シルト～砂
18　黒色土
19　灰色砂～礫

第９図　浜川館遺跡　基本土層（１）

さらに下位にはHr-FAに伴う泥流堆積物が0.5～1.0m程度堆積している（11層）。この泥流堆積物は、泥流の上流方向に当たる北西部ほど厚く、南東に進むにつれて薄くなっている。泥流直下にはHr-FAの降下火山灰層が認められ（12層）、その直下に水田耕作に伴う黒色土があった（13層）。この黒色土の中位には、榛名－有馬火山灰（以下Hr-AA）に伴う洪水層と考えられる薄い層状の灰白色細粒シルトが部分的に認められた。ただし、非常に限られた範囲での確認にとどまり、基本土層中に位置付けるには至らなかった。

その下位には厚さ５～10cm程度のAs-Cが確認され（14層）、その直下に水田耕作土となる黒色土が堆積している（15層）。この黒色土は漸移的にシルト～砂層に移行している。調査区の北西側では、このシルト～砂層中に２枚の黒色土層が見られた（16・18層）。この砂層は礫層へと移行するが、発掘調査時の試掘では、礫層の深度を確認することはできなかった。



第10図　浜川館遺跡　基本土層（２）

第２節　検出された遺構と遺物

１　浅間Ｃ軽石（As-C）下

調査区全域でAs-Cが5～10cmほどの厚さで堆積していた。軽石層は不純物を含まず、一次堆積に近いものと思われる。調査区の南端を除いて軽石直下から水田が検出された（付図１）。水田面は北西から南東方向に緩やかに傾斜しており、水田部分の北西隅と南東隅の比高差は約２ｍである。水田の耕作土は黒褐色の細粒・均質な粘質土で、植物遺体を含んでいる。

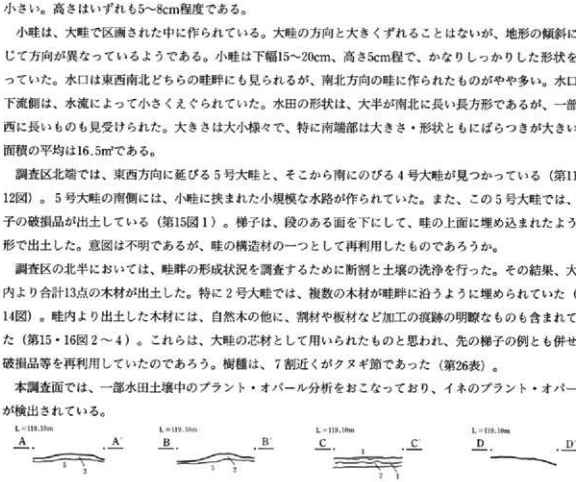
水田は、おおよそ東西・南北方向を指す大畦によって大きく区画される。東西方向の大畦は、調査区北端（５号大畦）と11地区93区Ｏ～Ｒ－18グリッド（３号大畦）、11地区93区Ａ－６～Ｃ－７グリッド付近（６号大畦）の３ヶ所で、南北方向の大畦は北端部（４号大畦）と11地区93区Ｎ－15～18グリッド（２号大畦）、11地区93区Ｆ－10～12グリッド付近（１号大畦）の３ヶ所に認められた。大畦の間隔などには、明瞭な規格性は見られない。北端の大畦（５号大畦）は、下幅が60～80cm程度であるが、他の大畦は40～60cmとやや小さい。高さはいずれも5～8cm程度である。

小畦は、大畦で区画された中に作られている。大畦の方向と大きくずれることはないが、地形の傾斜に応じて方向が異なっているようである。小畦は下幅15～20cm、高さ5cm程で、かなりしっかりした形状を保っていた。水口は東西南北どちらの畦畔にも見られるが、南北方向の畦に作られたものがやや多い。水口の下流側は、水流によって小さくえぐられていた。水田の形状は、大半が南北に長い長方形であるが、一部東西に長いものも見受けられた。大きさは大小様々で、特に南端部は大きさ・形状ともにばらつきが大きい。面積の平均は16.5m²である。

調査区北端では、東西方向に延びる５号大畦と、そこから南にのびる４号大畦が見つかっている（第11・12図）。５号大畦の南側には、小畦に挟まれた小規模な水路が作られていた。また、この５号大畦では、梯子の破損品が出土している（第15図１）。梯子は、段のある面を下にして、畦の上面に埋め込まれたような形で出土した。意図は不明であるが、畦の構造材の一つとして再利用したものであろうか。

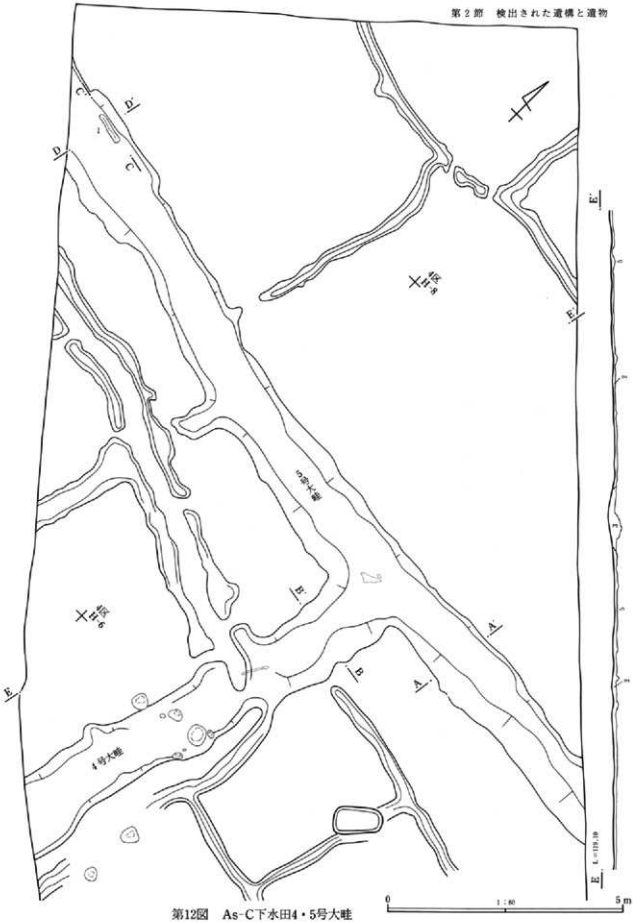
調査区の北半においては、畦畔の形成状況を調査するために断割と土壌の洗浄を行った。その結果、大畦内より合計13点の木材が出土した。特に２号大畦では、複数の木材が畦畔に沿うように埋められていた（第14図）。畦内より出土した木材には、自然木の他に、割材や板材など加工の痕跡の明瞭なものも含まれていた（第15・16図２～４）。これらは、大畦の芯材として用いられたものと思われ、先の梯子の例とも併せて、破損品等を再利用していたのであろう。樹種は、７割近くがクヌギ節であった（第26表）。

本調査面では、一部水田土壌中のプラント・オパール分析をおこなっており、イネのプラント・オパールが検出されている。

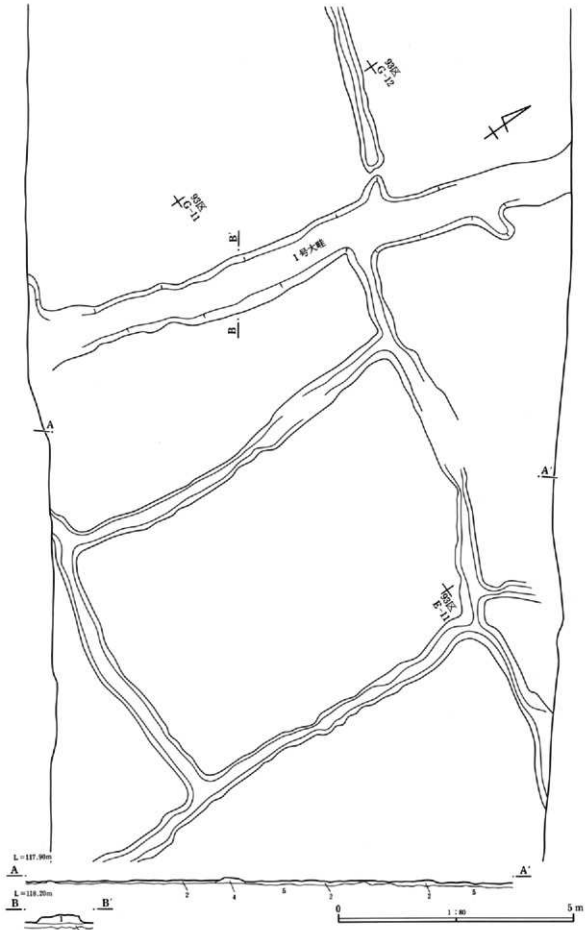


As-C下水田（全セクション共通）
1　黒褐色粘質土　しまり良。
2　黒褐色粘質土　しまり良。細粒・均質で植物遺体若干含む。
　　As-C下水田耕作土。
3　黒褐色粘質土　シルトブロック含む。畦畔の盛土。
4　黒褐色粘質土　少量の植物遺体、わずかの黄褐色土粒含む。
　　畦畔盛土。
5　黒褐色粘質土　一部炭褐色シルトを層状に含む。

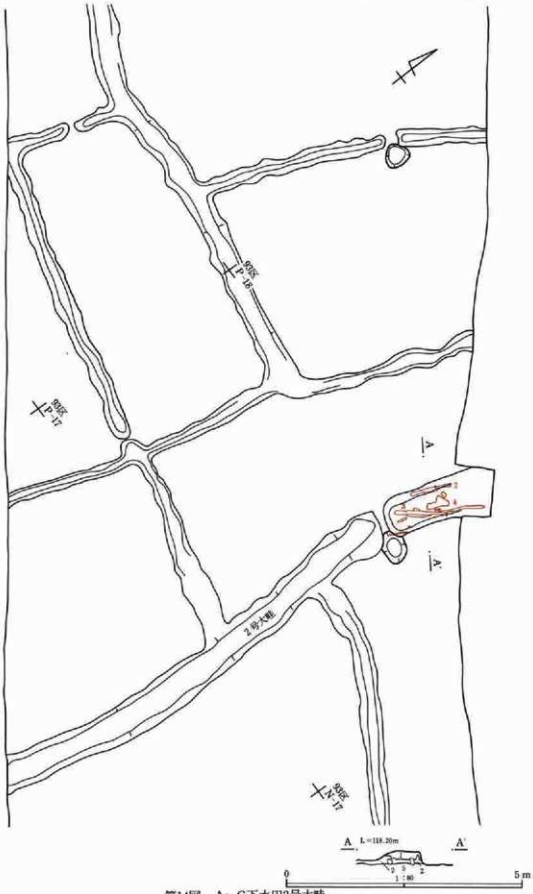
第11図　As-C下水田4・5号大畦セクション



第12図　As-C下水田4・5号大畦

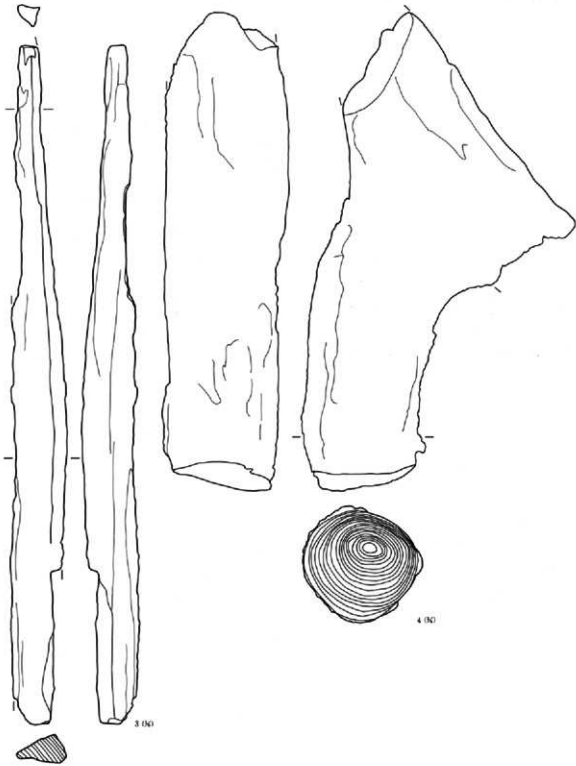


第13図　As-C下水田1号大畦



第14図　As-C下水田2号大畦

第15図　As-C下水田出土木製品（１）



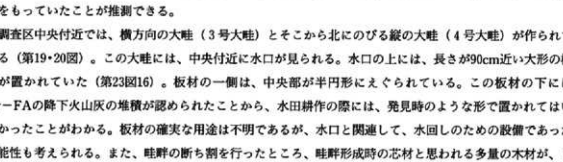
第16図　As-C下水田出土木製品（２）

2　榛名－渋川テフラ（Hr-FA）下

調査区全域で小区画水田が見つかっている（付図２）。水田面はHr-FAの降下火山灰に覆われ、その上位に噴火に伴う洪水堆積物が0.5～1mほどの厚さで堆積していた。水田の耕作土は黒褐色の粘質土で、部分的に少量のAs-Cを混入している。この耕作土は10cm程度の厚さであったが、その下位には純層のAs-Cが堆積しており、水田耕作がAs-Cを全て撹拌してしまうほどの深度にはおよばなかったことがわかる。

水田面は北西から南東に向かって緩やかに傾斜しており、調査区両端の比高差は約1.5mである。地形の傾斜に沿って北西から南東方向に縦畦が作られ、横畦がそれに直交する。水口はほとんどが横畦に作られており、地形の傾斜に沿って配水されている。水田を区画する畦畔には、太いものと細いものがあった。前者を大畦、後者を小畦とする。水田は、所々大畦によって区画され、その中を小畦で区切って小区画の水田としている。水田の形状・規模には大きなばらつきはないが、大畦を境として規格に若干の差が見られる場合がある。小畦の下幅は30cm内外、高さは4～8cm程度、面積の平均は2.32m²である。調査区中央付近から南側では畦畔の形状は明瞭でしっかりしていたが、北側では若干崩れて高まりがだれているような印象を受けた。調査区の中央付近から南側では、調査区を横断する横方向の大畦が３本、それと直交する縦方向の大畦も２本見つかっている。大畦のうち、横方向の３本の大畦は約70mの間隔で作られており、なんらかの規格性をもっていたことが推測できる。

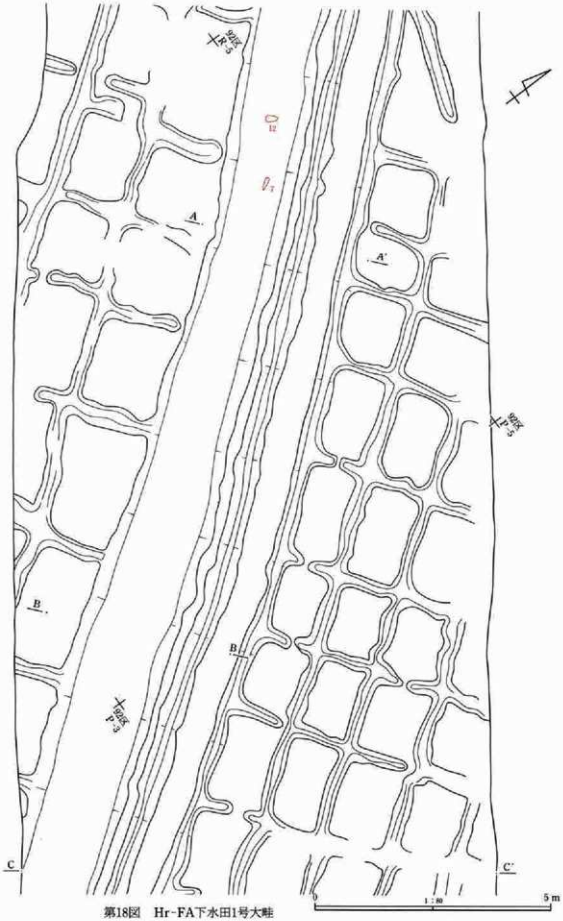
調査区中央付近では、横方向の大畦（３号大畦）とそこから北にのびる縦の大畦（４号大畦）が作られている（第19・20図）。この大畦には、中央付近に水口が見られる。水口の上には、長さが90cm近い大形の板材が置かれていた（第23図16）。板材の一側は、中央部が半円形にえぐられている。この板材の下にはHr－FAの降下火山灰の堆積が認められたことから、水田耕作の際には、発見時のような形で置かれてはいなかったことがわかる。板材の確実な用途は不明であるが、水口と関連して、水回しのための設備であった可能性も考えられる。また、畦畔の断ち割を行ったところ、畦畔形成時の芯材と思われる多量の木材が、３号大畦から集中して出土した（第19図）。特に水口部分では、杭を打ち込んで横木を渡したような構造が見られ、先の板材とともに、なんらかの特別な機能を有するものであろう（第20図）。木材には破損品の再利用と思われる加工材も含まれていたが（第23～25図15～24）、多くは未加工の枝材であった。直径数センチ程度の枝材が大半で、長さが２m近いものもある。特に加工を施されることはないが、根本の部分は平滑な断面となっており、金属器等で切り落とされたものであることは明瞭である。また、畦畔の形成土の水洗洗浄を行ったところ、水口脇から３点の鍬形木製品と多量の桃の種子が見つかった（第25図25～27）。また、水口周辺の水田耕土内からは土師器坏が２点出土している（第22図１・２）。先の鍬形木製品などと併せ、



Hr-FA下水田（全セクション共通）

1　オリーブ黒色粘質土　細粒。As-Cわずかに含む。溝の堆積土。
2　黒褐色粘質土　砂・植物遺体わずかに含む。水口の堆積土。
3　黒褐色粘質土　砂わずかに含みシルトの互層混入。石製模造品を埋めたときの土。
4　黒褐色粘質土　水田の耕作土。部分的に少量のAs-Cを含む。
5　黒褐色粘質土　Hr-AA起源のシルトを多量に含む。
6　黒褐色粘質土　粘性やや弱くAs-Cをかなり含む。
7　As-C

第17図　Hr-FA下水田1号大畦セクション



第18図　Hr-FA下水田1号大畦

水口に関連するなんらかの水田祭祀に伴う遺物の可能性が高い。

この坏は、比較的復元率は高かったが、小破片に割れ、やや散漫に分布していた。水田耕土内に埋没した状態で出土しており、Hr-FA直下からの検出ではない。坏の埋没とHr－FAの降下の間には、時間差の存在が予想されよう。型式的には５世紀の第４四半期に位置付けられ、従来想定されている６世紀初頭というHr－FAの降下年代よりは若干古い。したがって、ここでの祭祀行為が、今回発見された水田の形成年よりも前の年度に行われたとするのが妥当と考える。ただし、土器型式から見て、Hr－FAの降下から大きく遡るものではない。

このように、３号大畦は、多量の木材が芯材として埋め込まれていた点が大きな特徴である。本調査面では、ほとんど全ての畦畔について断ち割と形成土の水流測別を行っているが、これほど木材が集中していたのは３号大畦のみであった。水口付近の構造物から見ても、頻繁に作り替えられていた可能性は低い。先述の坏の検討からも、同じ場所に少なくとも二年以上の間水口が作られていたと考えられる。以上から、本大畦は、毎年作り替えられることなく利用されたと判断される。

調査区の南半には、並行する小さな２本の水路を伴う大規模な縦方向の大畦（１号大畦）が作られている（第17・18図）。この大畦からは、調査区との境界付近で、西側に横の大畦（２号大畦）がのびている。１号大畦の片側には、畦畔によって区切られた２本の水路が並行して走る。大畦の下幅は1.5～2m、上幅1～1.5m、高さ10～15cm程度で、水路を含む幅は3.5～4m近くになる。他の大畦と比較しても卓越した規模である。大畦の内部からは、田下駄・板材などの若干の木製品のほかに、多量の桃の種がまとまって出土している（第22図７・12）。

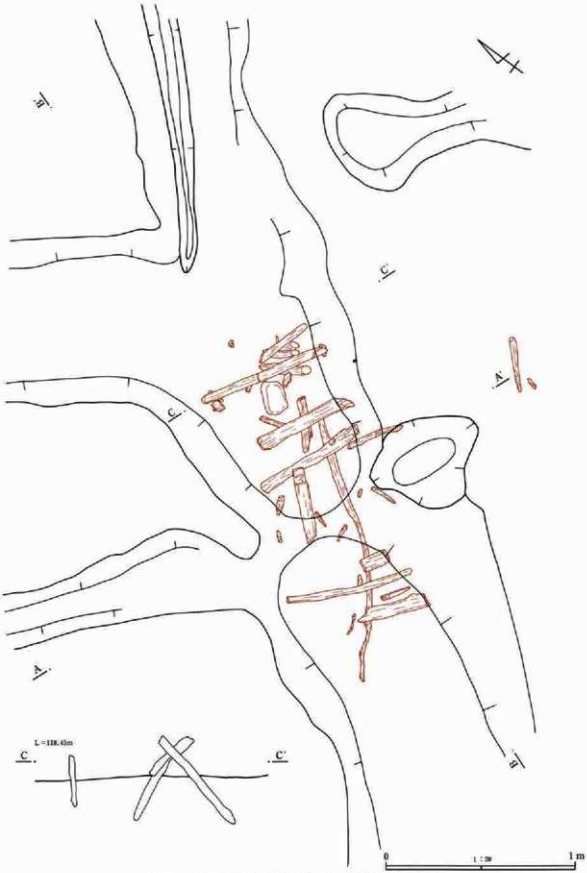
調査区の南端にも横の大畦が作られていた（５号大畦、第21図）。この大畦は、下幅1.5m、高さ20cm程のしっかりした畦畔で、途中に水口を有する。大畦を境として、南側では水田面の高さが5～10cm程度低くなっている。大畦に沿った幅２～３m程の範囲では、小畦が作られていない。土地の傾斜もやや急になり、幅広の階段状を呈する。大畦の北側では、小畦に沿って歩く連続した人間の足跡が見つかっている。人や馬の足跡は他の地域でも多量に観察されたが、歩行の行跡を追えたのはこれだけあった。大畦を断ち割ったところ、板材や杭などの木製品（第22図６・11）に混じって、剣形の石製模造品が１点出土した（第22図５）。石製模造品は水口脇の畦畔中から見つかっており、断面の観察から畦畔形成後に改めて埋め込まれたことがわかる。水田での祭祀にかかわる遺物の可能性が高い。

本調査面の遺物は、ほとんどが大畦からの出土で、杭や加工材を除いては大半が祭祀に関連する遺物である。大畦以外からは、調査区北部の小畦内から土師器坏と円筒埴輪が出土しているが、いずれも小破片である（第22図３・４）。

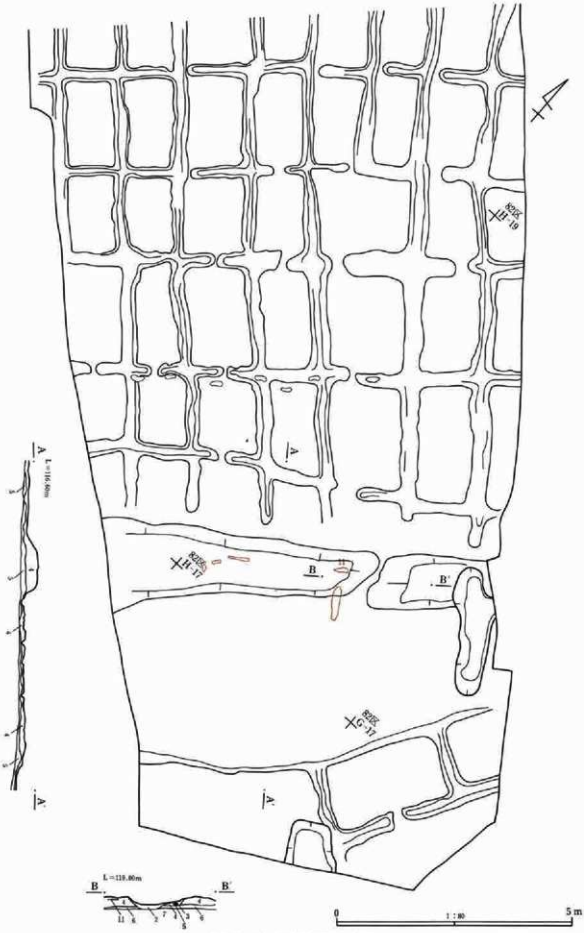
この水田面では、水田域の中でかなり広範囲に畦畔のない部分が認められた。畦畔は途中で切れており、意図的に作らなかったという状況ではない。畦畔のある部分で多数残されていた人間の足跡が、畦畔のないところでは全く見られなかった。加えて、畦畔のない部分にのみ、水田耕土の上面に、拳大ほどの礫がかなり散らばっていた。以上から、畦畔が洪水などの水の作用によって破壊されたと考えられる。畦畔のない部分は、周囲の水田部分よりわずかに低く、水流によって水田面が削られたのであろう。水田耕土上の礫はこの水によって流されてきたものである。畦畔の流失は後述する浜川高田遺跡でも認められたが、水田面の観察から、Hr－FA降下以前に流失していることが確認されている。本遺跡での畦畔の流失がどの段階かは不明であるが、Hr－FAの降下前後で周辺の地域が水害に見舞われていたことがわかる。

この面でもプラント・オパール分析をおこなっており、イネのプラント・オパールが検出された。

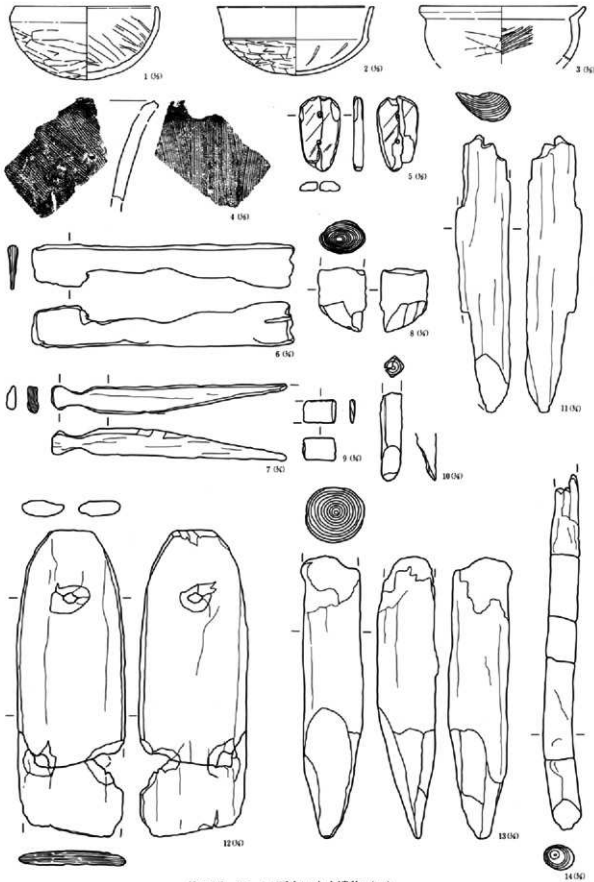
第19図　Hr-FA下水田3号大畦木材出土状況



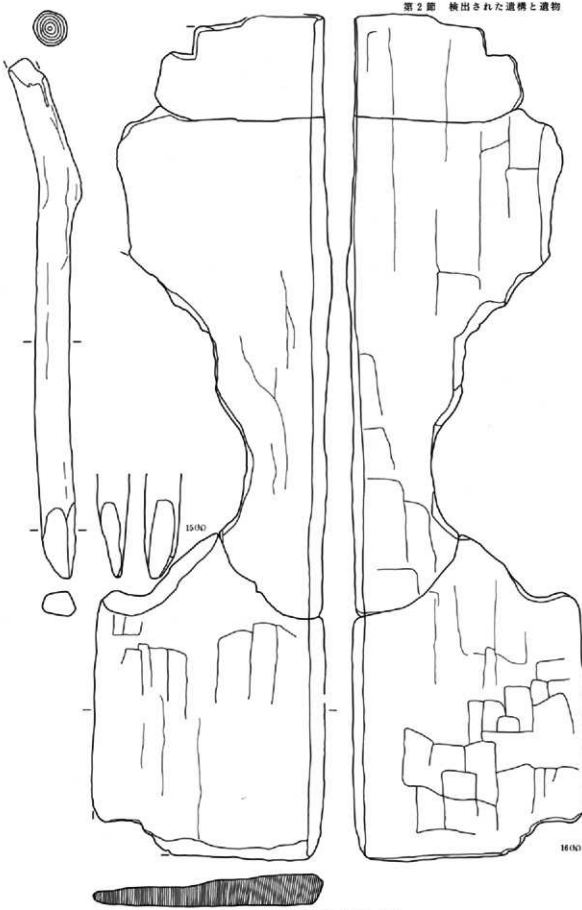
第20図　Hr-FA下水田3号大畦水口部分木材出土状況



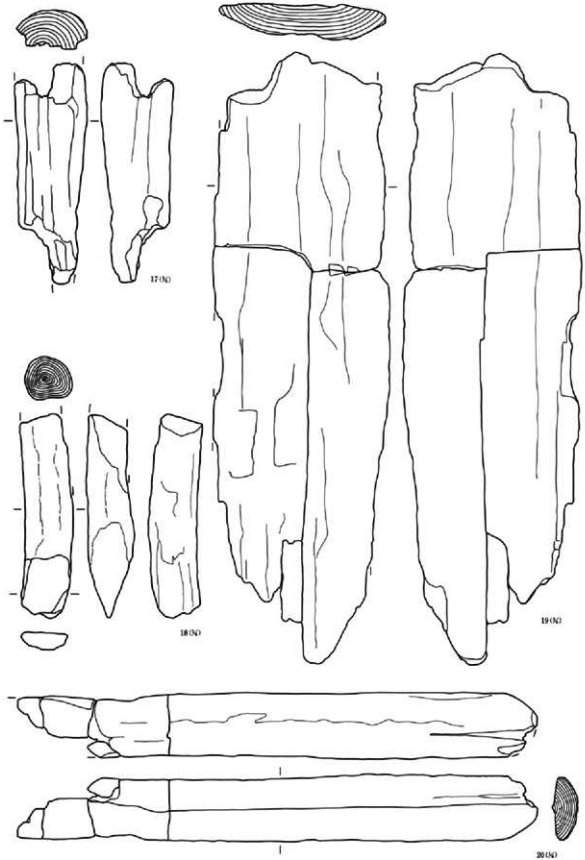
第21図　Hr-FA下水田5号大畦



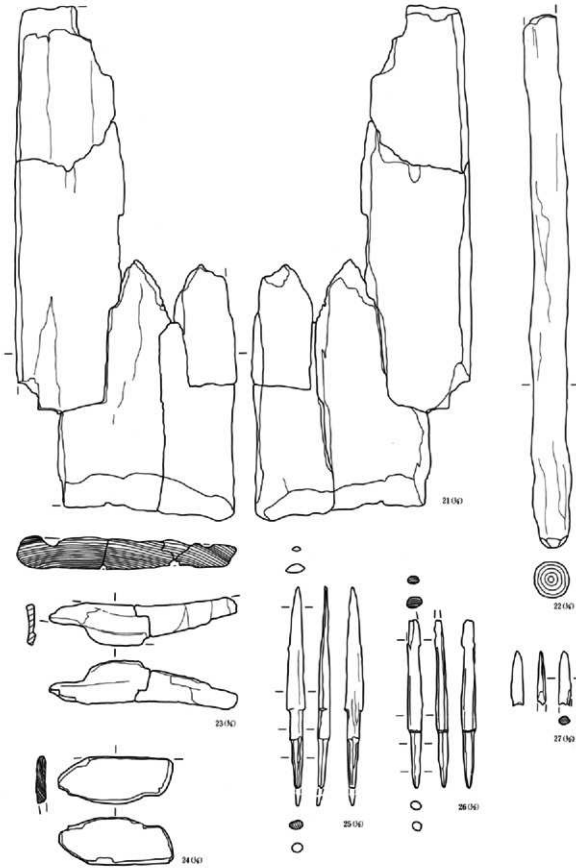
第22図　Hr-FA下水田出土遺物（１）



第23図　Hr-FA下水田出土遺物（２）



第24図　Hr-FA下水田出土遺物（３）



第25図　Hr-FA下水田出土遺物（４）

3　榛名－伊香保テフラ（Hr-FP）下

調査区全域でHr-FPの降下火山灰が数ミリの厚さで認められ、その上位に噴火に伴う洪水層が1.5m程堆積していた。この火山灰の直下より小区画水田が検出されている（付図3）。

水田は、調査区の南端と北端を除いて作られていた。北端では、北西から南東に緩く蛇行しながら流れる上幅5～7mほどの浅い溝が見つかっている（第27図）。この溝の北側は若干高くなっており、地形の傾斜に沿って畦状の高まりが並行して並んでいる。他の畦畔に比べやや間隔が狭いが、傾斜の変換点にあたり、一部横畦も見られる。このことから、地形の制約によって規格から外れてしまったか、配水のための溝の役割を果たすものと捉えられよう。溝の西側では小区画の畦畔が認められたが、残存状況は非常に悪い。他の部分と比べ畦畔は不明瞭で、水田面の凹凸が激しい。

明確な水田は、10地区4区の南東隅付近から南側に作られている。全体に南側ほど畦畔がはっきりしており、北側では一部畦畔が確認できない部分もあった。縦方向の畦畔が土地の傾斜に沿って北西から南東に走り、横畦がそれと直角に交わっている。水田1面の面積は平均で2.22㎡。非常に整然と作られており、特に水田域南側の部分では、横畦の水口が1本おきに東端と西端とに作り替えられるなど、高い規則性を示す。

水田域は、30～50m程の間隔をおいて作られた4本の横方向の大畦（1～4号大畦）と、西端の縦方向の大畦（5・6号大畦）によって区画される。いずれも下幅70cm、高さ20cm程度の大きさである。横方向の大畦の下流側では、配水のため水田1列分程の範囲で縦の畦畔が一部省略される。北端の1号大畦は、東端で屈曲し、縦方向に変わっている。北側の溝から配水のためと思われる溝が南側に延び、1号大畦を切って作られている。南側の3・4号大畦には、複数の水口が見られる（第29図）。縦方向の6号大畦は水路を伴っている（第28図）。水路は大畦に並行するが、南端で緩く曲がり大畦から離れている。この水路より西側には畦畔が作られていない。

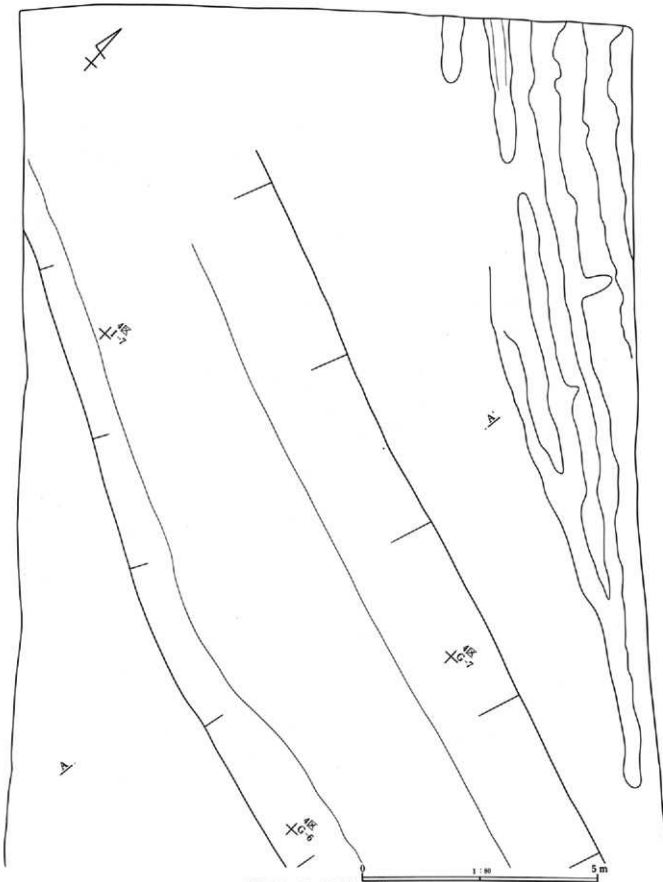
水田域より南では、幅20cm・深さ5cmほどの溝が2本見つかったのみである。この溝の走向はほぼ一致しており、なんらかの規格性を持っていた可能性がある。西側の溝が大畦の水口から発することから、配水のための溝と考えられよう。

この水田面を覆う泥流中からは、多量の木材が出土している。泥流に巻き込まれて運ばれたもので、大半は自然木であったが、一部加工の痕跡を残すものが約1割含まれていた（第30・31図）。加工木は、建築材と思われる角材や板材、杭などで、半数近くがコナラ節であった。一方自然木では、コナラ節とヤシャブシ属がともに13%前後で、量的に卓越している。この樹種組成は、Hr－FA下水田中の木材の組成とは大きく異なっている。自然木は泥流に巻き込まれたもので、その樹種組成が厳密に遺跡地の環境を示すものではなく、より標高の高い地域の植生を示す樹種も含まれている。ただし、ヤシャブシ属は崩壊地に特徴的な植物であり、Hr－FAの噴火に伴う泥流が発生した後の遺跡周辺地域の植生の変化も影響しているのであろう。

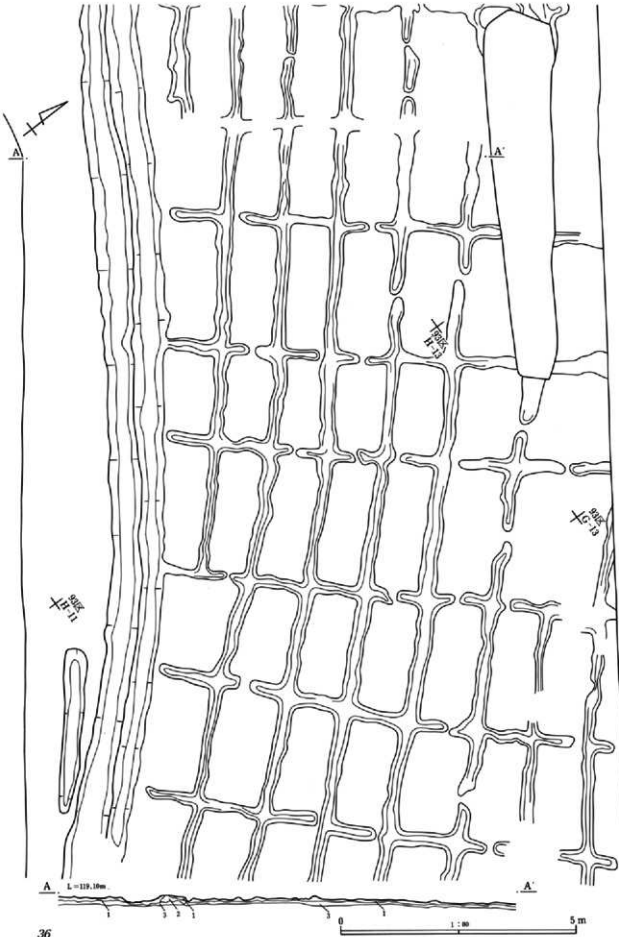
Hr-FP下水田（全セクション共通）

1　黒褐色粘質土　細粒で若干の砂含む。水田耕作土。
2　黒褐色砂質土　細粒でシルト・粘質土混入。植物遺体含む。耕作土。
3　褐灰色粘質土　細粒で全体に砂粒含む。水田床土。
4　黒色砂質土　シルトわずかに含む。植物遺体混入。
5　オリーブ黒色粘質土　グライ化進む。しまり悪い。
6　灰オリーブ色シルト　グライ化進み、シルトを層状に含む。
7　FA泥流

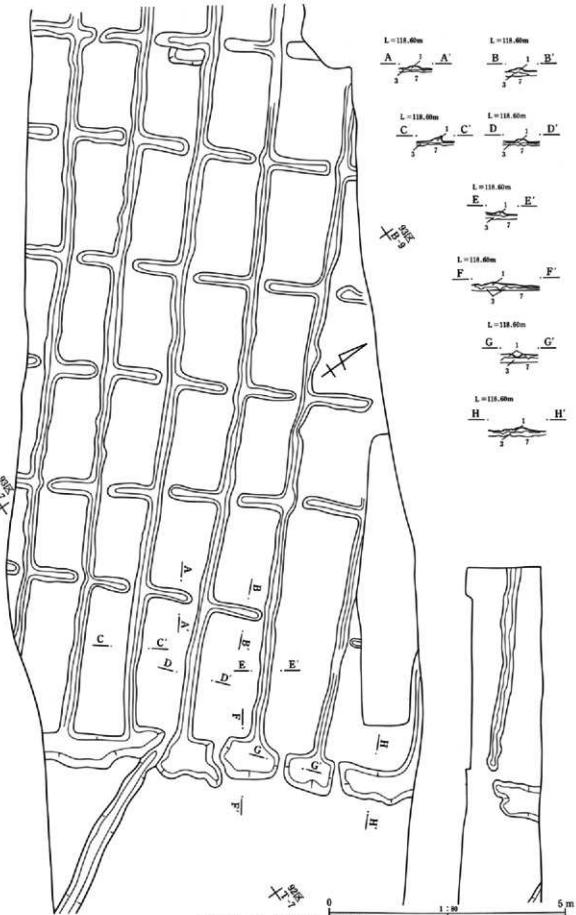
第26図　Hr-FP下水田溝セクション



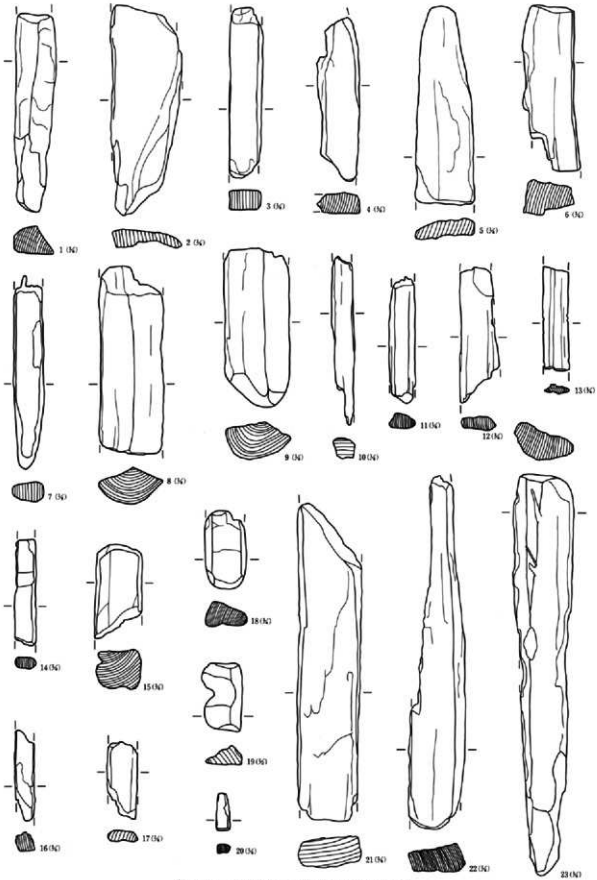
第27図　Hr-FP下水田溝



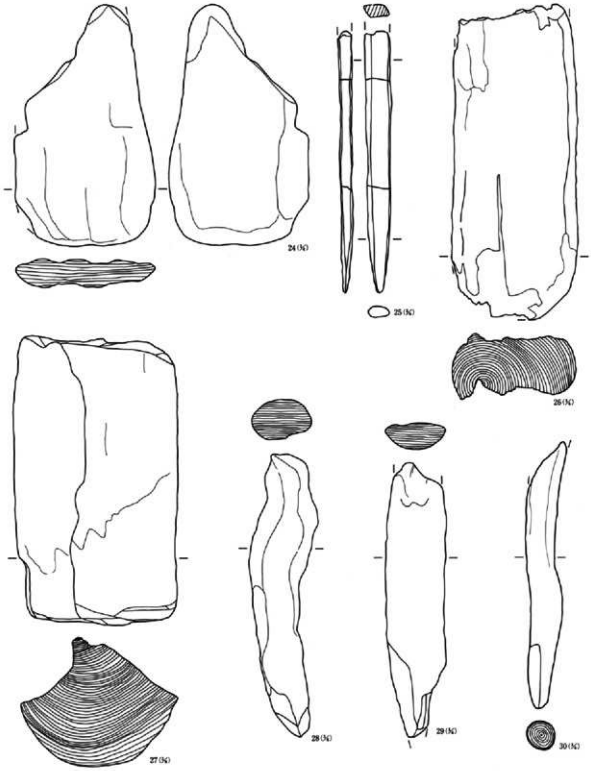
第28図　Hr-FP下水田6号大畦



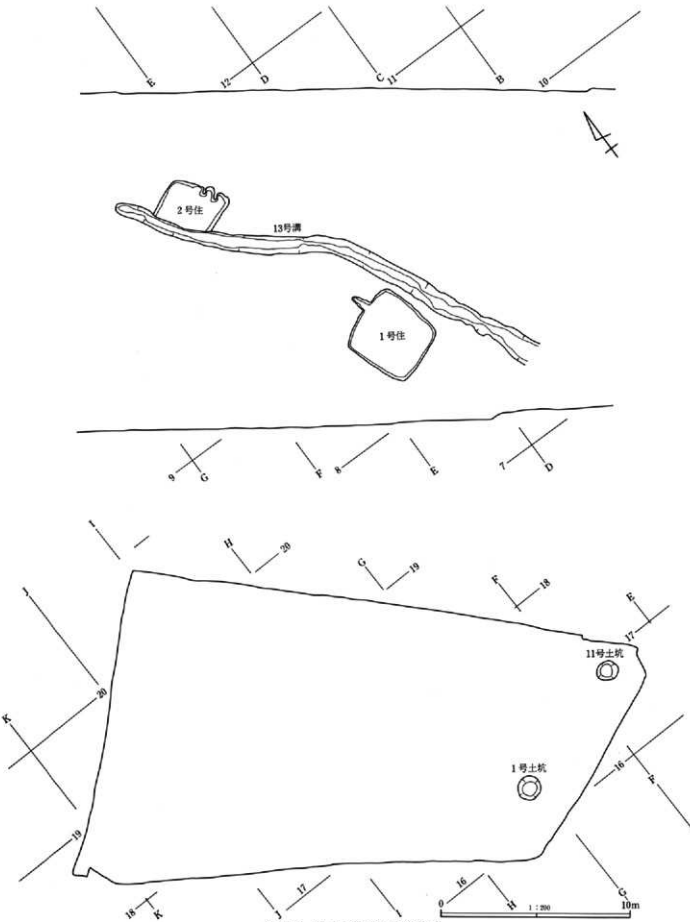
第29図　Hr-FP下水田4号大畦



第30図　Hr-FP泥流下層出土木製品（1）



第31図　Hr-FP泥流下層出土木製品（２）



第32図　Hr-FP泥流上面全体図

4　泥流堆積物上面

As-B下水田の耕作土を除去した段階で、住居2軒、土坑3基、溝3条が見つかった。遺構の検出面は洪水堆積物の上面である。火山灰層下の調査面のように、当時の生活面として捉えられないため、全体図中の等高線は省略した。

遺構は調査区南半に集中している。この部分は近年の圃場整備によって洪水堆積物の上位まで削平がおよんでおり、遺構の上部がすでに削平されているものもあった。そのため、遺構の形状・大きさ等は全て調査段階のものである。住居以外の遺構からは遺物の出土はなく確実な時期認定には至っていないが、As-B下水田の耕作土下での検出であり、覆土中に一次堆積のAs-Bが見られるものもあることから、古墳時代後期から平安時代までの間に構築されたものとわかる。

この地域は、住居が存在することから、Hr-FPに伴う洪水がおさまった後に、生産域から居住域に変化したことがわかる。以下、各遺構ごとに記載する。

1）住居

1号住居

位置　11地区93区D-8・9グリッド　**主軸方位**　N-19°-W　**残存壁高**　16cm　**重複**　なし

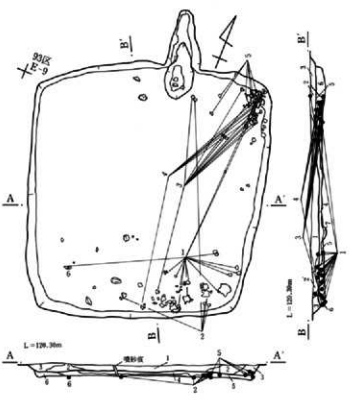
規模と形状　長辺4.06m、短辺3.76mでほぼ正方形を呈するが、北側がやや開く。住居主軸は西側に傾く。竈は北壁に築かれる。

床面　掘り形に地山泥流層を主体とする土を埋め床面形成。壁際を除く床面には炭化物を多量に含む土層が認められた。床面の敷物が炭化した可能性が考えられる。

竈　住居北壁の中央よりやや右側に構築されている。袖はなく、燃焼部が住居外に張り出す形状を取る。焚き口幅57cm、燃焼部長95cm。燃焼部から前部にかけて浅い掘り込みが見られ、焼土と炭化物の混土層が堆積していた。

貯蔵穴　なし。　**柱穴**　なし。

周溝　なし。



ベルトセクション
1　暗褐色シルト質土　地山洪水層主体。
2　暗褐色シルト質土　洪水層主体。1層より黒味強い。
3　暗褐色シルト質土　洪水層主体。
4　黒褐色土　炭化物非常に多く含む。床面の敷物炭化した可能性あり。粘性持つ。
5　黒褐色土　少量の炭化物含む。
6　褐色土　洪水層主体。
7　褐色土　洪水層主体。

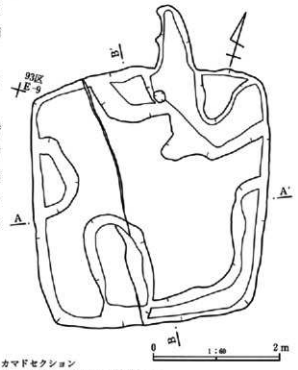
0　1:60　2m

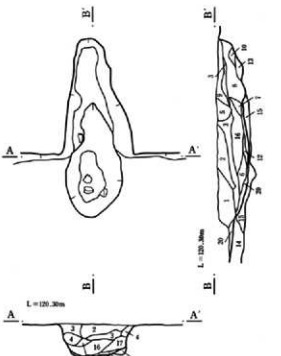
第33図　1号住居

出土遺物　住居の北東隅と南壁際の床面付近にまとまって分布。大半は小破片である。器種としては、土師器坏（１）・甕（２～５）がある。

掘り形　竈付近を中心に、不規則な掘り形が作られていた。

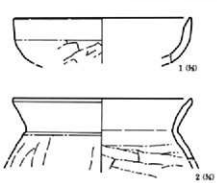
調査所見　出土遺物から、当住居の所属時期は古墳時代後期（７世紀）と判断される。また、本住居調査中に噴砂の痕跡が見つかっている。細い地割れが住居内を通って外側へ延びているもので、住居覆土セクションの観察から、住居が埋没した後に噴出したものであることがわかる。

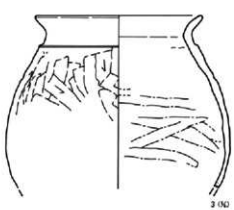




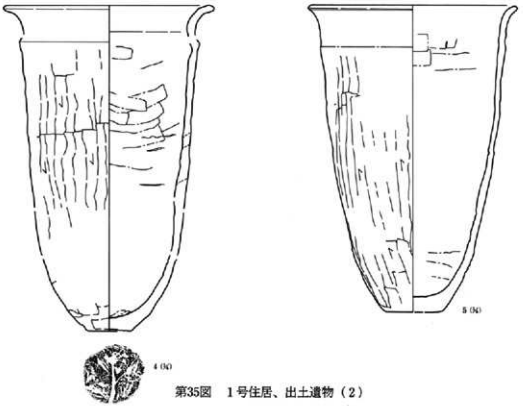
カマドセクション

1　黒褐色土　地山浜水層多量に含む。
2　灰褐色土　白色軽石粒かなり含む。カマド構築材。
3　灰褐色土　地山浜水層多量に含む。
4　灰褐色土　３層に似るがかなりのシルト含む。
5　褐灰色砂
6　灰褐色土　かなりの白色軽石粒含む。
7　褐色シルト質土　少量の炭化物粒含む。
8　におい黄褐色シルト質土　わずかの炭化物粒含む。構築材か。
9　暗赤褐色土　焼土・炭化物が混在。
10　褐色シルト質土
11　暗褐色土　多量のシルト、少量の炭化物混入。
12　暗褐色土　少量の焼土粒含む。
13　灰褐色土　少量の焼土粒含む。
14　黒褐色土　少量の炭化物粒含む。
15　黒褐色土　多量の炭化物粒含む。
16　におい赤褐色土　シルトの焼土化したもの。袖の崩落土か。
17　黒褐色土　多量の焼土粒・炭化物粒含む。
18　黒褐色土　17層に似るが炭化物の混入より多い。
19　黒褐色土　多量の炭化物含む。
20　黒褐色土　19層に似るが炭化物の混入少ない。





第34図　１号住居、出土遺物（１）



第35図　1号住居、出土遺物（2）

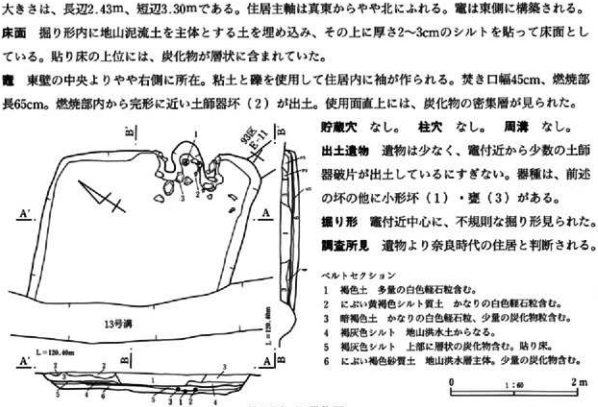
2号住居

位置　11地区93区E-10・11グリッド　**主軸方位**　N-68°-E　**残存壁高**　26cm　**重複**　13溝に切られる。

規模と形状　一辺を溝に切られているため正確な形状は不明だが、横長の平行四辺形状を呈する。調査時の大きさは、長辺2.43m、短辺3.30mである。住居主軸は真東からやや北にふれる。竈は東側に構築される。

床面　掘り形内に地山泥流土を主体とする土を埋め込み、その上に厚さ2～3cmのシルトを貼って床面としている。貼り床の上位には、炭化物が層状に含まれていた。

竈　東壁の中央よりやや右側に所在。粘土と礫を使用して住居内に袖が作られる。焚き口幅45cm、燃焼部長65cm。燃焼部内から完形に近い土師器坏（2）が出土。使用面直上には、炭化物の密集層が見られた。



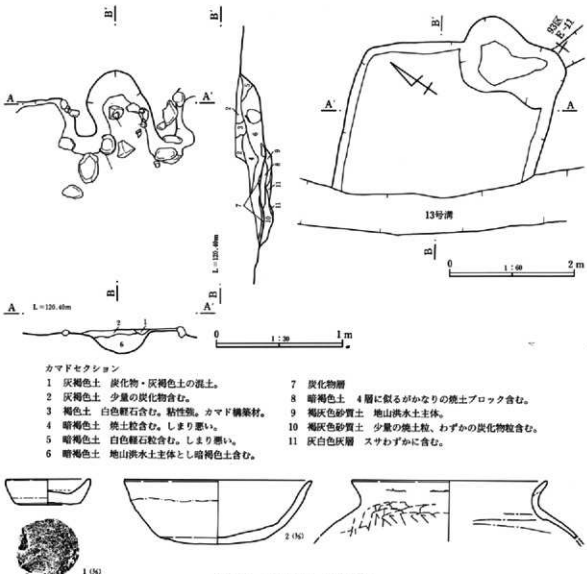
第36図　2号住居

貯蔵穴　なし。　**柱穴**　なし。　**周溝**　なし。

出土遺物　遺物は少なく、竈付近から少数の土師器破片が出土しているにすぎない。器種は、前述の坏の他に小形坏（1）・甕（3）がある。

掘り形　竈付近中心に、不規則な掘り形見られた。

調査所見　遺物より奈良時代の住居と判断される。



カマドセクション

1　灰褐色土　炭化物・灰褐色土の混土。
2　灰褐色土　少量の炭化物含む。
3　褐色土　白色軽石含む。粘性強。カマド構築材。
4　暗褐色土　焼土粒含む。しまり悪い。
5　暗褐色土　白色軽石粒含む。しまり悪い。
6　暗褐色土　地山洪水土主体とし暗褐色土含む。
7　炭化物層
8　暗褐色土　4層に似るがかなりの焼土ブロック含む。
9　褐灰色砂質土　地山洪水土主体。
10　褐灰色砂質土　少量の焼土粒、わずかの炭化物粒含む。
11　灰白色灰層　スサわずかに含む。

第37図　2号住居、出土遺物

2）土坑

1号土坑

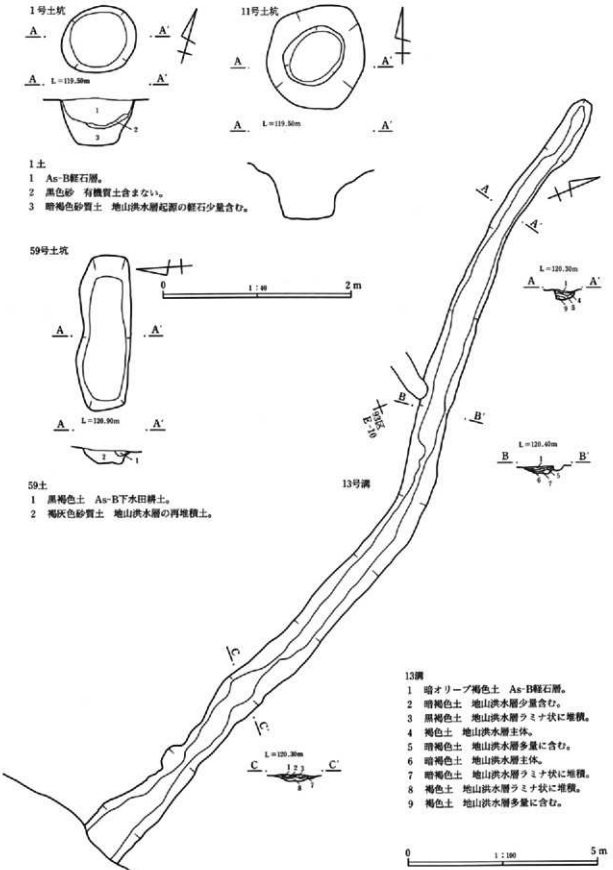
11地区82区G-16グリッドに所在。長軸92cm、短軸71cmのほぼ円形で、深さ49cm。覆土上位に一次堆積のAs-Bがみられる。

11号土坑

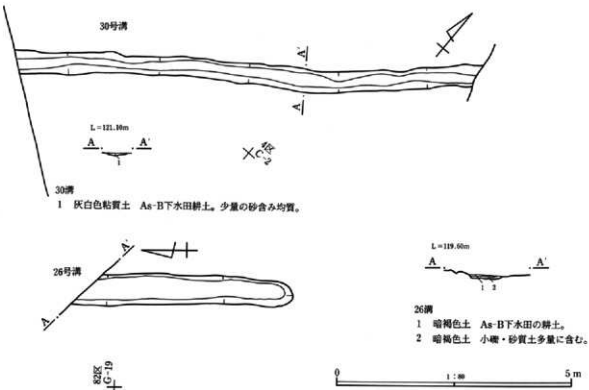
11地区82区E-16グリッドに所在。長軸117cm、短軸106cmのほぼ円形で、深さ55cm。覆土上位にAs-Bが堆積していた。

59号土坑

11地区93区Q・R-19グリッドに所在。長軸164cm、短軸56cmの長楕円形で、深さ14cm。覆土上位にAs-B下水田の耕作土が堆積している。



第38図　1・11・59号土坑、13号溝



第39図　26・30号溝

３）溝

13号溝

11地区93区C-7～E-11グリッドに位置する。覆土上位に一次堆積のAs-Bを含む。上幅は最大で1.33m、深さ0.3mで北西から南方向に緩く蛇行して走る。２号住居より新しい。

26号溝

11地区82区F-18グリッドに所在。21溝より古い。上幅は最大64cm、深さ18cm。覆土上位にAs-B下水田の耕作土が認められる。

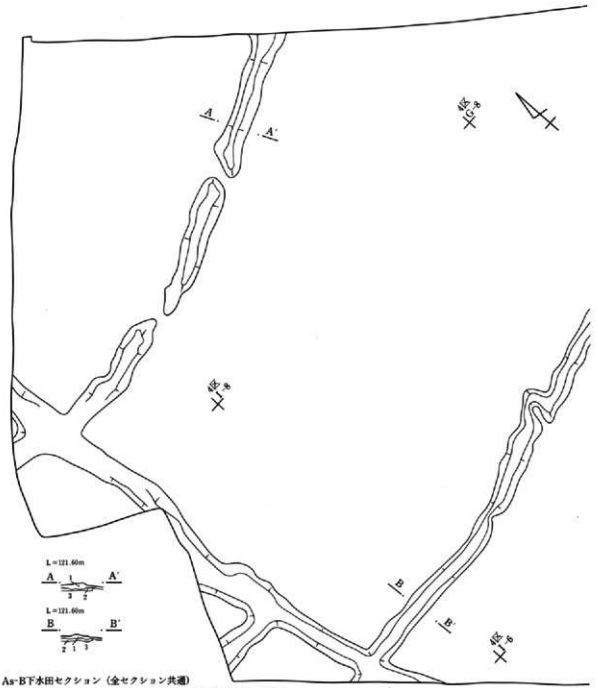
30号溝

10地区４区C-1～B-2グリッドに位置する。上幅50cm程の浅く小さな溝。25溝に切られる。覆土はAs-B下水田の耕作土。

５　浅間Ｂ軽石（As-B）下

調査区の北側１／２程の部分と南端で、成層したAs-Bの堆積が認められた。調査区両端での比高差は、約1.6mである。その他の区域では、圃場整備によって洪水層上位まで削平されており、As-Bも失われていた。北側ではAs-Bの直下から水田址が見つかっている（付図４）。南端では、中・近世の遺構の他に、As-B降下後に水田耕作が行われた痕跡が見つかっており、As-B直下の水田は明確ではなかった。

水田面は、北から南に向かって緩やかに傾斜している。畦畔は、一部乱れているが、ほぼ東西・南北に走

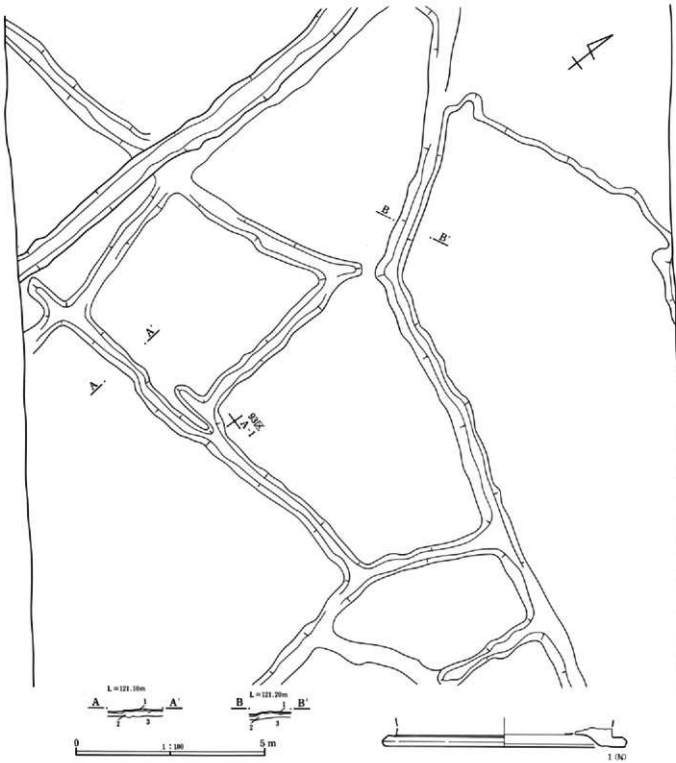


As-B下水田セクション（全セクション共通）
1　黒褐色粘質土層　しまり良。白色軽石粒少量含む。水田耕作土。
2　灰黄褐色土　下位の洪水層を主体とし、１層をブロック状に含む。
3　洪水層（Hr-FP泥流層）

第40図　As-B下水田

る。調査区幅の制約から、水田１枚全体が確認できた部分は少なく、確実な形状・規模等はわからない。調査した範囲では、水田の形状は東西に長い長方形状を呈するものが多い。畦畔は幅50～60cm、高さ5cm程度で一定しており、特に他と規模の異なる大きな畦は見つかっていない。横方向の畦は、上流にあたる北側の立ち上がりが不明瞭で、棚田のようになっている部分が認められる。

この面では、水田の畦畔を切る溝が２条見つかっている。ほぼ東西に走るもの（５号溝）と南北方向の溝（第41図）が各１条である。畦畔を切る部分もあるが、ともに畦畔に並行し、覆土中に成層したAs-Bが認



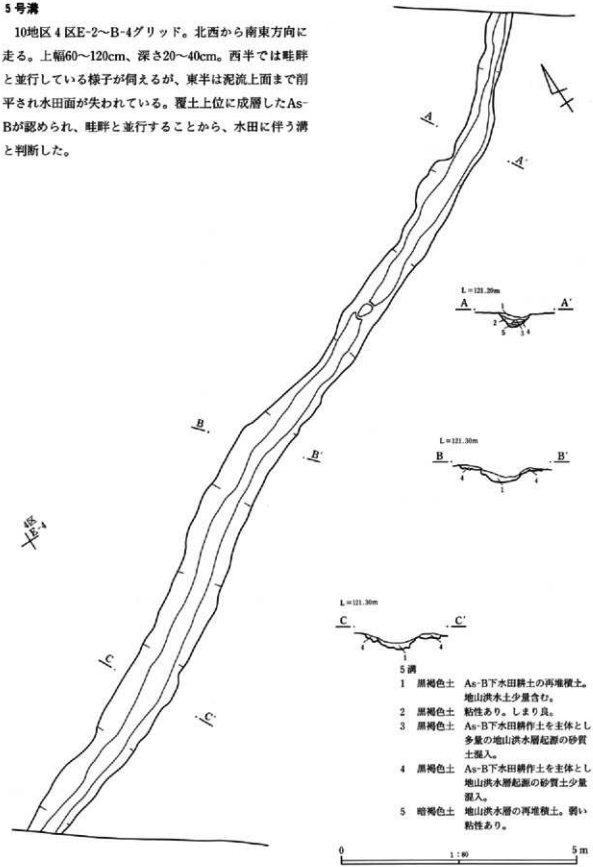
第41図　As-B下水田および出土遺物

められることから、水田に伴う溝と判断した。

水田面には足跡や耕作痕と思われる多数の凹凸が残されていたが、確実な性格は不明である。水田の耕作土内より紋質陶器の破片が出土している（第41図１）。

５号溝

10地区４区E-2～B-4グリッド。北西から南東方向に走る。上幅60～120cm、深さ20～40cm。西半では畦畔と並行している様子が伺えるが、東半は泥流上面まで削平され水田面が失われている。覆土上位に成層したAs-Bが認められ、畦畔と並行することから、水田に伴う溝と判断した。



第42図　５号溝

6　中・近世

調査区全域で土坑８基、溝23条が見つかっている（付図５）。全般に遺物の出土は少なく、遺物から時期を特定できるものは少なかった。時期認定の決め手としては、As-Bを掘り込んでいたり、As-B下水田の畦畔を切ったり、または覆土中に再堆積の浅間Ａ軽石（以下As-A）やAs-Bを含んでいる点から判断した。この他に、調査区南側では、多数の耕作痕を伴う水田址が検出された。以下各遺構ごとに記載する。

１）土坑

３号土坑

11地区93区P-19・20グリッド。長軸104cm、短軸91cmの楕円形で、深さは39cm。９号溝より古い。内部より土師質土器の皿が１点出土しているが、発掘調査から報告書作成までの間に紛失してしまい、作図・掲載できなかった。

４号土坑

11地区93区O-18・19グリッド。直径91cmのほぼ円形で深さは45cm。土器片がわずかに出土。

５号土坑

11地区93区O-18・19グリッド。一部９溝に破壊されているため、正確な形状・規模は不明。調査段階では、長軸200cm、短軸150cm、深さ31cm。土器片がわずかに出土。

６号土坑

11地区82区N-16グリッド。形状は長方形で長軸275cm、短軸78cm、深さ18cm。覆土に再堆積のAs-A、As-Bを含む。７～９号土坑と形状が類似し、縦に一列に並んでいる。覆土も同一で、一連の関連する遺構である可能性が高い。

７号土坑

11地区82区N-15・16グリッド。長方形状で長軸372cm、短軸67cm、深さ15cm。６号土坑同様覆土中にAs-A、As-Bを含む。

８号土坑

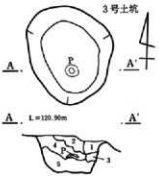
11地区82区M-15グリッド。長軸212cm、短軸61cmの長方形状で、深さ14cm。覆土にAs-A、As-Bを含む。

９号土坑

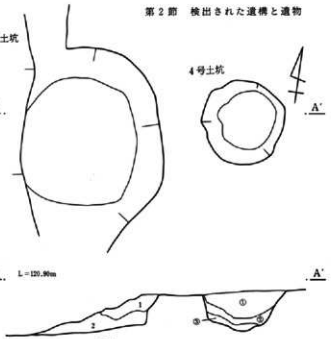
11地区82区M-14・15グリッド。南端部が削平され、正確な規模は不明。調査時の形状は長軸260cm、短軸76cmの長方形で、深さ6cm。覆土にAs-A、As-Bを含む。

10号土坑

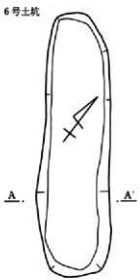
11地区82区E-16グリッド。長軸100cm、短軸72cmの楕円形で深さ10cm。



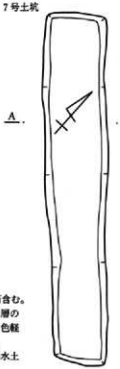
3土
1　褐色土　地山洪水土多量に含む。
2　褐色土　地山洪水土多量に含む。炭化物少量混入。
3　灰黄褐色砂質土　均質。
4　暗褐色土　多量の地山洪水土・炭化物含む。
5　灰黄褐色砂質土　3層よりもさらに均質。



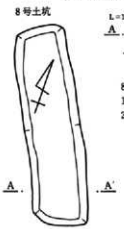
5土
1　暗褐色土　地山洪水層起源の褐色粘質土含む。
2　暗褐色土　少量の白色軽石粒含む。
4土
①　暗褐色土　少量の白色軽石粒・褐色粘質土含む。
②　暗褐色土　褐色粘質土ブロック含む。
③　黒色砂と褐色粘質土の混土。



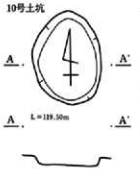
6土
1　黒褐色土　As-A・As-B軽石含む。
2　褐灰色シルト質土　地山洪水層の二次堆積土。白色軽石粒少量含む。
3　明黄褐色シルト質土　地山洪水土主体。粘性強。

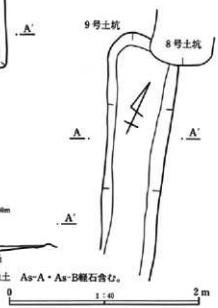


7土
1　黒褐色土　As-A・As-B軽石含む。
2　褐灰色シルト質土　地山洪水層の二次堆積土。白色軽石粒少量含む。
3　明黄褐色シルト質土　地山洪水土主体。粘性強。



8土
1　黒褐色土　As-A・As-B軽石含む。
2　褐灰色シルト質土　地山洪水層の二次堆積土。白色軽石粒少量含む。





9土
1　黒褐色土　As-A・As-B軽石含む。

第43図　3～10号土坑

2）溝

1号溝（第44図）

10地区4区E～I-6グリッド。隣接する2号溝と並行してほぼ東西に走る。2つの溝はともに覆土に再堆積のAs-Aを含み、同時に存在していたものと思われる。As-B軽石直下での検出であったため、調査時には上幅30～50cm、深さ5～10cm程の小さな溝であったが、壁面のセクションから、上幅140cm、深さ40cm程のかなり大きな溝であったことがわかる。

2号溝（第44図）

10地区4区E・F-6グリッド。1号溝と並行して東西に走る。再堆積のAs-Aを覆土中に含む。1号溝同様本来はより大きな溝であった。調査時の上幅30～40cm、深さ5cm程度。

3号溝（第45図）

10地区4区Q-3～B-5グリッド。北東から南西方向に走る。上幅60～100cm、深さ20～30cm。As-B下水田の耕作土を切って作られているが、覆土にはAs-Bを含まない。南側には水田の畦が途中まで並行して作られており、水田耕作に関わる遺構の可能性がある。

4号溝（第45図）

10地区4区E-3・4グリッド。上幅50～80cm、深さ10cm、長さ2.4m程の小規模な溝。長軸がほぼ南北を指し、北端で3号溝に接する。覆土上位にAs-B下水田の耕作土が見られる。水田の畦畔を切って作られている。

6号溝（第46図）

11地区92区Q-20グリッド。緩く蛇行しながら南北に走る。隣接する10号溝と並行する。上幅30～70cm、深さ10～20cm。

7号溝（第46図）

11地区92区P-16～Q-20グリッド。上幅220～250cm、深さ50cm程の溝でほぼ南北に走る。8号溝より新しい。内部より軟質陶器鍋、焼締陶器甕、古銭が出土している（第52図1～4）。

8号溝（第46図）

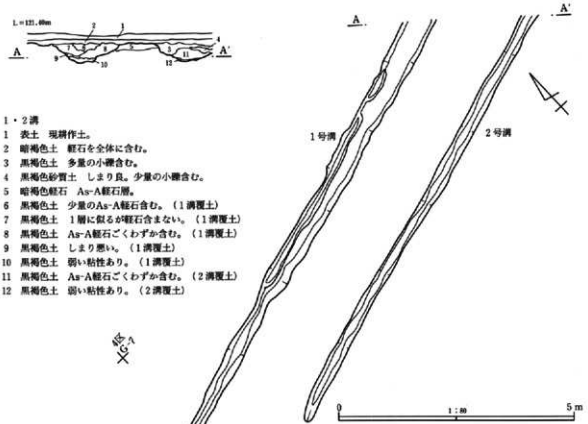
11地区92区P-19・20グリッド。上幅20～60cm、深さ5cm程度の小さな溝で、7号溝に並行して走るが、セクションの観察からより古いことがわかる。

9号溝（第47図）

11地区92区O-17～20グリッド。3・5号土坑より新しい。覆土上位に二次堆積のAs-Bを含んでいる。上幅1.6～3.5m、深さ40cm程度でほぼ南北に走る。焼締陶器の甕破片が出土している（第52図）。

10号溝（第46図）

11地区93区R-1グリッド。上幅30～50cm、深さ20cm程の小さな溝で、6号溝と並行する。



1・2溝
1　表土　現耕作土。
2　暗褐色土　軽石を全体に含む。
3　黒褐色土　多量の小礫含む。
4　黒褐色砂質土　しまり良。少量の小礫含む。
5　暗褐色軽石　As-A軽石層。
6　黒褐色土　少量のAs-A軽石含む。（1溝覆土）
7　黒褐色土　1層に似るが軽石含まない。（1溝覆土）
8　黒褐色土　As-A軽石ごくわずか含む。（1溝覆土）
9　黒褐色土　しまり悪い。（1溝覆土）
10　黒褐色土　弱い粘性あり。（1溝覆土）
11　黒褐色土　As-A軽石ごくわずか含む。（2溝覆土）
12　黒褐色土　弱い粘性あり。（2溝覆土）

第44図　1・2号溝

11号溝（第47図）

11地区92区N・O-19グリッド。上幅30～60cm、深さ20cm程度の小規模な溝。ほぼ東西に走り、西端で9号溝に接続する。両溝の前後関係は不明。

12号溝（第45図）

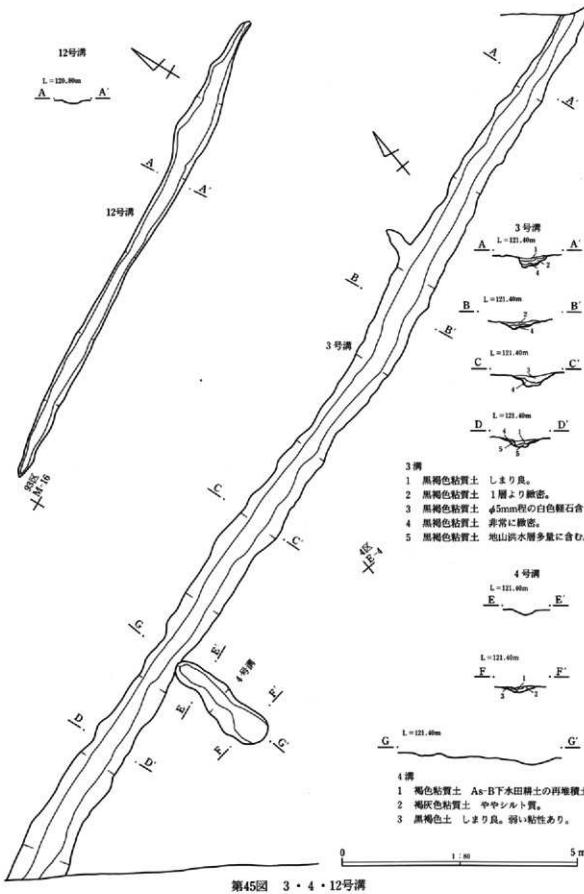
11地区93区J～L-16グリッド。上幅30～70cm、深さ5cm程の小規模な溝。ほぼ東西に走る。

14号溝（第48図）

11地区93区D・E-10グリッド。15号溝と重複するが前後関係は不明。上幅40～60cm、深さ10cm程でほぼ東西に走る。

15号溝（第48図）

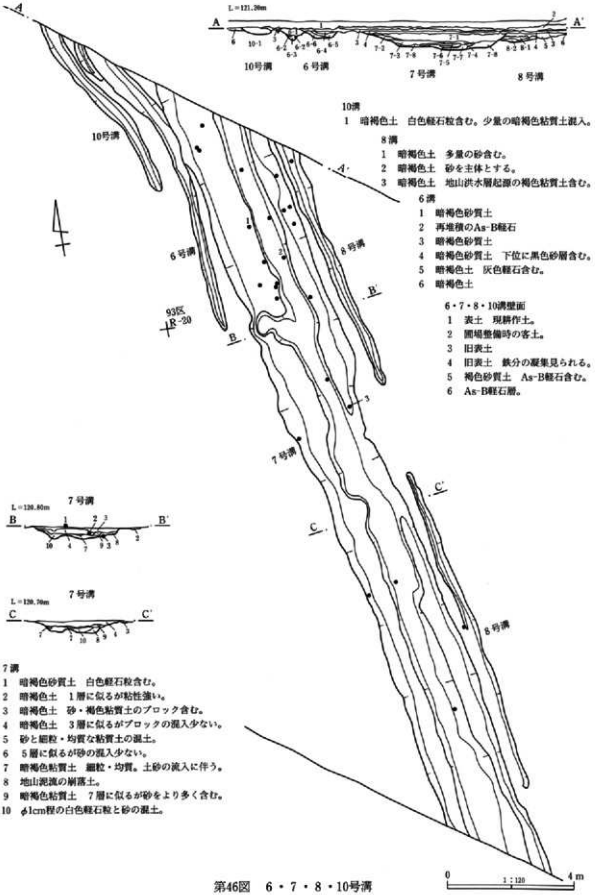
11地区93区F-9～D-10グリッド。上幅30～40cm、深さ20cm程の小さな溝で、北東から南西方向へ走る。



3溝
1　黒褐色粘質土　しまり良。
2　黒褐色粘質土　1層より緻密。
3　黒褐色粘質土　φ5mm程の白色軽石含む。
4　黒褐色粘質土　非常に緻密。
5　黒褐色粘質土　地山浜水層多量に含む。

4溝
1　褐色粘質土　As-B下水田耕土の再堆積土。
2　褐灰色粘質土　ややシルト質。
3　黒褐色土　しまり良。弱い粘性あり。

第45図　3・4・12号溝



10溝
1　暗褐色土　白色軽石粒含む。少量の暗褐色粘質土混入。

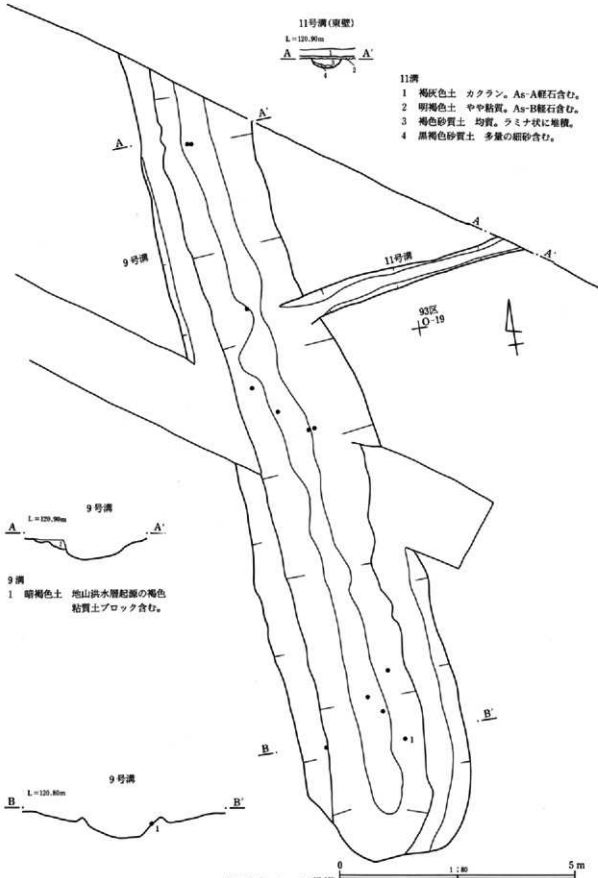
8溝
1　暗褐色土　多量の砂含む。
2　暗褐色土　砂を主体とする。
3　暗褐色土　地山洪水層起源の褐色粘質土含む。

6溝
1　暗褐色砂質土
2　再堆積のAs-B軽石
3　暗褐色砂質土
4　暗褐色砂質土　下位に黒色砂層含む。
5　暗褐色土　灰色軽石含む。
6　暗褐色土

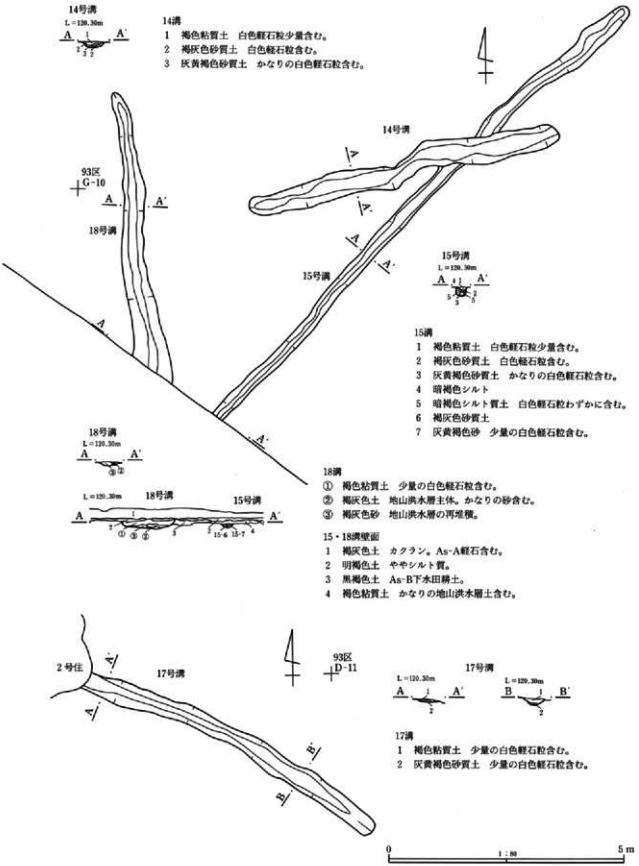
6・7・8・10溝壁面
1　表土　現耕作土。
2　開墾整備時の客土。
3　旧表土
4　旧表土　鉄分の凝集見られる。
5　褐色砂質土　As-B軽石含む。
6　As-B軽石層。

7溝
1　暗褐色砂質土　白色軽石粒含む。
2　暗褐色土　1層に似るが粘性強い。
3　暗褐色土　砂・褐色粘質土のブロック含む。
4　暗褐色土　3層に似るがブロックの混入少ない。
5　砂と細粒・均質な粘質土の混土。
6　5層に似るが砂の混入少ない。
7　暗褐色粘質土　細粒・均質。土砂の流入に伴う。
8　地山泥流の崩落土。
9　暗褐色粘質土　7層に似るが砂をより多く含む。
10　φ1cm程の白色軽石粒と砂の混土。

第46図　6・7・8・10号溝


11号溝(東壁)
L=120.90m
A
A'
1
2
4
11溝
1　褐灰色土　カクラン。As-A軽石含む。
2　明褐色土　やや粘質。As-B軽石含む。
3　褐色砂質土　均質。ラミナ状に堆積。
4　黒褐色砂質土　多量の細砂含む。
9号溝
11号溝
93区
O-19
9号溝
L=120.90m
9溝
1　暗褐色土　地山洪水層起源の褐色粘質土ブロック含む。
B
B'
9号溝
L=120.80m
0
1:80
5m

第47図　9・11号溝



第48図　14・15・17・18号溝

16号溝（第50図）

11地区93区B-7～C-11グリッド。上幅50～150cm、深さ30～40cmで北から南に流れる。北部は二股に分かれている。

17号溝（第48図）

11地区93区D-10グリッド。上幅30～50cm、深さ10～20cmの小さな溝。２号住居より新しい。

18号溝（第48図）

11地区93区F-9・10グリッド。上幅30～80cm、深さ10cm程で南北に走る。

19号溝（第49図）

11地区82区G-16～H-20グリッド。隣接する20溝と並行し、北西から南東へ走る。上幅50～150cm、深さ10～20cm。

20号溝（第49図）

11地区82区H-16～I-19グリッド。上幅50～170cm、深さ50cm程度。覆土上位に再堆積のAs-Bを含む。

21号溝（第49図）

11地区82区F-17・18グリッド。上幅30～60cm、深さ10cm程度。覆土下位に再堆積のAs-B含む。

22号溝（第49図）

11地区82区G-17・18グリッド。上幅30～50cm、深さ10cm程度。覆土中に再堆積のAs-Bを含む。23号溝より古い。

23号溝（第49図）

11地区82区F・G-18グリッド。東西に走る。近年の暗渠か。

24号溝（第51図）

11地区93区E～G-12グリッド。上幅50～100cm、深さ約20cmで東西に走る。覆土上位に再堆積のAs-Bを含む。

25号溝（第51図）

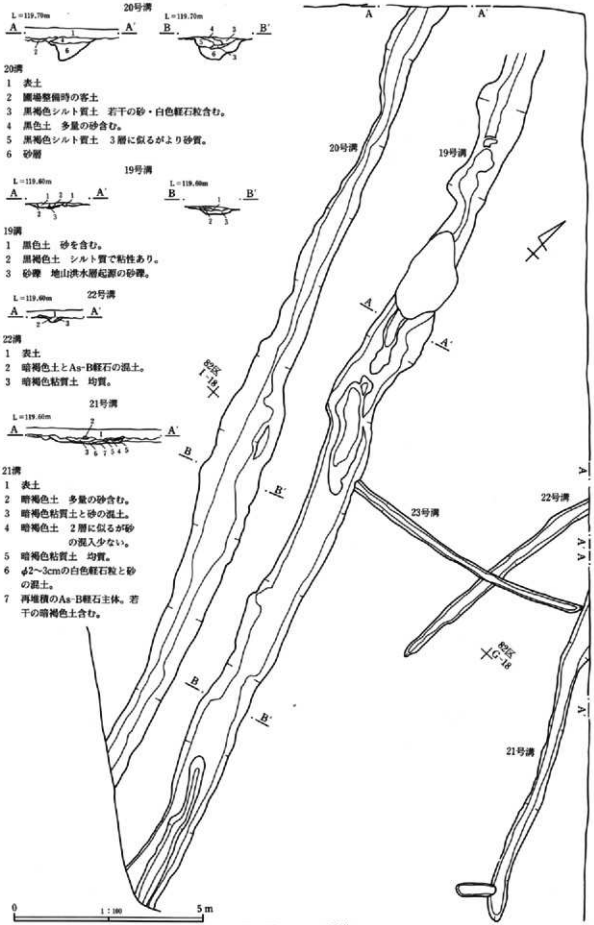
10地区４区B-1～A-4グリッド。南側はほぼ南北に走り、北側で北東に曲がる。上幅50～80cm、深さ10cm。

27号溝（第50図）

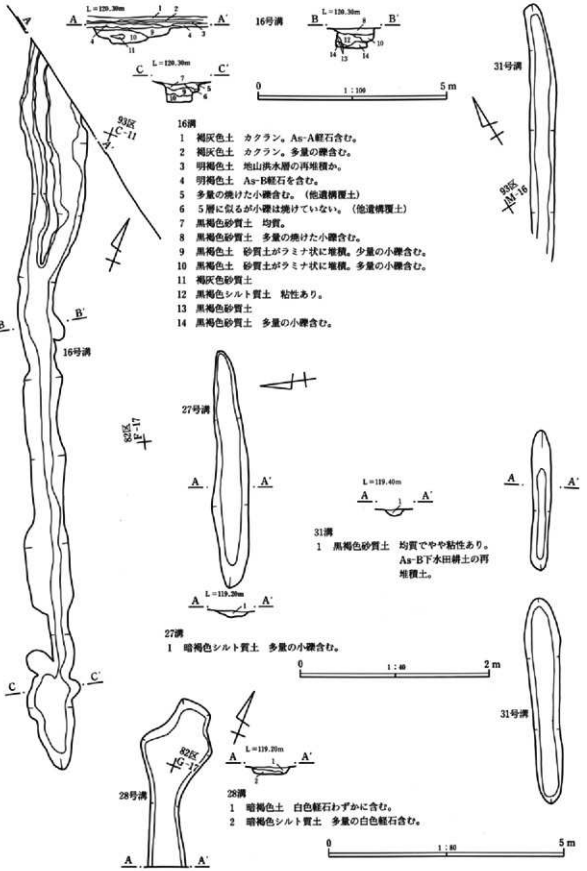
11地区82区F-17グリッド。上幅20～40cm、深さ10cm、全長2.5m程度の小規模な溝。

28号溝（第50図）

11地区82区G-17グリッド。上幅60～150cm、深さ約20cm。


20号溝
L=119.70m
A
A'
1
2
5
L=119.70m
B
B'
4
3
6
20溝
1 表土
2 圃場整備時の客土
3 黒褐色シルト質土 若干の砂・白色軽石粒含む。
4 黒色土 多量の砂含む。
5 黒褐色シルト質土 3層に似るがより砂質。
6 砂層
19号溝
L=119.40m
A
A'
1
2
3
L=119.60m
B
B'
1
2
3
19溝
1 黒色土 砂を含む。
2 黒褐色土 シルト質で粘性あり。
3 砂礫 地山洪水層起源の砂礫。
22号溝
L=119.40m
A
A'
2
3
22溝
1 表土
2 暗褐色土とAs-B軽石の混土。
3 暗褐色粘質土 均質。
21号溝
L=119.60m
A
A'
2
1
3
4
5
6
21溝
1 表土
2 暗褐色土 多量の砂含む。
3 暗褐色粘質土と砂の混土。
4 暗褐色土 2層に似るが砂の混入少ない。
5 暗褐色粘質土 均質。
6 φ2～3cmの白色軽石粒と砂の混土。
7 再堆積のAs-B軽石主体。若干の暗褐色土含む。
A
A'
B
B'
20号溝
19号溝
23号溝
22号溝
21号溝
B35
I-14
B35
IG-18
0
1:100
5m

第49図 19～23号溝



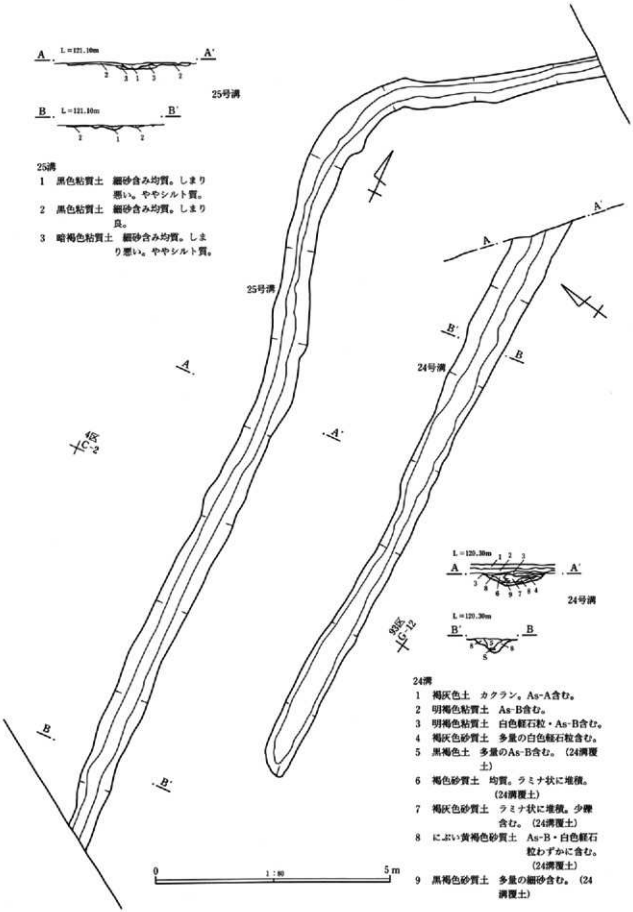
16溝
1　褐灰色土　カクラン。As-A軽石含む。
2　褐灰色土　カクラン。多量の礫含む。
3　明褐色土　地山洪水層の再堆積か。
4　明褐色土　As-B軽石を含む。
5　多量の焼けた小礫含む。（他遺構覆土）
6　５層に似るが小礫は焼けていない。（他遺構覆土）
7　黒褐色砂質土　均質。
8　黒褐色砂質土　多量の焼けた小礫含む。
9　黒褐色土　砂質土がラミナ状に堆積。少量の小礫含む。
10　黒褐色土　砂質土がラミナ状に堆積。多量の小礫含む。
11　褐灰色砂質土
12　黒褐色シルト質土　粘性あり。
13　黒褐色砂質土
14　黒褐色砂質土　多量の小礫含む。

27溝
1　暗褐色シルト質土　多量の小礫含む。

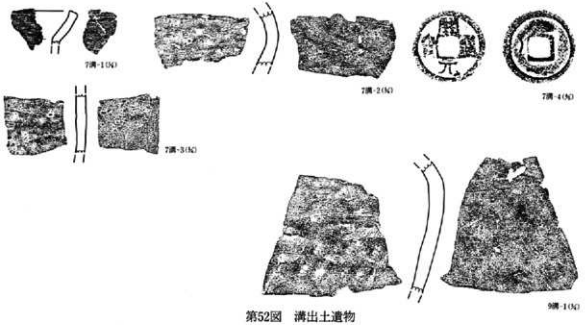
31溝
1　黒褐色砂質土　均質でやや粘性あり。
As-B下水田耕土の再堆積土。

28溝
1　暗褐色土　白色軽石わずかに含む。
2　暗褐色シルト質土　多量の白色軽石含む。

第50図　16・27・28・31号溝


A
L=121.10m
A'
2 3 1 3 2
25号溝
B
L=121.10m
B'
2 1 2
25溝
1 黒色粘質土 細砂含み均質。しまり悪い。ややシルト質。
2 黒色粘質土 細砂含み均質。しまり良。
3 暗褐色粘質土 細砂含み均質。しまり悪い。ややシルト質。
25号溝
24号溝
A
A'
B
B'
L=120.30m
1 2 3
4 5 6 7 8 9
24号溝
L=120.30m
5 6 7 8
24溝
1 褐灰色土 カクラン。As-A含む。
2 明褐色粘質土 As-B含む。
3 明褐色粘質土 白色軽石粒・As-B含む。
4 褐灰色砂質土 多量の白色軽石粒含む。
5 黒褐色土 多量のAs-B含む。（24溝覆土）
6 褐色砂質土 均質。ラミナ状に堆積。（24溝覆土）
7 褐灰色砂質土 ラミナ状に堆積。少量含む。（24溝覆土）
8 によい黄褐色砂質土 As-B・白色軽石粒わずかに含む。（24溝覆土）
9 黒褐色砂質土 多量の細砂含む。（24溝覆土）
0
1:80
5m

第51図　24・25号溝



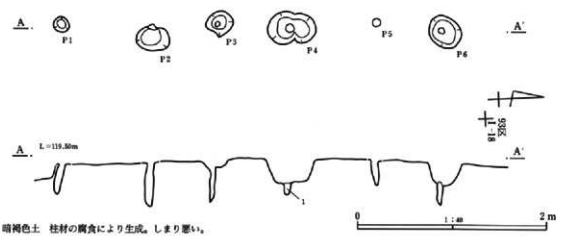
第52図　溝出土遺物

31号溝（第50図）

11地区93区M-14・15グリッド。上幅30～80cm、深さ約15cm。上部が削平されており、残存状況が悪い。

３）柱列

11地区93区I-16・17グリッドに位置している。６個の小規模な柱穴が、南北方向に一列に並んで見つかっている。ほぼ等間隔に並んでおり、各柱穴間はいずれも80～100cmであった。柱穴は、１本を除いて掘り込みがみられたが、いずれも上部のみであった。また、柱根が残っているものが４本あり、他の２本にもその痕跡が認められた。検出時の柱穴上幅は、長軸30～50cm、短軸25～30cm程度である。断面の状況から、柱穴を掘って柱材を埋め込んだのではなく、土中に打ち込まれていたことがわかる。検出面から30～50cmの深さまで打ち込まれていた。柱材は直径5～10cm程度と細く、構造物を支える柱とは想定できない。柵列のような施設と考えられる。



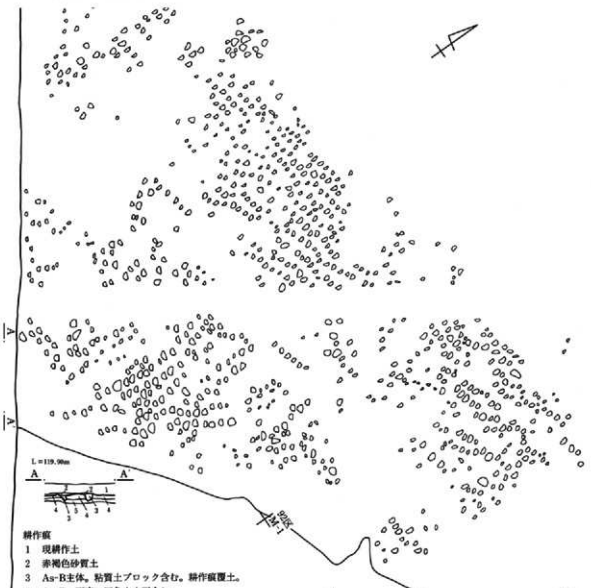
1　暗褐色土　柱材の腐食により生成。しまり悪い。

第53図　柱列

４）水田

調査区南端の11地区82区20列から92区４列にかけて、部分的に認められた。ここではAs-Bが堆積しており、水田はこのAs-Bを除去した段階で見つかっている。この北側は圃場整備によって削平され、遺構面が失われている。

水田には、明確な畦畔は見られず、棚田状のわずかな段差が検出されたのみである。周辺には鋤痕と思われる多数の耕作痕が残されていた。この耕作痕は平面形は半円形状で、長軸10～20cm、短軸5～10cm、縦断面はＶ字状を呈す。検出段階での深さは5cm程度であるが、壁面で確認したところ、本来は10～15cmの深さを持っていた。多くは直線状に並んでおり、まっすぐ前進、もしくは後退しながら耕作を行っていた様子が伺えよう。耕作痕はAs-Bを掘り込んでおり、軽石の降下以降の耕作によって残されたものであることがわかる。これに対して棚田状の段差はAs-B直下からの検出である。耕作痕の並ぶ方向も段差とは若干異なっており、両者が時期を異にする可能性が高い。



第54図　中・近世水田耕作痕

第４章　浜川高田遺跡

第１節　調査の概要

１　調査の概要

浜川高田遺跡は、10地区の４・５・15・16・26～28・37・38区にあたり、全長約450mの範囲におよぶ。調査区域は、道路によって３つの区画に分断されている。一方、調査区の名称は北陸新幹線の中区画を用いているため、区分された調査区画と調査区名称は一致しない。また、遺構名は調査区ごとに種別にナンバーを付してある。

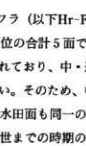
調査は、上位から泥流堆積物上位、榛名－伊香保テフラ（以下Hr-FP）下、榛名－渋川テフラ（以下Hr-FA）下、浅間Ｃ軽石（以下As-C）直下およびその下位の合計５面で行った。本遺跡では、近年の圃場整備によってかなりの区域で泥流堆積物上位まで削平されており、中・近世の遺構面は失われ、浅間Ｂ軽石（以下As-B）も調査区の一部に残存していたに過ぎない。そのため、中・近世の遺構の検出面は泥流堆積物上位となっている。一部As-Bの確認された区域では、水田面も同一の調査面で検出されている。したがって、泥流堆積物上位面の調査では、As-B降下時から近世までの時期の異なる遺構が検出されている。そのため、中・近世の遺構とAs-B下の遺構とを分けて、以下に報告する。また、最下位のAs-C下位の調査面の下にも黒色土層が認められたため、試掘調査を行った。その結果、水田などの遺構は見つからなかったのでそれ以上の調査は行わなかった。

２　基本土層

本遺跡の地形的な立地や基本的な土層の堆積状況は、浜川館遺跡に一致する。北西隅の38区付近が最も高く、現地表面の標高地で128.2m程度に対し、南東端の４区では122.6mと5.6mもの高低差が認められる。下層についてもほぼ同様の割合で傾斜している。

本遺跡も近年の圃場整備による削平を受けており、27区東端から４区にかけての範囲で泥流上面まで削られ、As-Bはごく部分的な残存にとどまる。削平のおよばなかった27～38区ではAs-B（３層）が認められた。

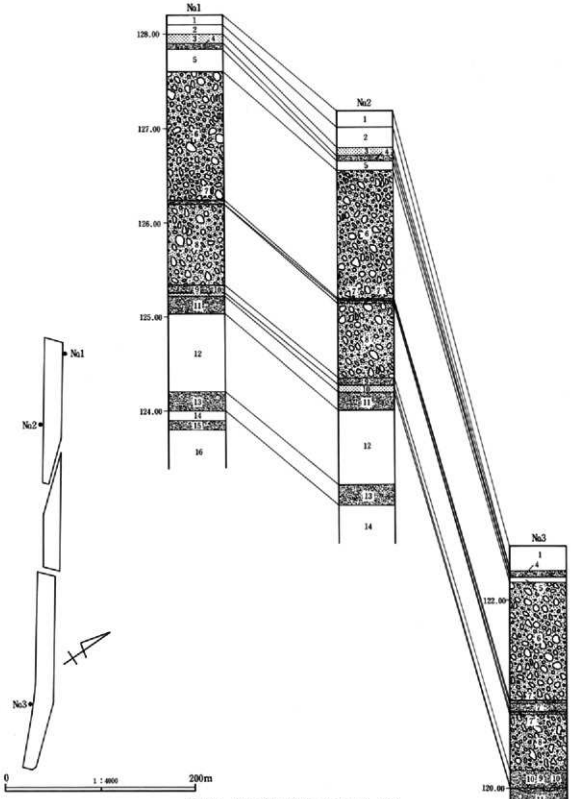
６層はHr-FPに伴う泥流で、約1.2～1.4mの厚さで堆積している。下流側で若干薄くなっている。８層はHr-FAに伴う泥流層で、60～90cmほどであった。やはり下流側ほど薄くなっている。Hr-FP・Hr-FA火山灰は、ともに水田面上に薄く貼り付く様な形で認められたが、非常に薄く地層断面での確認は困難であった。両火山灰下の水田耕作土中には植物遺体の混入が認められたが、Hr-FA下の方がより分解が進んで



基本土層
1　黒褐色土　現耕作土。
2　暗褐色土　やや砂質。下部はAs-B含む。
3　As-B
4　黒褐色粘質土　As-B下水田耕作土。
5　黄灰色粘質土
6　褐色シルト～砂礫　Hr-FPに伴う泥流層。下部に薄い黒色土層複数含む。基底部に薄いHr-FP火山灰層認められる。
7　黒灰色粘質土　Hr-FP下水田耕作土。植物遺体含む。
8　灰黄色砂礫　Hr-FAに伴う泥流層。下部ほど粗粒。基底部に薄いHr-FA火山灰層含む。
9　黒色粘質土　Hr-FA下水田耕作土。やや砂質でAs-C・植物遺体を少量含む。
10　にぶい黄褐色軽石　As-C
11　黒褐色砂質土　As-C下水田耕作土。
12　灰色砂
13　黒色粘質土
14　黄灰色砂
15　黒色粘質土
16　灰色砂

第55図　浜川高田遺跡　基本土層（１）

いる。10層はAs-Cである。調査区全域で2～5cm程の厚さで確認されたが、上位がHr-FA下水田の耕作によって撹拌され、ブロック状に残存する部分もあった。As-C下水田耕作土の下位は灰～黄灰色の砂層になる。北半の27～38区では、間に1～2枚の黒色粘質土を挟むことが確認されている。



第56図　浜川高田遺跡　基本土層（2）

第２節　検出された遺構と遺物

１　浅間Ｃ軽石（As-C）下位

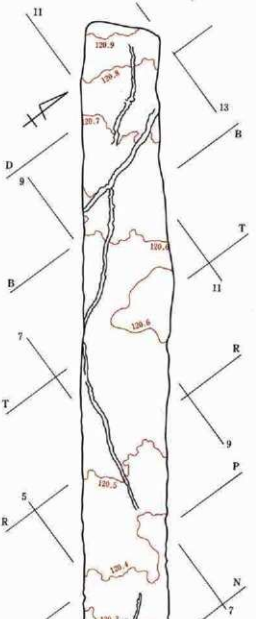
５・15・16区において、As-Cより下位の黒色土上面から浅い溝が見つかっている(第57図)。黒色土の面は、北西から南東に向かって緩く傾斜しており、上面を灰色の砂によって覆われていた。溝は傾斜にほぼ沿うように蛇行しながら走る。上幅は20～50cm、深さ5cm程で、非常に浅く、立ち上がりも不鮮明なため、自然の流路である可能性が高い。水田は見つからなかったが、植物珪酸体分析の結果イネのプラント・オパールが検出されており、周辺での水田耕作の可能性が指摘されている。遺物は土器片が２点出土しているが、小破片であり、時期を確定するには至らなかった。

２　浅間Ｃ軽石（As-C）直下

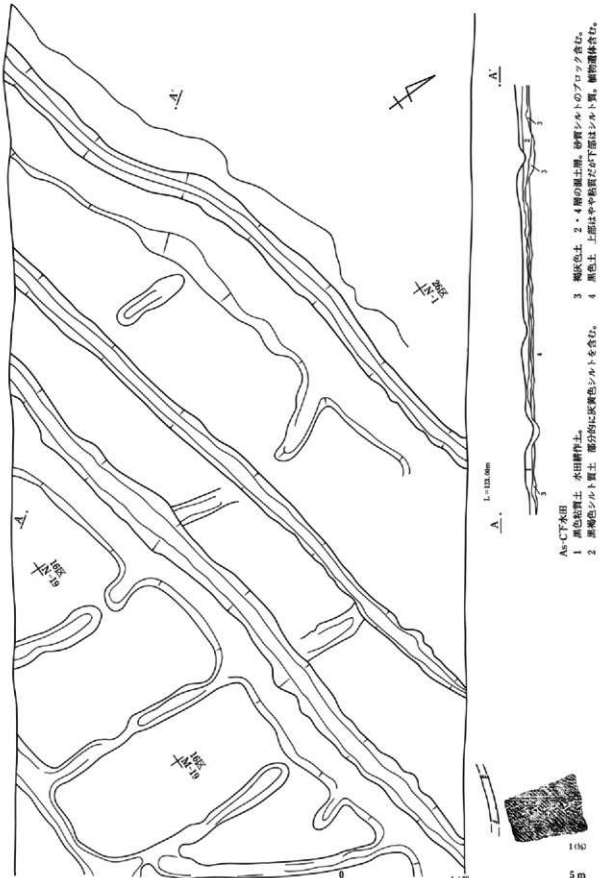
調査区全域でAs-Cの堆積が認められた。26区と27区の境界あたりに周囲より若干高い部分があり、それを境として南側では水田が作られている。北側では水田は見られなかった(付図６)。地形はおおむね北西から南東方向に緩やかに傾斜しており、調査区両端の比高差は約5.2mである。As-C直下の黒褐色砂質土を水田耕作土とする。

水田部では、16区の北から26区の南にかけて、３本の大畦が調査区を横切っている（１～３号大畦）。１・２号大畦は、中央に上幅50cm、深さ15～20cm程度の、水路と思われる溝（２・３号溝）を伴っており、３号大畦も上流側に並行して走る溝（５号溝）を伴う。溝を含んだ大畦の幅は、１・２号で約2.5m、３号で1.5m程度である。南側の２・３号大畦は隣接しており、ほぼ東西に並行して走っている（第58図）。北側の１号大畦はやや離れており、方向も他の２本とは異なる。２・３号大畦の間には、小さな溝がもう１本並行して走っている（４号溝）。この大畦の南側では、小畦が東西南北に走り、比較的区画の整った水田が作られていた。小畦は下幅30～50cm、高さ5～10cm程度のしっかりした形状で、水口もはっきりしている。この部分での水田面の面積平均は11.7㎡である。

道路を挟んだ南側の区画では、畦畔の方向が変わる。地形の傾斜に沿って北西から南東に走る縦の大畦（５号大畦）を基本とし、横畦がそれに直交している。北端部には横方向の大畦（４号大畦）も見られる。部分的に畦畔の見られないところもあったが、その他は大畦・小畦ともに非常に明瞭である。横畦に水口が作られており、水口の下流側の水田面が、水流によって削られ浅い凹みになっていた。15区のＬ列あたりで再び畦畔の方向が変わり、東西・南北を基本とするようになる。15区のＤ



第57図　As-C下位全体図



第58図　As-C 下水田2・3号大畦、出土遺物

～F列あたりでは水田の形状・大きさともにやや不規則であったが、水田面に多数の人間の足跡が残されていた。この区画では、北西から南東に向かって走る長い溝（６号溝）と、ほぼ東西方向に３本並んでいる小規模な溝（７～９号溝）が見つかっている。６号溝は上幅30～60cm、深さ10～20cm程度、７～９号溝はともに上幅30～50cm、深さ5～10cm程度とやや小規模である。これらは畦畔を断ち切っているがAs-Cで埋没しており、水田面との時間差は認めがたい。ほぼ畦畔に沿って作られていることから、水田と関連を持つものと判断した。５区のD列から東側では、畦畔がやや不明瞭で、一部検出できない部分もあった。

水田域の北側では、北西から南東に向かって緩く傾斜する平坦地となっている。隣接する浜川長町遺跡の１区画でも水田は見られず、少なくとも長さ300m程の範囲で水田が作られない区域があった。この部分では、北側に小さな溝（１号溝）があった他には遺構は見つかっていない。この部分は、水田域に比べやや傾斜が急になっている。そのため水田が作られなかった可能性が考えられる。水田域では遺物は全くみられなかったが、ここからは少数ながら土器片が出土している。土器は樽式系のものが主体であるが、外面に赤色塗彩されたパレススタイルの壺（第58図１）や、S字状口縁台付甕の口縁部小破片が混入していた。

本調査面でも、植物珪酸体分析を行っている。その結果、水田が見つかった部分ではイネのプラント・オパールが検出されているが、水田のなかった部分ではイネは検出されなかった。

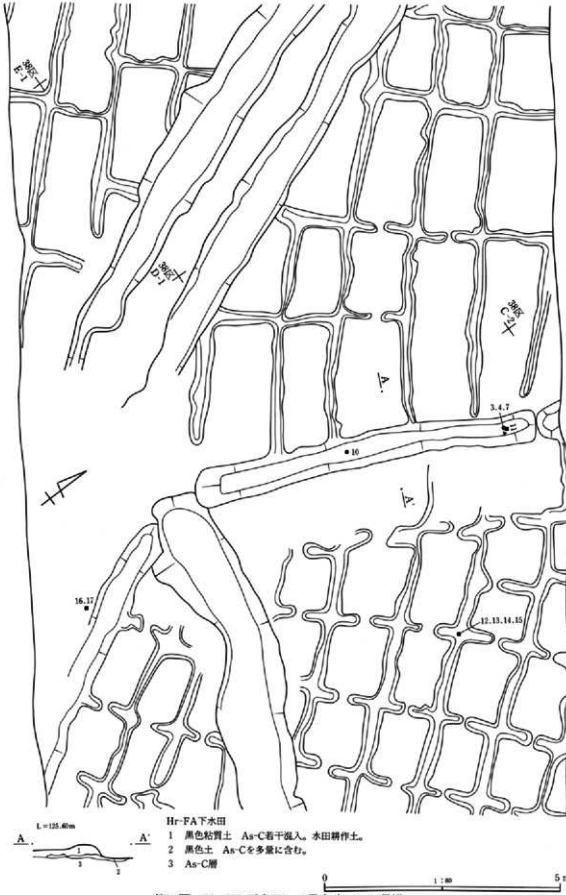
3　様名－浜川テフラ（Hr-FA）下

調査区は、ごく薄い降下火山灰に覆われており、その上位に噴火に伴う洪水堆積物が1～1.5m程の厚さで堆積していた。この降下火山灰は自然化学分析によってHr-FAに同定された。その直下より小区画水田が見つかっている(付図７)。水田の耕作土はHr-FAとAs-Cに挟まれた黒色の粘質土で、植物遺体を多く含む。この黒色土の厚さは場所によっては20cm程度の厚さがあったが、大半の範囲で10cm内外である。下位のAs-Cも、上位が攪拌されていたのみで残存しており、耕作の深度はあまり深くまで及ばなかったことがわかる。

水田は、26区と27区の境界付近を除いてほぼ全域で作られていた。この付近は他より若干高いために、水田が作られなかったようである。地形は北西から南東に向かって緩やかに傾斜し、調査区両端での比高差は約5.2mである。縦畦は土地の傾斜に沿ってほぼ北西から南東方向に走り、それに直交して横畦が作られるが、微細な地形の変化によって不規則になったり、緩く蛇行する部分もある。水口はほとんどが横畦に作られており、傾斜に沿って水が流れていた状況が伺える。水田の小畦は幅20～30cm、高さ5～10cm程で、最も北側の区画を除いてはかなり明瞭であった。縦・横ともに複数の大畦が見られたが、作られる間隔には規則性は認められない。また、横方向の大畦では、下流側の水田１列分の範囲で縦畦が作られていないか、もしくは数が少なかった。水田への配水に関連したものと考えられる。水田１枚の面積平均は約2.0㎡である。

最も北側の区画（27～38区）では、横方向の大畦が北側に１本（１号大畦）、縦方向の大畦が23m程の間隔を置いて２本作られている（２・３号大畦、第59図）。南端が前述の水田のない高まりとなっている。高まりのすぐ北側には、蛇行しながら走る大畦（４号大畦、第60図）があった。これは土地の微地形に左右されたもので、この近辺のみ水田の畦の方向が乱れている。高まりの縁にも大畦が作られている（５号大畦）。１号大畦の北側には、２本の並行する溝が作られている（１・２号溝、第59図）。溝はともに上幅１m内外、深さ5～10cm程で、小畦を切って作られている。

高まりから１号畦までの間の水田面には、人と馬の足跡が多数残されていた（第60図）。人に比べて馬の足跡のほうが多い。行跡を追えるものは少なくかなりランダムではあるが、大畦に沿った帯状の部分でより密度が高く、ある程度歩くルートが決められていたようである。



第59図　Hr-FA下水田1・2号大畦、1・2号溝

１号大畦の北側は、他の部分に比べて小畦の形状がやや不明瞭であった。立ち上がりが明確でなく、水田面からだらだらと小畦に続いている。馬などの足跡はこの部分からは見つかっていない。このような小畦の状況は、北側に隣接する浜川長町遺跡の南端まで続いている。他の部分との比較の結果、粗起こし前の段階で、前年度作られた小畦がそのまま残っている部分と判断した。小畦を斜めに断ち切るように１・２号溝が作られている点も、この見解を支持するものと思われる。溝は２・３号大畦と方向が一致しており、粗起こし、水田形成に先立って、配水のための溝を作ったのであろうか。なお、１号大畦と２号大畦の間と３号畦の中央部で、浅い溝状の凹みが畦畔を切っているが、これは水の作用によって自然に削られたもので、１・２号溝とは全く性格・成因の異なるものである。

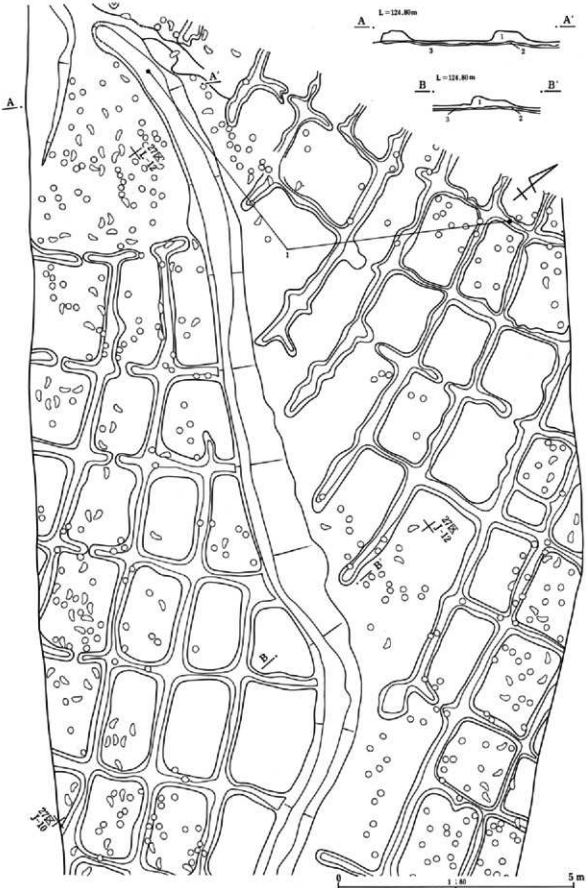
高まりから16区中央の道路までの区画では、小区画水田が整然と並んでいる。横方向の大畦が２本、30m程の間隔をおいて作られており（６・７号大畦）、７号大畦から南側に縦方向の大畦がのびる（８号大畦）。７号大畦より南では、一部小畦が失われていた。水の作用によって削られてしまったものと思われる。８号大畦の北側では、並行する複数の溝と大畦が見つかっている。調査区の制約から部分的な検出にとどまったが、配水のための水路を伴う、比較的大規模の大畦と考えられる。ここでも水田面に人や馬の足跡が残されていたが、６号大畦の北側では馬の足跡のほうが多く、南側では人の足跡がより多くなっている。

最も南側の区画では、北と南に水路と思われる溝が作られていた。北側の３号溝は上幅３～４ｍ、深さ20～40cm程のかなり大形のものである（第61図）。北側の縁に並行して横方向の大畦（９号大畦）が作られていた。溝の大畦側の立ち上がりは明瞭であるが、南側は明確な立ち上がりを持たずに水田面へ続いている。溝の内部には人頭大から一抱えほどの礫が多数投げ込まれていた。礫は、溝の底面からかなり高い位置から出土しており、礫の下には灰色のシルト～砂が堆積していた。ただし、周辺からはこのような礫の出土はなかったので、Hr-FAの噴火に伴う泥流によって運ばれたのではなく、泥流の発生以前に投げ込まれたものと判断できる。溝の底面には、多数の人間の足跡が残されていた。また、溝北側の９号大畦は、内部に木材や杭などを入れて補強してあった。木材には、自然木の他に加工された板材なども含まれており（第64～66図19～21、23～32）、廃材を再利用していたようである。このような状況は、浜川館遺跡のHr-FA下水田でも認められた。

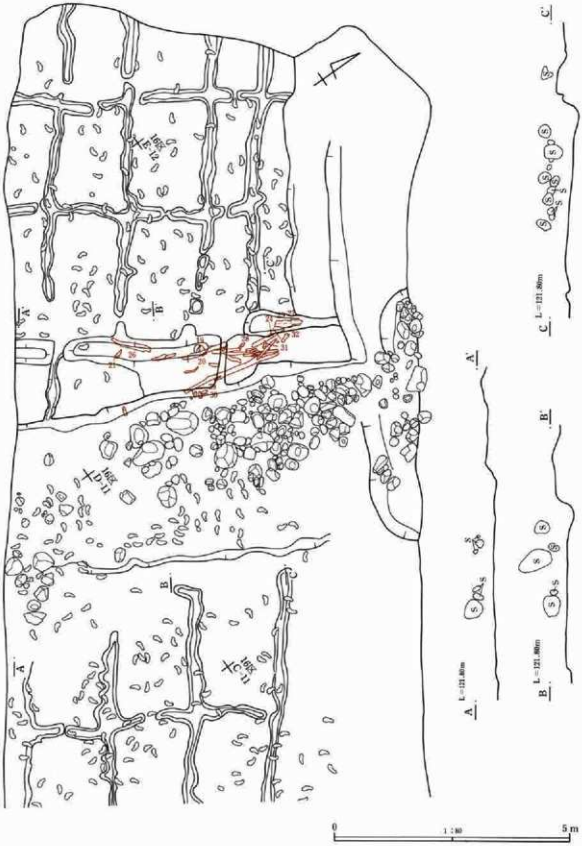
南側の４・５号溝は、並行して蛇行しながら流れる。ともに上幅50～100cm、深さ10cm程度である。２本の溝の間の畦はやや大きいが、両脇の畦は特に他より大きなものではない。この溝を境として、水田の大きさ・形状、畦畔の方向などが変化している。北側では形の整った水田が整然と作られているが、南側では溝の蛇行に沿ってやや不揃いな水田となっている。

南北の溝の間には縦方向の大畦（10・11号大畦）が作られており、途中でＬ字状、もしくはコの字状に枝分かれしていた（第62図）。畦畔の方向などから考えて、北側の８号大畦につながるものと判断できる。この縦の大畦の東側では小区画水田が一面に作られているのに対し、西側では畦畔の見られない部分が不規則な範囲に広がっている。これは、水の作用によって畦畔が流されてしまったものと考えられる。なんらかの原因によってあふれ出た水が水田面を流れ、小区画の畦畔を削ってしまったが、縦の大畦によって阻まれて東側の水田には被害が及ばなかったのであろう。このように、水の作用によって水田が流されたと思われる痕跡は他の部分にも見られるが、この区画の被害が最も大きい。

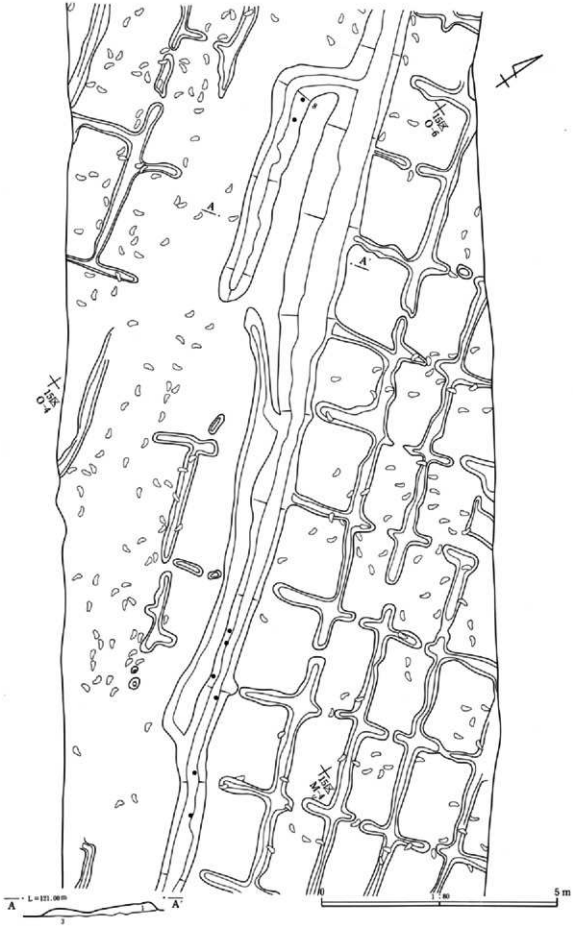
この畦畔が流失している部分でも足跡が見つかっている。足跡は、泥流によって埋没しており、基底部にHr-FAの降下火山灰が認められるものもあった。また、足跡のつき方から畦畔が削られた後に残されたものであることは確実である。このことから、畦畔が削られたのはHr-FAの噴火以前であり、その後の泥流



第60図　Hr-FA下水田4号大畦



第61図　Hr-FA下水田9号大畦、3号溝



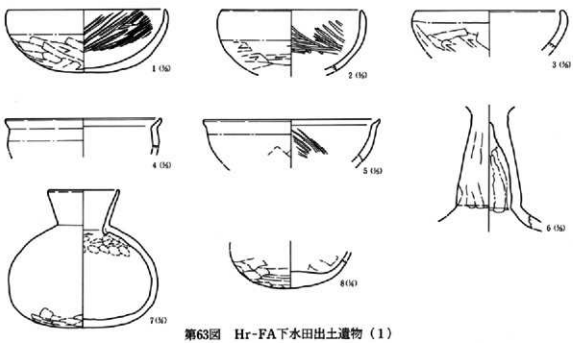
第62図　Hr-FA下水田11号畦

によって破壊されたのではないことがわかる。浜川館遺跡でも水田の流失が認められたが、流失部分には足跡はなく、泥流によるものか、それ以前に失われていたかについてはわからなかった。しかし、本遺跡での状況から、泥流の発生以前にも、小規模な出水によって畦畔が流失する事態が生じていたことが確認された。この部分の足跡は、ほとんどが人間のもので馬の足跡はわずかである。先述の北側の３号溝の中にも人間の足跡が多数残されており、畦畔の復旧と同時に水を止める方策が取られていた可能性が考えられる。

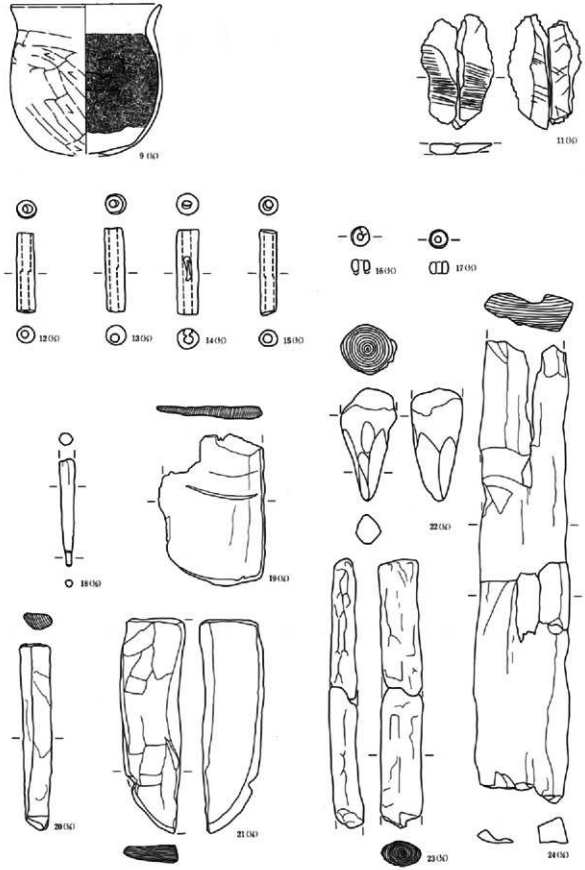
人と馬の足跡については、本調査面全域で確認されたが、区画によってその量比に差が見られる。１号大畦から３号大畦の間では、ほとんど馬の足跡であった。１号大畦より北側では、全く足跡が見られない。３号大畦から16区中央の道路までの区画では人と馬の足跡が混在するが、６号大畦を境として様相が異なる。６号大畦の北側では、やや馬のほうが多いのに対し、南側では人の足跡の方が多くなっている。16区中央道路から南側の区画では、馬の足跡はごくわずかで、ほとんどが人間のものである。足跡のつき方は馬・人ともにランダムで、行跡を追えるような足跡はなかった。ただし、馬については大畦に沿って集中している部分もあり、歩行の範囲を規制されていた様子が伺える。以上から、ある程度の頭数の馬が意図的に水田内に連れてこられ、水田耕作に関連する作業にかかわっていた可能性が高い。人と馬の足跡の量比の違いは、作業工程の差によって生じたものであろう。

水田址のため全体に遺物の出土は少なかったが、大畦を中心として若干の土器や石製品が出土している（第63・64図）。大畦から見つかった遺物は、畦にめり込むような形で出土している。畦の上に置かれていたものが、クロヌリの段階に埋り込められたような状況である。完形のものはなく、ほとんどが破砕されている。北端の１号大畦からは、土師器坏（３・４）・坩（７）、石製模造品（11）などとともに木簡が１点（18）、その付近の水田面からは管玉が４点（12～15）、２号大畦からは白玉が２点（16・17）出土している。遺物の内容などから、祭祀との関連が想定されよう。この他にも、４・６・10・11号大畦からも土師器坏（１・２）や高坏（６）・小型甕（８・９）などが出土している。

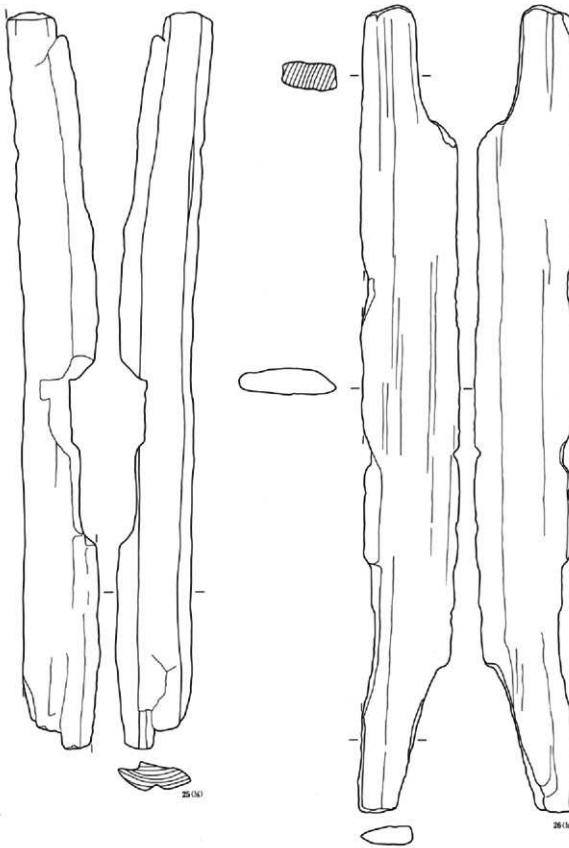
本調査面でも植物珪酸体分析によってイネのプラント・オパールが検出されている。



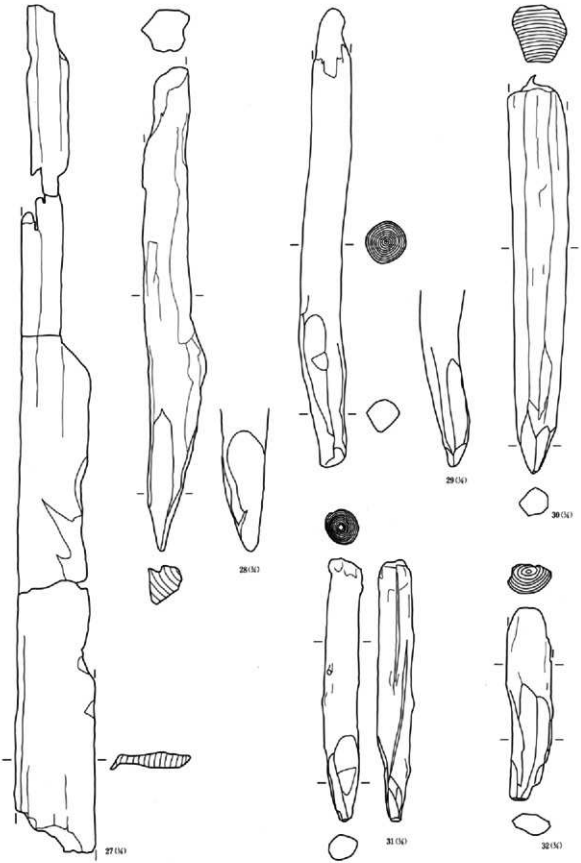
第63図　Hr-FA下水田出土遺物（１）



第64図　Hr-FA下水田出土遺物（２）



第65図　Hr-FA下水田出土遺物（３）



第66図　Hr-FA下水田出土遺物（４）

４　検名－伊香保テフラ（Hr-FP）下

調査区南端を除いた区域で小区画水田が検出された(付図８)。水田面は厚さ数mmの降下火山灰に覆われており、そのさらに上位には洪水堆積物が1～1.5m程の厚さで堆積している。この降下火山灰は自然科学分析によってHr-FPに同定された。水田の耕作土はHr-FP直下の暗褐色の粘質土で、あまり分解の進んでいない植物遺体を多量に含む。非常に薄く、2～5cm程度の厚さしかない。より下位のHr-FA泥流上位に撹拌を受けたような痕跡が認められる部分があり、泥流上位まで耕作の深度が及んでいたものと推測される。

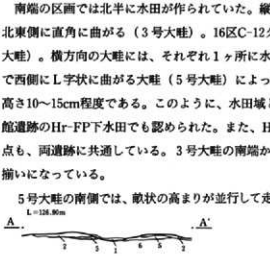
水田の縦畦は、緩く蛇行しながら北西から南東方向に走る。この区域では、水田面が北西から南東に向かって傾斜しており、調査区両端での比高差は、約5.3mである。縦畦はこの傾斜に沿って形成され、横畦がそれに直交する。水口は大半が横畦に作られており、傾斜に沿って水が流れていた様子が伺える。部分的に畦畔のはっきりしないところがあるが、おおむね整然と並んでいる。小畦は平均して幅20～30cm、高さ5～10cm程度であるが、北端の28・38区付近では他に比べて低く、高まりがはっきりしなかった。水田の形状は一部正方形に近いものも見られたが、ほとんどが長方形である。面積は平均で2.0㎡である。複数の大畦が作られているが、間隔などに規則性は認められない。Hr-FA下の水田同様、横方向の大畦の下流側では、水田への配水のため縦畦が一部省かれていた。Hr-FA下の水田では微地形によって畦畔が乱れる状況が見られたが、この面では泥流によって地形がならされたためか、全体により均一な水田面が広がっている。Hr-FA下の水田で多数認められた人や馬の足跡は、本調査面では見つかっていない。

北端部には、２本の大畦が調査区を横断している（１・２号大畦、第68図）。ともに下幅100～150cm、高さ10～15cm程度である。大畦にはそれぞれ水口が作られており、大畦の間が水路となっている。水路を含んだ幅は３m近くになる。大畦の北側にも水田が作られており、浜川長町遺跡に続くものと思われる。

２号大畦の南側から16区中央の道路までの区画では、大畦は見つからなかった。ただし、27区のＩ～Ｊ列のあたりでは、横方向の大畦の下流側と同様、１本おきに縦方向の小畦が省かれており、配水のための造作が認められる。調査した範囲では特別規模の大きな大畦はなかったが、西端がやや太くなっており、調査区の両脇に大畦が続く可能性がある。

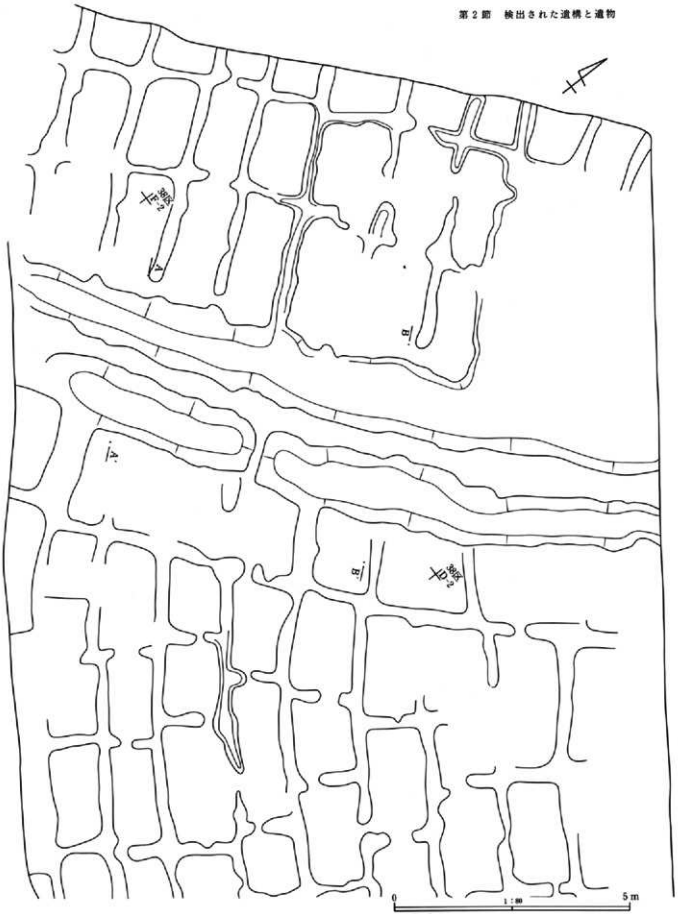
南端の区画では北半に水田が作られていた。縦方向の大畦が１本作られており、15区S-9グリッド付近で北東側に直角に曲がる（３号大畦）。16区C-12グリッド付近でも、別の大畦が北東側に延びている（４号大畦）。横方向の大畦には、それぞれ１ヶ所に水口が作られていた。水田域の南端部は、縦畦に並行し南端で西側にＬ字状に曲がる大畦（５号大畦）によって区画される。大畦の規模は、いずれも下幅70～100cm、高さ10～15cm程度である。このように、水田域と水田のない部分との境界が大畦で画される状況は、浜川館遺跡のHr-FP下水田でも認められた。また、Hr-FA下面に比べ、Hr-FP下面の方が水田域の範囲が狭い点も、両遺跡に共通している。３号大畦の南端から５号大畦までの範囲では、他に比べて水田形状がやや不揃いになっている。

５号大畦の南側では、畝状の高まりが並行して走る畠状の遺構が一部で見つかっているが、明確な水田は作



Hr-FP下水田
1　黒色粘質土　シルト含む。溝の堆積土。
2　黒色粘質土　シルト・砂を含む。
3　褐灰色シルト
4　黒色土　均質。
5　黒色砂質土　多量の砂含む。
6　洪水堆積層（FA泥流）

第67図　Hr-FP下水田1・2号大畦セクション



第68図　Hr-FP下水田1・2号大畦

られていない。ここから浜川館遺跡の北端部にかけて、水田の作られない区域が続くものと思われる。畝状の高まりは、下幅20～50cm、高さ5cm程度であった。比較的明瞭な3本を全体図に示したが、等高線の状態から判断すると、調査時には確認できなかったものの、他にも複数存在したようである。この高まりは、水田部分の縦畦と同様の方向に走っているが、水田との関連は確認できなかった。

この水田面においても植物珪酸体分析をおこなった。整然とした水田址が展開しているにもかかわらず、イネのプラント・オパール検出量は、As-C下、Hr-FA下水田に比べ低い値にとどまった。南端の畠状の部分も含め、水田のない区域ではイネは全く検出されていない。畠状の部分では、畑作の可能性も想定して分析を行いハトムギ栽培の可能性が指摘されたが、積極的に栽培種と断定するには至っていない。

5　浅間B軽石（As-B）下

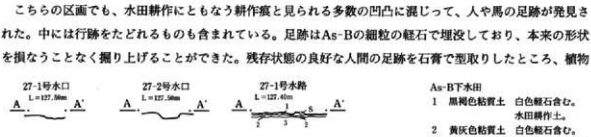
調査区の北部と南部でAs-Bの堆積が見られ、その直下から水田が発見された(付図9)。北側はAs-Bの堆積が厚く、水田も良好に残存していた。これに対して、南側ではAs-Bの残りが悪く、水田も部分的に検出できたのみであった。水田が検出できた区域は、中・近世の遺構密度が比較的低い部分にあたる。他の区域は遺構による破壊に加え、近年の圃場整備による削平のため、水田面が失われていた。したがって、調査では確認できなかったが、当時は全域に水田が展開していたものと推測される。地形はおおむね北西から南東方向に傾斜しており、調査区両端の比高差は約6.3mである。

南側の4・5区では残存状態が悪く、部分的に小畦の一部を検出したにすぎない。畦畔は幅50～70cmほどで、高まりはあまり明瞭ではない。水田面には耕作時の痕跡と見られる多量の凹凸があり、中に馬のひずめ跡と思われるものが認められた。水路や水口などは見つからなかった。

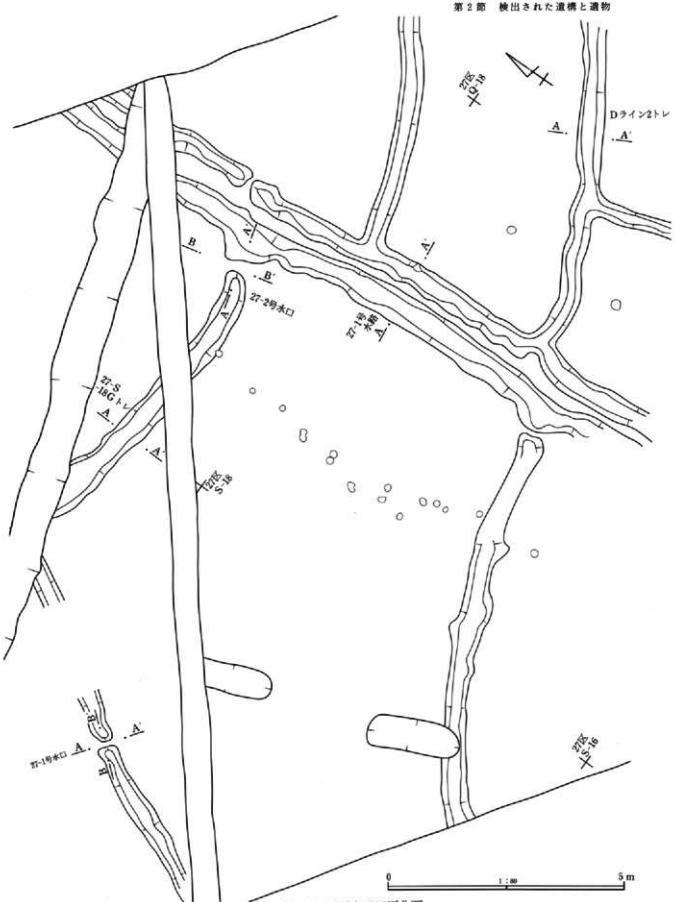
北側の27～38区からは、より明瞭な水田が検出された。畦畔は下幅50～60cm、高さ5～10cm程度で、特に規模の異なる大畦は見られなかった。27区では、両側を小畦によって区画された小規模な水路が見つかっている（第70図）。水路は上幅15～60cm、深さ5～10cmで、両脇の小畦を含んだ幅は1.2～1.4m程度である。水路の東側の小畦に1ヶ所と、西側の小畦との接合部分に水口が作られている。この水路はほぼ南北に走るが、他の畦畔では明瞭な方向性は見られない。調査範囲に制約されているが、確認できた範囲では水田1枚の大きさ・形状も不規則である。土地の傾斜に直交する方向の小畦では、畦を境として下流側の水田面が上流側に比べ3～5cm程度低くなっている。

28区B-20グリッドでは、3本の小畦が交わる部分に、2ヶ所の水口が作られている（第71図）。この水口でも、上流側と下流側の段差が確認できる。

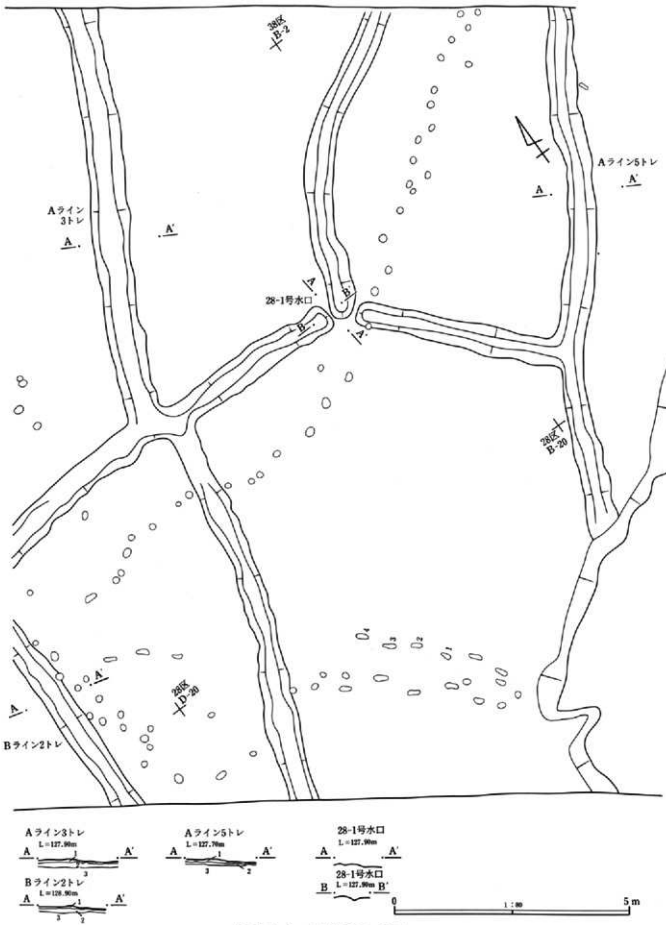
こちらの区画でも、水田耕作にともなう耕作痕と見られる多数の凹凸に混じって、人や馬の足跡が発見された。中には行跡をたどれるものも含まれている。足跡はAs-Bの細粒の軽石で埋没しており、本来の形状を損なうことなく掘り上げることができた。残存状態の良好な人間の足跡を石膏で型取りしたところ、植物



第69図　As-B下水田セクション



第70図　As-B下水田27区北西

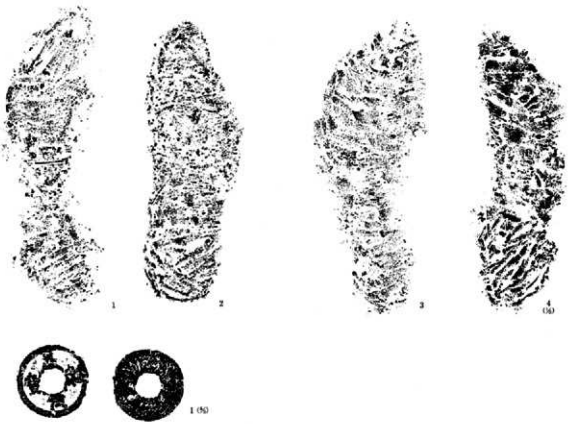


第71図　As-B下水田28・38区

で編んだ履き物の痕跡が確認できた（第71図、PL101・102）。これは、北西から南東方向に向かって歩く同一人物の足跡である。６歩分を確認でき、そのうちの４歩を型取りした。第72図は、その石膏型の択影である。足跡１・３が右足で、２・４が左足になる。択影のナンバーは、第71図の足跡に一致する。歩幅は約60cm。大きさは、右足が長さ約23cm、最大幅が7～9cm、踵部分の幅が5cm程度、左足が長さ約22cm、最大幅7cm、踵幅6cmである。足の踏み込み方によって、若干大きさや形状に差が生じたようである。土踏まずが浅く、その前後が深く沈んでいるが、前方側がより深い。踏み込みの深さは最深部で3cm程度で、当時の水田面が、かなり柔らかかった状況が推測される。馬の足跡についても１個のみ型取りしてあるが、最深部が3.5cmとほとんど差はない。

人間の足型には、植物の茎を編んだ履き物の痕跡が認められる。茎の幅は6～10mm程度で、表面には縦に並行して走る細い繊維の跡が観察できる。稲藁のような植物と思われる。右足は、土踏まずより前方の中央よりもやや外側に、茎を互い違いに折り重ねた編み目が認められる。踵部分は横方向に茎が並べられている。左足は、横方向に茎が並び、踵部分で斜めに交差している。踵の側面にも横に走る茎の痕跡が確認でき、踵をくるむような形であったことがわかる。つま先部分にも足指の痕は認められないことから、草履のようなものではなく、つま先から踵までを包む靴形の履き物と考えられる。おそらく藁靴のようなものを履いて作業していたのであろう。藁靴のような有機質の遺物は残存しにくく、調査によって実物が発見される可能性は非常に低い。今回確認できた履き物の痕跡は、間接的ではあるが、当時の風俗を知るのための貴重な資料となろう。

遺物は非常に少なく、耕作土中から古銭が１枚出土しているのみである（第72図-1）。



第72図　As-B下水田足跡石膏型拓本、出土遺物

６　中・近世

多数の掘立柱建物跡・土坑・井戸・溝・ピット等が検出されている(付図10)。これらの遺構は大きく南側と北側の二群に分けられ、南側は「高田屋敷」、北側は「与平屋敷」の外郭部分にあたる。このうち南側では、昭和63年の高崎市教育委員会の発掘調査によって確認された「高田屋敷」の堀の、南西角部分を検出した。以下、各遺構ごとに記す。

１）掘立柱建物跡

合計34棟検出。これらは、５区北端から15区・16区東端までと、26区西端から27区東半の二群に大きく分けられる。

南側の一群の内、「高田屋敷」の外堀南側には、２×２間、もしくは１×２間程の比較的小規模のものが６棟、ほぼ掘りに平行する形で築かれている。5-4～6号掘立は重複しており、何時期かに分けられる。掘りの西側に当たる部分では、より大規模の掘立柱建物が７棟発見された。１棟を除いて長軸が外堀に平行もしくは直交する。

北側では16棟が発見された。このうち、27-12・13号掘立はかなり北に離れた位置にあるが、他は大小さまざまな規模のものがまとまって築かれている。27-5・10号掘立を除いて、南側の一群と同様の方向である。こちらも重複するものが見られることから、複数の時期に分けられる。

いずれの掘立柱建物跡からも遺物の出土はなく、時期決定の決め手にはならなかった。所属時期の決定は、主に柱穴覆土の状況による。

5-1号掘立柱建物（第73図）

東西２間、南北２間の東西棟掘立柱建物跡である。桁行方位はＮ－74°－Ｅを示す。桁行全長は北側で4.5m、柱間寸法は西より2.3m・2.2m。南側全長は4.4m、柱間寸法は2.2mで等間である。梁行全長は西側で3.5m、柱間寸法は北より1.9m・1.6m。東側全長は3.4mで柱間寸法は1.6m・1.8m。梁行中間柱筋は東西とも僅かに外側へ出る。

柱穴掘り形はほぼ円形をなし、径35～40cm、深さ25～35cmである。柱痕は土層で観察できる柱穴より10cm前後と推定される。

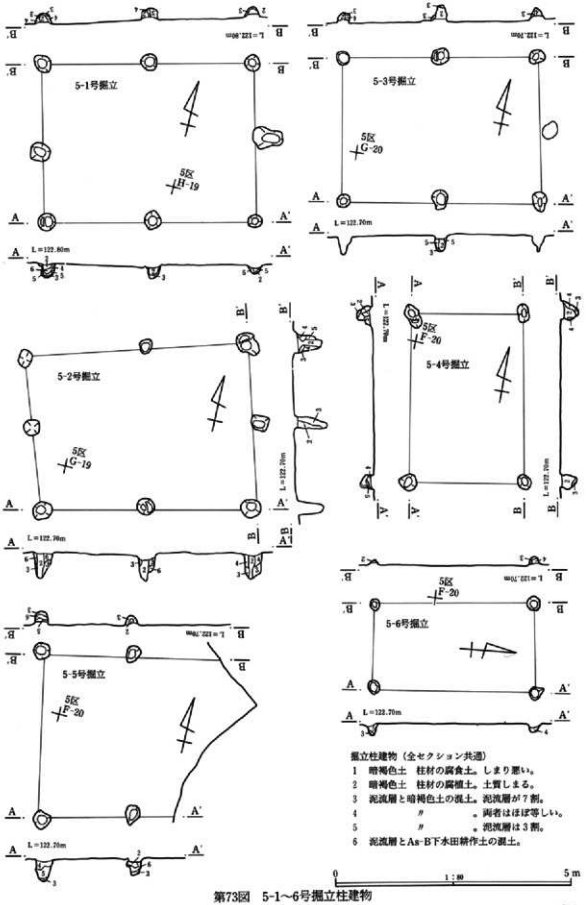
5-2号掘立柱建物（第73図）

東西２間、南北２間の東西棟掘立柱建物跡である。桁行方位はＮ－75°－Ｅを示すが、南側柱筋は若干歪む。桁行全長は北側で4.7m、柱間寸法は西より2.6m・2.1m。南側全長4.5m、柱間は2.2m・2.3m。梁行全長は西側3.3m、柱間寸法は北より1.5m・1.8m。東側全長3.5m、柱間は1.7m・1.8mである。

柱穴掘り形はほぼ円形を呈し、径25～40cm、深さは25～70cmで55cm前後が主である。柱痕は土層観察より15cm前後と推定される。

5-3号掘立柱建物（第73図）

東西２間、南北２間の東西棟掘立柱建物跡である。桁行方位はＮ－79°－Ｅを示す。桁行全長は南・北側とも4.1m、柱間寸法は南側で西より2.0m・2.1m、北側は2.1m・2.0m。梁行全長も東西とも等寸法で３m。東西柱間寸法は北より1.7m・1.8mで中間柱筋が外へずれる。なお、西側中間柱は５－１号墓墳と重複する



第73図　5-1～6号掘立柱建物

ため確認されていない。

柱穴掘り形はほぼ円形を呈し、径30～40cm、深さ30～40cm。柱痕は土層観察より10cm前後となろう。

5-4号掘立柱建物（第73図）

東西１間、南北１間の南北棟掘立柱建物跡である。５－５・６号掘立柱建物跡と重複し、３棟とも同形態の建物である。桁行方位はＮ－16°－Ｗを示す。桁行全長3.6m、梁行全長2.5mである。

柱穴掘り形は円形ないしは楕円形を呈し、径30cm、深さ40～45cm。柱痕は底面観察より10cm前後となろう。

5-5号掘立柱建物（第73図）

東西１間、南北１間の南北棟掘立柱建物跡である。桁行方位はＮ－13°－Ｗを示す。桁行全長は3.4m、梁行全長は2.0mである。

柱穴掘り形は円形で、径30～35cm、深さ35～45cmである。

5-6号掘立柱建物（第73図）

東西１間、南北１間の南北棟掘立柱建物跡である。桁行方位はＮ－4°－Ｗを示す。桁行全長は3.4m、梁行全長は1.9mである。

柱穴掘り形は円形で、径20～30cm、深さ20～25cmである。

15-1号掘立柱建物（第74図）

南西部が調査区域外のため全容は不明である。東西は５間まで検出し、南北２間の東西棟掘立柱建物跡である。桁行方位はＮ－84°－Ｅを示す。桁行の南側柱穴は小さく、北側の身舎に対し下屋的構造になろうか。検出範囲での桁行全長は10.5m、柱間寸法は西より４間分は2.0m、東側１間が2.05m、梁行全長は6.4m、柱間寸法は北より3.3m・3.1mである。

柱穴掘り形は円形ないしは楕円形を呈し、径30～55cm、深さ35～60cmである。柱痕は土層観察によれば、身舎部は15cm前後、南側柱列は10cm程度である。柱穴には重複する例もあり、建て直しが行われた可能性がある。

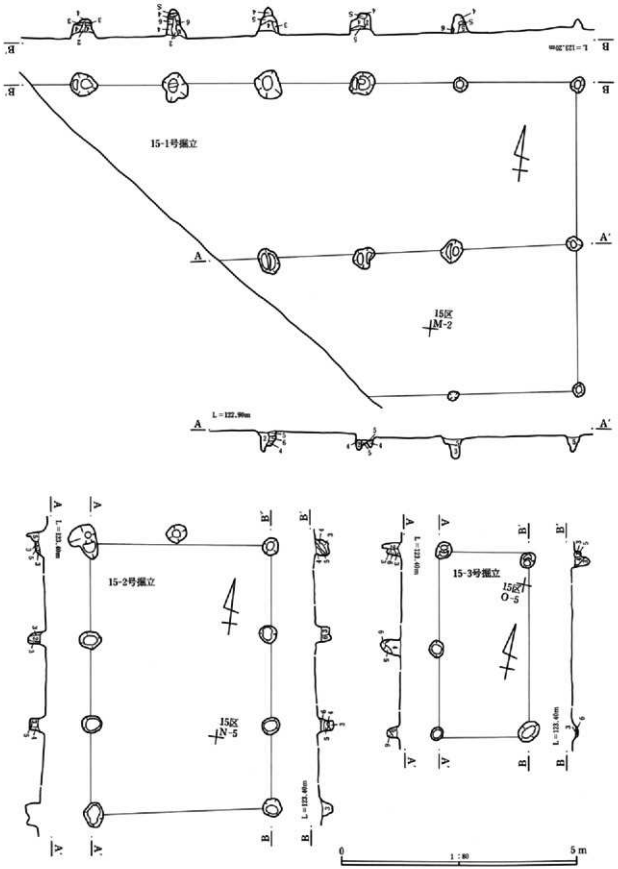
15-2号掘立柱建物（第74図）

東西２間、南北３間の南北棟掘立柱建物跡である。桁行方位はＮ－8°－Ｗを示す。梁行の中央は柱筋が通らず、外側に出る。なお、南側中央の柱穴は15－３土坑によって消失したものであろう。桁行全長は5.8m、柱間寸法は北より２m・1.9m・1.9m。梁行全長は3.8m、柱間は西より1.8m・２mである。

柱穴掘り形はほぼ円形を呈し、径40cm、深さ30～40cm。柱痕の知れるものは少ないが、土層観察によれば15cm程度と考えられる。

15-3号掘立柱建物（第74図）

東西１間、南北２間の南北棟総柱掘立柱建物である。桁行方位はＮ－9°－Ｗを示すが、東側柱列は南側に対し、約3°ほど西へ振れ歪む。また東側柱列の中央柱は15－４号土坑によって消失している。桁行全長は西側で3.9m、柱間寸法は北より1.2m・1.8m。東側全長は3.6m。梁行全長は南側で2.0m、北側1.7mである。



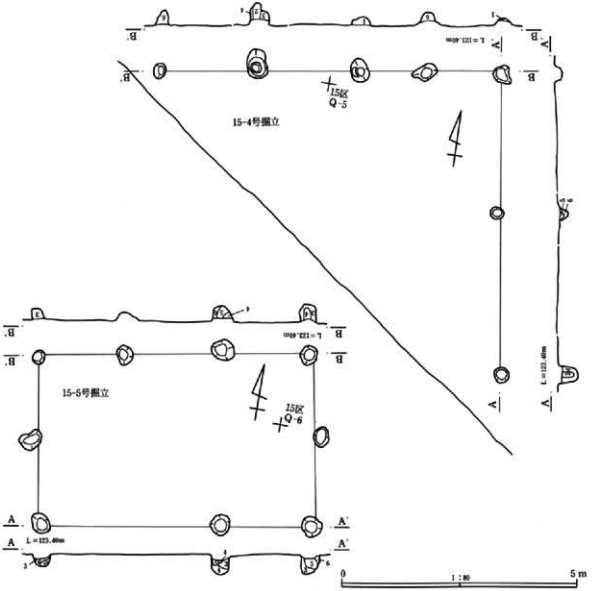
第74図　15-1～3号掘立柱建物

柱穴掘り形はほぼ円形を呈し、径30cm、深さ30～40cm。柱痕は土層観察によれば12～13cmとなろう。

15-4号掘立柱建物（第75図）

南半部は調査区域外に入り、全容は不明である。東西４間、南北２間の範囲を検出した。東西棟の掘立柱建物跡になろうか。当跡には15－１号掘立柱建物跡に見られる中央柱は存在しないものの、全体の建物景観には共通性が窺われる。桁行方位はＮ－18°－Ｅを示す。桁行全長は7.2m、柱間寸法は西より2.1m・2.1m・1.4m・1.6m。梁行全長は6.4m、柱間寸法は北より3.0m・3.4mである。

柱穴掘り形は円形ないしは楕円形を呈す。深さには深浅の差があり、15～50cm。柱痕は土層観察から12～15cm程度である。



第75図　15-4・5号掘立柱建物

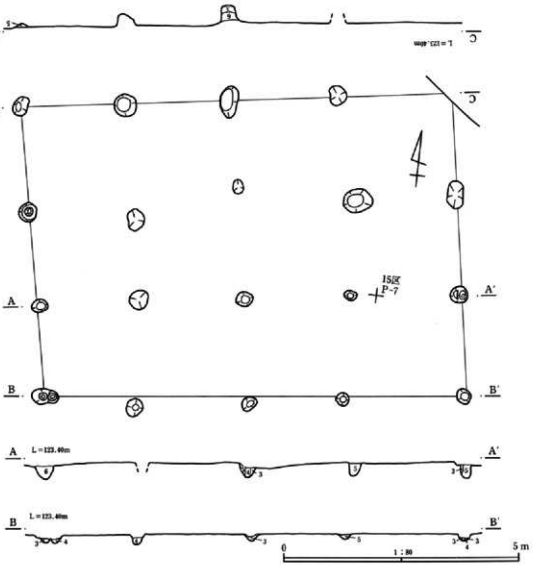
15-5号掘立柱建物（第75図）

東西３間、南北２間の東西棟掘立柱建物跡である。桁行方位はＮ－81°－Ｅを示す。東・西の梁行中央柱穴はいずれも柱筋より僅かに外側へ外れる。また桁行南側の１穴は15－９号土坑によって消失している。桁行全長5.8m、柱間寸法は西より1.8m・2.1m・1.9m。梁行全長は3.6m、柱間寸法は1.8mの等間である。柱穴掘り形はほぼ円形を呈し、径30～40cm、深さ20～55cmである。柱痕は土層観察より15cm前後になろうか。

15-6号掘立柱建物（第76図）

北東隅の柱穴は調査区域外に入り未検出である。東西４間、南北３間の東西棟掘立柱建物跡になろうか。桁行方位は南側柱筋でおよそＮ－83°－Ｅを示すが、西側梁筋はこれに対し5°程度西へ振れる。桁行全長は南側で8.8m、柱間寸法は西より1.8m・2.4m・2.1m・2.5m。北側は2.2m・2.2m・2.4m。梁行全長は西側で6.1m、柱間寸法は北より2.2m・2.0m・1.9m。東側は2.1mの等間である。

柱穴掘り形は円形ないしは楕円形を呈し、径25～40cm、深さ30～40cmを測る。柱痕は15cm程度である。



第76図　15-6号掘立柱建物

16-2号掘立柱建物（第77図）

東西１間、南北１間の東西棟掘立柱建物跡である。桁行方位はＮ－88°－Ｅを示す。桁行全長4.0m、梁行全長2.7m。

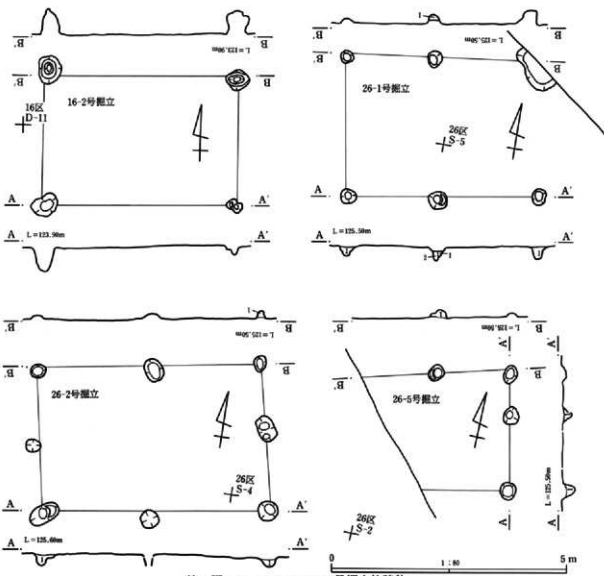
柱穴掘り形は楕円形を呈し、径30～50cm、深さ35～50cmを測る。柱痕は土層観察によれば径10cm前後である。

26-1号掘立柱建物（第77図）

東西２間、南北１間の東西棟の掘立柱建物跡である。梁行方位はＮ－10°-Ｗを示す。桁行総長4.1mで柱間は南北列とも西から1.9m・2.2m。梁行総長３mである。柱穴掘り形は径30～40cmのほぼ円形で、深さは10～25cm。底面の観察から柱痕径は10cm前後になろう。柱穴埋土は砂礫混り暗褐色土である。

26-2号掘立柱建物（第77図）

東西２間、南北２間の東西棟掘立柱建物跡である。梁行方位はＮ－10°-Ｗを示す。26－３号掘立柱建物跡



第77図　16-2、26-1・2・5号掘立柱建物

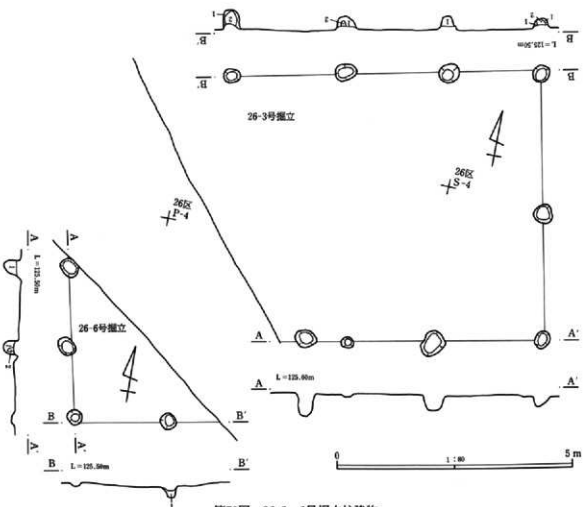
と重複する。桁行総長4.7mで、柱間は南側列が西より2.2m・2.5m、北側列が2.4m・2.3mである。梁行総長は３mで柱間は東列が南より1.7m・1.3m、西側列が1.4m・1.6mである。柱穴掘り形は円形30cm、楕円形で35～60cm、深さ20cm前後が多い。柱痕は10～13cmになろう。柱穴埋土は砂礫の多い暗褐色土である。

26-3号掘立柱建物（第78図）

東西３間、南北２間の東西棟の掘立柱建物跡になろう。南西隅の柱穴は調査区外に入る。梁行方位はN－14°-Wを示す。26－２号掘立柱建物跡と重複する。桁行総長6.6mで、柱間は南側列の東より2.3m・2.3mである。柱穴掘り形は楕円形を呈し、径40～50cm、深さは10～40cmとやや差がある。柱痕は10cm前後になろうか。埋土は砂礫混り暗褐色土である。

26-5号掘立柱建物（第77図）

西半は調査区域外に延び全容は不明である。東西棟の建物跡になろうか。梁行方位はN－12°-Wを示す。桁行南側列は南東隅の１穴のみで、北側列は１間相当の２穴である。北側柱間は2.3m。梁行総長2.5m。東側柱間は南より1.6m・0.4mで中間の柱穴は間柱に相当しよう。柱穴掘り形は楕円形を呈し、径30cm前後である。深さは10～25cm、埋土は砂礫混り暗褐色土である。



第78図　26-3・6号掘立柱建物

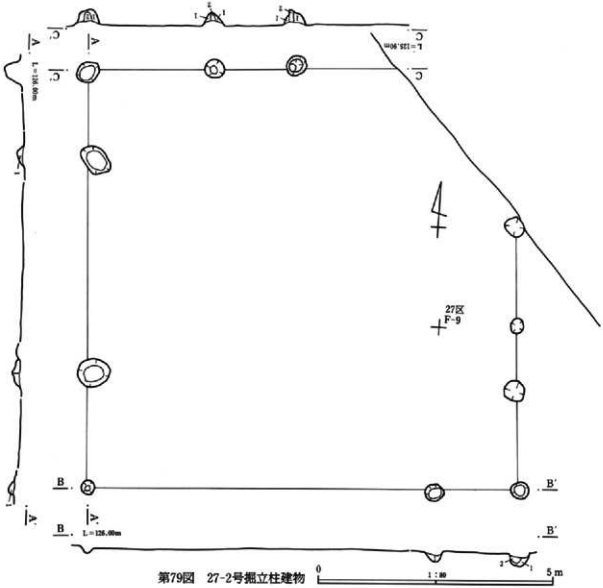
26-6号掘立柱建物（第78図）

東半は調査区域外に入り全容は不明である。南側列東西１間、西側列南北２間分の柱列を検出した。南北柱列の方位はN－10°-Wを示す。南側列柱間は2.0m、西側列柱間は南より1.5m・1.6mである。柱穴掘り形は楕円形で、径30～40cm、深さ10～35cm。埋土は砂礫混り暗褐色土である。

27-2号掘立柱建物（第79図）

北部・東部は調査区域外にかかり全容は不明である。また攪乱や他遺構との重複も激しく、欠落する柱穴が多くあり建物跡としてはやや不安がある。東西9.0m、南北8.7mのほぼ方形に近い掘立柱建物跡になろうか。南面には不連続であるが柱列が認められ、下屋的構造物がかかる可能性もある。南北軸方位はN－5°－Wを示す。南北軸西側柱間寸法は北より1.9m・4.5m（中間柱欠）・2.4m。東側は南より2.1m・1.3m・2.1m（以北は未検出）。東西軸の南側柱間寸法は西より5.3m（２穴欠落か）・2.0m・1.7m。北側は西より2.7m・1.7m（以東は未検出）。南側の下屋部分の柱穴は身舎より1.0mの間隔である。

柱穴掘り形は円形ないしは楕円形で、径30～60cmで幅がある。

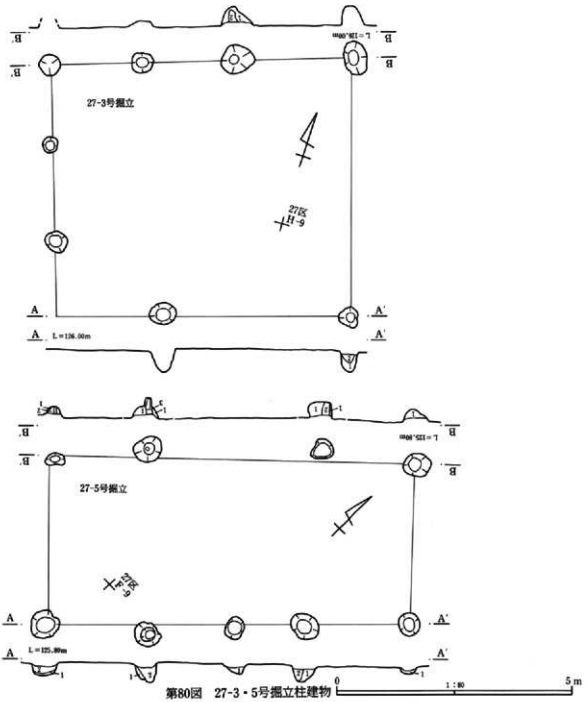


第79図　27-2号掘立柱建物

27-3号掘立柱建物（第80図）

南北隅の柱穴は調査区域外のため不明である。東西３間、南北３間の等間掘立柱建物跡であるが、全長中間寸法から東西棟の建物であろう。桁行方位はN－15°－Wを示す。桁行全長は6.5m、北側柱間寸法は西より２間分は2.0m、東１間は2.5mである。南側柱穴は２穴のみ確認。梁行全長は5.5mを測るが、東側柱穴は２穴のみ残る。西側柱間寸法は北より1.7m・2.0mで南端の１穴は未確認。

柱穴の掘り形は円形ないしは楕円形で径50cm前後が多い。深さは総じて30～50cmの掘り込みをもつが、梁行西側列は掘り形が浅い。



第80図　27-3・5号掘立柱建物

27-5号掘立柱建物（第80図）

東西３間、南北１間の東西棟の掘立柱建物跡である。桁行方位はＮ－43°－Ｅを示す。桁行全長は7.7m、北側柱列柱間は西より2.0m・3.7m・2.0m。南側柱列柱間は2.0m・2.0m・1.5m・2.3mで北側列より１穴多いが中央の柱は間柱的性格のものであろう。また、柱筋は、南北列とも僅かに外側へ外れる。梁行全長は西が3.6m、東が3.4mでやや歪む。

柱穴掘り形は、円形ないしは楕円形を呈し、径40～50cm。深さは柱穴により差が大きいものがある。総じて30～50cmが多い。柱痕は断面観察より12～13cmと考えられる。なお北側列西より２つめの柱穴には柱材が残る。

27-7号掘立柱建物（第81図）

東半部は用水施設にかかり全容は不明である。東西２間、南北２間分柱列を確認したが、東西列はさらに東へ延びる可能性がある。中央に柱穴が位置することから、総柱建物と考えられる。南北軸方位はＮ－15°－Ｗを示す。南北軸の西側柱列は完結し、全長4.1m、柱間寸法は北より2.2m・1.9mである。東西軸の南側柱列の柱間寸法は西より1.9m・1.5mである。

柱穴掘り形はほぼ円形を呈し、径40～50cm、深さ30cmを中心に50cmを測る。柱痕は、底部に残る痕跡から３～15cm前後であろう。

27-8号掘立柱建物（第81図）

東西１間、南北２間の南北棟の小規模な掘立柱建物跡である。桁行方位はＮ－18°－Ｗを示す。桁行全長3.4m、西側柱列柱間寸法は北より1.2m・2.2m。東側は全長3.3m、柱穴柱間寸法は1.3m・2.0m。梁行は南北とも1.9mである。

柱穴掘り形は円形ないしは楕円形で径30～40cm、深さは10～40cmと柱穴によって差が大きい。断面観察による柱痕径は10cm前後である。

27-9号掘立柱建物（第81・125図）

東西２間、南北３間の南北棟の掘立柱建物跡である。中央に２つの柱穴が位置し、中央桁筋及び梁筋にほぼ一致することから、総柱建物跡の可能性もある。桁行方位はＮ－10°－Ｗを示す。桁行全長は西側で7.1m、柱間寸法は北より3.0m・2.2m・1.9m。東側で全長7.0m、柱間寸法は北より2.7m・2.5m・1.8m。梁行全長は4.0m、柱間寸法は南・北側ともに2.0mの等間である。

柱穴掘り形は円形ないしは楕円形で、径40～60cm、深さ30cmを最深に痕跡程度まで差がある。西列の北から１・３番目の柱穴には柱材と考えられる部材が残る。遺存径は10cm程度である。

27-10号掘立柱建物（第81図）

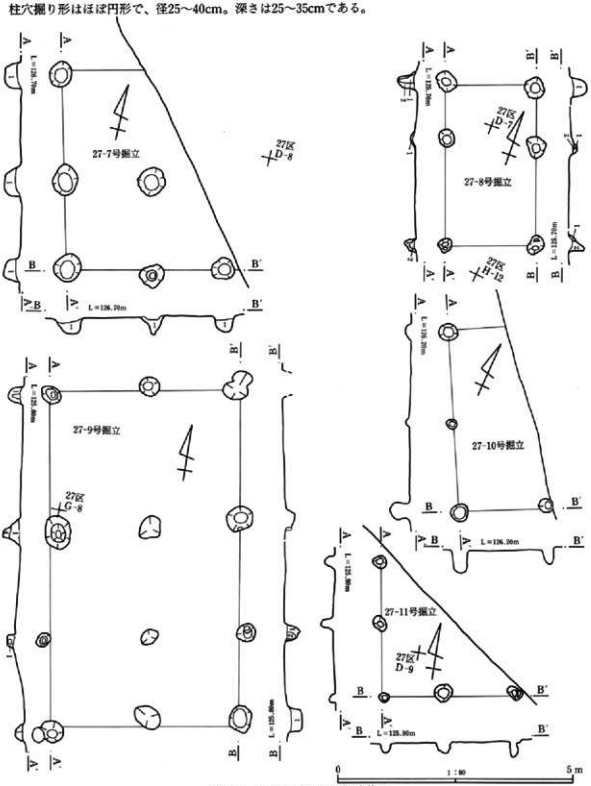
南半部は調査区域外にかかり不明である。南北軸西側柱列２間、東西軸南側柱列１間分を検出した。南北軸方位はＮ－29°－Ｗを示す。南北軸全長3.8m、西側柱間寸法は1.9mの等間。東西軸南側柱間寸法は1.8mである。

柱穴掘り形はほぼ円形をなし、径15～38cm、深さは南側二穴が約40cmあるが、他は総じて浅く痕跡程度のものが多い。

27-11号掘立柱建物（第81図）

東半部は調査区域外にかかり全容は不明である。南北軸西側・東西軸南側柱列各３穴を検出した。南北軸方位はN－11°－Wを示す。南北軸西側柱間寸法は北より1.3m・1.6m。東西軸南側柱間寸法は西より1.3m・1.5mである。

柱穴掘り形はほぼ円形で、径25～40cm。深さは25～35cmである。



第81図　27-7～11号掘立柱建物

27-12号掘立柱建物（第82図）

東西２間、南北２間の東西棟掘立柱建物跡である。梁行方位はＮ－22°－Ｗを示す。桁行全長は北側で4.1m、柱間寸法は西より2.0m・2.1m。南側で3.9m、柱間寸法は西より1.9m・2.0m。梁行全長は2.9m。西側柱間は北より1.3m・1.6m。東側は1.4m・1.5mである。

柱穴掘り形は小さく、径30cm前後、深さは14～35cm程度である。柱痕は底面の痕跡より13～14cmになろう。

27-13号掘立柱建物（第82図）

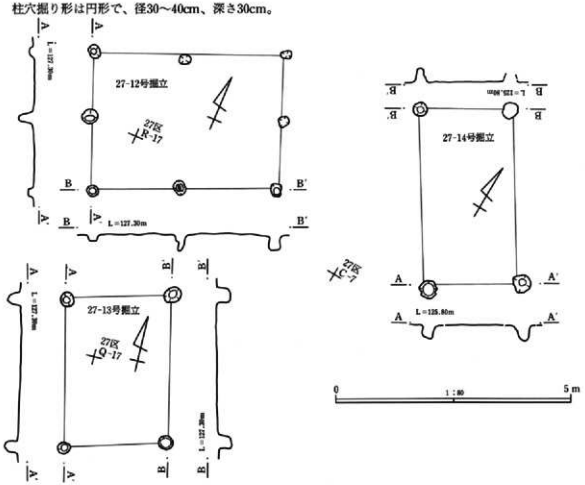
東西１間、南北１間の小規模南北棟掘立柱建物跡である。桁行方位はＮ－13°－Ｗを示す。桁行全長は3.1m、梁行全長は2.2mである。

柱穴掘り形は円形を呈し、径25～30cm、深さ30cm。

27-14号掘立柱建物（第82図）

東西走する27－２号溝に跨り、機能の可能性もあるが、溝の走向に対しややずれるため建物跡とする。東西１間、南北１間の南北棟掘立柱建物跡である。桁行の中間柱は２号溝によって消失していることも考えられる。桁行方位はＮ－34°－Ｗを示す。桁行全長は西側で3.8m、東側で3.7m。梁行全長は北側で1.9m、南側で2.0m。

柱穴掘り形は円形で、径30～40cm、深さ30cm。



第82図　27-12～14号掘立柱建物

２）土坑

合計53基発見されている。大まかな分布の傾向は掘立柱建物に似るが、建物の周辺に散在するようである。形状から、大きく隅丸方形のものと楕円～円形のものに分けられる。16区の東側の区域には、隅丸方形のものが複数まとまっているが、長軸が互いに平行、もしくは直交する方向に作られており、何らかの企画性を持っていた可能性が考えられる。

4-1号土坑（第83図）

４区N・O-8グリッドに所在。形状は隅丸方形で長軸169cm、短軸108cm、深さは8cmである。4-2土坑に切られる。遺物の出土はない。

4-2号土坑（第83図）

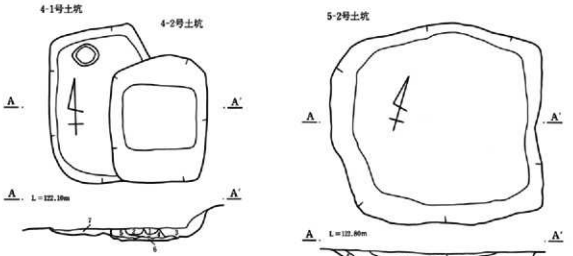
４区N・O-8グリッド。形状は隅丸方形で長軸134cm、短軸105cm、深さ30cm。4-1土坑よりも新しい。

5-2号土坑（第83図）

５区H-18・19グリッド。隅丸の正方形状で、長軸224cm、短軸210cm、深さ27cm。内部より少数の土器片が出土している。

15-1号土坑（第84・125図）

15区S-8グリッド。形状は楕円形で、長軸118cm、短軸104cm、深さ21cm。内部より礫に混入して砥石１点、古銭が出土している。



4-1・2土

1　灰白色土　白色軽石粒含む。粘性強くしまり良。
2　黒褐色土　細粒で地山洪水砂わずかに含む。少量の黒色土ブロック混入。
3　黒褐色土　細粒で鉄分の凝集見られる。
4　明黄褐色砂　洪水砂主体。１層の土を少量含む。
5　黒褐色土　しまり悪い。明黄褐色シルトブロック含む。
6　黒褐色土　細粒で、わずかの洪水砂含む。
7　黒褐色土　細粒。洪水砂わずかに含む。

5-2土

1　暗褐色砂質土　砂の混入多く粘性に乏しい。白色軽石含む。
2　暗褐色土　地山ブロック多量に含む。
3　暗褐色砂質土　地山ブロック少量含む。
4　暗褐色砂質土　３層に似るが地山ブロック含まない。
（１～４は人為的な埋め土）
5　灰褐色土　地山洪水層ブロックと黒色土の混土。
（掘り形覆土）

第83図　4-1・2、5-2号土坑

0　1:60　2m

15-2号土坑（第84・125・126図）

15区N-4グリッド。円形で、長軸134cm、短軸128cm、深さ40cm。覆土上位に再堆積のAs-Bを含む。一部に石組み状の礫が残っており、井戸の可能性がある。内部よりφ15～20cmほどの礫に混じって軟質陶器鍋・凹石・石鉢・不明石製品などが出土している。

15-3号土坑（第84・126図）

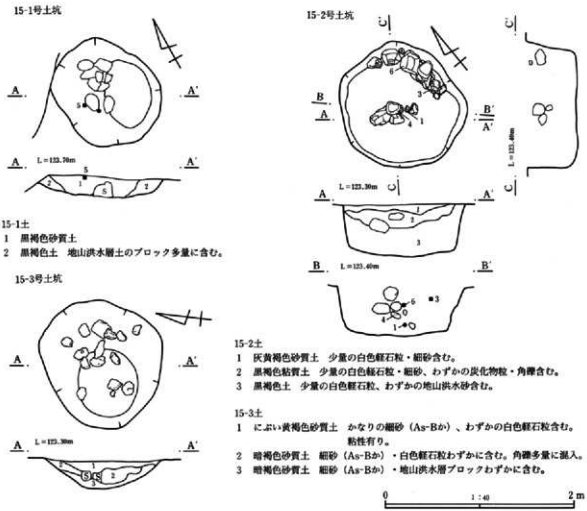
15区N・O-4グリッド。不整楕円形状で、長軸133cm、短軸127cm、深さ30cmである。覆土上位に再堆積のAs-Bを含む。内部より礫に混じって土師質土器皿など少数の土器片が出土している。

15-5号土坑（第85図）

15区O-4グリッド。やや崩れた隅丸の長方形状で、長軸111cm、短軸116cm、深さ16cm。遺物の出土はない。

15-8号土坑（第85・126図）

15区P・Q-4グリッド。楕円形状で長軸132cm、短軸97cm、深さは12cmである。内部より礫に混入して凹石・石臼が出土している。



第84図　15-1～3号土坑

15-7号土坑（第85図）

15区P-4グリッド。隅丸の長方形状で、長軸76cm、短軸61cm、深さ18cm。遺物の出土はない。

15-8号土坑（第85図）

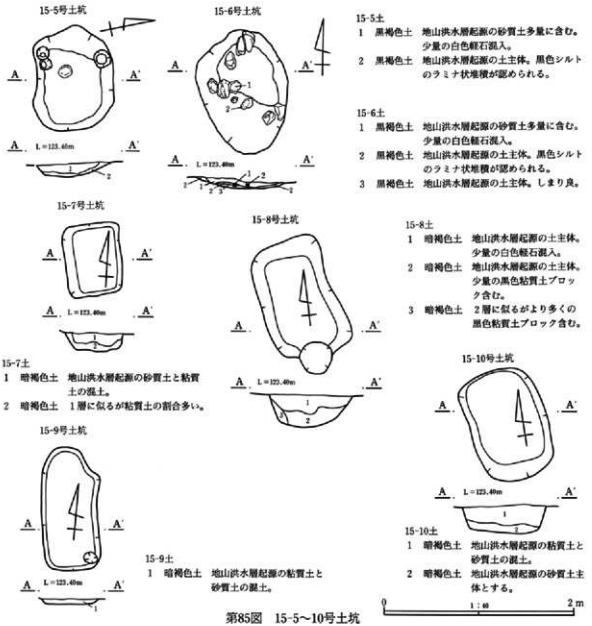
15区Q-4グリッド。やや崩れた隅丸長方形状で、長軸148cm、短軸81cm、深さ35cm。遺物はない。

15-9号土坑（第85図）

15区Q-5グリッド。かなり崩れた隅丸の長方形状で、長軸134cm、短軸43cm、深さ6cm。遺物はない。

15-10号土坑（第85図）

15区O-7グリッド。隅丸長方形状で、長軸119cm、短軸82cm、深さ28cm。遺物なし。



15-5土
1　黒褐色土　地山洪水層起源の砂質土多量に含む。少量の白色軽石混入。
2　黒褐色土　地山洪水層起源の土主体。黒色シルトのラミナ状堆積が認められる。

15-6土
1　黒褐色土　地山洪水層起源の砂質土多量に含む。少量の白色軽石混入。
2　黒褐色土　地山洪水層起源の土主体。黒色シルトのラミナ状堆積が認められる。
3　黒褐色土　地山洪水層起源の土主体。しまり良。

15-7土
1　暗褐色土　地山洪水層起源の砂質土と粘質土の混土。
2　暗褐色土　１層に似るが粘質土の割合多い。

15-8土
1　暗褐色土　地山洪水層起源の土主体。少量の白色軽石混入。
2　暗褐色土　地山洪水層起源の土主体。少量の黒色粘質土ブロック含む。
3　暗褐色土　２層に似るがより多くの黒色粘質土ブロック含む。

15-9土
1　暗褐色土　地山洪水層起源の粘質土と砂質土の混土。

15-10土
1　暗褐色土　地山洪水層起源の粘質土と砂質土の混土。
2　暗褐色土　地山洪水層起源の砂質土主体とする。

第85図　15-5～10号土坑

15-11号土坑（第86図）

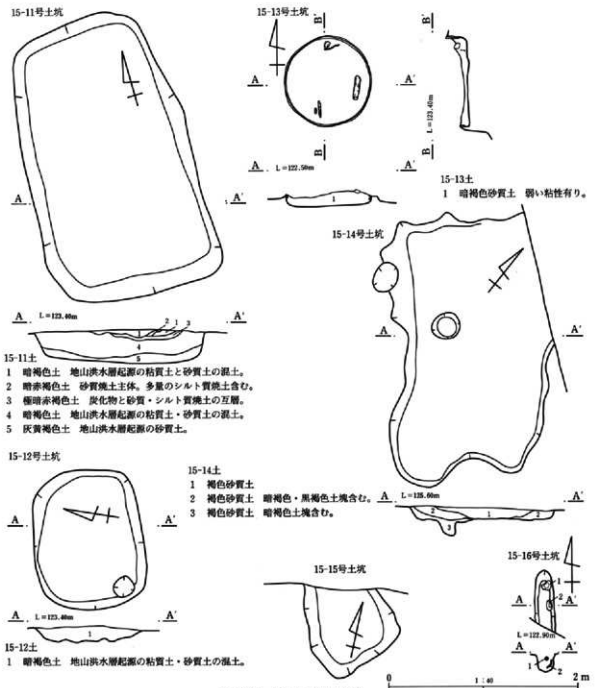
15区O・P-6グリッド。隅丸長方形状で、長軸290cm、短軸184cm、深さ33cm。遺物なし。

15-12号土坑（第86図）

15区P・S-6グリッド。隅丸長方形状で、長軸148cm、短軸120cm、深さ15cm。遺物なし。

15-13号土坑（第86図）

15区H-1グリッド。15-10溝より古い。直径約95cmの円形状。深さは42cm。覆土中に再堆積のAs-Bを含む。



第86図　15-11～16号土坑

周囲に木質が残り、その内側に薄く粘土を貼り付けてある。桶状のものを埋め込んだ土坑である。遺物は出土していない。

15-14号土坑（第86図）

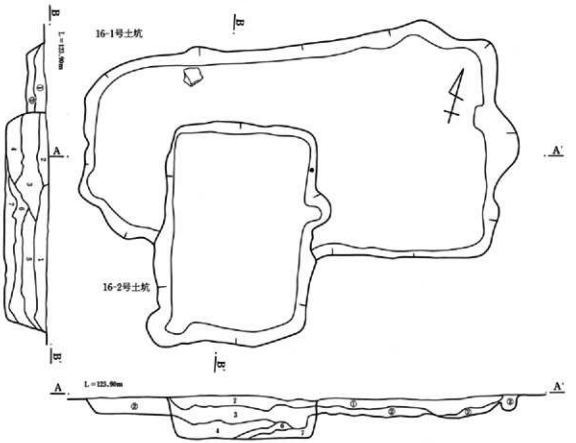
15区Q-8・9グリッド。かなり崩れた隅丸の長方形状で、長軸274cm、短軸178cm、深さ13cm。遺物はない。

15-15号土坑（第88図）

5区I-20グリッド。15-10溝に一部切られているため全体の形状・規模は不明。現状では長軸106cm、短軸96cm。遺物の出土はない。

15-16号土坑（第86・127図）

15区N-2グリッド。短軸21cm、深さ18cm。南側は調査区外に続く。内部より土師質土器皿が出土。



16-1土
① 黒褐色砂質土　黄灰色土・洪水砂ブロックを多量に含む。
② 暗褐色砂質土　1層よりもブロックの混入少ない。

16-2土
1 暗褐色砂質土　黒褐色・褐色土ブロック多量に含む。人為的埋め土。
2 暗褐色砂質土
3 黒褐色砂質土　多量の小礫含む。
4 黒褐色砂質土　3層よりも大きな礫含む。
5 暗褐色砂質土　地山洪水砂礫多量に含む。人為的埋め土。
6 黒褐色砂質土　地山砂・シルトブロック多量に含む。人為的埋め土。
7 褐色砂　黒褐色土・地山シルトブロック多量に含む。人為的埋め土。

第87図　16-1・2号土坑　0　1:40　2m

16-1号土坑（第87図）

16区C-12・13グリッド。16-2土坑に切られている。隅丸の長方形状で、長軸465cm、短軸246cm、深さ24cmとかなり大形。

16-2号土坑（第87図）

16区C-12・13グリッド。16-1土坑よりも新しい。隅丸長方形状で、長軸230cm、短軸178cm、深さ45cm。下位の覆土は人為的に埋められたものである。

16-3号土坑（第88・126図）

16区D-11グリッド。楕円形状で、長軸115cm、短軸105cm、深さ38cm。覆土中より焼締陶器の甕破片が数点出土している。

16-4号土坑（第88図）

16区E-12グリッド。16-2溝、16-14土に切られているため正確な形状はわからない。残存部では、長軸96cm、短軸74cm、深さ28cmの楕円形状である。内部より土器片が数点出土。

16-5号土坑（第88図）

16区E-10・11グリッド。長軸288cm、短軸94cmのかなり細長い長方形状である。深さは42cm。遺物はない。

16-6号土坑（第88・126図）

16区D-10グリッド。やや崩れた長方形状で、長軸264cm、短軸90cm、深さは42cmである。覆土中より青磁碗破片が１点出土している。

16-7号土坑（第88図）

16区D-12グリッド。隅丸の長方形状で、長軸198cm、短軸109cm、深さは36cmである。わずかな土器片が出土している。

16-8号土坑（第88図）

16区B-11グリッド。細長い長方形状で、長軸214cm、短軸104cm、深さ16cm。遺物なし。

16-9号土坑（第88図）

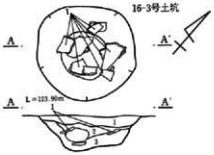
16区B-12グリッド。大半が調査区外にあるため、形状・規模等は不明。遺物なし。

16-10号土坑（第88図）

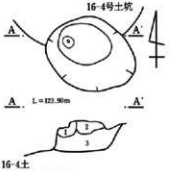
16区C-10グリッド。楕円形状で、長軸139cm、短軸92cm。遺物なし。

16-11号土坑（第88図）

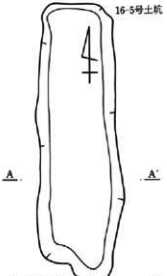
16区D・E-10グリッド。一部調査区外に位置するため全体の形状は不明。溝に切られている。遺物なし。



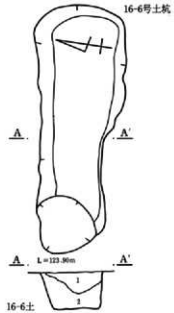
16-3土
1　暗褐色砂質土　黄褐色洪水層塊含む。
2　暗褐色砂質土
3　灰色砂質土　黄褐色洪水層塊含む。



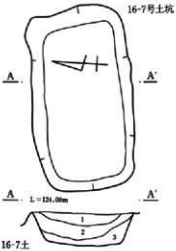
16-4土
1　暗褐色砂質土
2　暗褐色砂質土
3　暗褐色砂質土　多量の小礫含む。



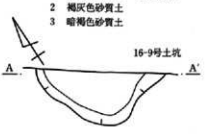
16-5土
1　褐灰色砂質土　しまり良。
2　褐灰色砂質土
3　暗褐色砂質土



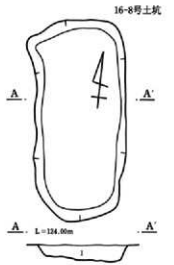
16-6土
1　褐灰色砂質土
2　灰色砂質土　褐色土の小塊含む。

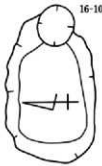


16-7土
1　暗褐灰色砂質土　洪水層土主体。
2　橙褐灰色砂質土　洪水層土主体。
3　灰褐色砂　φ5cm程の角閃石安山岩の円礫含む。

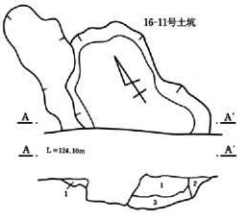


16-9土
1　褐灰色砂質土　黄褐色・暗褐色土塊含む。
2　黒灰色土





16-8土
1　暗褐色砂質土　白色軽石、炭化物粒含む。



16-11土
1　灰色砂質土　φ3cm大の軽石含む。
2　灰色砂質土　黄褐色洪水層土塊含む。
3　灰色砂質土

0　1:40　2m

第88図　16-3～11号土坑

16-12号土坑（第89図）

16区B-9グリッド。不整楕円形状で、長軸103cm、短軸79cm、深さ40cm。一部16-3溝に切られる。遺物なし。

16-13号土坑（第89図）

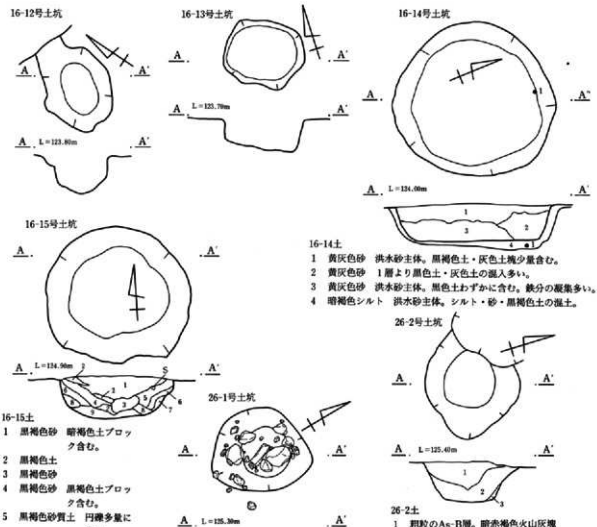
16区B-8グリッド。楕円形状で、長軸87cm、短軸79cm、深さ32cm。内部より礫が出土。

16-14号土坑（第89・127図）

16区E・F-12グリッド。円形で、長軸170cm、短軸162cm、深さ38cm。軟質陶器鉢破片が出土。

16-15号土坑（第89・127図）

16区N-18グリッド。直径約150cmの円形で、深さ41cm。覆土内に須恵器壺破片が混入。



第89図　16-12～15、26-1・2号土坑

26-1号土坑（第89図）

26区Q-1グリッド。楕円形状で、長軸106cm、短軸87cm、深さ21cm。内部より礫とともに土器片などが出土している。

26-2号土坑（第89・127図）

26区Q-1グリッド。覆土中に再堆積のAs-Bを含む。26-1墓壙に切られる。形状は長さ約100cmの隅丸方形で深さは41cm。内部より土師質土器皿が出土している。

26-4号土坑（第90・127・128図）

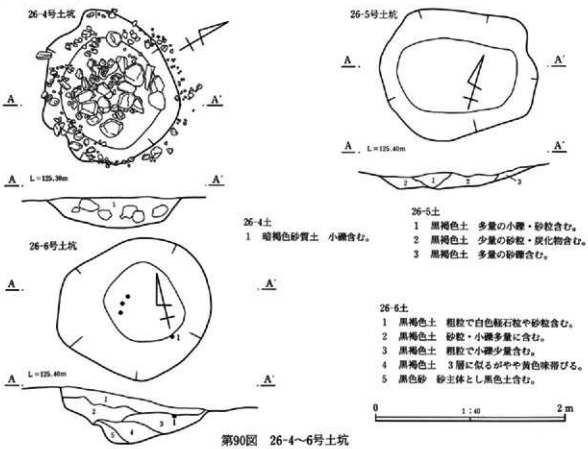
26区P-2グリッド。長軸166cm、短軸144cmの不整楕円形で、深さは28cm。内部より多量の礫に混じって砥石、凹石、不明石製品、板碑が出土。板碑は本土坑の西側にある16-6溝出土のものと接合した。

26-5号土坑（第90図）

26区Q-2グリッド。26-2溝よりも古い。長軸168cm、短軸139cmの楕円形で、深さは24cmである。内部より少数の土器片が出土している。

26-6号土坑（第90・128図）

26区Q-1・2グリッド。26-2溝よりも古い。不整楕円形で、長軸167cm、短軸144cm、深さ42cm。土師質土器皿が1点出土。



第90図　26-4～6号土坑

27-1号土坑（第91・128図）

27区A-3グリッド。楕円形状で長軸114cm、短軸94cm、深さ12cm。古銭が１点出土している。

27-2号土坑（第91・128図）

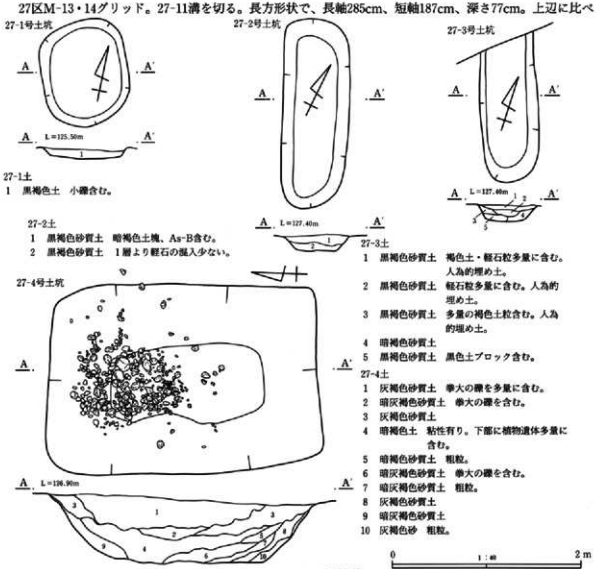
27区S-16グリッド。長楕円形で、長軸210cm、短軸72cmとかなり縦長である。深さは15cm。覆土中に再堆積のAs-Bを含む。わずかの土器片に混じって軟質陶器の鍋破片が出土。

27-3号土坑（第91図）

27区S-17グリッド。北端を現代の暗渠によって破壊されている。27-2土坑に隣接し、形状・規模が類似し、長軸方向が一致する。短軸62cm、深さ16cm。覆土上位は人為的に埋められたものである。遺物の出土はない。

27-4号土坑（第91・128図）

27区M-13・14グリッド。27-11溝を切る。長方形状で、長軸285cm、短軸187cm、深さ77cm。上辺に比べ



第91図　27-1～4号土坑

下底部が狭く、壁は斜めに立ち上がる。覆土上部の北半に大小の礫を敷きつめてあった。墓壙であろうか。遺物なし。

27-6号土坑（第92図）

27区P-17グリッド。隅丸方形で、長軸77cm、短軸72cm、深さ8cm。遺物なし。

27-7号土坑（第92図）

27区E-6グリッド。楕円形状で、長軸108cm、短軸84cm、深さ67cm。遺物なし。

27-8号土坑（第92図）

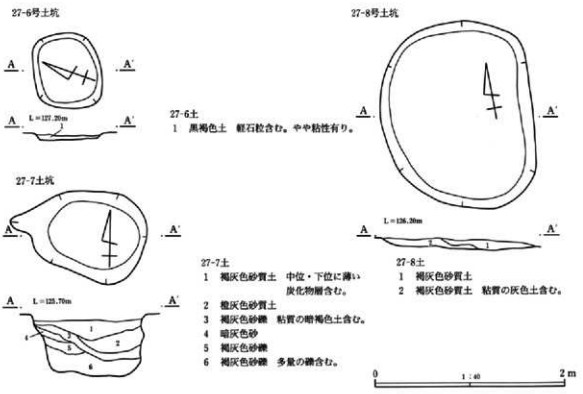
27区I-11グリッド。楕円形状で、長軸204cm、短軸164cm、深さ11cm。遺物なし。

27-9号土坑（第93・128～130図）

27区I-11グリッド。南西隅を現代の暗渠によって壊されている。形状は楕円形で、長軸の残存長398cm、短軸338cm、深さ88cm。内部より多量の礫が出土。底部には10本の木杭が並んでおり、横に材を渡して土止めにしていたようである。軟質陶器鉢、凹石、五輪塔水輪、木製品に加え、縄文時代の多孔石が出土している。

27-10号土坑（第93・130図）

27区C-6グリッド。一部調査区外にかかるが、隅丸の方形状と思われる。大きさは、現状で長軸203cm、短軸185cm、深さ48cmである。内部より礫に混じって瀬戸・美濃陶器鉢・漆椀などが出土している。



第92図　27-6～8号土坑

27-11号土坑（第94図）

27区F-9グリッド。不整楕円形で、長軸118cm、短軸85cm、深さ44cm。覆土中に再堆積のAs-Bを含む。また、上位よりスサを含む焼土塊が出土。焼けた壁土と思われる。

27-12号土坑（第94図）

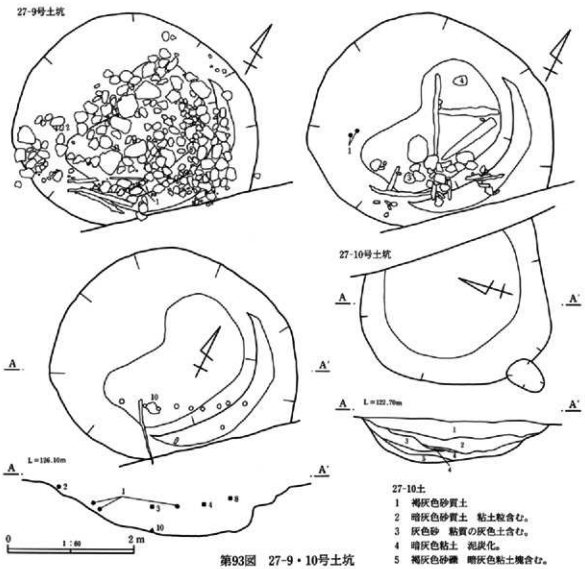
27区M・N-14・15グリッド。直径約104cmの円形。深さは31cm。覆土上位に再堆積のAs-Bを含む。遺物なし。

27-13号土坑（第94図）

27区E-8グリッド。長軸113cm、短軸105cmでほぼ円形。深さは56cm。遺物なし。

27-14号土坑（第94・130・131図）

27区J-9・10グリッド。27-5溝を切る。長軸154cm、短軸144cmでほぼ円形。深さは56cm。内部より土師質土器皿、石臼、五輪塔基部、不明石製品が出土している。



第93図　27-9・10号土坑

27-15号土坑（第94図）

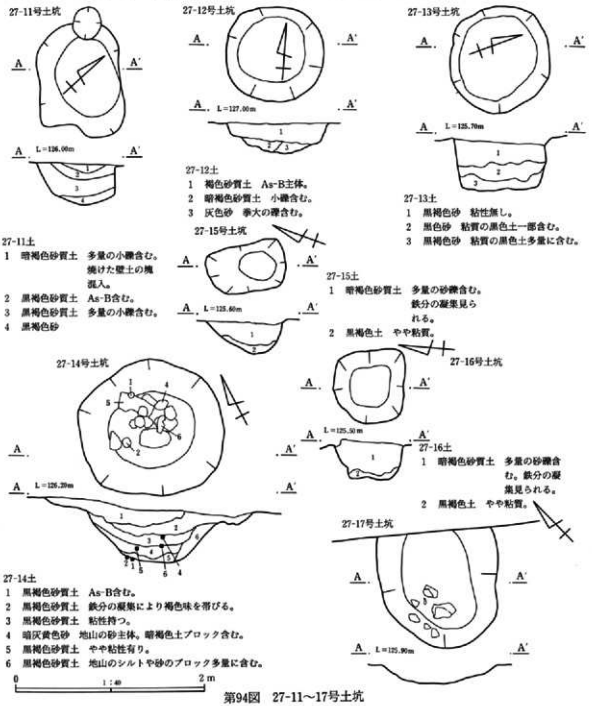
27区B-5グリッド。楕円形状で長軸82cm、短軸50cm、深さ37cm。土器片がわずかに出土。

27-16号土坑（第94図）

27区C-5グリッド。直径約78cmの円形で、やや歪んでいる。深さは43cm。遺物なし。

27-17号土坑（第94図）

27区C・D-9グリッド。一部調査区外にかかるため正確な規模・形状は不明。内部より礫が出土。



第94図　27-11～17号土坑

３）墓壙

合計６基検出。15-10溝の南側に３基まとまっているほかは散在している。いずれも掘立柱建物の周辺に構築されている。

5-1号墓壙（第95・131・132図）

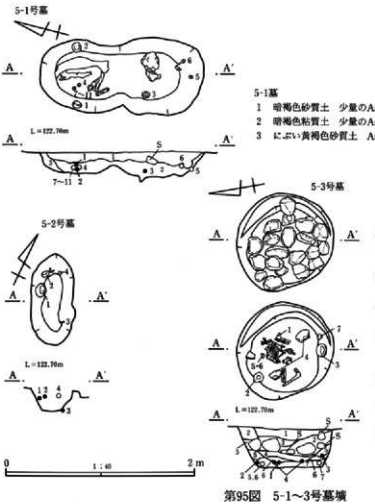
5区G-19・20グリッド。形状は楕円を二つつないだような形で、長軸174cm、短軸79cm、深さは21cmである。覆土中に再堆積のAs-Bを含む。内部より人骨、土師質土器皿、古銭などが出土している。

5-2号墓壙（第95・132図）

5区H-20グリッド。形状は楕円形で、長軸96cm、短軸44cm、深さ24cmである。内部より完形の土師質土器皿２点、古銭が出土。

5-3号墓壙（第95・132図）

5区E-18グリッド。楕円形状で長軸104cm、短軸87cm、深さ43cmである。覆土中に再堆積のAs-Bを含む。また、覆土中位にはφ20cm内外の円礫が多数投げ込まれていた。その下位から人骨、土師質土器皿と青磁碗の破片、古銭が出土した。



第95図　5-1～3号墓壙

15-1号墓壙（第96図）

15区R-7グリッド。隅丸方形で、長軸130cm、短軸98cm、深さ39cm。古銭が出土。

26-1号墓壙（第96・132図）

26区Q-1グリッド。26-2土坑を切る。隅丸方形で、長軸111cm、短軸90cm、深さ45cm。古銭が出土している。

27-1号墓壙（第96・132・133図）

27区D-5グリッド。縦長の隅丸方形で、長軸272cm、短軸99cm、深さ18cm。現代の暗渠によって一部破壊されている。内部より腰刀・鉄鏃等多量の金属製品が出土。

４）井戸

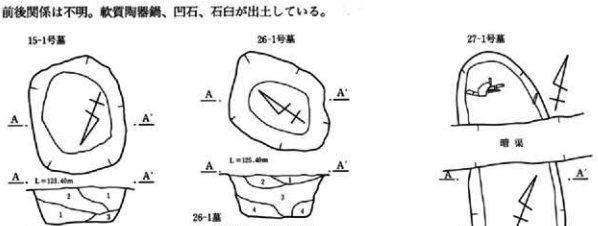
25基検出。掘立柱建物と重複するものが少数あるが、大半は建物の周囲に分布。内部に石組みを持つものが９基あり、上屋を持つものも１基あった。調査時には、浅いもので40cm程度、深いものでは２m近い深さであったが、圃場整備によって上部が削られているため、いずれの井戸も実際にはさらに深かったであろう。ほとんどの井戸が、調査時にも底面付近から水が湧く状態であった。

15-1号井戸（第97・133図）

15区R-9グリッド。円形で、長軸223cm、短軸211cm、深さ71cm。周囲に６個の柱穴がめぐり、上屋があったものと考えられる。内部より軟質陶器鉢破片が出土。

15-2号井戸（第97・134図）

15区R・S-8グリッド。長軸261cm、短軸193cmの楕円形状、深さは現状で101cm。15-1溝と重複するが、前後関係は不明。軟質陶器鍋、凹石、石臼が出土している。



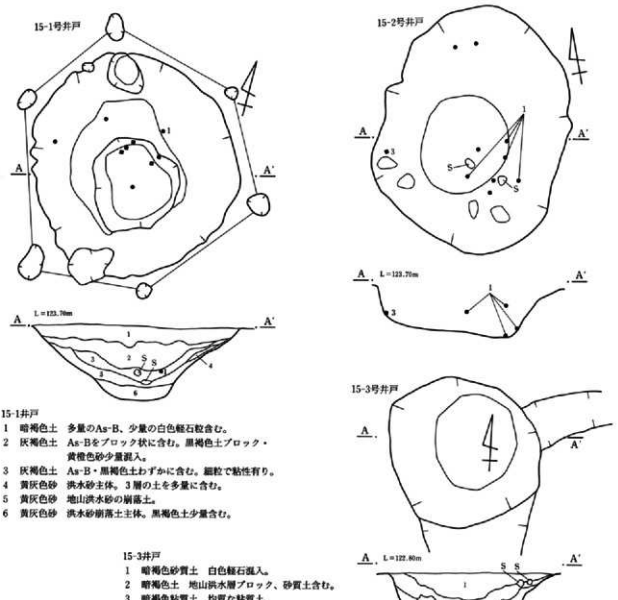
第96図　15-1、26-1、27-1号墓壙

15-3号井戸（第97・134図）

5区I-19・20グリッド。15-2・11溝を切る。直径約159cmの円形で、深さは101cm。φ15cm内外の礫とともに軟質陶器鉢、土師質土器皿、凹石などが出土している。

15-4号井戸（第98図）

15区J-1グリッド。15-6井戸より古く、15-9井戸よりも新しい。円形で、長軸263cm、短軸241cm、深さ105cm。軟質陶器鉢、板碑破片が出土している。



15-1井戸
1　暗褐色土　多量のAs-B、少量の白色軽石粒含む。
2　灰褐色土　As-Bをブロック状に含む。黒褐色土ブロック・黄橙色砂少量混入。
3　灰褐色土　As-B・黒褐色土わずかに含む。細粒で粘性有り。
4　黄灰色砂　洪水砂主体。3層の土を多量に含む。
5　黄灰色砂　地山洪水砂の崩落土。
6　黄灰色砂　洪水砂崩落土主体。黒褐色土少量含む。

15-3井戸
1　暗褐色砂質土　白色軽石混入。
2　暗褐色土　地山洪水層ブロック、砂質土含む。
3　暗褐色粘質土　均質な粘質土。
4　暗褐色土　2層に似るが軽石の混入少ない。
5　暗褐色粘質土　砂を含む。
6　褐色土　地山洪水層の崩落土。
7　暗褐色砂質土　地山の崩落土と砂質土の互層。

第97図　15-1～3号井戸

15-5号井戸（第98・134・135図）

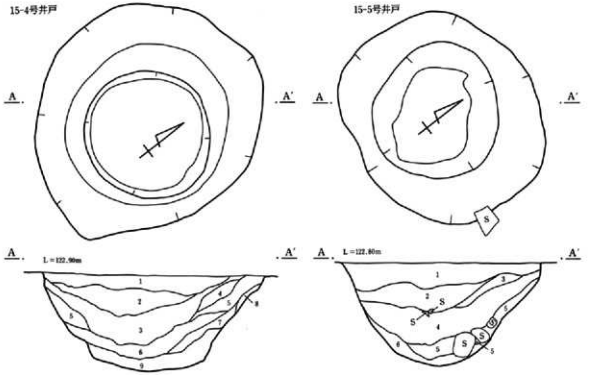
15区J・K-1グリッド。15-6井戸より古い。覆土上位に再堆積のAs-Bを含む。楕円形状で長軸231cm、短軸197cm、深さ110cm。軟質陶器鍋・内耳鍋、板碑破片が出土。

15-6号井戸（第99・135～143図）

15区J-1グリッド。15-4・5・9井戸より新しい。覆土中に再堆積のAs-Bを含む。不整円形で、直径約340cm、深さ151cm。内部より多量の五輪塔が出土。うち3点には墨書された銘文が見られた。そのほか凹石、石臼、不明石製品、青磁碗破片なども見つかっている。

15-7号井戸（第99・143～146図）

15区O-3グリッド。上部は15-8溝によって壊され、下部の石組みのみ残存していた。石組み上面は長軸140cm、短軸125cmの楕円形状で、深さは95cm。軟質陶器鍋、石臼、凹石、板碑破片、木製品が出土している。



15-4井戸

1　暗褐色土　洪水層起源の砂質土多量に含む。しまり良。
2　にぶい黄褐色土　洪水層起源の砂質土、粘質土の混土層。
3　黒褐色土　ラミナ状の洪水層起源の黄色土部分的に含む。粘性有り。
4　褐色土　洪水層起源の砂質土、粘質土の混土層。
5　暗褐色土　洪水層起源の粘質土多量に含む。ラミナ状に堆積。
6　黒褐色土　多量の洪水層起源砂質土、少量の粘土ブロック含む。
7　褐色土　洪水層起源の砂質土を主体とする。黒色粘土ブロック含む。
8　褐色土　洪水層起源の砂質土。
9　暗褐色土　洪水層起源の砂質土を主体とする。黒色粘質土少量含む。

15-5井戸

1　褐灰色砂質土　かなりの白色軽石粒・As-B、わずかの炭化物粒含む。
2　暗褐色砂質土　少量の白色軽石粒・As-B、わずかの炭化物粒含む。
3　にぶい黄褐色土　砂層とシルトの互層。洪水層の再堆積土。
4　褐色砂質土　多量の角礫含む。粘性強い。
5　にぶい黄褐色砂質土　3層に似るがやや粘質。
6　黒褐色粘質土　粘性強くしまり悪い。植物板含む。

0　1:40　2m

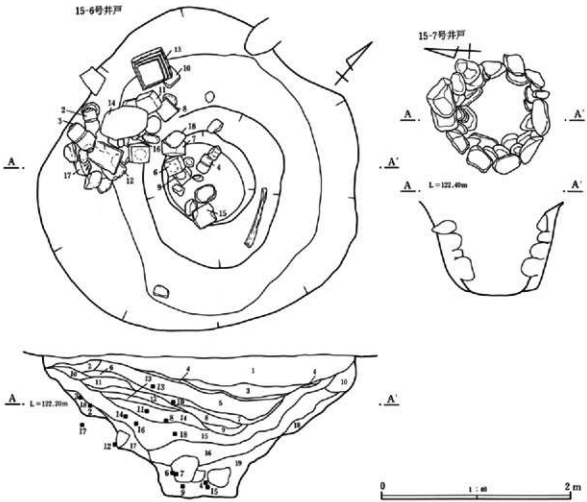
第98図　15-4・5号井戸

15-8号井戸（第100・146・147図）

15区P-4グリッド。一部調査区外にかかる。掘り込みの上面形は不定形であるが、石組上面は直径約210cmの円形。深さは191cm。内部より青磁碗、軟質陶器鉢・内耳鍋、土師質土器皿、石臼、凹石、板碑破片などが出土。

15-9号井戸（第100図）

15区I-1グリッド。15-4・6井戸より古い。直径約140cmの円形で、深さは104cm。遺物の出土はない。



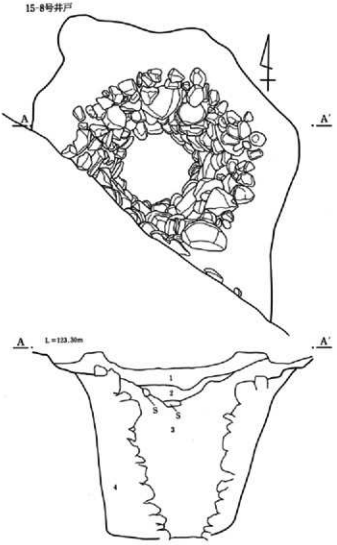
15-6井戸

1　褐色砂質土　少量の白色軽石粒・As-B、わずかの炭化物粒含む。
2　灰褐色粘質土　やや砂質。若干の白色軽石粒・As-B、わずかの炭化物粒含む。
3　にぶい黄橙色砂層　細粒の砂層。水成堆積。
4　褐灰色シルト
5　にぶい褐色シルト　少量の細砂、わずかの白色軽石粒含む。
6　にぶい褐色シルト　5層に似るが細砂・白色軽石含まない。
7　褐灰色砂　微砂粒の水成堆積層。
8　褐灰色砂　細砂粒の水成堆積層。
9　褐灰色砂質土　細砂粒の水成堆積層。シルトを層状に含む。
10　褐灰色砂質土　少量の細砂、わずかの浜水層ブロック含む。
11　灰白色砂　細砂粒の再堆積層。
12　黒褐色粘質土　黒色粘質土と浜水層のシルト質土のブロックからなる。人為的な埋土。
13　褐色軽石　As-Bの再堆積層。
14　灰褐色粘質土　細砂含みやや砂質。白色軽石わずかに混入。
15　褐灰色砂質土　細砂粒主体。少量のシルトブロック含む。しまり悪い。
16　黒褐色粘質土　かなりの細砂粒含む。粘性強くしまり悪い。
17　褐灰色砂質土　やや粘質。わずかの炭化物粒、角礫含む。
18　にぶい黄褐色砂質土　やや粘質。わずかの白色軽石粒含む。
19　黒色粘質土　粘性強くしまり弱い。角礫、植物痕含む。

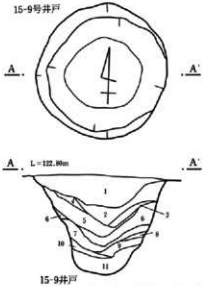
第99図　15-6・7号井戸

15-10号井戸（第100図）

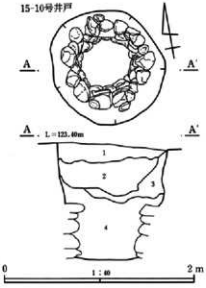
15区N・O-4グリッド。円形で、長軸122cm、短軸115cm、深さ129cm。覆土上位に再堆積のAs-Bを含む。内部に石組みを持つ。少数の礫をのぞき、遺物は出土していない。



15-8井戸
1　黒褐色土　洪水層起源の砂質土多量に含む。少量の白色軽石混入。
2　暗褐色土　洪水層起源の粘質土・砂質土の混土層。
3　黒褐色土　1層に似るがしまり悪い。
4　によい黄褐色土　洪水層起源の黄褐色砂質土多量に含む。



15-9井戸
1　灰黄褐色砂質土　白色軽石粒わずかに含む。
2　褐色砂
3　灰黄褐色軽石　As-B。
4　褐灰色砂　少量のシルト含む。
5　褐灰色砂質土　シルトとの互層。
6　によい黄褐色シルト　砂との互層。
7　褐灰色シルト
8　黄褐色シルト
9　褐色砂
10　によい黄橙色シルト
11　褐灰色砂



15-10井戸
1　暗褐色砂質土　かなりのAs-B・白色軽石粒含む。
2　黒褐色砂質土　かなりの細砂（As-Bか）、少量の地山洪水層ブロック、わずかの炭化物粒含む。
3　黒色粘質土　かなりの細砂粒含む。やや砂質。
4　黒褐色粘質土　少量の細砂粒、わずかの炭化物粒含む。角礫多量に混入。

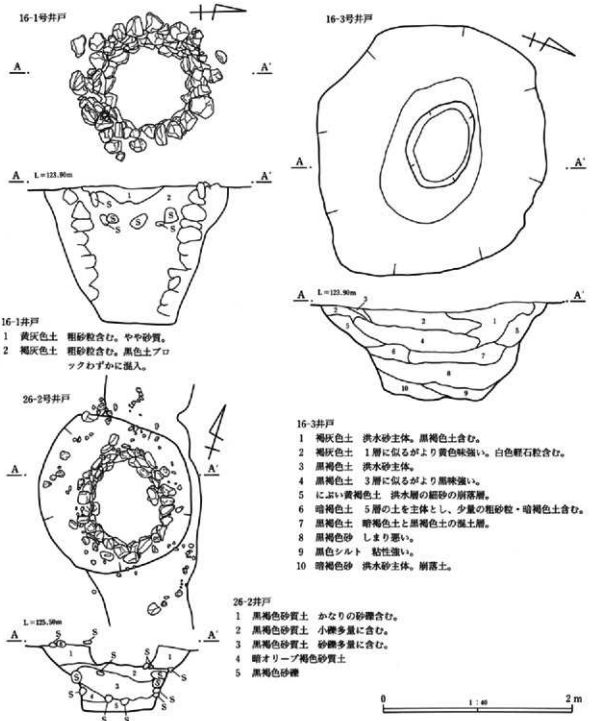
第100図　15-8～10号井戸

16-1号井戸（第101図）

16区D-10・11グリッド。円形で長軸154cm、短軸136cm、深さ141cm。内部に石組みを持つ。遺物は出土していない。

16-3号井戸（第101図）

16区C-13グリッド。16-2溝より新しい。楕円形で、長軸389cm、短軸251cm、深さ106cm。遺物はない。



第101図　16-1・3、26-2号井戸

26-2号井戸（第101・147・148図）

26区Q-3・4グリッド。26-2溝より古い。直径約166cmの円形で、深さ68cm。内部に石組を持つ。土師質土器皿、軟質陶器内耳鍋、凹石、石臼などが出土。

26-3号井戸（第102図）

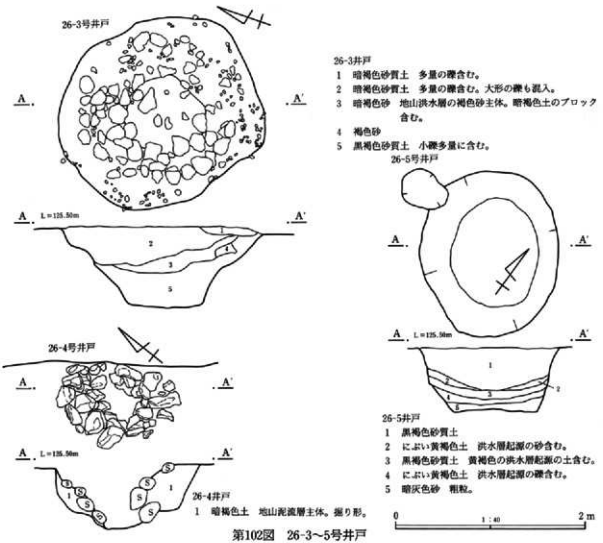
26区R-4グリッド。26-3溝より新しい。長軸215cm、短軸186cmの楕円形で、深さは58cm。内部に石組持つがかなり崩落している。遺物は出土していない。

26-4号井戸（第102・148図）

26区T-3グリッド。一部未調査区域にかかるため全体を調査できなかったが、直径130cmほどの円形状と思われる。深さ69cm。内部に石組持つがやや崩落しかけている。凹石出土。

26-5号井戸（第102図）

26区R-2グリッド。長軸173cm、短軸147cmの楕円形状で、深さは67cm。遺物の出土はない。



第102図　26-3～5号井戸

26-6号井戸（第103・148・149図）

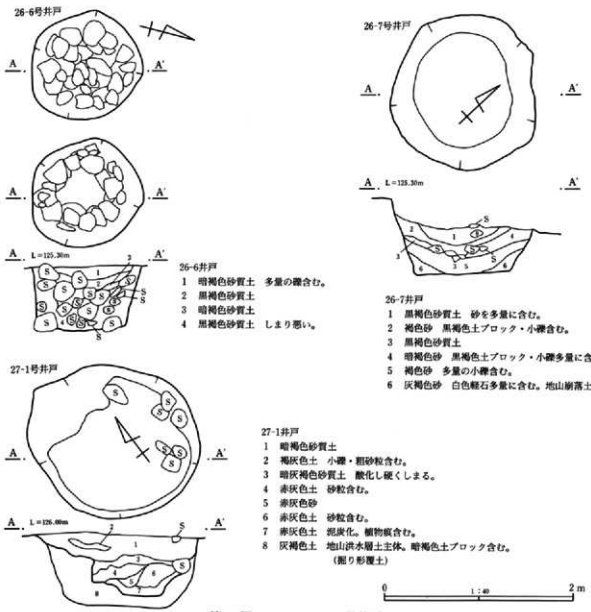
26区P-2グリッド。長軸121cm、短軸110cmでほぼ円形。深さは68cm。石組を持ち、内部に崩落した石組の礫が多量に落ち込んでいた。軟質陶器鍋、土師質土器皿、石鉢、石臼が出土している。

26-7号井戸（第103図）

26区Q-1グリッド。26-6土坑と重複するが、前後関係は不明。楕円形状で、長軸180cm、短軸150cm、深さ80cm。遺物の出土はない。

27-1号井戸（第103図）

27区G・H-8グリッド。楕円形状で、長軸190cm、短軸165cm、深さ63cm。底部近くの壁際より直径20cmほどの礫が出土。石組の痕跡と思われる。



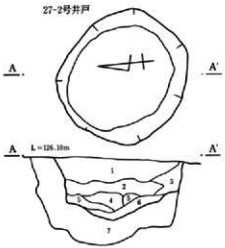
第103図　26-6・7、27-1号井戸

27-2号井戸（第104図）

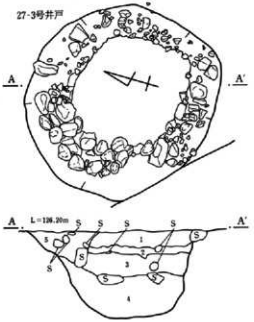
27区H-10グリッド。楕円形状で長軸139cm、短軸124cm、深さ66cm。遺物の出土はない。

27-3号井戸　（第104・149図）

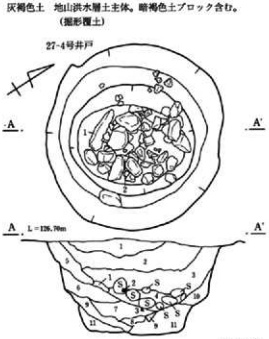
27区I-12グリッド。ほぼ円形で長軸190cm、短軸170cm、深さは93cm。石組みを持つ。内部より紋質陶器鍋・鉢、凹石、石臼が出土。



27-2井戸
1　褐灰色砂質土　暗灰褐色粘質土ブロック含む。
2　褐灰色砂質土　拳大の礫含む。
3　褐灰色砂質土　小礫・砂粒含む。灰色粘質土一部層状に混入。
4　赤灰色砂質土　礫含む。
5　赤灰色粘質土　植物痕含む。
6　赤灰色砂礫
7　灰褐色土　地山洪水層土主体。暗褐色土ブロック含む。
（掘形覆土）



27-3井戸
1　暗灰褐色砂質土
2　暗灰褐色砂質土　酸化。
3　暗灰褐色土　拳大の礫含む。
4　黒褐色砂質土
5　灰褐色土　地山洪水層土塊からなる。石組みの充填土。



27-4井戸
1　灰褐色砂質土　小礫含みしまり悪い。
2　灰褐色砂質土　拳大の礫含む。しまり悪い。
3　灰褐色砂質土　拳大の礫多量に含む。しまり悪い。
4　灰褐色砂質土　細粒でしまり良。人頭大の礫多量に含む。
5　灰褐色砂質土
6　灰褐色土　地山洪水層の崩落土。
7　黒色砂質土　粘性有り。砂粒多量に含む。
8　黒色土　細粒で粘性強い。
9　黒色砂質土　粘性有り。砂粒含む。
10　橙褐色砂　粗粒の砂主体。
11　暗灰色砂　粗粒の砂主体。小礫含む。

0　1:40　2m

第104図　27-2～4号井戸

27-4号井戸（第104・150図）

27区L-12グリッド。直径約192cmの円形で、深さは97cm。底部よりやや高い位置から大小の礫が出土。礫に混入して磨り石、板碑、木製品が見つかっている。

27-5号井戸（第105・151図）

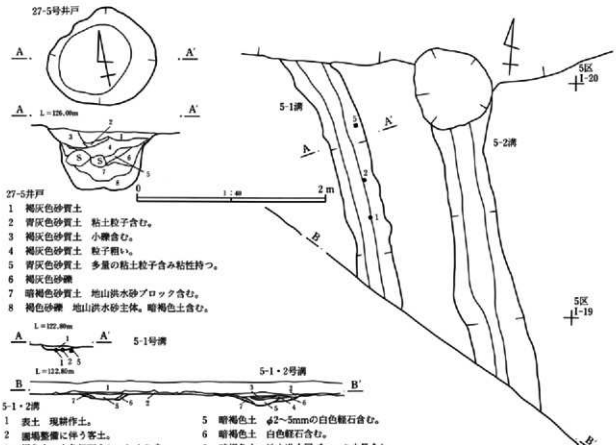
27区G-8グリッド。27-15溝よりも新しい。楕円形で、長軸114cm、短軸102cm、深さ67cm。内部より大形の礫と軟質陶器鍋破片が出土している。

5）溝

大小42の溝を調査した。15区の南端では、L字状に曲がった大形の溝（15-10溝）が検出された。これは、以前高崎市教委によって調査された「高田屋敷」の、外堀の南西角部分と推定される。付近では、この溝に並行、もしくは直交する大小の溝が造られ、掘立柱建物群を区画している。他の区域でも、大半の溝が同様の方向性を示す。

5-1号溝（第105・151図）

５区I・J-19グリッド。15-3井戸よりも古い。上幅84cm、深さ13cm。隣接する5-2溝と並行してほぼ南北



第105図　27-5号井戸、5-1・2号溝

方向に走り、15-10溝にぶつかる。土師質土器皿、軟質陶器鍋・鉢、板碑破片が出土している。

5-2号溝（第105図）

5区I-19グリッド。上幅130cm、深さ20cm。ほぼ南北に走り、15-11溝につながる。

5-3号溝（第106図）

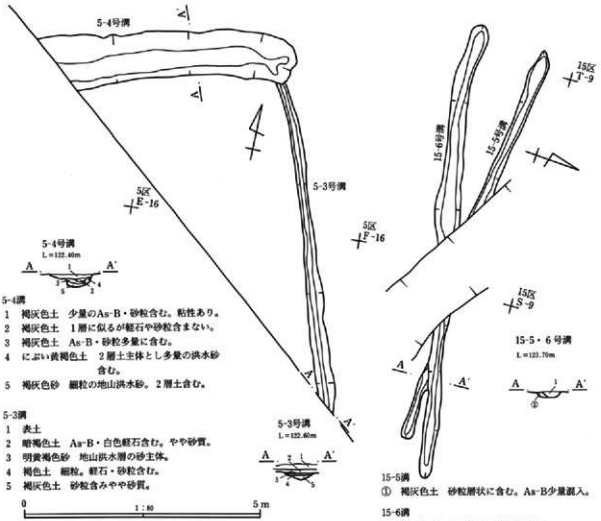
5区E-15・16グリッド。上幅34cm、深さ13cmの小規模な溝。覆土中に再堆積のAs-Bを含む。ほぼ直角に5-4溝につながる。

5-4号溝（第106図）

5区E・F-16グリッド。上幅115cm、深さ29cm。覆土中に再堆積のAs-Bを含む。

15-1号溝（第108・151～153図）

15区S-7～10グリッド。ほぼ南北方向から西側にL字状に曲がる。上幅は最大4.3mで、深さ41cm。15-1土坑、15-3溝より新しい。コーナー付近で多量の礫とともに五輪塔、宝篋印塔、板碑、凹石、砥石、不明石



第106図　5-3・4、15-5・6号溝

製品などが出土した。また、注目すべき遺物として小刀が１本底部付近から出土している。その他に、土師質土器皿、軟質陶器内耳鍋・鉢、焼締陶器甕破片、金属器などが見つかっている。

15-2号溝（第107・108・153図）

15区S-6・7グリッド。南北方向に走り15-1溝にぶつかる。16-3溝より古い。覆土上位にAs-Bを含む。上幅約140cm、深さ46cm。軟質陶器鉢、敲石、凹石が出土。

15-3号溝（第108・153・154図）

15区S-6～T-10グリッド。北半はほぼ南北方向、南半は緩く蛇行する。上幅340cm、深さ73cm。16-3溝より古い。土師質土器皿、軟質陶器鍋、焼締陶器甕破片、砥石、石臼、板碑、凹石、不明石製品などが出土している。

15-4号溝（第107・108図）

15区S-8～T-10グリッド。ほぼ南北に走り、南端で西側にＬ字状に曲がって15-3溝につながる。上幅100cm、深さ40cm。隣接する15-1・3溝と並行する。15-5溝より古い。

15-5号溝（第106図）

15区R～T-8グリッド。上幅36cm、深さ12cmの小規模な溝。15-1・4溝より新しく、15-6溝より古い。

15-6号溝（第106・155図）

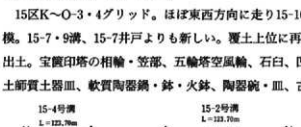
15区R～T-8グリッド。交差する15-5溝と同程度の規模。15-1・4・5溝よりも新しい。板材が出土。

15-7号溝（第109図）

15区L-4～P-3グリッド。隣接する15-8溝とほぼ並行して走るが、時期的にはより古い。上幅66cm、深さ25cm。覆土中に再堆積の浅間Ａ軽石（以下As-A）を含む。

15-8号溝（第109・155～161図）

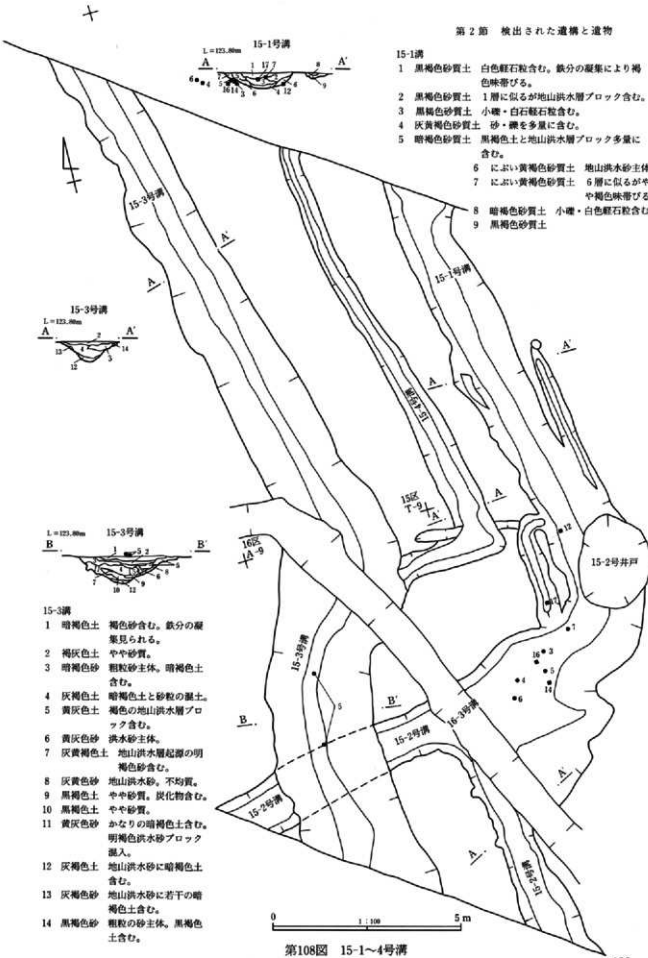
15区K～O-3・4グリッド。ほぼ東西方向に走り15-10溝にぶつかる。上幅5.1m、深さ93cmで比較的大規模。15-7・9溝、15-7井戸よりも新しい。覆土上位に再堆積のAs-Aを含む。西側から多量の礫がまとまって出土。宝篋印塔の相輪・笠部、五輪塔空風輪、石臼、凹石、板碑破片、砥石などが混入していた。その他に、土師質土器皿、軟質陶器鍋・鉢・火鉢、陶器碗・皿、古銭などが見つかっている。



15-4溝
1　黒色土　少量のAs-Bブロック含む。粘性強、しまり良。
2　As-Bの二次堆積。
3　暗褐色土　多量のAs-B含む。少量の明褐色砂粒状に混入。
4　黄灰色土　３層土と灰白色砂の混土。少量の明褐色砂粒混入。

15-2溝
1　暗褐色土　As-B多量に含みやや砂質。
2　黒褐色土　φ5～10mm程の軽石多量に含む。
3　暗褐色土　２層に似るが色調より明るい。
4　暗褐色土　細粒。As-B含む。
5　褐色土　４層に似るが鉄分の凝集部多く赤味帯びる。
6　灰黄褐色土　灰白色粘質土含む。
7　褐灰色砂　地山洪水砂主体。４層土含む。
8　にぶい黄橙色シルト　地山洪水シルト。砂含む。
9　灰色砂　地山洪水砂主体。粒状のシルト含む。
10　黄灰色砂　洪水砂主体。４層土含む。
11　褐灰色砂　地山洪水砂主体。４層土少量含む。

第107図　15-2・4号溝セクション



15-1溝

1　黒褐色砂質土　白色軽石粒含む。鉄分の凝集により褐色帯びる。
2　黒褐色砂質土　1層に似るが地山洪水層ブロック含む。
3　黒褐色砂質土　小礫・白石軽石粒含む。
4　灰黄褐色砂質土　砂・礫を多量に含む。
5　暗褐色砂質土　黒褐色土と地山洪水層ブロック多量に含む。
6　にぶい黄褐色砂質土　地山洪水砂主体。
7　にぶい黄褐色砂質土　6層に似るがやや褐色味帯びる。
8　暗褐色砂質土　小礫・白色軽石粒含む。
9　黒褐色砂質土

15-3溝

1　暗褐色土　褐色砂含む。鉄分の凝集見られる。
2　褐灰色土　やや砂質。
3　暗褐色砂　粗粒砂主体。暗褐色土含む。
4　灰褐色土　暗褐色土と砂粒の混土。
5　黄灰色土　褐色の地山洪水層ブロック含む。
6　黄灰色砂　洪水砂主体。
7　灰黄褐色土　地山洪水層起源の明褐色砂含む。
8　灰黄色砂　地山洪水砂。不均質。
9　黒褐色土　やや砂質。炭化物含む。
10　黒褐色土　やや砂質。
11　黄灰色砂　かなりの暗褐色土含む。明褐色洪水砂ブロック混入。
12　灰褐色土　地山洪水砂に暗褐色土含む。
13　灰褐色砂　地山洪水砂に若干の暗褐色土含む。
14　黒褐色砂　粗粒の砂主体。黒褐色土含む。

第108図　15-1～4号溝

15-9号溝　　15-8号溝

L＝122.90m

15-9溝

1　灰黄褐色砂質土　多量の砂粒含む。
2　灰黄褐色砂質土　多量の砂粒、わずかの炭化物粒含む。
3　褐灰色土　地山洪水層起源のシルトブロック・礫を多量に含む。
4　褐灰色砂質土　細砂主体。シルト質土がラミナ状に堆積。

15-7号溝

L＝123.40m

15-7溝

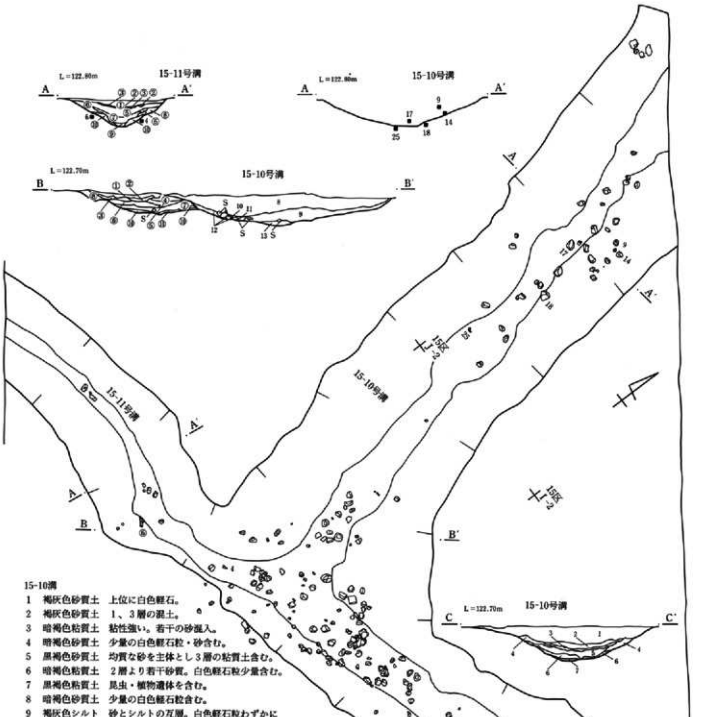
①　黒褐色土　わずかの軽石含む。弱い粘性あり。
②　にぶい黄橙色土　地山洪水のシルトブロック主体。
③　にぶい黄橙色土　地山洪水層多量に含む。少量の白色軽石粒混入。

15-8溝

1　褐灰色砂質土　軽石粒を少量含む。
2　灰褐色砂　細砂粒。
3　褐灰色シルト質土　地山洪水層起源のシルトブロック、礫を多量に含む。
4　褐灰色砂質土　非常にしまり悪い。炭化物粒かなり含む。
5　黒褐色粘質土　砂粒を少量含む。
6　黒色粘質土　植物・昆虫遺体含む。粘性強。

0　1：100　5m

第109図　15-7～9 号溝



15-10溝

1　褐灰色砂質土　上位に白色軽石。
2　褐灰色砂質土　1、3層の混土。
3　暗褐色粘質土　粘性強い。若干の砂混入。
4　暗褐色砂質土　少量の白色軽石粒・砂含む。
5　黒褐色砂質土　均質な砂を主体とし3層の粘質土含む。
6　暗褐色粘質土　2層より若干砂質。白色軽石粒少量含む。
7　黒褐色粘質土　昆虫・植物遺体を含む。
8　暗褐色砂質土　少量の白色軽石粒含む。
9　褐灰色シルト　砂とシルトの互層。白色軽石粒わずかに含む。植物遺体・種子等を含む。
10　褐灰色シルト質土　しまり悪い。下位に細砂粒含む。
11　黒褐色粘質土　しまり悪い。細砂粒わずかに含む。
12　灰褐色砂質土　地山洪水層の再堆積土。亜角礫含む。
13　褐灰色粘質土　かなりの細砂含みしまり悪い。多量の昆虫・植物遺体含む。

15-11溝

①　褐色砂質土　少量の白色軽石粒、かなりの細砂粒含む。しまり良。
②　灰黄褐色砂質土　わずかの白色軽石粒、かなりの細砂含む。
③　褐灰色砂質土　かなりのシルトブロック、少量の細砂粒、わずかの白色軽石粒含む。
④　褐灰色砂質土　少量の細砂粒、わずかの白色軽石粒含む。
⑤　灰黄褐色シルト質土
⑥　にぶい黄褐色砂　砂とシルトの互層。
⑦　褐灰色シルト質土　砂層をラミナ状に含む。わずかの亜角礫・炭化物粒混入。
⑧　灰黄褐色砂質土　しまり良。多量の細砂粒、わずかの白色軽石粒含む。
⑨　黒褐色粘質土　炭化物含む。しまり悪い。
⑩　褐灰色砂質土　地山洪水層の再堆積土。
⑪　褐灰色砂質土　細砂粒主体。

第110図　15-10・11号溝

0　1:100　5m

15-8号溝（第109・161図）

15区K-4グリッド。ほぼ南北に走り15-8溝にぶつかる。時期的にはより古く、覆土を掘り込んで15-8溝が造られている。上幅240cm、深さ42cm。軟質陶器鍋が出土。

15-10号溝（第110・161～165図）

15区I・J-1～3グリッド。ほぼ南北に走り、南端で東側にL字状に曲がる。上幅4.5m、深さ90cmと大形の溝で、「高田屋敷」の外堀にあたる。15-13・15土坑、15-11溝より新しい。覆土下部に多量の植物遺体・昆虫などを含む。コーナー付近より多量の礫が出土、五輪塔水輪・地輪、石臼、板碑破片、凹石、砥石、不明石製品などが混入。その他に土師質土器皿、軟質陶器内耳鍋・火鉢、焼締陶器甕破片などが見つかっている。

15-11号溝（第110・165図）

15区F-1～5区K-20グリッド。上幅3.1m、深さ72cmでほぼ東西に走る。15-10溝にぶつかるが、時期的にはより古い。内部より軟質陶器鍋、焼締陶器甕破片、五輪塔、凹石、板碑破片などが出土。

16-1号溝（第111・166図）

16区C・D-10・11グリッド。上幅133cm、深さ21cmで壁がほぼ直立する。東西に走る長方形状で、16-1・2掘立と重複するが、前後関係は不明。周囲に長軸方向が直交もしくは並行する方形の土坑が複数あり、一連の遺構であった可能性が考えられる。須恵器坏、焼締陶器甕破片が数点出土している。

16-2号溝（第112・166図）

16区B-12～F-11グリッド。東から西へ向かって緩く蛇行しながら走る。上幅293cm、深さ40cm。16-4土坑よりも新しい。土師質土器皿、軟質陶器内耳鍋の他焼締陶器甕破片が数点出土している。

16-3号溝（第111・166図）

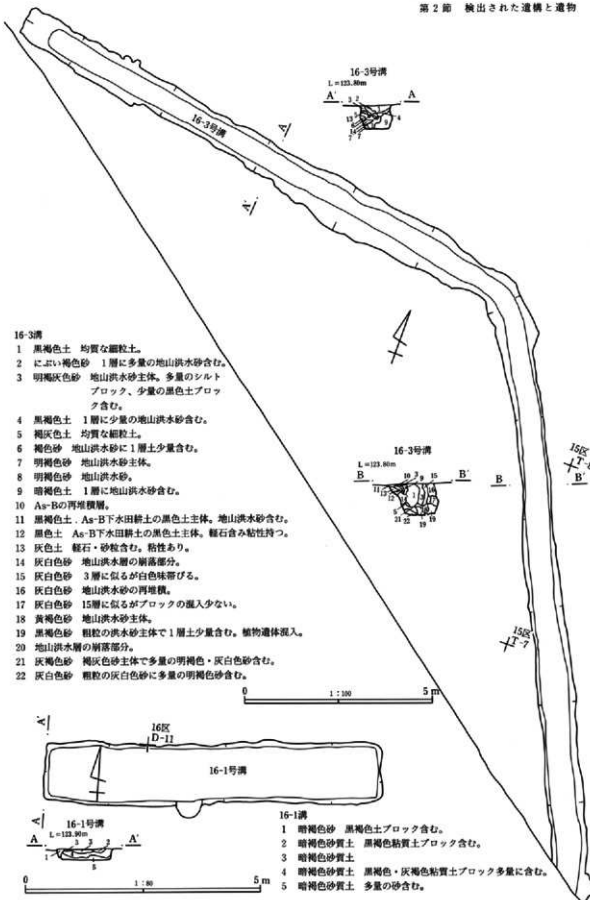
15区S-6～16区D-9グリッド。北西から南東に向かい、中間で南に屈曲。上幅130cm、深さ83cmで壁はほぼ直立。15-1・2・3溝より新しい。覆土中に再堆積のAs-Bを含む。陶器皿、板碑破片、金属器などが出土。

16-4号溝（第113・168～169図）

16区K～P-19・20グリッド。上幅6.3m、深さ120cmの大形の溝。ほぼ東西方向に走る。杭列あり。覆土上位に再堆積のAs-Bを含む。本溝が造られたのは、16-6溝の掘削より新しく、同溝上位の礫の投入よりは古い。底面から、板碑が２個体折り重なるようにして出土、うち１枚には枠線が描かれ、所々に金色の付着物が残っていた。国立歴史民俗博物館の永嶋正春氏に鑑定を依頼し、漆で線を描いた上に金箔を貼り付けたものであることがわかった。枠線が残っていたのは土中に埋まっていた部分で、日光などによる劣化から免れたのであろう。この他にも土師質土器皿、軟質陶器鍋・鉢、陶器天目碗、石臼、古銭などが見つかっている。

16-5号溝（第113・169図）

16区M・N-20グリッド。上幅73cm、深さ20cmの小形の溝で、ほぼ東西に走る。隣接する16-4溝と一部重複するが、前後関係は不明。青磁碗破片、金属製品などが出土している。



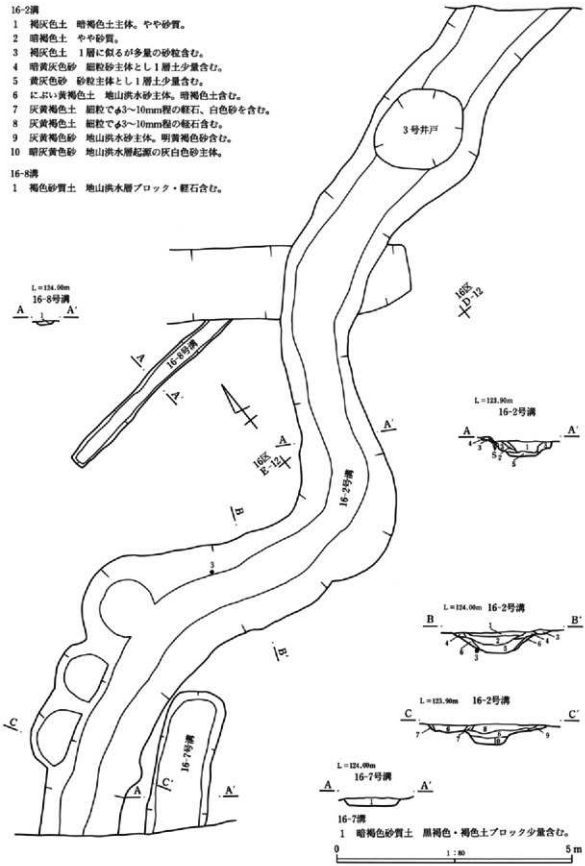
16-3溝
1　黒褐色土　均質な細粒土。
2　にぶい褐色砂　1層に多量の地山洪水砂含む。
3　明褐灰色砂　地山洪水砂主体。多量のシルトブロック、少量の黒色土ブロック含む。
4　黒褐色土　1層に少量の地山洪水砂含む。
5　褐灰色土　均質な細粒土。
6　褐色砂　地山洪水砂に1層土少量含む。
7　明褐色砂　地山洪水砂主体。
8　明褐色砂　地山洪水砂。
9　暗褐色土　1層に地山洪水砂含む。
10　As-Bの再堆積層。
11　黒褐色土．As-B下水田耕土の黒色土主体。地山洪水砂含む。
12　黒色土　As-B下水田耕土の黒色土主体。軽石含み粘性持つ。
13　灰色土　軽石・砂粒含む。粘性あり。
14　灰白色砂　地山洪水層の崩落部分。
15　灰白色砂　3層に似るが白色味帯びる。
16　灰白色砂　地山洪水砂の再堆積。
17　灰白色砂　15層に似るがブロックの混入少ない。
18　黄褐色砂　地山洪水砂主体。
19　黒褐色砂　粗粒の洪水砂主体で1層土少量含む。植物遺体混入。
20　地山洪水層の崩落部分。
21　灰褐色砂　褐灰色砂主体で多量の明褐色・灰白色砂含む。
22　灰白色砂　粗粒の灰白色砂に多量の明褐色砂含む。

16-1溝
1　暗褐色砂　黒褐色土ブロック含む。
2　暗褐色砂質土　黒褐色粘質土ブロック含む。
3　暗褐色砂質土
4　暗褐色砂質土　黒褐色・灰褐色粘質土ブロック多量に含む。
5　暗褐色砂質土　多量の砂含む。

第111図　16-1・3号溝

16-2溝
1　褐灰色土　暗褐色土主体。やや砂質。
2　暗褐色土　やや砂質。
3　褐灰色土　1層に似るが多量の砂粒含む。
4　暗黄灰色砂　細粒砂主体とし1層土少量含む。
5　黄灰色砂　砂粒主体とし1層土少量含む。
6　にぶい黄褐色土　地山洪水砂主体。暗褐色土含む。
7　灰黄褐色土　細粒で3～10mm程の軽石、白色砂を含む。
8　灰黄褐色土　細粒で3～10mm程の軽石含む。
9　灰黄褐色砂　地山洪水砂主体。明黄褐色砂含む。
10　暗灰黄色砂　地山洪水層起源の灰白色砂主体。

16-8溝
1　褐色砂質土　地山洪水層ブロック・軽石含む。



第112図　16-2・7・8号溝

第113図　16-4～６号溝

16-6号溝（第113・169～171図）

北西から南東方向に走り、南端で幅が広がって16-4溝にぶつかる。上幅4.1m、深さ80cm。覆土の中位では、大小の多量の礫が面をなしていた。16-4溝は、本溝の覆土下位の埋土を掘り込んでいたが、礫面より上位の埋土は16-4溝側に流れ込んでいた。ただし、16-4溝側には礫の崩落が見られなかったため、16-4溝廃絶後に礫が投げ込まれたものと思われる。したがって、16-4溝埋没後も本溝が完全に埋没せず、くぼんだ部分に礫が投げ込まれたか、新たに別の溝が掘り込まれ、礫が投入されたものと考えられる。すなわち、本溝自体と礫面との間には、かなりの時間差がある。遺物は、多量の礫に混じって土師質土器皿、軟質陶器内耳鍋・鍋・鉢・香炉、陶器皿、焼締陶器甕、凹石、石臼、板碑、古銭などが出土している。このうち板碑は、26-4土坑出土のものと接合した。

16-7号溝（第112図）

16区E・F-11グリッド。上幅130cm、深さ15cmの浅い溝。16-2溝に沿うように造られる。遺物なし。

16-8号溝（第112図）

16区D・E-12グリッド。上幅24cm、深さ6cmの小規模な溝。遺物の出土はない。

26-2号溝（第114・172図）

26区Q-2～R-5グリッド。26-5・6土坑、26-7井戸より新しい。上幅136cm、深さ36cm。ほぼ南北に走り、南端でわずかに西側に曲がる。内部に多量の礫が入っており、間から土器片なども出土。16-6溝の礫面につながるものか。遺物は、土師質土器皿、軟質陶器内耳鍋・鍋、陶器鉢、凹石、不明石製品などがある。

26-3号溝（第114図）

26区Q～T-4グリッド。上幅74cm、深さ8cmの小規模な溝。26-3井戸より新しい。ほぼ東西に走り26-2溝に直交するが、前後関係は不明。遺物の出土はない。

26-4号溝（第115・172～175図）

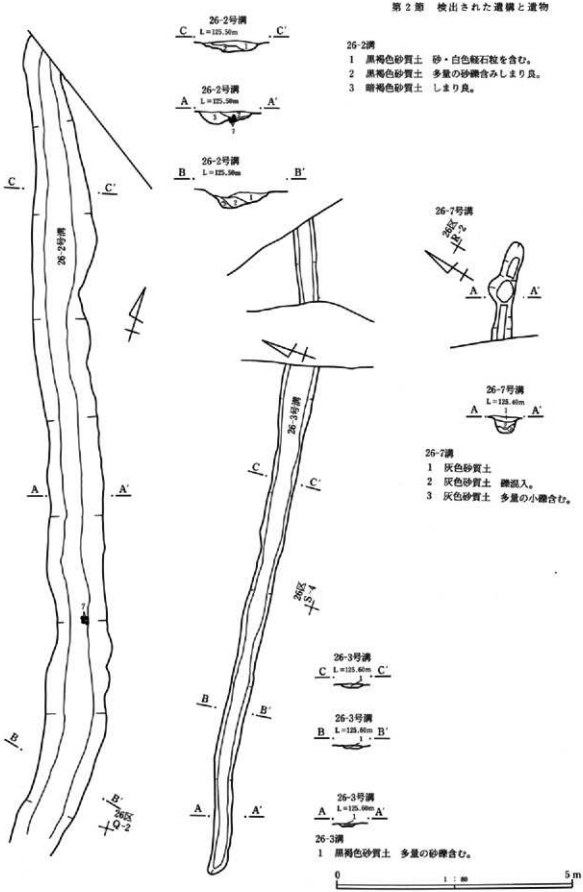
26区S-5～27区C-5グリッド。上幅4.6m、深さ78cmの大きな溝で、ほぼ東西方向に走る。西側の部分から、方形に並ぶ4本の杭が出土。周囲に小規模な柱穴状の小穴が回ることから、堰のようななんらかの施設が造られていたものと考えられる。遺物は多く、土師質土器皿、軟質陶器内耳鍋・鍋・鉢・火鉢、青磁碗、焼締陶器甕破片、羽口、硯、五輪塔、石臼、凹石、板碑破片、木製品などが出土している。

26-7号溝（第114・176図）

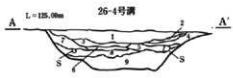
26区Q・R-1グリッド。非常に小さく短い溝。遺物はわずかで、磁器碗の破片が出土している。

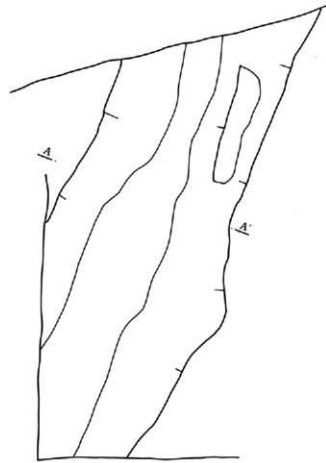
27-1号溝（第116・176図）

27区A・B-6グリッド。上幅86cm、深さ42cm。26-4、27-2溝と並行に東西方向に走る。西側を現代の水路によって壊されているが、水路よりも西側に続かないことから、水路部分で途切れるか、北もしくは南に方向を変えるものと思われる。軟質陶器鉢、砥石が出土している。



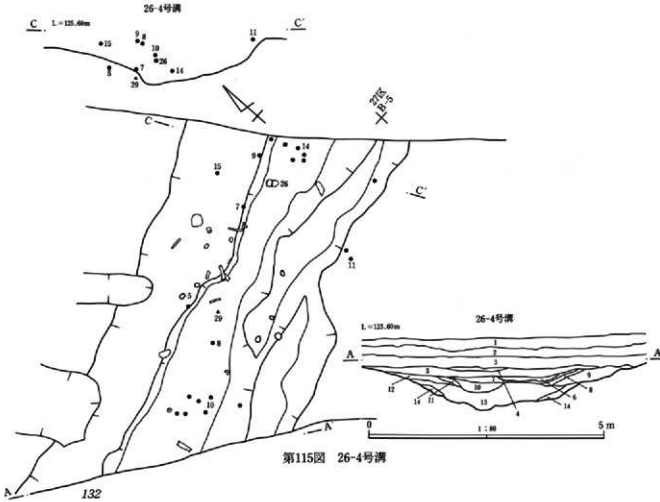
第114図　26-2・3・7号溝





26-4溝

1　表土　現耕作土。
2　暗褐色土　軽石を多く含む。鉄分の凝集により赤味帯びる。
3　褐色土　２層に似るがより鉄分が多く凝集。
4　黒褐色土　粘性弱い。軽石含まない。
5　黒褐色シルト質土　粘性強。
6　黒褐色土　やや砂質。軽石わずかに含む。
7　黒褐色シルト質土　シルトと砂の混土。
8　黒褐色砂質土
9　褐色砂礫　13層堆積後の壁の崩落土。
10　黒褐色土　やや砂質。
11　黒褐色シルト質土
12　黒褐色砂質土
13　黒色シルト　礫・有機物含む。
14　黒褐色砂　13層堆積以前の壁の崩落土。



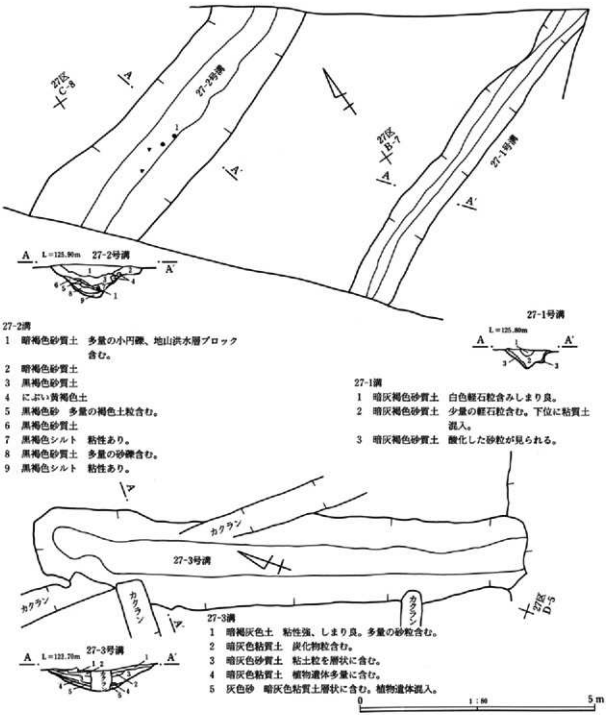
第115図　26-4号溝

27-2号溝（第116・176・177図）

27区B・C-7グリッド。上幅2.3m、深さ68cm。27-1溝同様、西側の水路部分で切れるか、方向を変えるものと思われる。底部から杭状の木材が出土した。遺物は土師質土器皿、焼締陶器甕破片、砥石などがある。

27-3号溝（第116・177図）

27区C・D-5～7グリッド。上幅190cm、深さ44cmでほぼ南北に走り、26-4溝に直角にぶつかる。26-4溝と



第116図　27-1～3号溝

の前後関係は不明。遺物は硯、羽口破片、鉄滓が出土している。

27-4号溝（第117・177図）

27区H-11・12グリッド。南北に走り、南端で西側に曲がる。上幅205cm、深さ56cm。土師質土器皿、軟質陶器鍋、金属製品などが出土している。

27-5号溝（第117・177図）

27区J-10～13グリッド。27-14土坑より古い。上幅160cm、深さ24cm。ほぼ南北に走り、北端で27-6溝にぶつかるが、前後関係は不明。遺物は金属製品が１点出土している。

27-6号溝（第118・177・178図）

27区J-13～N-12グリッド。ほぼ東西に流れる上幅4.4m、深さ１mの大きな溝。東側に礫がまとまっており、土師質土器皿、軟質陶器内耳鍋、漆塗り椀、宝篋印塔の笠部、凹石、石臼、不明石製品、古銭などが出土している。

27-7号溝（第119・179図）

27区L～P-14グリッド。隣接する27-11溝と並行して東西に緩く蛇行しながら走る。覆土中にAs-Bを含む。上幅2.2m、深さ40cm。遺物は少なく、軟質陶器鉢を含む少量の土器片が出土したのみである。

27-8号溝（第120図）

27区P・Q-14・15グリッド。南北方向に走り、27-10溝にほぼ直角にぶつかる。上幅2.0m。27-7・11溝と交わるが、前後関係は不明。遺物は出土しなかった。

27-9号溝（第121・179図）

27区R～T-18グリッド。隣接する27-12・13溝と並行して北東から南西方向に走る。上幅1.0m、深さ20cm。土師質土器皿、軟質陶器鍋などが出土している。

27-10号溝（第120・179図）

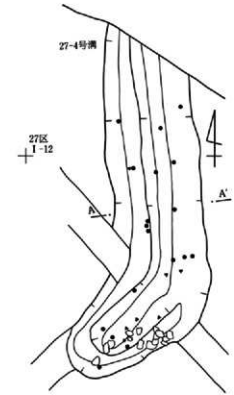
27区N-16～R-15グリッド。北東から南西方向に走る上幅4.6m、深さ1.2mの大きな溝。27-9・12・13溝とほぼ走向が一致する。遺物は少なく、古銭が出土したのみ。

27-11号溝（第119図）

27区K～P-14グリッド。27-4土坑より古い。上幅70cm、深さ18cmで27-7溝に並行する。遺物の出土はない。

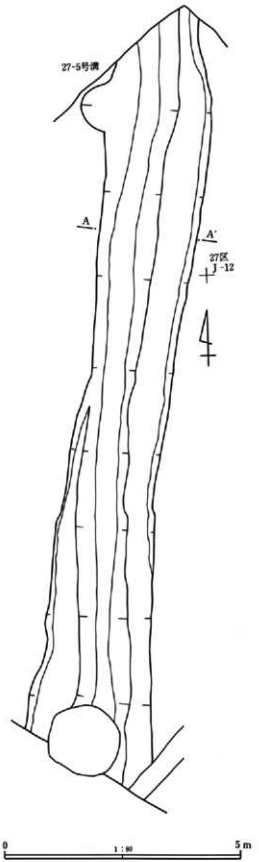
27-12号溝（第121・179図）

27区R-19～28区A-18グリッド。上幅1.7m、深さ45cmで27-9・13溝に並行する。遺物は少ないが、漆塗りの椀が出土している。



27-4溝
1　暗褐色砂質土　多量の礫、地山褐色砂ブロック含む。
2　黒褐色砂質土　多量の礫含む。
3　暗褐色砂質土　地山砂礫多量に含む。
4　黒褐色砂質土
5　黒色砂質土　褐色砂ブロック含む。弱い粘性あり。

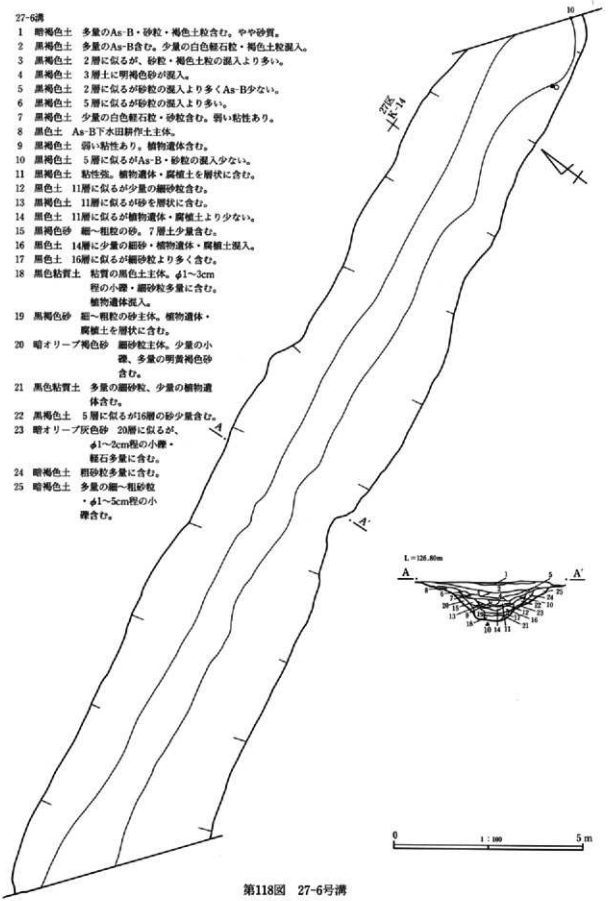
27-5溝
1　灰褐色砂質土　少量の炭化物粒含む。
2　灰褐色土　弱い粘性あり。砂粒含まない。
3　砂礫
4　灰褐色砂質土　粗粒。



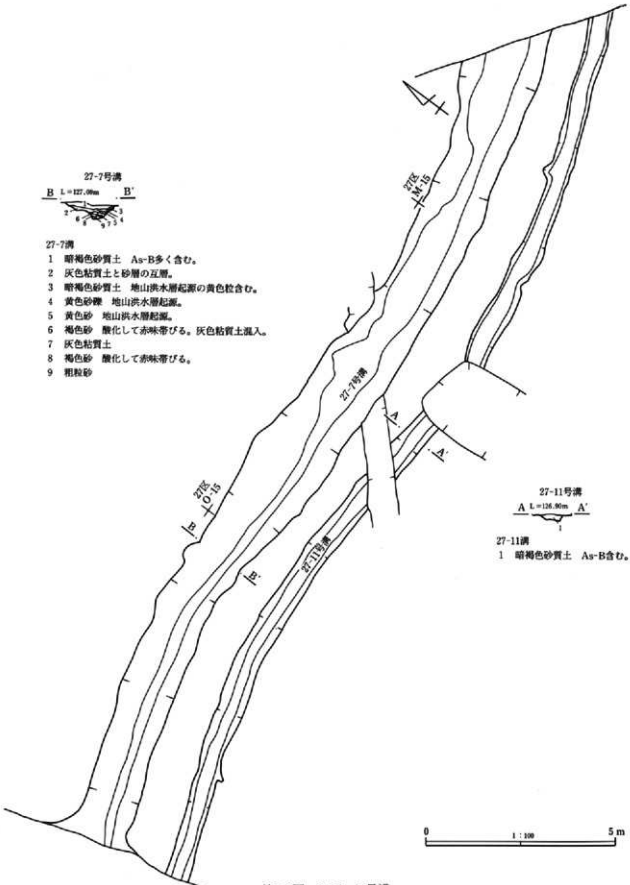
第117図　27-4・5号溝

27-6溝

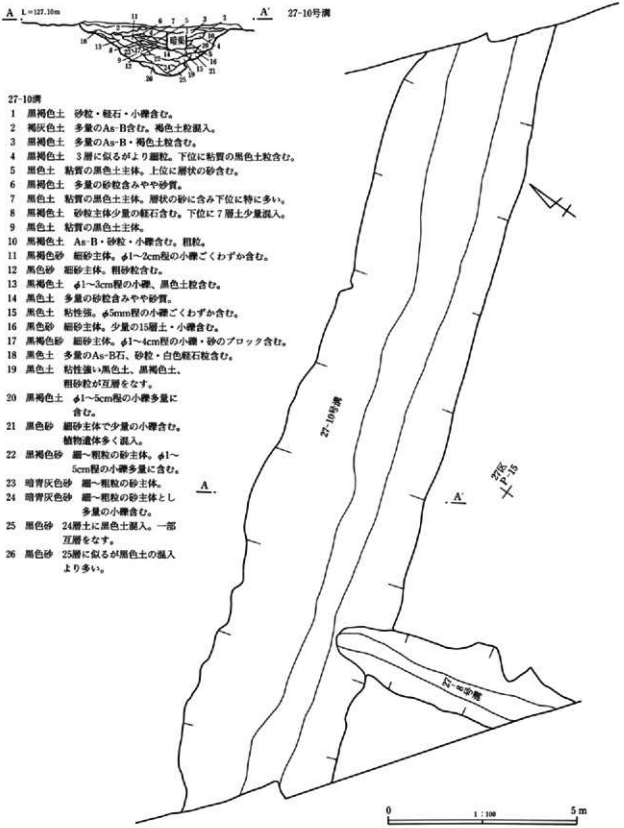
1　暗褐色土　多量のAs-B・砂粒・褐色土粒含む。やや砂質。
2　黒褐色土　多量のAs-B含む。少量の白色軽石粒・褐色土粒混入。
3　黒褐色土　2層に似るが、砂粒・褐色土粒の混入より多い。
4　黒褐色土　3層土に明褐色砂が混入。
5　黒褐色土　2層に似るが砂粒の混入より多くAs-B少ない。
6　黒褐色土　5層に似るが砂粒の混入より多い。
7　黒褐色土　少量の白色軽石粒・砂粒含む。粥い粘性あり。
8　黒色土　As-B下水田耕作土主体。
9　黒褐色土　弱い粘性あり。植物遺体含む。
10　黒褐色土　5層に似るがAs-B・砂粒の混入少ない。
11　黒褐色土　粘性強。植物遺体・腐植土を層状に含む。
12　黒色土　11層に似るが少量の細砂粒含む。
13　黒褐色土　11層に似るが砂を層状に含む。
14　黒色土　11層に似るが植物遺体・腐植土より少ない。
15　黒褐色砂　細～粗粒の砂。7層土少量含む。
16　黒色土　14層に少量の細砂・植物遺体・腐植土混入。
17　黒色土　16層に似るが細砂粒より多く含む。
18　黒色粘質土　粘質の黒色土主体。φ1～3cm程の小礫・細砂粒多量に含む。植物遺体混入。
19　黒褐色砂　細～粗粒の砂主体。植物遺体・腐植土を層状に含む。
20　暗オリーブ褐色砂　細砂粒主体。少量の小礫、多量の明黄褐色砂含む。
21　黒色粘質土　多量の細砂粒、少量の植物遺体含む。
22　黒褐色土　5層に似るが16層の砂少量含む。
23　暗オリーブ灰色砂　20層に似るが、φ1～2cm程の小礫・軽石多量に含む。
24　暗褐色土　粗砂粒多量に含む。
25　暗褐色土　多量の細～粗砂粒・φ1～5cm程の小礫含む。



第118図　27-6号溝



第119図　27-7・11号溝



27-10溝

1　黒褐色土　砂粒・軽石・小礫含む。
2　褐灰色土　多量のAs-B含む。褐色土粒混入。
3　黒褐色土　多量のAs-B・褐色土粒含む。
4　黒褐色土　3層に似るがより細粒。下位に粘質の黒色土粒含む。
5　黒色土　粘質の黒色土主体。上位に層状の砂含む。
6　黒褐色土　多量の砂粒含みやや砂質。
7　黒色土　粘質の黒色土主体。層状の砂に含み下位に特に多い。
8　黒褐色土　砂粒主体少量の軽石含む。下位に7層土少量混入。
9　黒色土　粘質の黒色土主体。
10　黒褐色土　As-B・砂粒・小礫含む。粗粒。
11　黒褐色砂　細砂主体。φ1～2cm程の小礫ごくわずか含む。
12　黒色砂　細砂主体。粗砂粒含む。
13　黒褐色土　φ1～3cm程の小礫、黒色土粒含む。
14　黒色土　多量の砂粒含みやや砂質。
15　黒色土　粘性強。φ5mm程の小礫ごくわずか含む。
16　黒色砂　細砂主体。少量の15層土・小礫含む。
17　黒褐色砂　細砂主体。φ1～4cm程の小礫・砂のブロック含む。
18　黒色土　多量のAs-B石、砂粒・白色軽石粒含む。
19　黒色土　粘性強い黒色土、黒褐色土、
　　粗砂粒が互層をなす。
20　黒褐色土　φ1～5cm程の小礫多量に
　　含む。
21　黒色砂　細砂主体で少量の小礫含む。
　　植物遺体多く混入。
22　黒褐色砂　細～粗粒の砂主体。φ1～
　　5cm程の小礫多量に含む。
23　暗青灰色砂　細～粗粒の砂主体。
24　暗青灰色砂　細～粗粒の砂主体とし
　　多量の小礫含む。
25　黒色砂　24層土に黒色土混入。一部
　　互層をなす。
26　黒色砂　25層に似るが黒色土の混入
　　より多い。

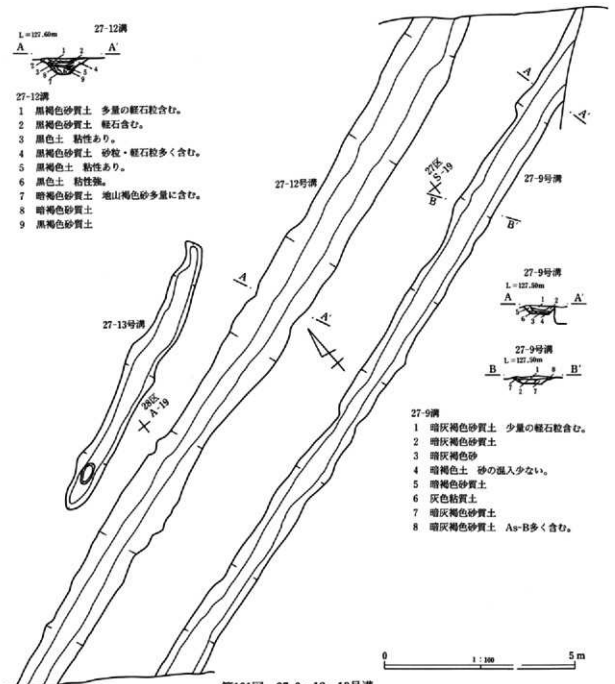
第120図　27-8・10号溝

27-13号溝（第121・179図）

27区T-19～28区A-19グリッド。上幅85cm、長さ7.7mの小規模な溝。内部より磁器猪口、陶器香炉が出土。

27-14号溝（第122・179図）

27区I・J-9・10グリッド。覆土上半にかなりの焼土を含む。南側で広がって調査区外に続く。最大幅5.2m、深さ96cm。遺物は土師質土器皿、軟質陶器内耳鍋、古銭、木製品が出土している。



第121図　27-9・12・13号溝

27-15号溝（第123図）

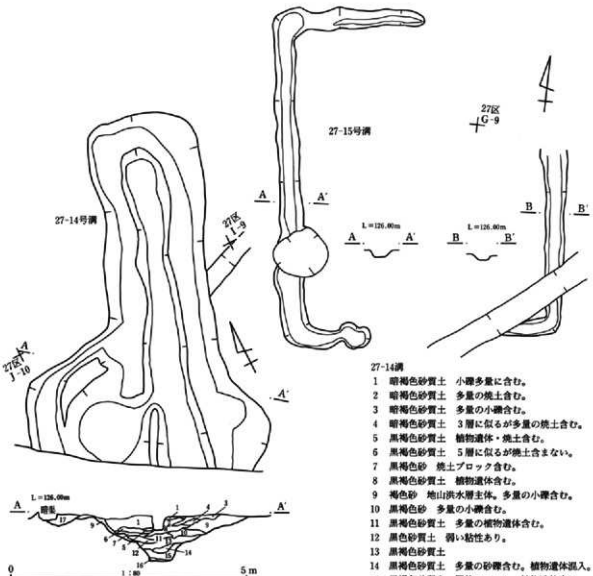
27区F・G-8・9グリッド。27-5井戸より古い。上幅64cm、深さ14cmほどの浅い溝で、長さ7.2m、幅5.9mの長方形状にめぐる。

５）集石

27区で隣接する２ヶ所の集石群を調査した。いずれも26-4溝の覆土上面に造られていた。

27-1号集石（第123・180図）

27区B-4・5グリッドに所在。多量の拳大程の礫がやや崩れた長方形状に敷きつめられたものが５基並んでいた。うち、北側の４基は、礫の下に長さ1.6m、幅0.5～0.8m程の長方形の浅い掘り込みが造られ、その

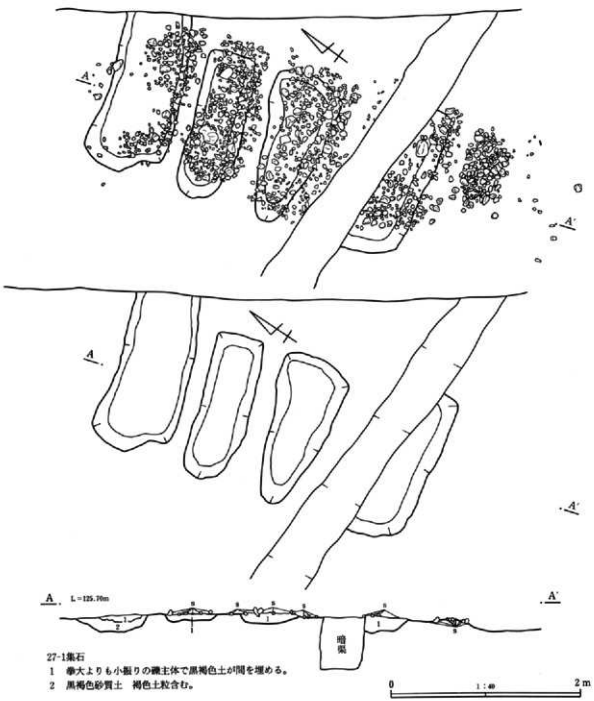


第122図　27-14・15号溝

中にも礫が詰め込まれていた。遺物は少なく、少量の陶器破片が出土したのみである。

27-2号集石（第124・180図）

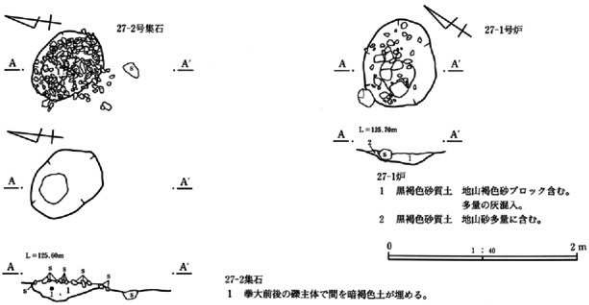
1号集石の西側に位置する。楕円形の浅い掘り込みを持ち、内部と上面に拳大の礫が多量に詰められていた。遺物はごくわずかで、軟質陶器の火鉢破片が出土しているのみである。



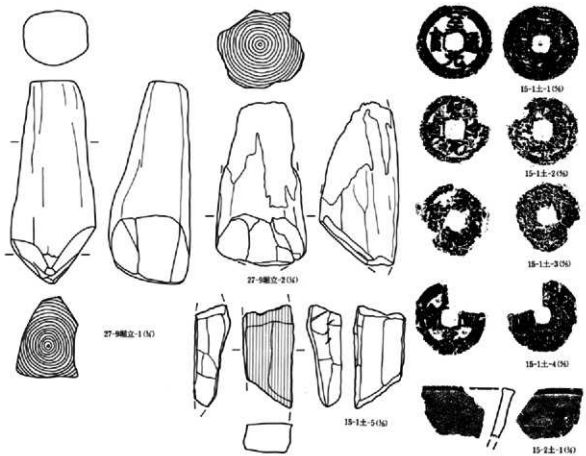
第123図　１号集石

６）炉（第124・180図）

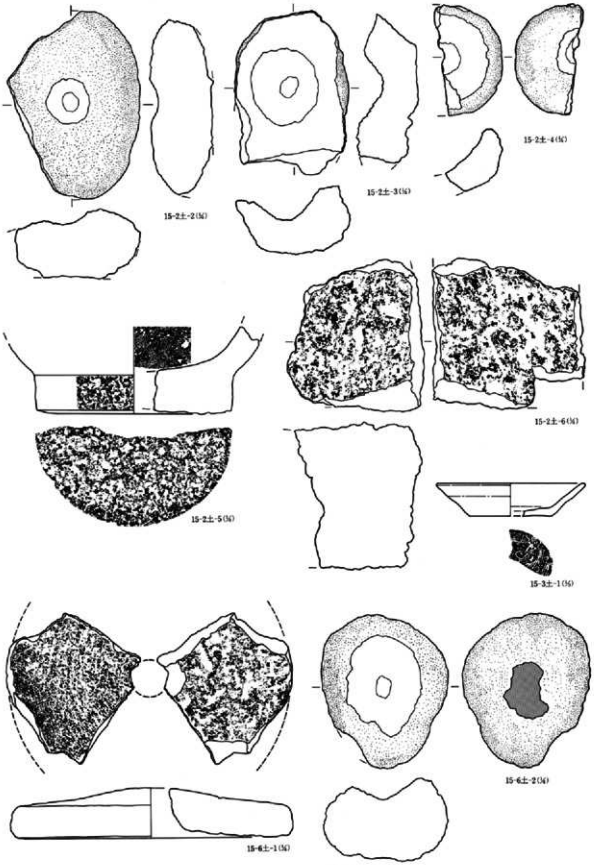
27区より１基検出。C・D-5グリッドに所在する。長軸93cm、短軸78cmの楕円形状で、浅い掘り込みを持つ。覆土中に多量の灰が混入していた。内部より大小の礫に混じって鉄滓や羽口が出土している。



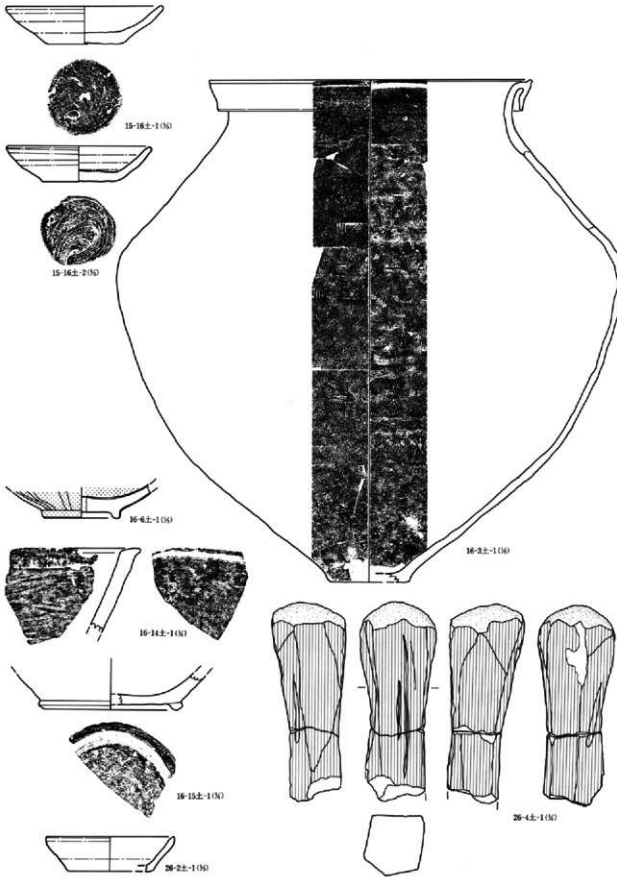
第124図　２号集石、炉



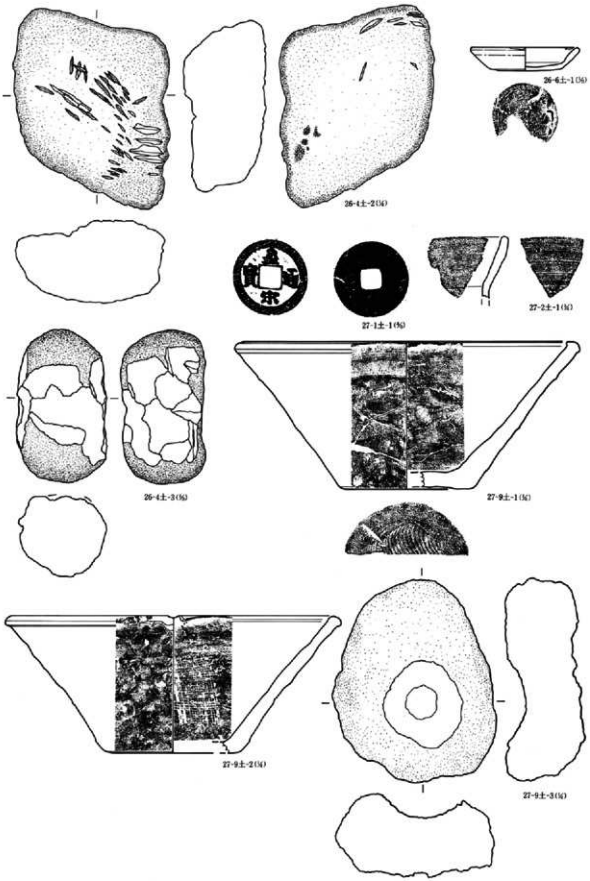
第125図　27-9号掘立柱建物、15-1・2号土坑出土遺物



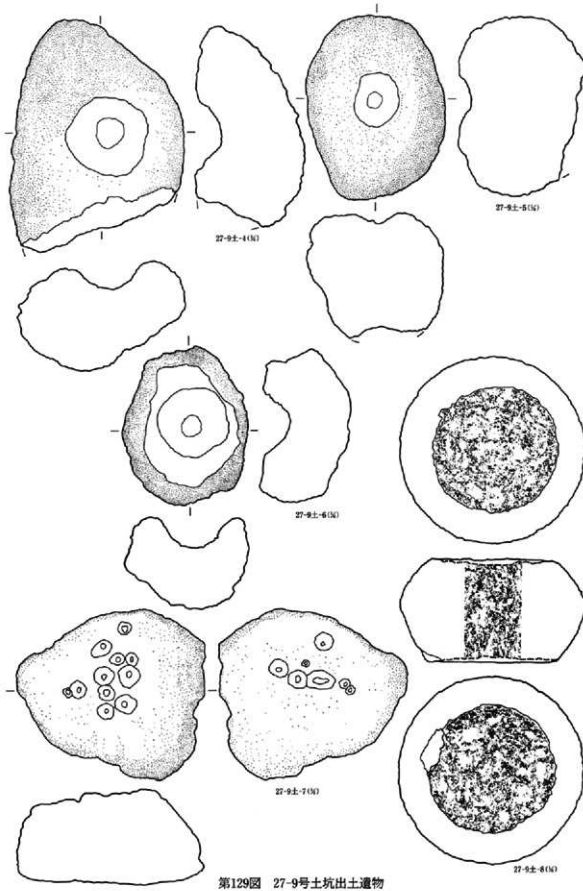
第126図　15-2・3・6号土坑出土遺物



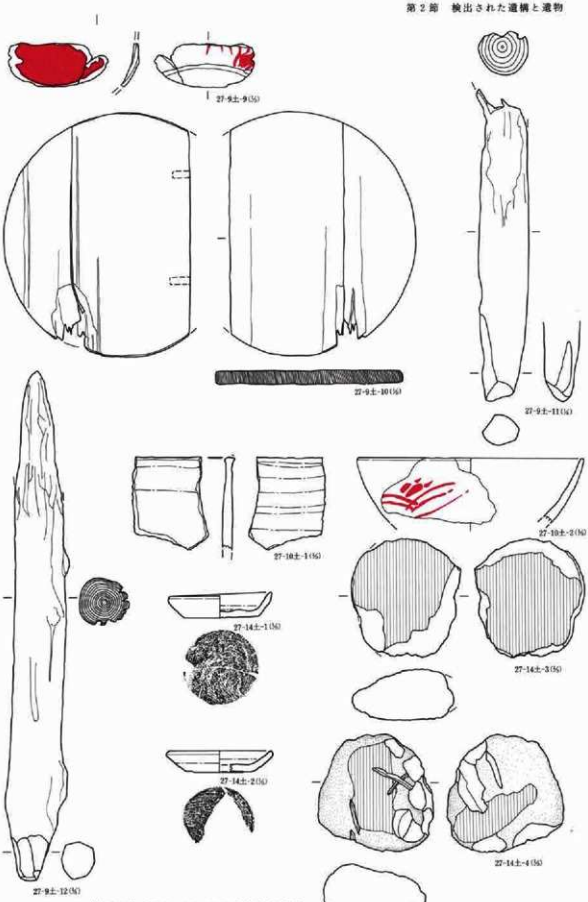
第127図　15-16、16-3・6・14・15、26-2・4号土坑出土遺物



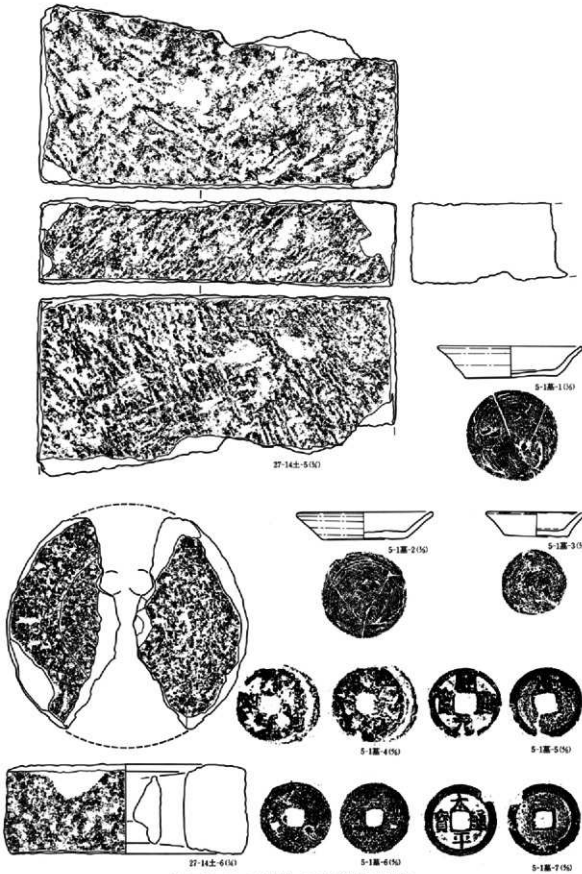
第128図　26-4・6、27-1・2・4・9号土坑出土遺物



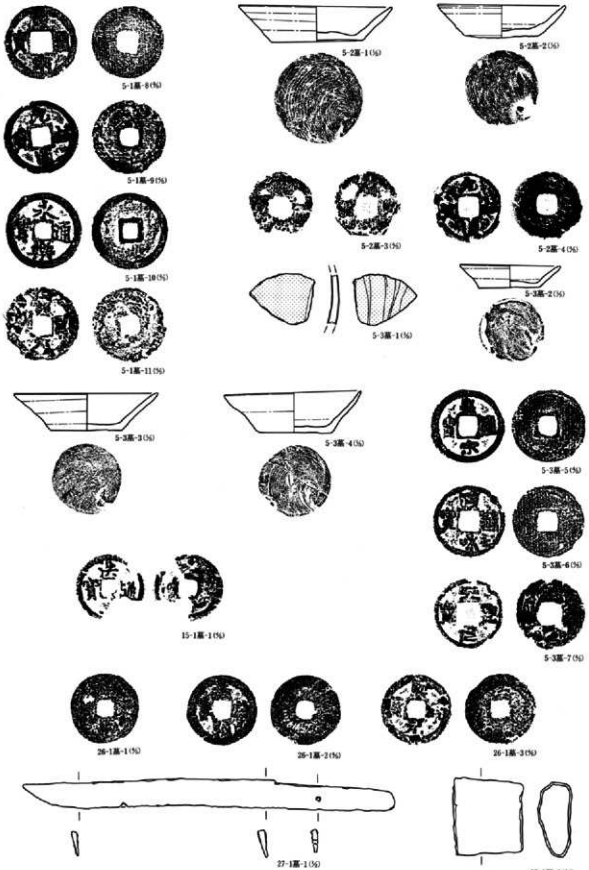
第129図　27-9号土坑出土遺物



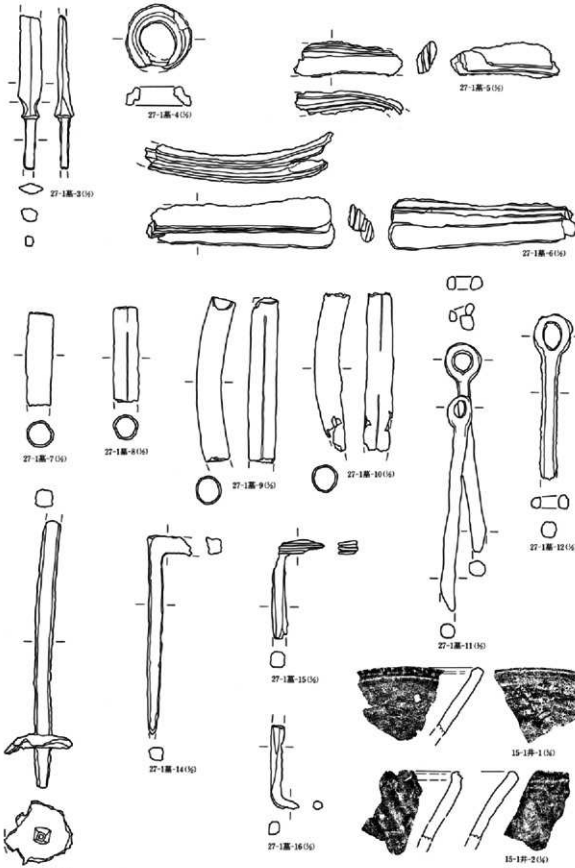
第130図　27-9・10・14号土坑出土遺物



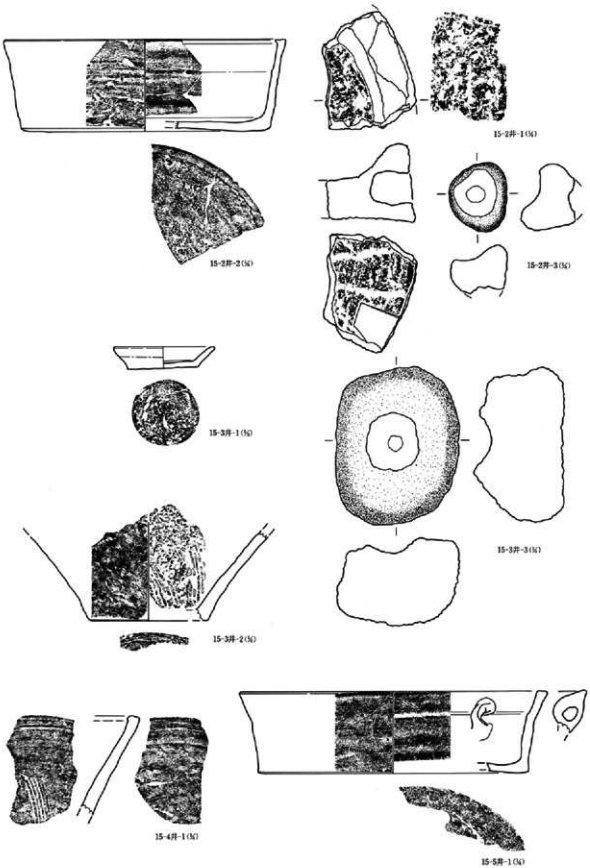
第131図　27-14号土坑、5-1号墓壙出土遺物



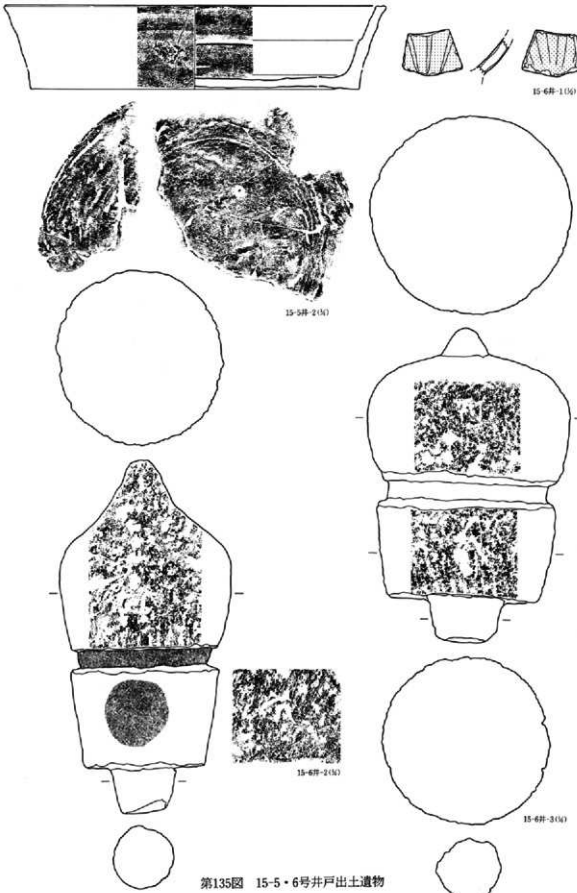
第132図　5-1～3、15-1、26-1、27-1号墓壙出土遺物



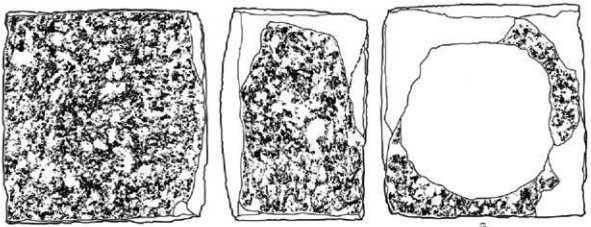
第133図　27-1号墓壙、15-1号井戸出土遺物

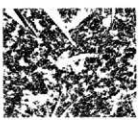


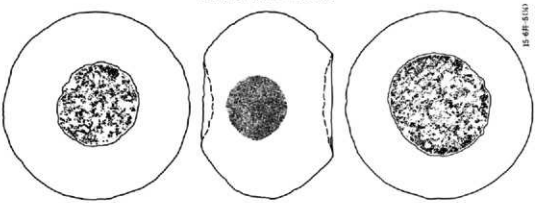
第134図　15-2～5号井戸出土遺物

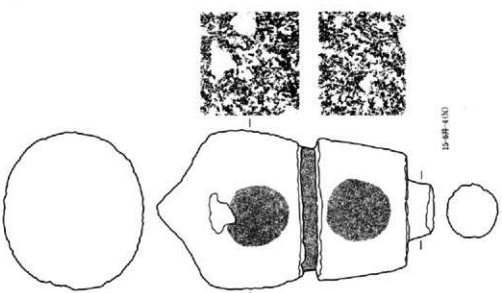


第135図　15-5・6号井戸出土遺物

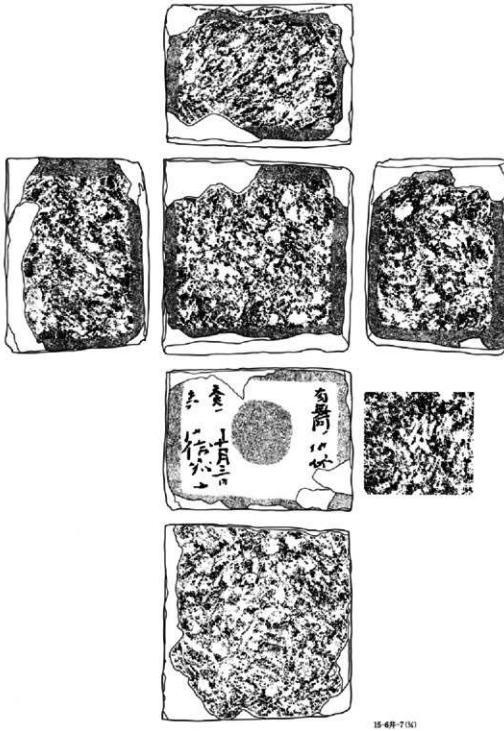




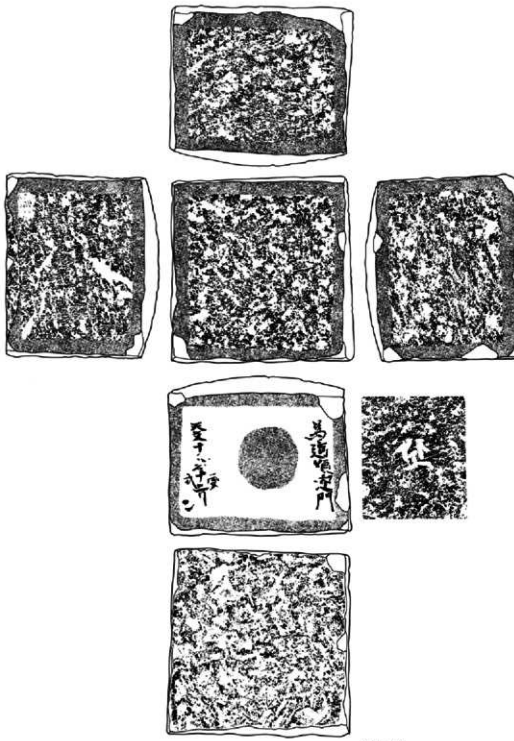




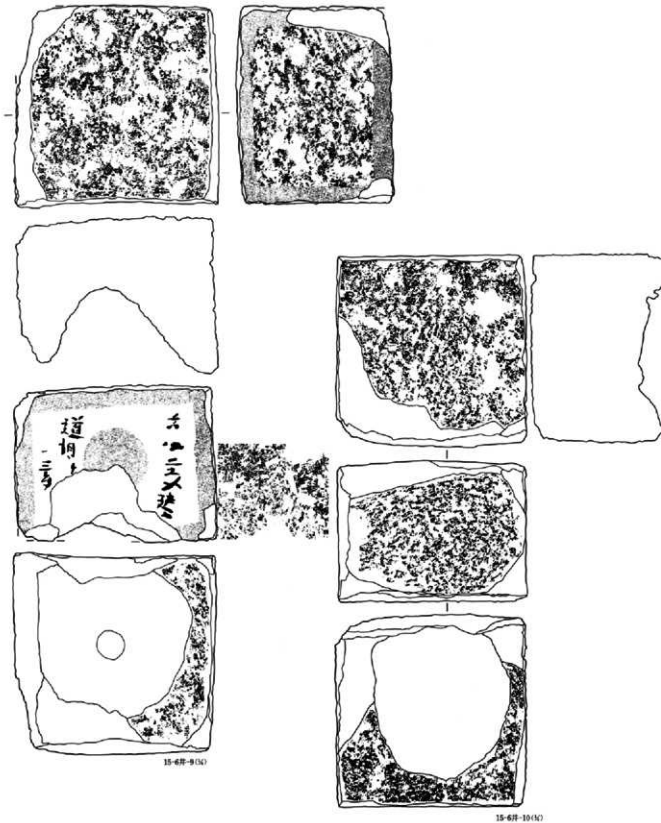
第136図　15-6号井戸出土遺物



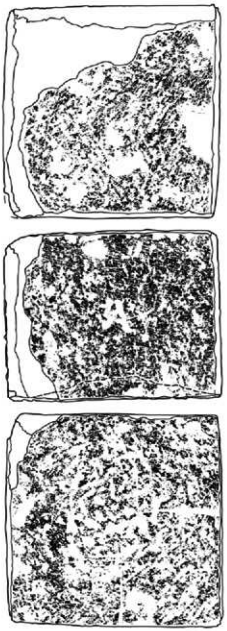
第137図　15-6号井戸出土遺物



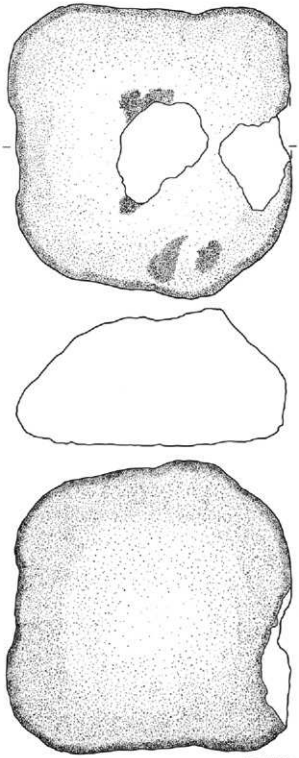
第138図　15-6号井戸出土遺物



第139図　15-6号井戸出土遺物

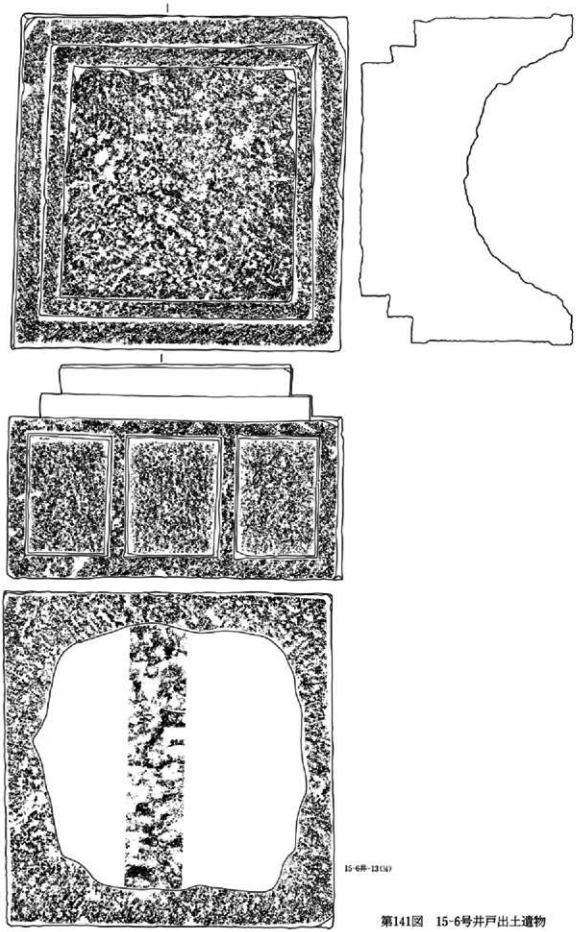


15-6井-11(⅓)

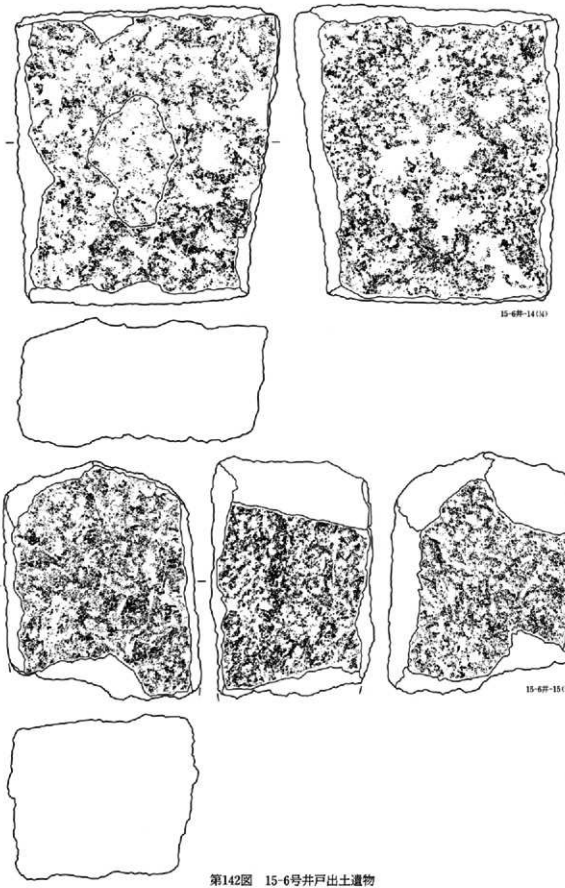


15-6井-12(⅓)

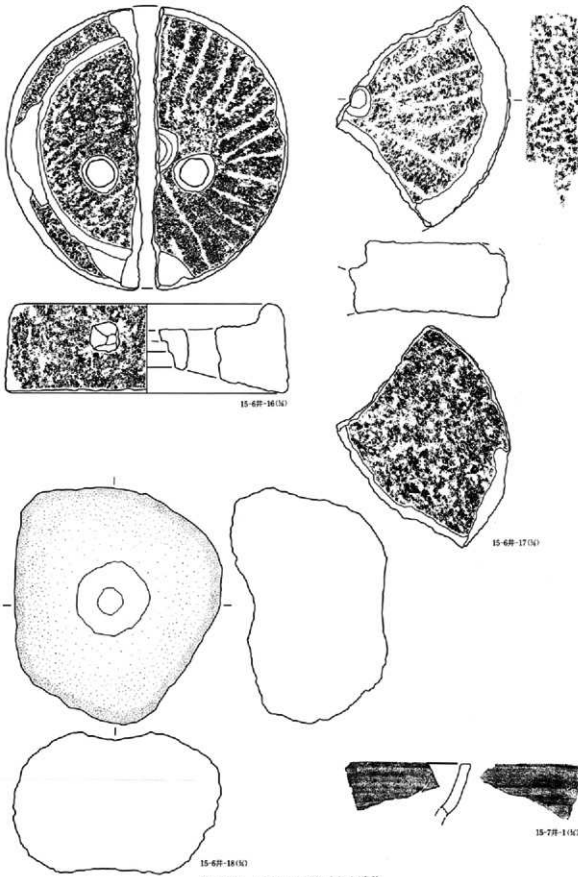
第140図　15-6号井戸出土遺物



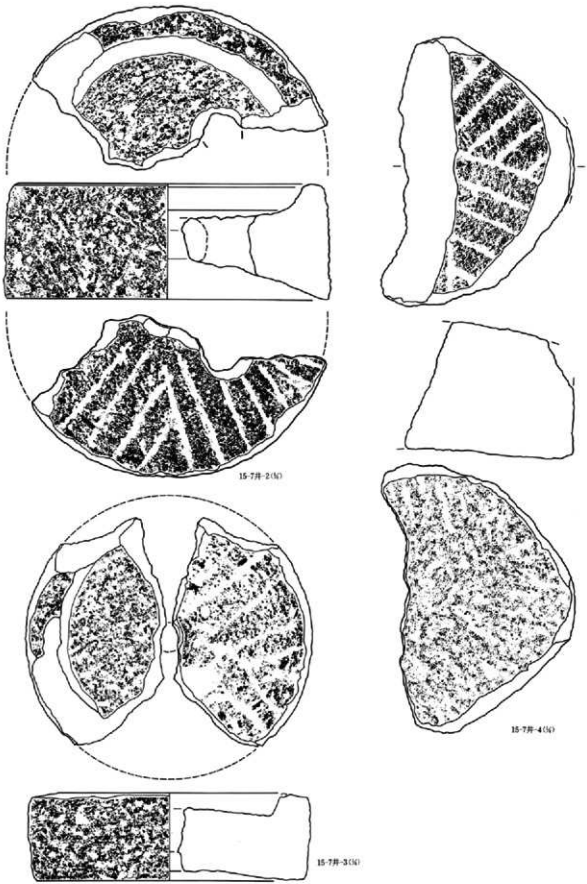
第141図　15-6号井戸出土遺物



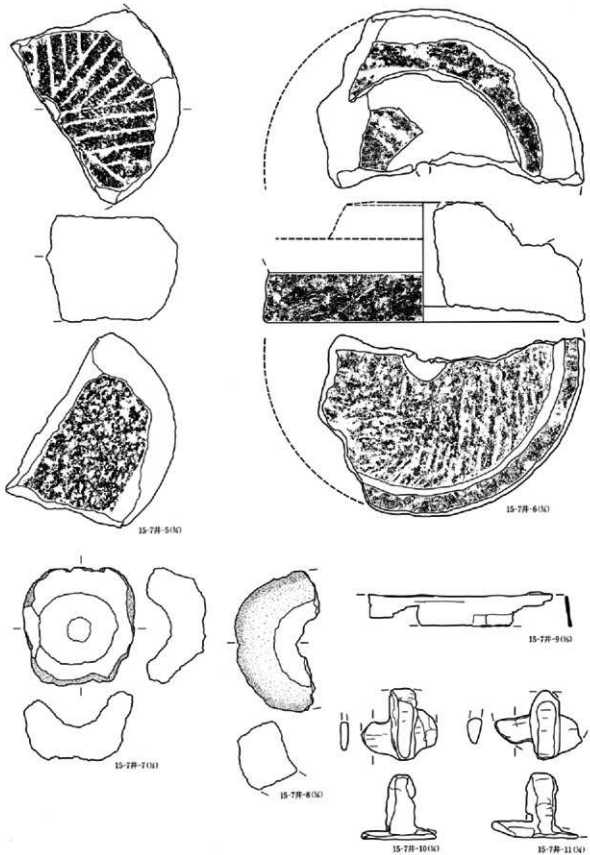
第142図　15-6号井戸出土遺物



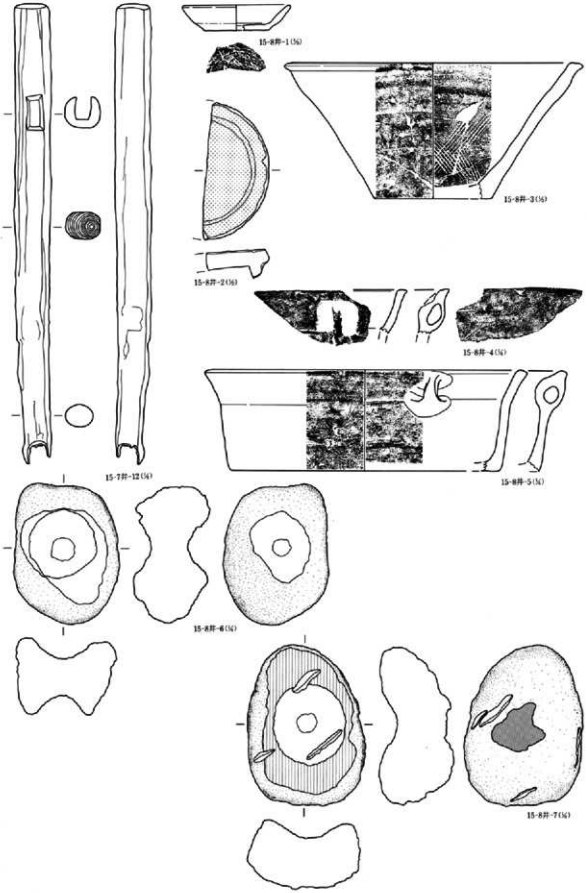
第143図　15-6・7号井戸出土遺物



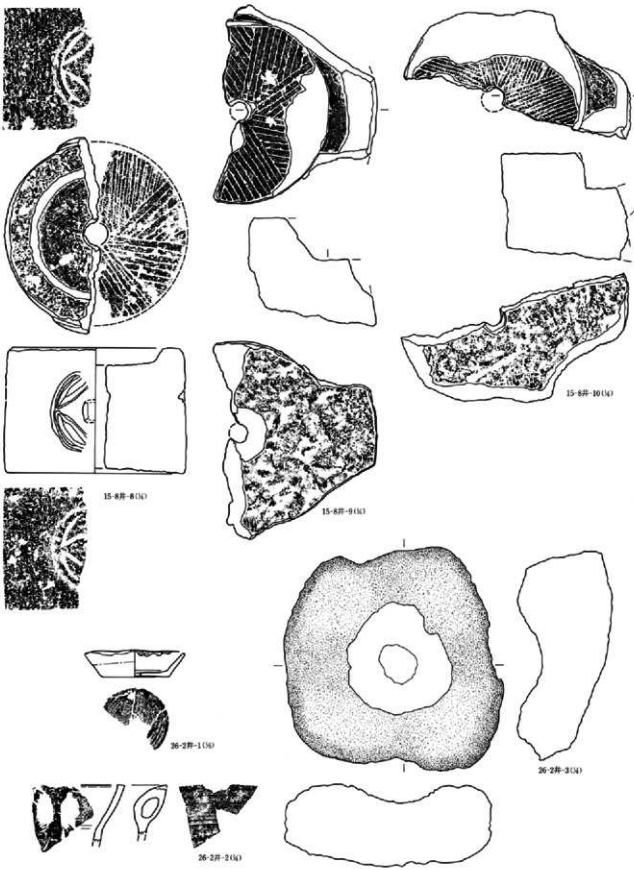
第144図　15-7号井戸出戸遺物



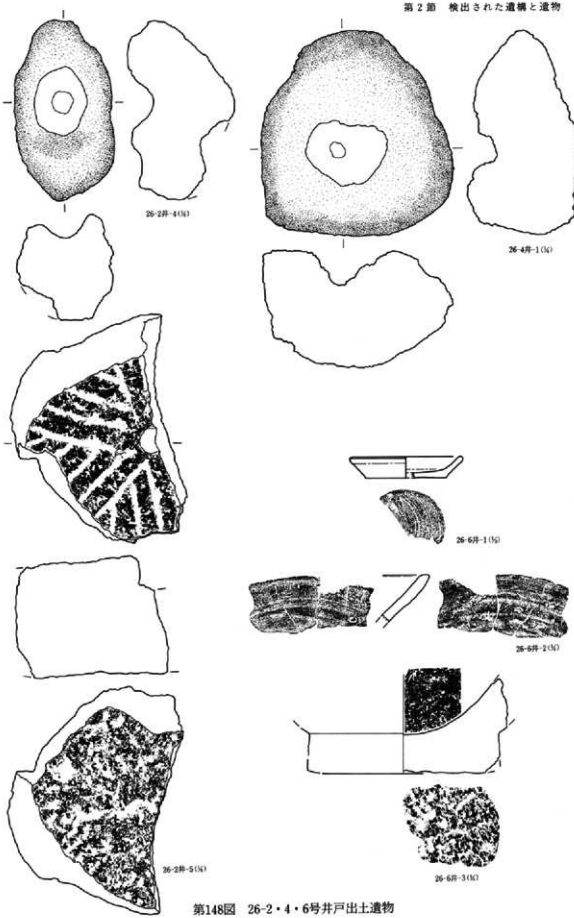
第145図　15-7号井戸出土遺物



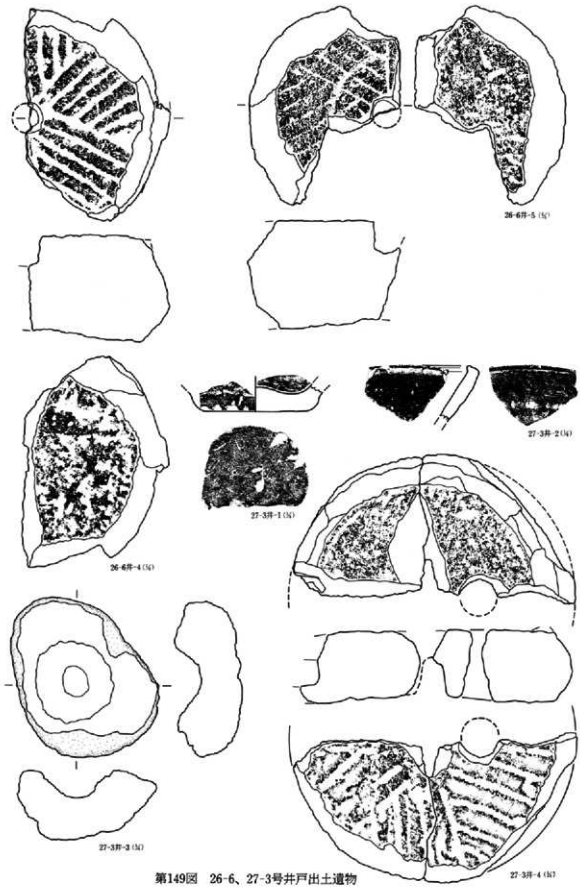
第146図　15-7・8号井戸出土遺物



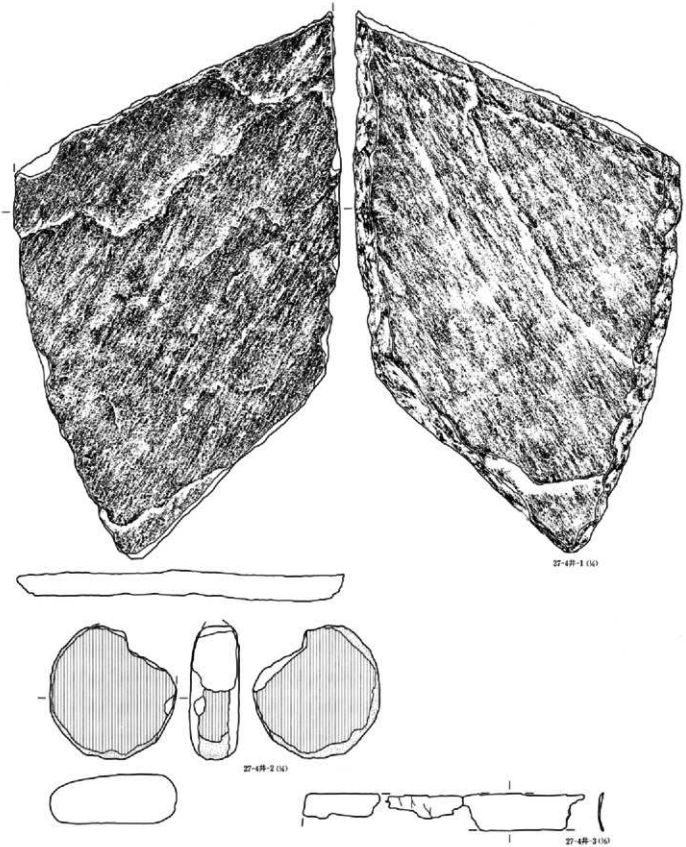
第147図　15-8、26-2号井戸出土遺物



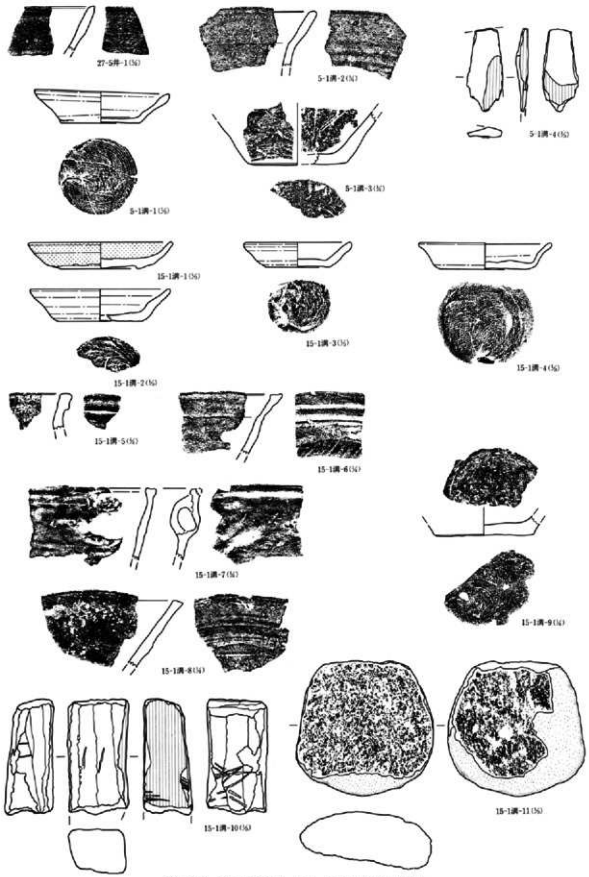
第148図　26-2・4・6号井戸出土遺物



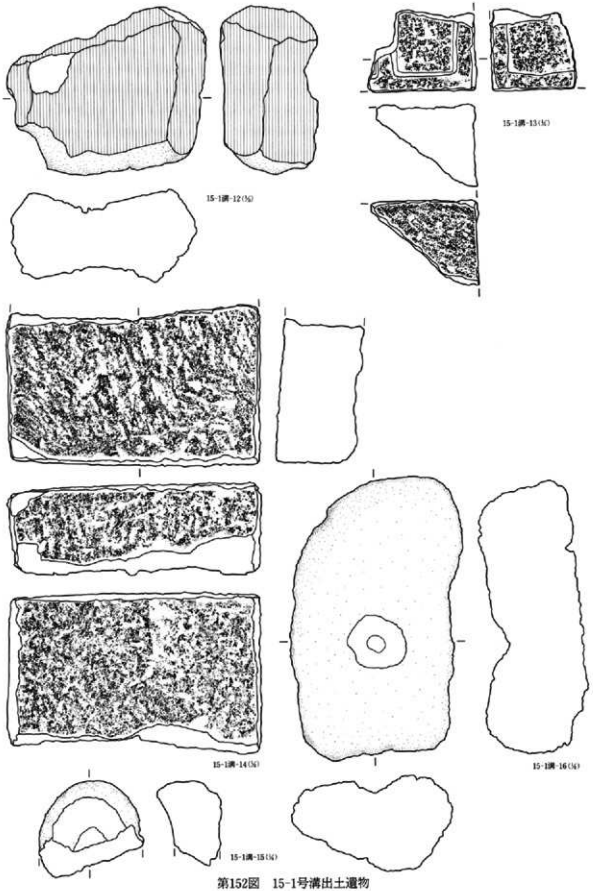
第149図　26-6、27-3号井戸出土遺物



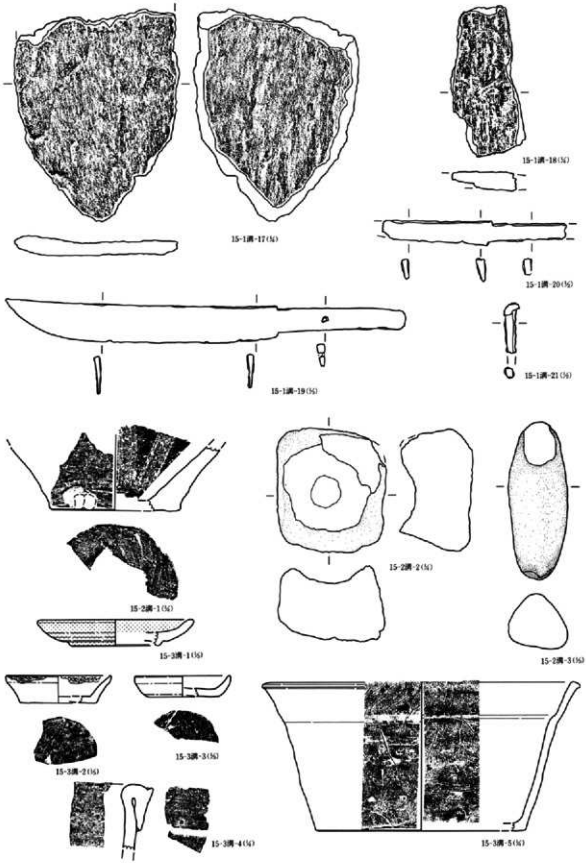
第150図　27-4号井戸出土遺物



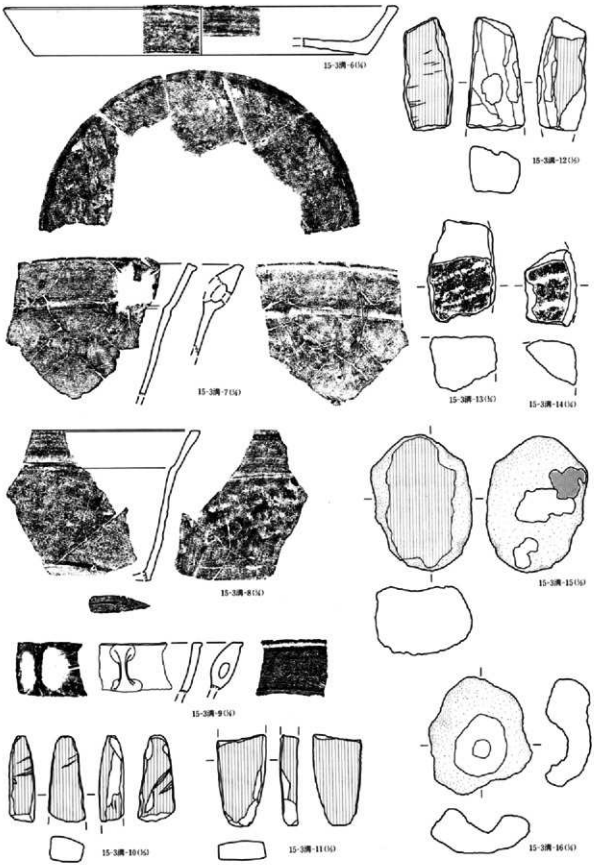
第151図　27-5号井戸、5-1、15-1号溝出土遺物



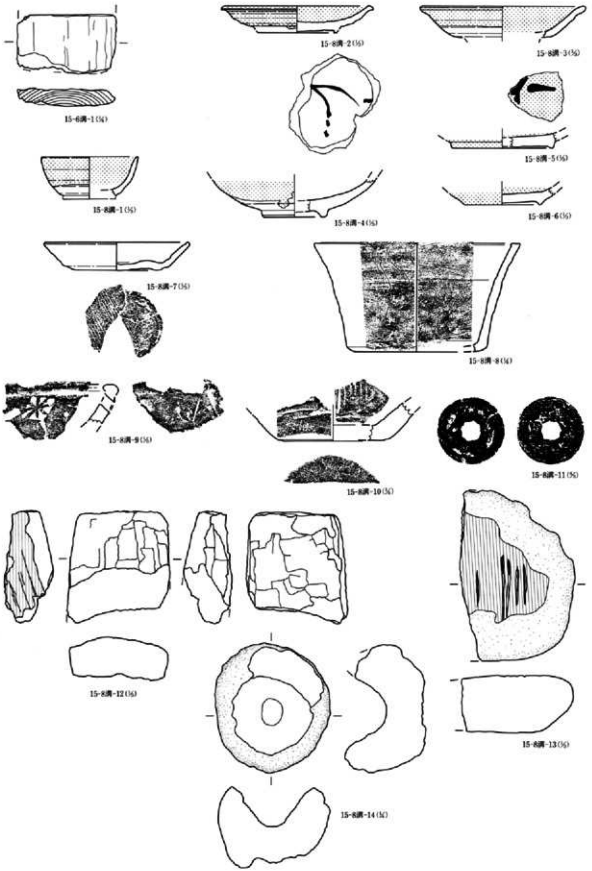
第152図　15-1号溝出土遺物



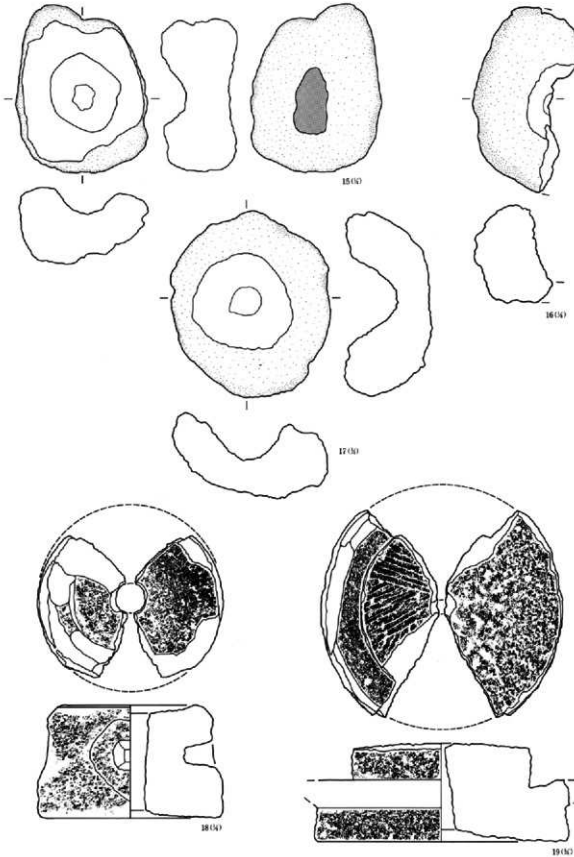
第153　15-1～3号溝出土遺物



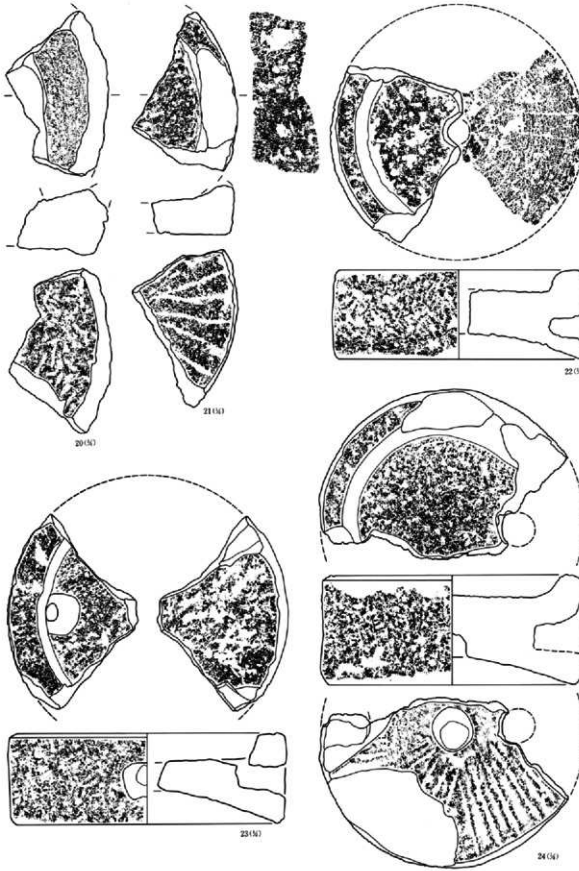
第154図　15-3号溝出土遺物



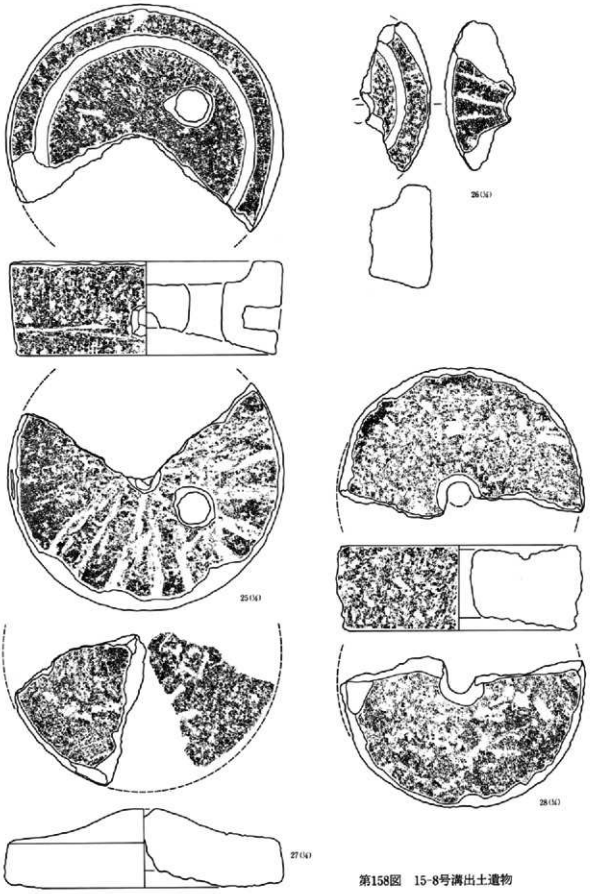
第155図　15-6・8号溝出土遺物



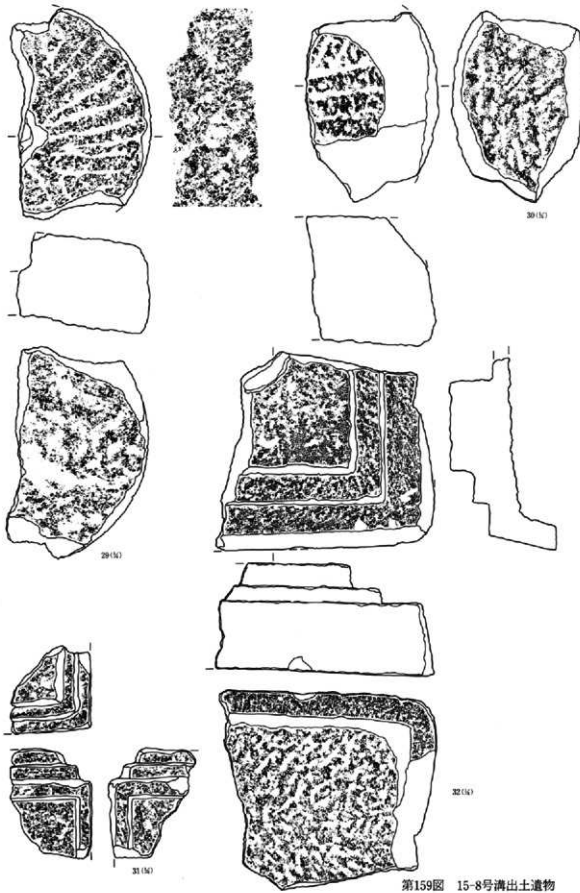
第156図　15-8号溝出土遺物



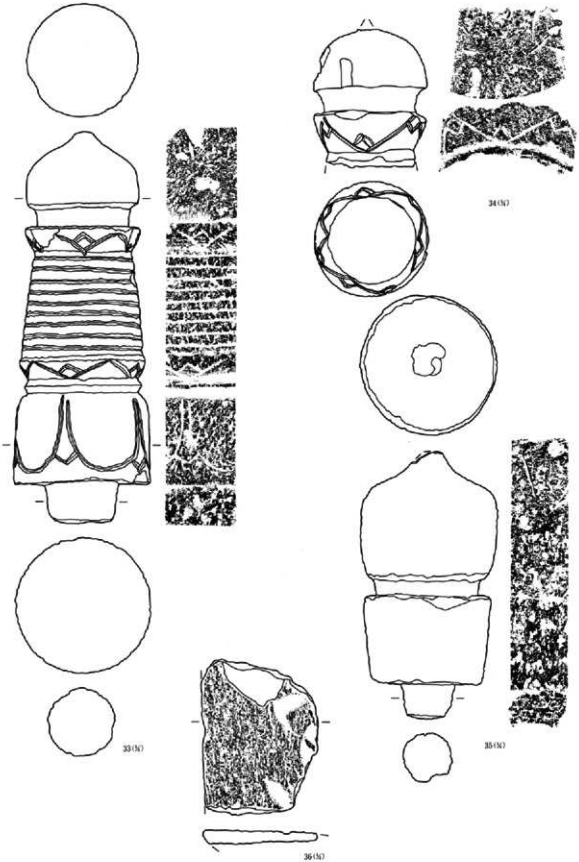
第157図　15-8号溝出土遺物



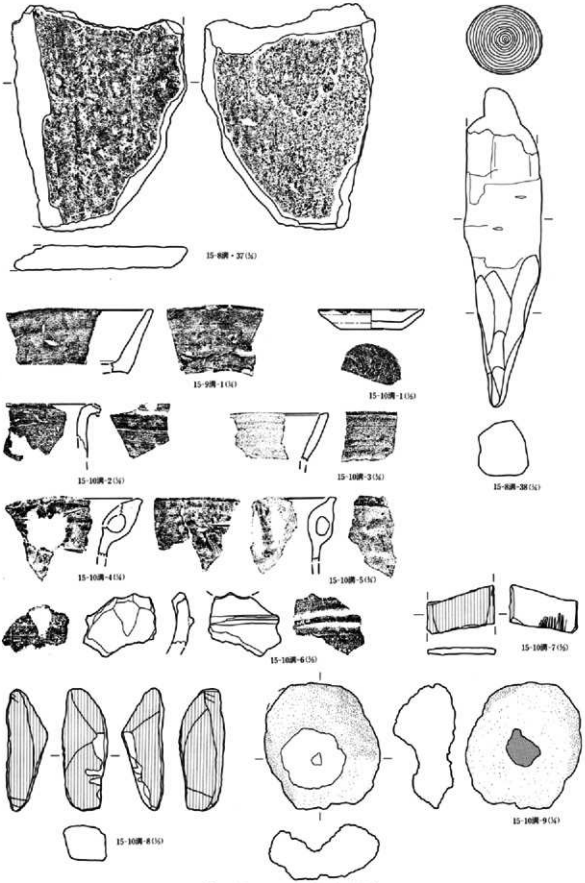
第158図　15-8号溝出土遺物



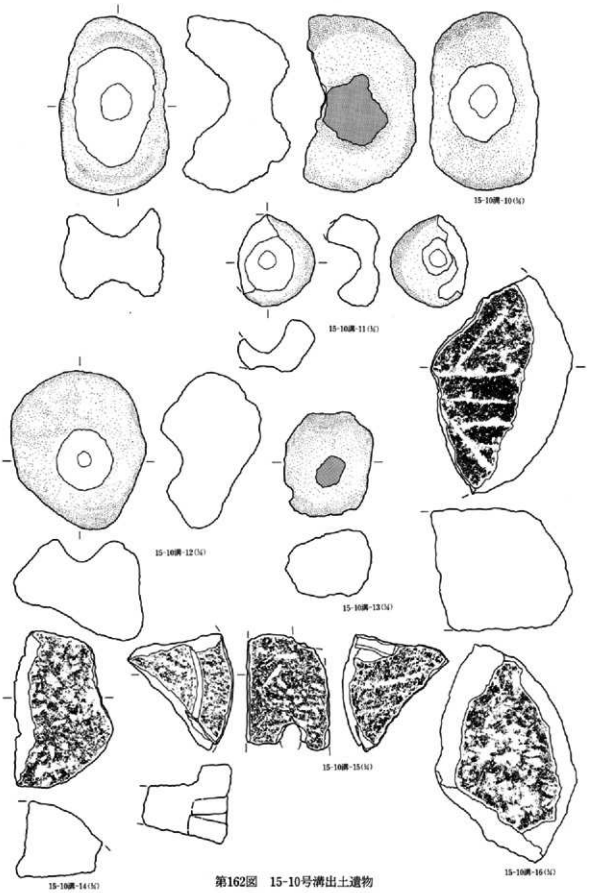
第159図　15-8号溝出土遺物



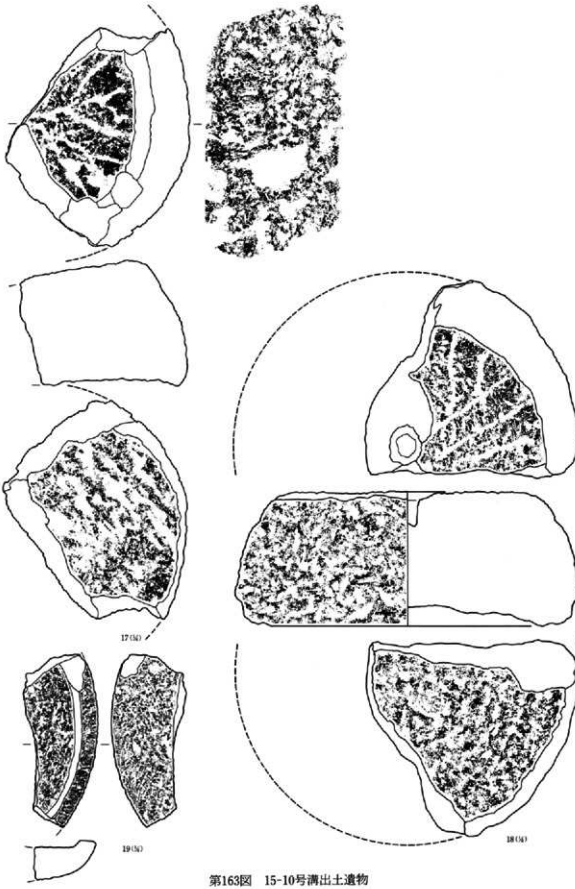
第160図　15-8号溝出土遺物



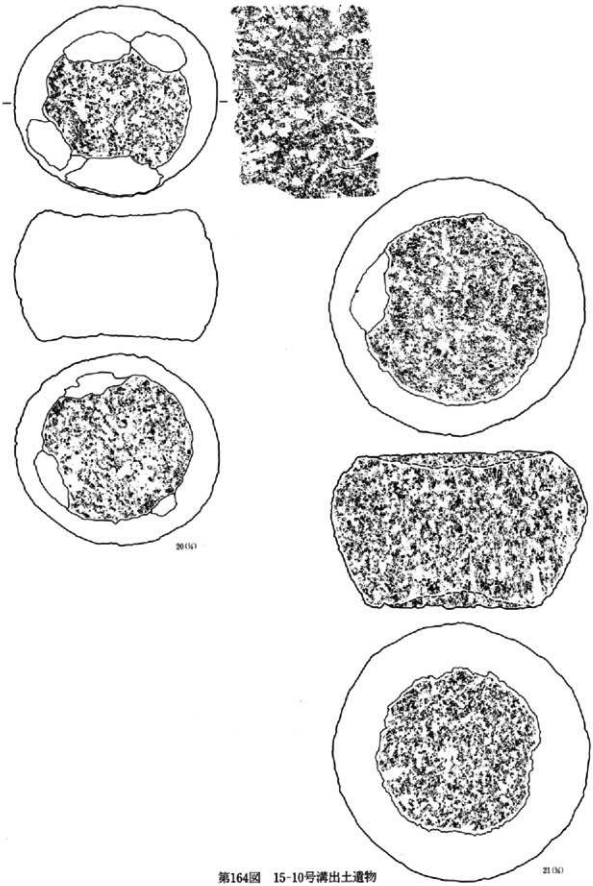
第161図　15-8～10号溝出土遺物



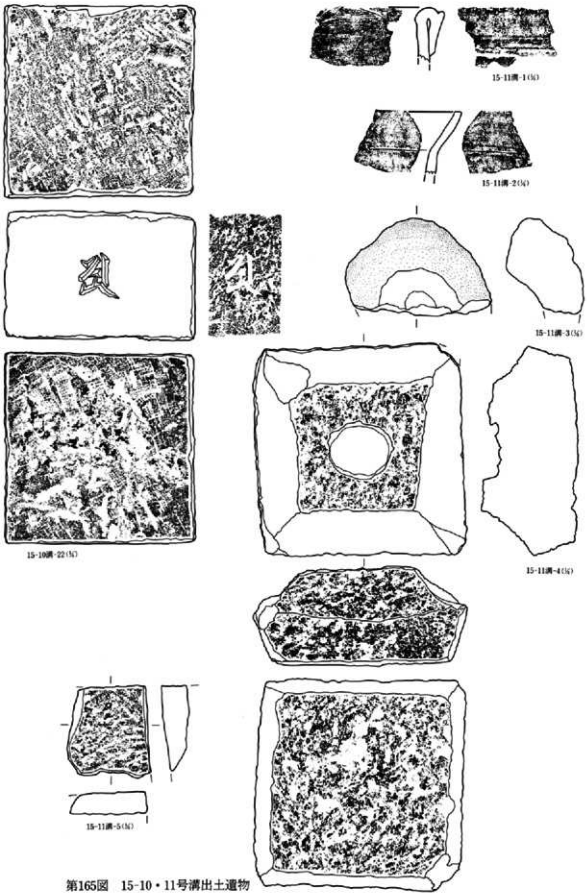
第162図　15-10号溝出土遺物



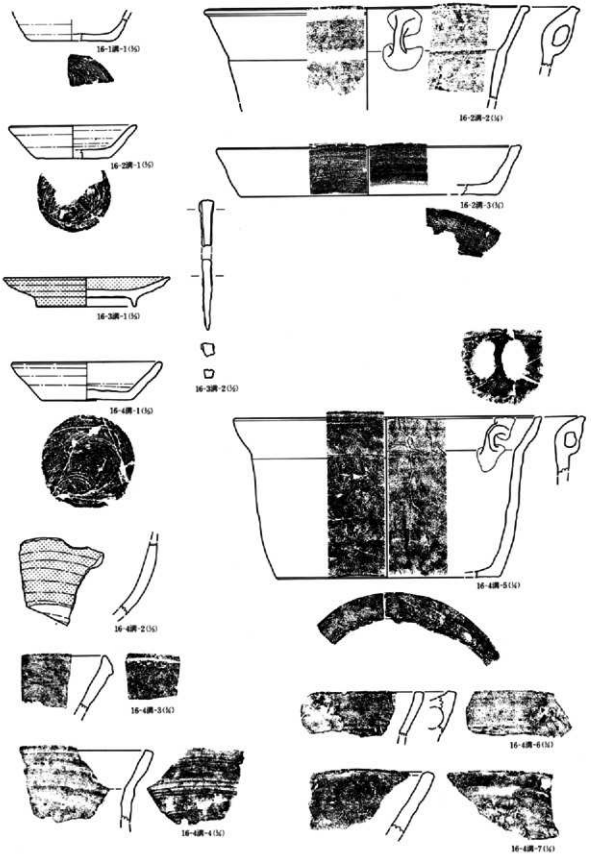
第163図　15-10号溝出土遺物



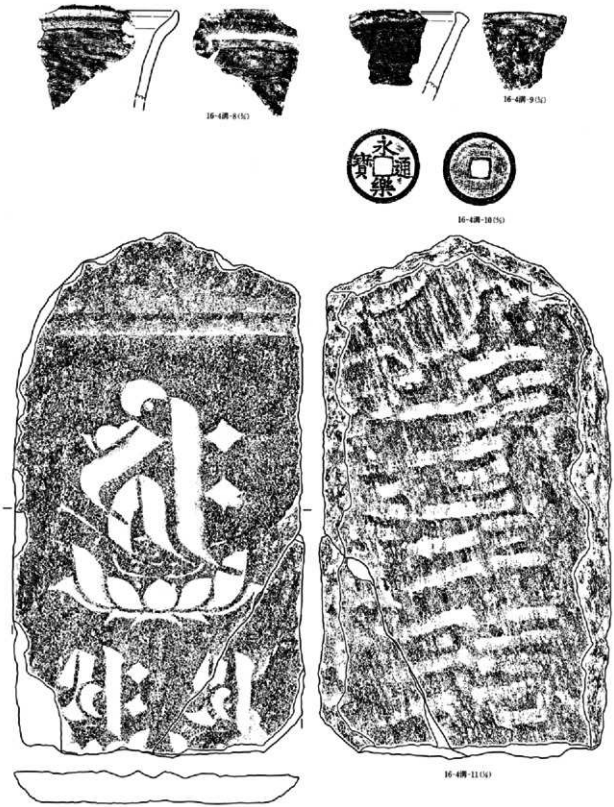
第164図　15-10号溝出土遺物



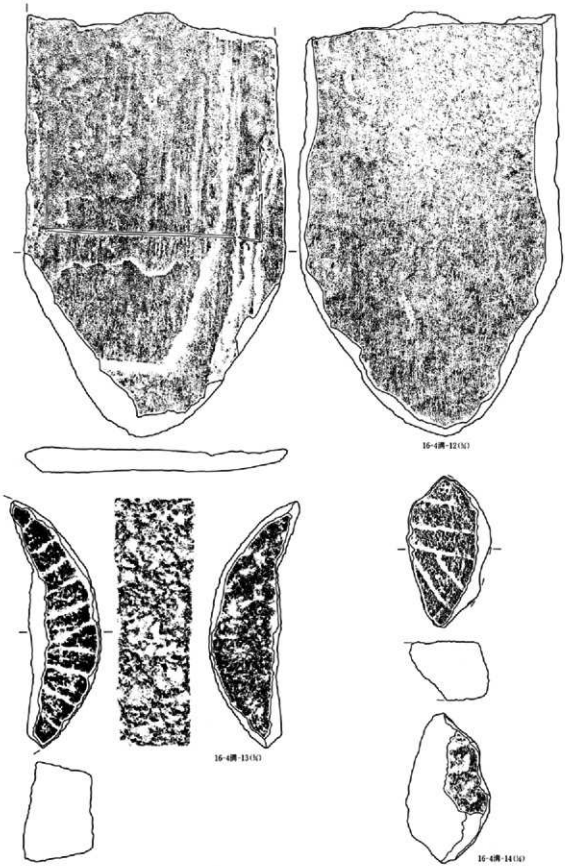
第165図　15-10・11号溝出土遺物



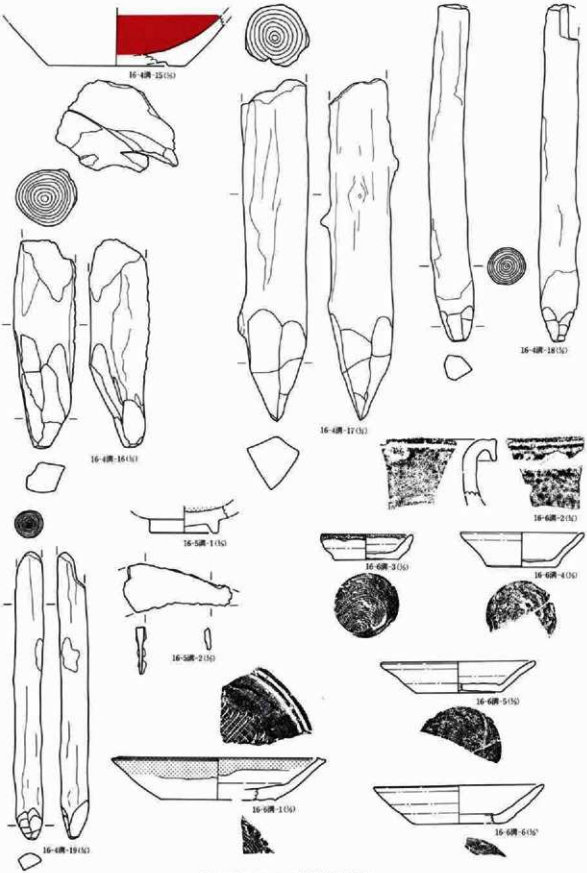
第166図　16-1～4号溝出土遺物



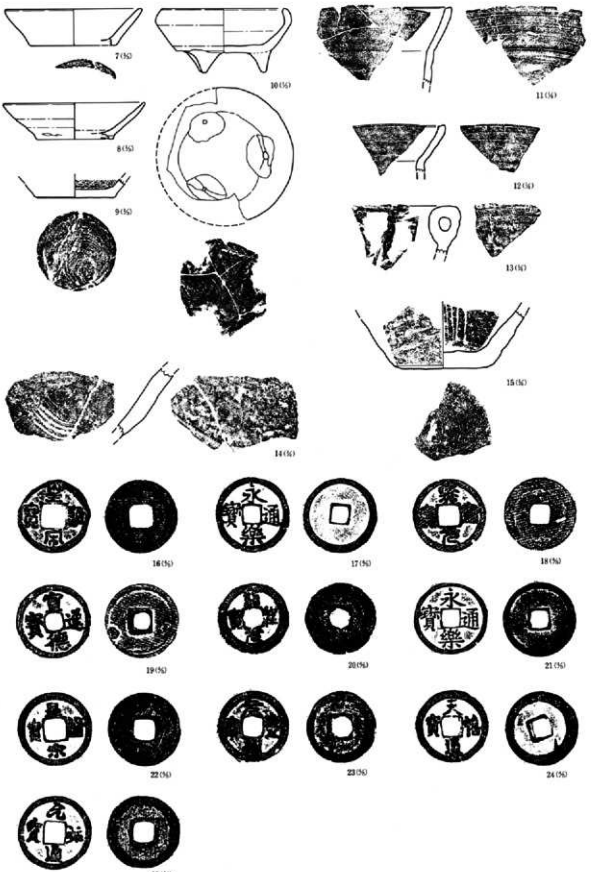
第167図　16-4号溝出土遺物



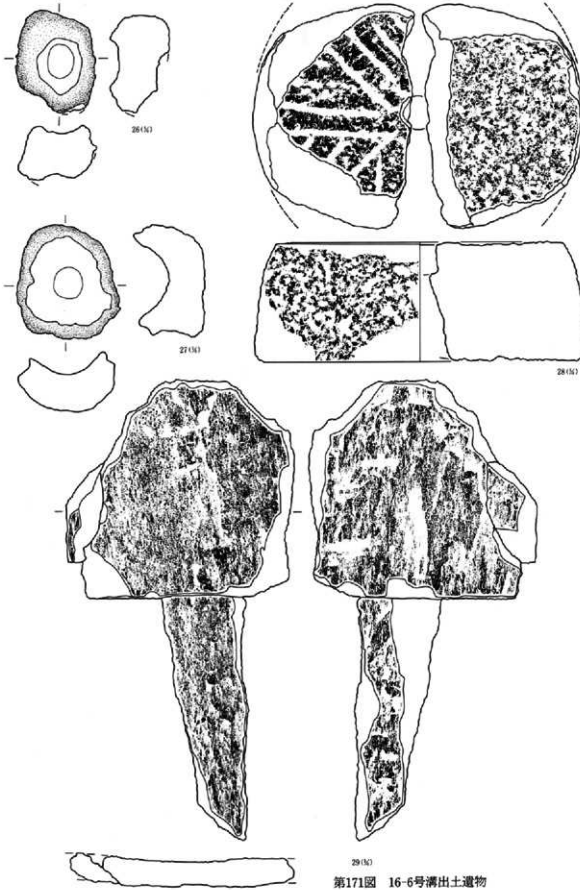
第168図　16-4号溝出土遺物



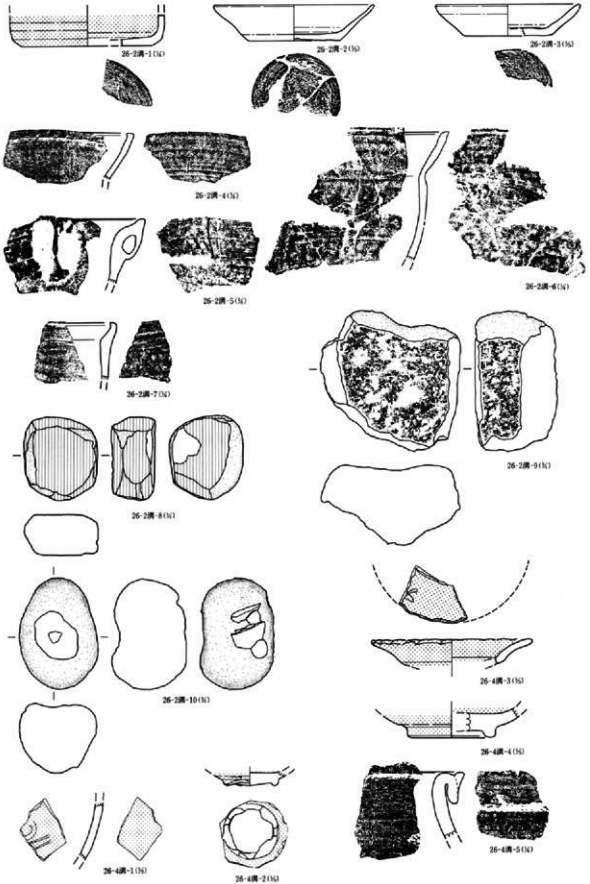
第169図　16-4～6号溝出土遺物



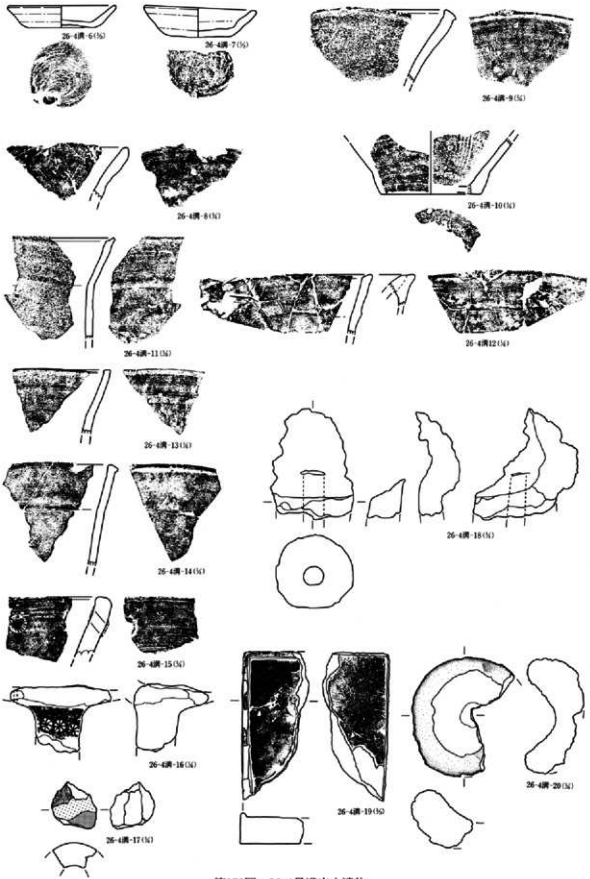
第170図　16-6号溝出土遺物



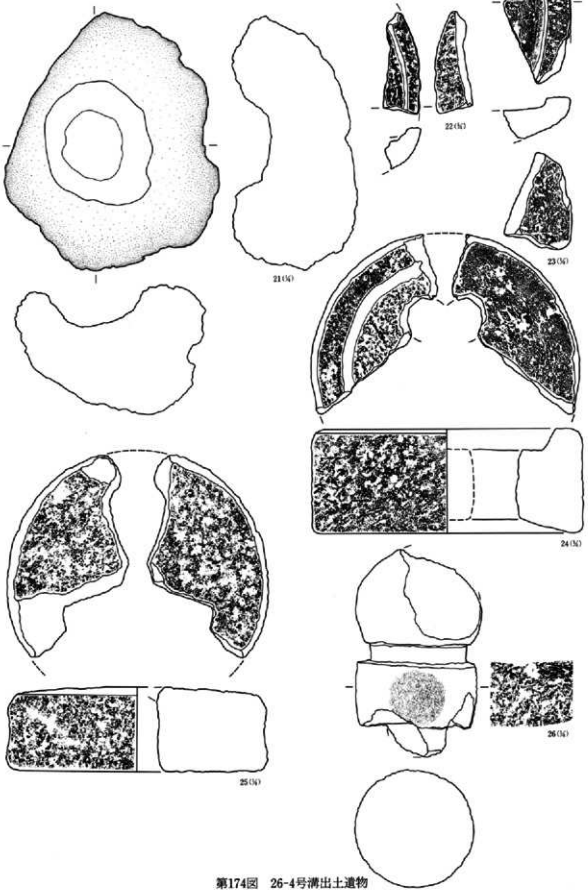
第171図　16-6号溝出土遺物



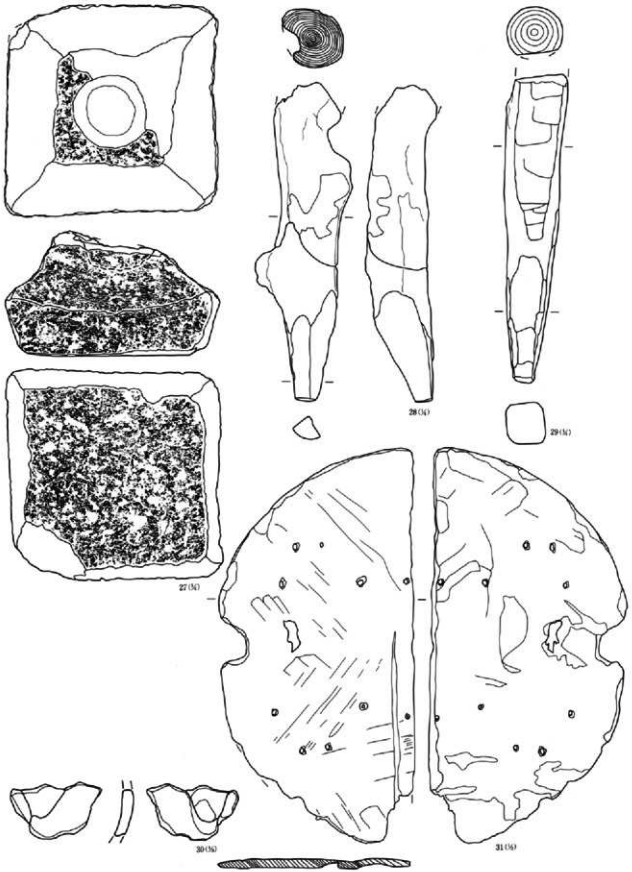
第172図　26-2・4号溝出土遺物



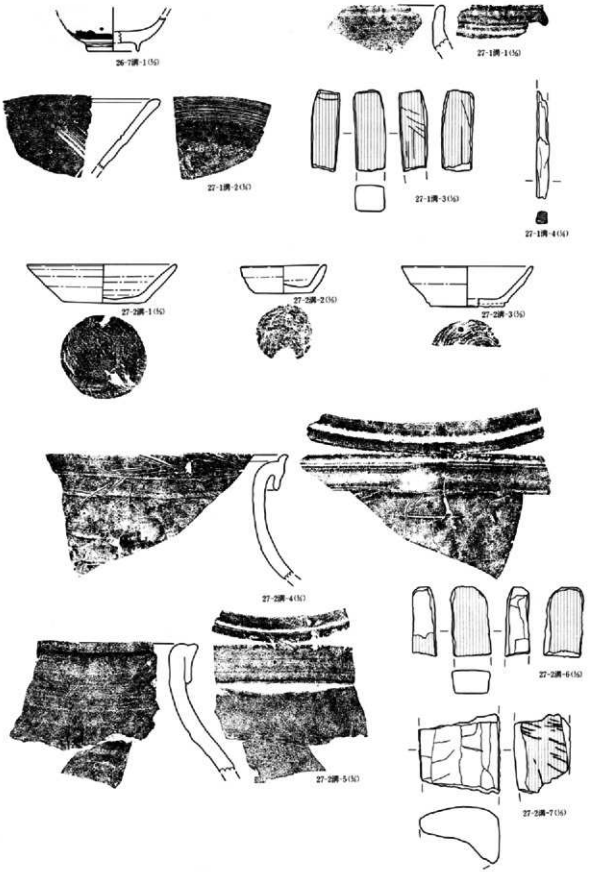
第173図　26-4号溝出土遺物



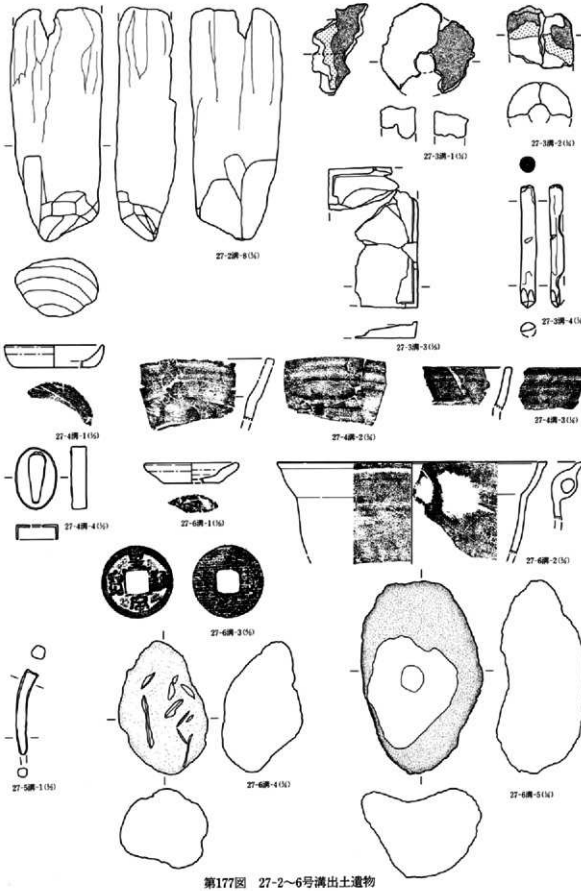
第174図　26-4号溝出土遺物



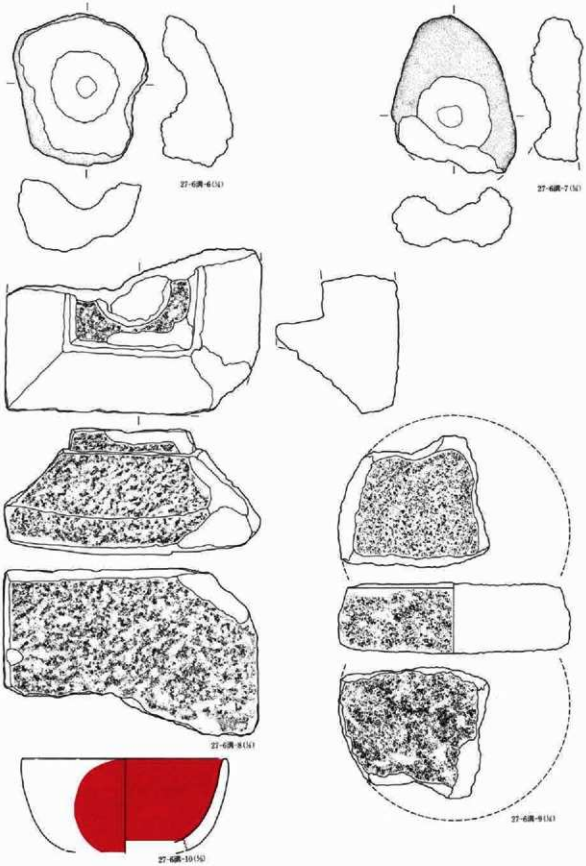
第175図　26-4号溝出土遺物



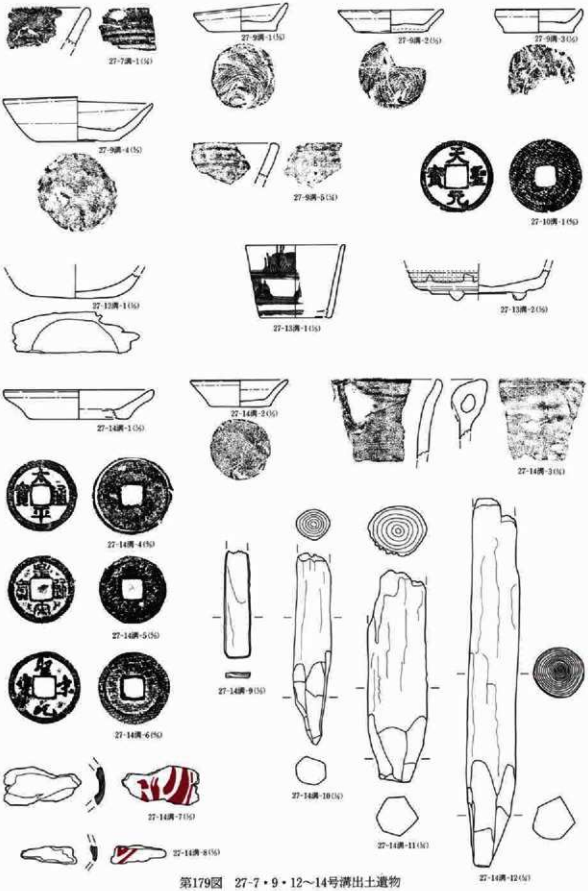
第176図　26-7、27-1・2号溝出土遺物



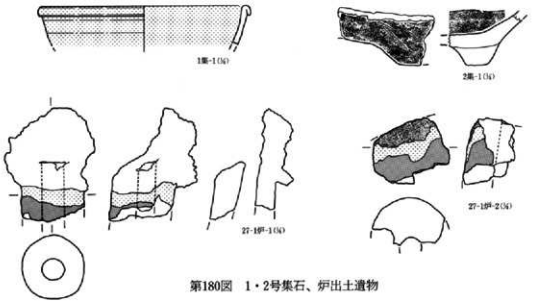
第177図　27-2～6号溝出土遺物



第178図　27-6号溝出土遺物



第179図　27-7・9・12～14号溝出土遺物



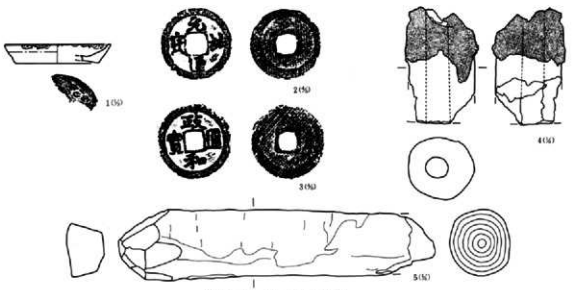
第180図　1・2号集石、炉出土遺物

7）ピット（第181図）

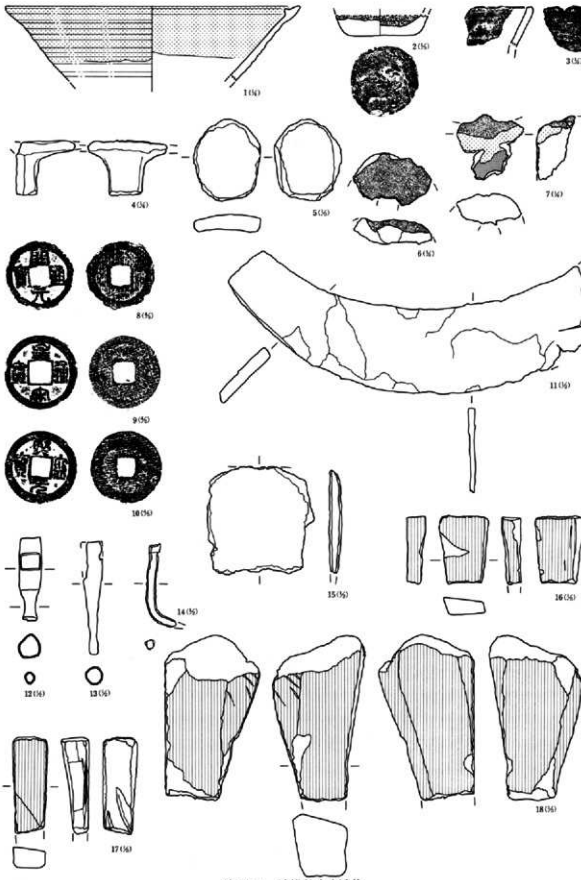
調査区全域から多数のピットが検出された。遺物を伴うものは少なく、確実な時期認定ができるものは少なかったが、覆土から中・近世に属するものと判断できる。27区内のピットより、土師質土器皿、羽口、古銭、木杭などが出土している。

8）遺構外出土遺物（第182・183図）

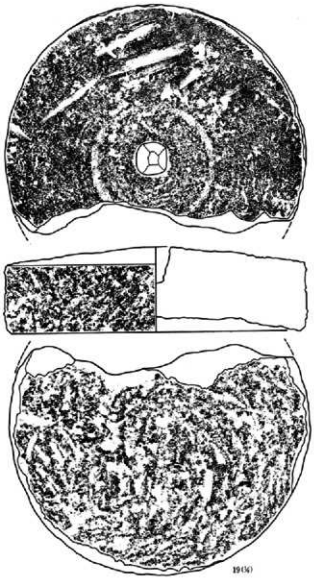
調査区内の表土、および遺構外からもかなりの量の遺物が出土している。遺物はほとんどが中・近世に属するもので、近年の圃場整備によって本来所属する遺構から移動したものである。遺物には陶器鉢、土師質土器皿、軟質陶器鍋・火鉢、円盤形土製品、羽口、古銭、各種の金属器、砥石、石臼、板材などがある。



第181図　ピット出土遺物



第182図　遺構外出土遺物



第183図　遺構外出土遺物

第５章　浜川長町遺跡

第１節　調査の概要

１．調査の概要

浜川長町遺跡は、10地区38・39・49・50・60区、11地区41・51区にあたる。調査区は縦横に走る道路によって分断されていたため、道路によって区切られた区画ごとに調査を行った。その結果、調査区は６つの小区画に分けられ、高崎駅よりから１、２、３、４、５、６区画と命名した。遺構名は、調査時のものをそのまま使うことを原則とするが、溝については報告書作成時に区毎に通しナンバーを付け直した（凡例参照）。

調査は、上位から浅間Ｂ軽石（以下As-B）下、泥流堆積物上面、榛名－渋川テフラ（以下Hr-FA）下、榛名－有馬火山灰？（以下Hr-AA）下、浅間Ｃ軽石（以下As-C）下の合計５面で行った。区画によっては、試掘の結果遺構が確認されなかったため、調査を行わなかった面もある。また、一部の区画では、As-C下のシルト層中に２～３枚の黒色土層が認められ試掘を行った。その際、水田などの遺構は発見されなかったため、それ以上の調査は行わなかった。

なお、本遺跡では、榛名－伊香保テフラ（以下Hr-FP）下面での調査を行わなかった。これは試掘の結果遺構なしと判断したためであるが、隣接する浜川高田遺跡での状況を見る限り、水田遺構が継続していたと考えられる。より下位のHr-FA下の状況を見ると、本遺跡付近が当時の水田域の境界にあたる可能性が高い。したがって、周辺の土地利用を考える上でも有益な所見が得られたものと思われ、それらのデータが失われたことは非常に残念である。大きな反省点として今後の教訓としたい。

２．基本土層

本遺跡の地形的な立地や基本的な土層の堆積状況は、浜川館・浜川高田遺跡に一致する。ただし、北西側の５・６区画では、Hr-FA下の黒色土下位には厚い砂礫層が堆積しており、As-Cは認められなかった。また、１～４区画ではHr-FAとAs-Cの間にごく薄いシルト層が挟まれていた。これは地質分析の結果、Hr-AAである可能性が指摘されている。このシルトは浜川館遺跡でも部分的に認められたが、層として確認できたのは本遺跡のみである。

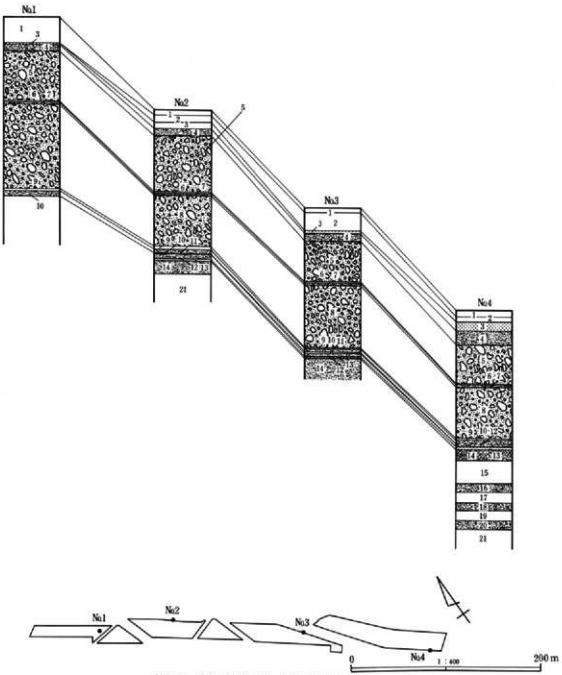
調査区は６区画から１区画に向かって緩やかに傾斜し、６区画最北端では現地表面の標高地が136mなのに対し、１区画南端では129mと７ｍの高低差がある。本遺跡も近年の圃場整備による削平を部分的に受けてい

基本土層
1　現表土
2　暗褐色砂質土　As-B含む。
3　As-B
4　黒色粘質土　As-B下水田耕作土。
5　Hr-FP泥流。褐色～にぶい黄橙色の砂質土。
6　Hr-FP
7　黒色粘質土　Hr-FP下水田耕土。一部灰色砂層含む。
8　Hr-FA泥流。褐灰～灰黄褐色砂～砂礫層。薄い黒褐色粘質土層を挟む部分あり。
9　Hr-FA
10　黒色粘質土　Hr-FA下水田耕作土。
11　灰黄褐色シルト質土　Hr-AAもしくはそれに伴う洪水層か。
12　黒色粘質土　10層に類似。
13　にぶい黄褐色軽石　As-C
14　黒色粘質土　As-C下水田耕作土。一部植物遺体含む。
15　灰黄褐色シルト
16　黒色粘質土
17　灰黄褐色シルト
18　黒色粘質土
19　灰色砂礫
20　黒色粘質土
21　灰黄褐色シルト

第184図　浜川長町遺跡　基本土層（１）

るが、他の２遺跡に比べ削られた範囲は狭く、ほぼ全ての区画でAs-B（３層）が残っていた。

５層と８層はそれぞれはHr-FPとHr-FAに伴う泥流層である。５層が80～120cm、８層が110～180cm程度の厚さである。ともに上流側がより厚く、下流側ほど薄くなっている。泥流層の直下には、それぞれHr-FP（６層）、Hr-FA（９層）の降下火山灰層が堆積し、その下位に黒色土が認められる。水田が作られていた区域では、この黒色土が水田耕土となっている。４区より下流側では、Hr-FAとAs-Cの間の黒色土中に、先述のHr-AAと思われる細粒のシルト層が挟まれている。13層がAs-Cであり、１～４区画で認められた。その下位には水田耕土となる黒色土があり、シルトから砂礫層に移行していく。このシルト層は、１～３枚の黒色粘質土を挟むことが確認されている。



第185　浜川長町遺跡　基本土層（２）

第２節　検出された遺構と遺物

１　浅間Ｃ軽石（As-C）下

本遺跡では、４区画以南においてAs-Cが確認された。軽石は厚いところで11cm、薄いところでも5cm程の厚さで堆積していた。軽石層は他の構成物を含んでおらず、一次堆積の状態と認められる。全体に北西から南東方向に緩く傾斜しているが、２区画の南側が浅い谷となっている。４区画北端と１区画南端では、約４ｍの比高差がある。

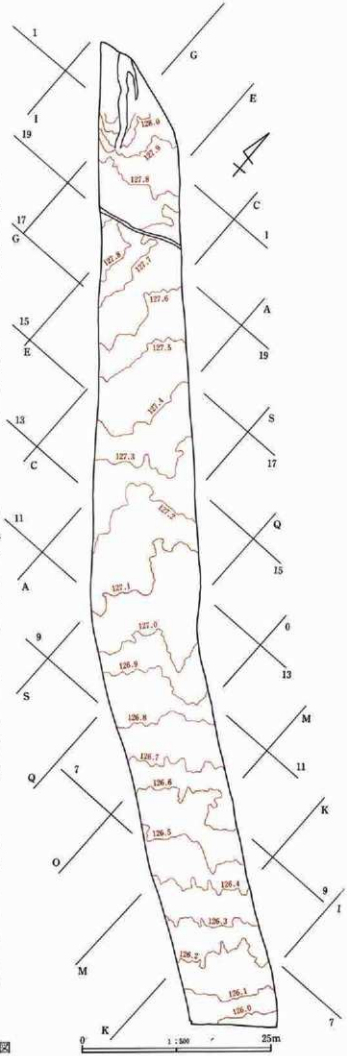
軽石直下からは、２～４区画では水田が、１区画からは遺物の集中箇所などが見つかっている。５・６区画では、Hr-FA下位の黒色土の下は厚い砂～砂礫層となっており、As-Cの堆積は認められなかった。以下、各区画ごとに記載する。

１）１区画（第186図）

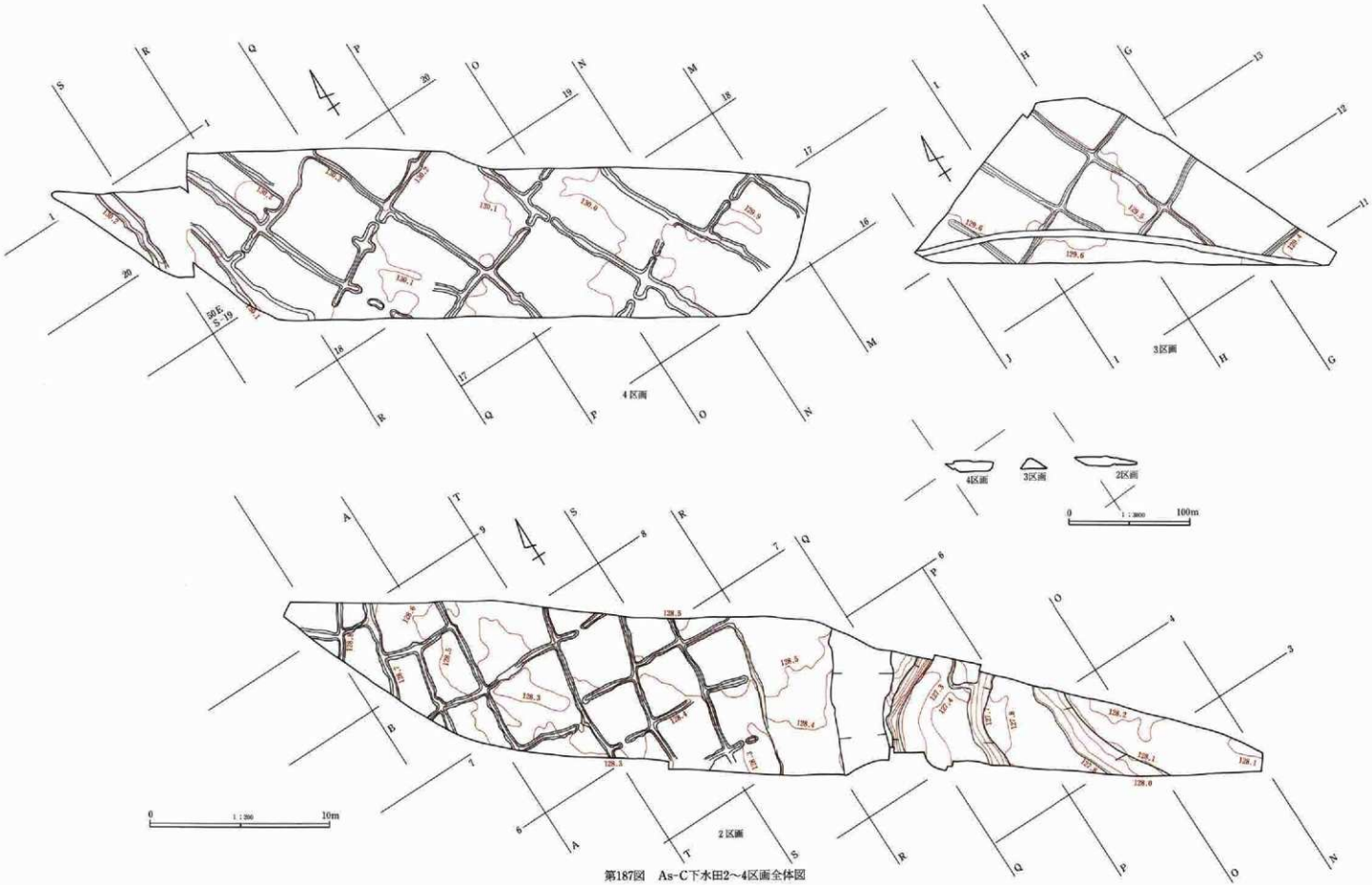
路線に沿って北西から南東に緩く傾斜する。北端部に幅の狭い舌状の高まりが見られる他は平坦な地形で、水田址は見つかっていない。プラント・オパール分析でもイネは検出されず、水田耕作の可能性は否定されている。水田の作られていない範囲は、南側に隣接する浜川高田遺跡にも続いており、全長300m近くに及ぶ。

溝などの遺構は見られなかったが、南端で遺物の集中箇所が見つかっている（第188図）。遺物は直径５ｍ程度の範囲にまばらに分布していた。分布密度はあまり高くなく、復元率も低かった。ただし、土中に埋没しておらず、土器の廃棄とAs-Cの降下との間に大きな時間差は認められない。遺物は樽式系の土器で、器種には甕、台付甕があった（第191図１～６）。

この遺物集中から北西に30m程の所からは、木の根株が出土している（第189図）。木の幹は無く、根株のみが残っていた。幹の根本部分の直径は30cm程で、かなり大きな木である。As-C下の黒色土中に深くめり込んでおり、他から流されてきたような状況は認められない。上面は腐食しており、人為的に伐採されたか否かは不明である。Hr-FA下の水田面では全く確



第186図　As-C下1区画全体図

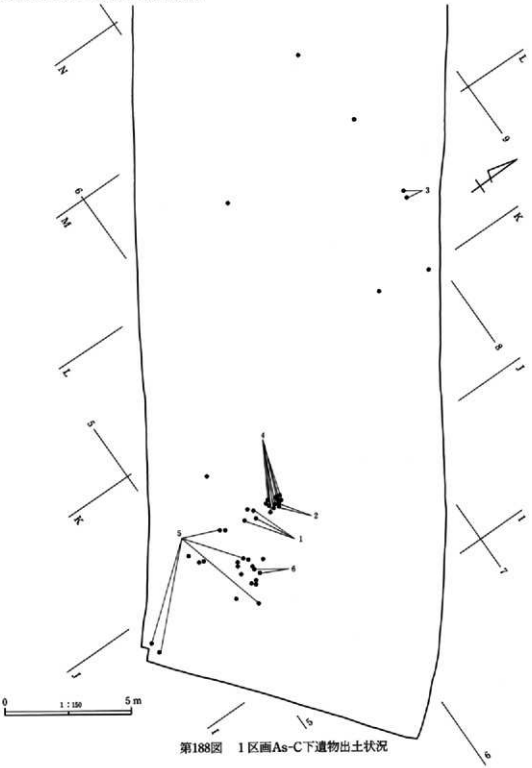


第187図　As-C下水田2～4区画全体図

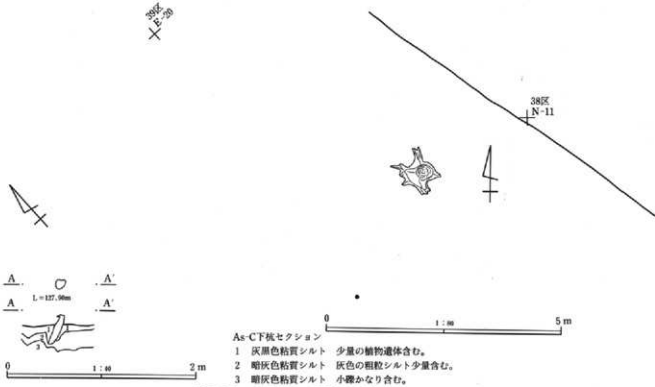
認できなかったことから、その段階ではすでに失われていたようである。

10地区39区E-19グリッドでは、木の杭が１本見つかっている（第189図）。板材を利用したもので、上部は欠損している。調査面から20cm程の深さに打ち込まれていた。杭の掘り形にはAs-Cは含まれていないため、本調査面に属するものと判断した。樹種同定の結果、コナラ属クヌギ節と判定されている。

ここでは、前述のようにかなり大きな木の根株が存在することから、比較的乾燥した状況であった可能性がある。ただし、プラント・オパール分析の結果では、ヨシ属が卓越する湿地的な環境であったと推定され、他の水田域と大きく変わってはいない。



第188図　１区画As-C下遺物出土状況



第189図　１区画As-C下杭、木株

２）２区画（第187図）

北半で水田址が見つかっている。畦畔は幅20～50cm・高さ3～5cmほどでしっかりと作られていたが、水田の大きさ・形状は北側の３・４区画に比べやや不揃いである。49区と50区の境界付近で土地の傾斜方向が若干変わっており、それに合わせて畦畔の方向も変化している。畦畔は全て小畦で、特に大規模な大畦は認められない。水口は全て東西方向の小畦に作られていた。区画の中央部が水田の縁となっており、水田面よりも若干高くなっている。その南側は浅い谷となっており、上幅４～５ｍ・深さ１ｍほどのかなり大きな溝が調査区を蛇行しながら横切っている（２－１溝、第190図）。この溝では、覆土下位にAs-Cが10～20cmほどの厚さで堆積していた。軽石の下位には植物遺体を多量に含む黒色土層があり、さらに下は砂礫層となっている。おそらくAs-Cが降下する以前の流路であったものと思われる。

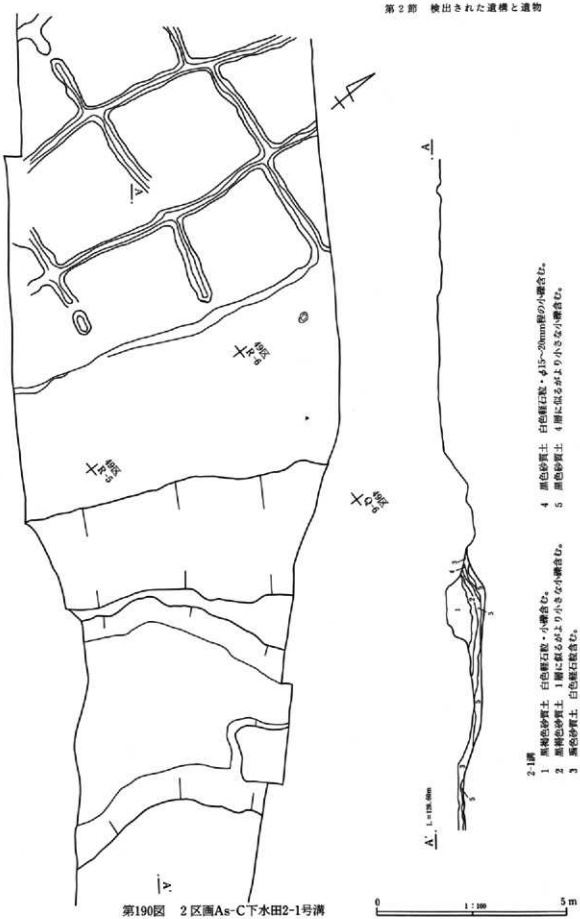
水田脇の高まった部分から、板材を加工した木製品が１点出土している（第191図-7）。樹種同定の結果、クリ製と判定されている。

３）３区画（第187図）

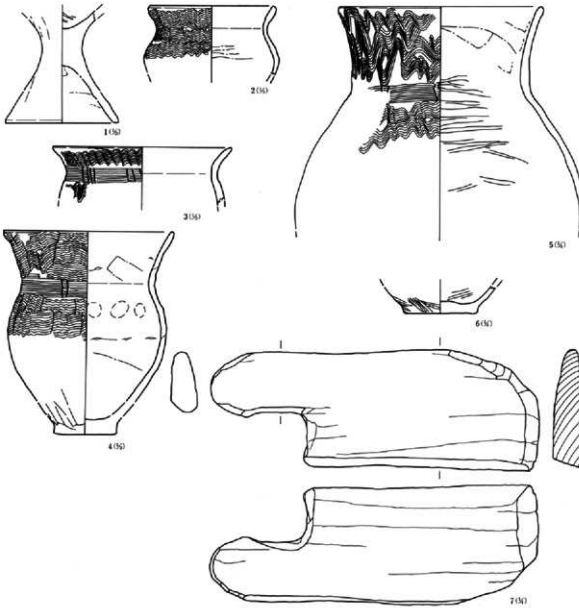
全面に水田が作られていた。縦横の小畦が碁盤の目のように整然と並び、水田の大きさ・形状ともに規格性が高い。大畦は見られない。畦畔は幅30cm、高さ3～5cm程である。

４）４区画（第187図）

全面に水田が作られる。畦畔の方向や水田の形状は３区画に一致し、２区画の北半から一続きの水田と思われる。水田の北側の縁は検出できず、範囲を確定することはできなかった。畦畔は幅30～50cm、高さ3～10cm程度で、比較的明瞭であった。若干太い畦畔もあったが、かなり不明瞭で、積極的に大畦と認めることはできなかった。水口は大半が横畦に作られている。



第190図　２区画As-C下水田2-1号溝

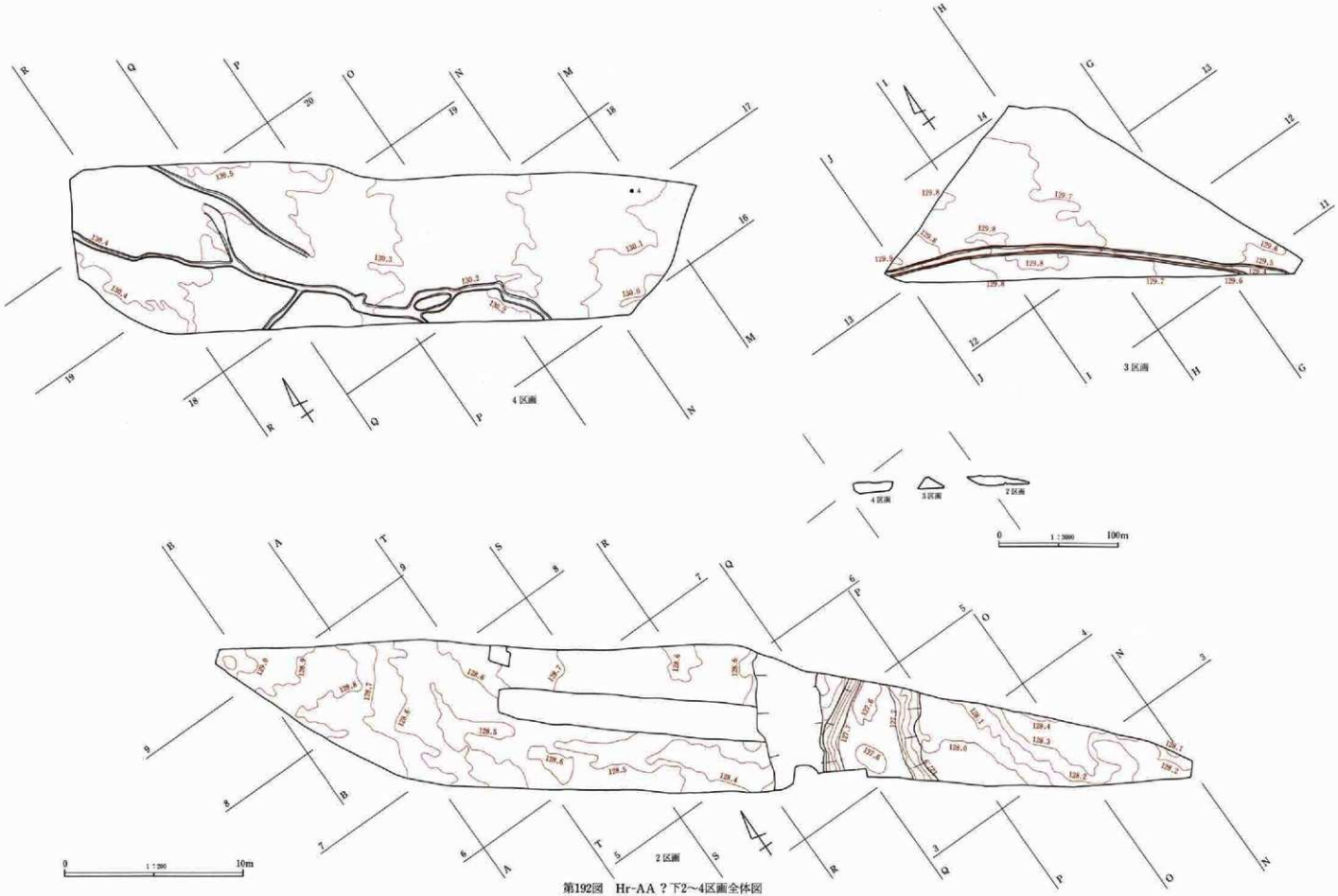


第191図　As-C下出土遺物

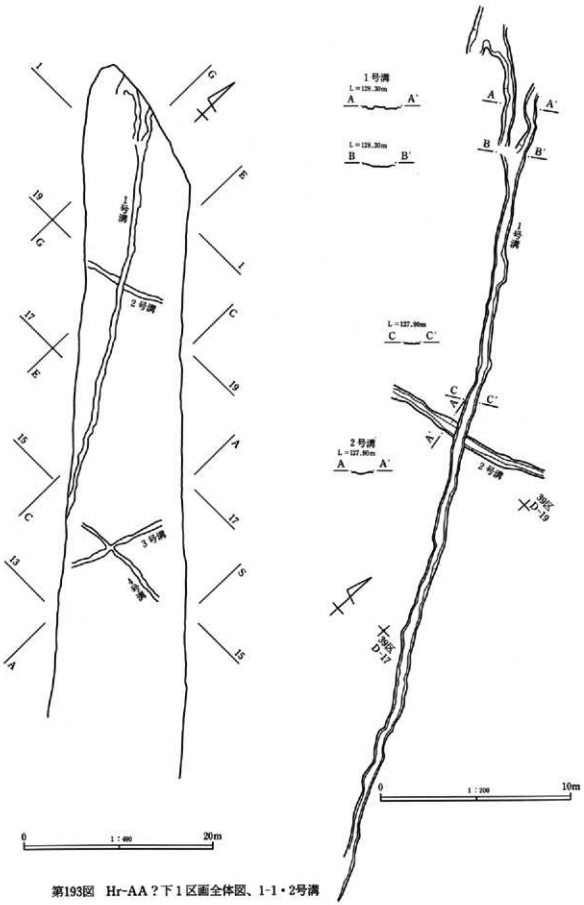
２　榛名ー有馬火山灰（Hr-AA）？下

１区画から４区画にかけて、Hr-FAとAs-Cの間に黄色の凝灰質シルト層の堆積が認められた。このシルト層については、５世紀に榛名山から噴出したとされるHr-AAの降下火山灰である可能性が指摘されている（付編自然化学分析参照）。シルト層は、４・３区画では全面に堆積していたが、２区画ではHr-FAに伴う泥流によって一部削られいる。１区画では、北半に部分的に認められたのみであった。シルト層の確認できた３・４区では、調査区両端での比高差が約１ｍあり、As-C下面同様北西から南東方向に向かって傾斜している。

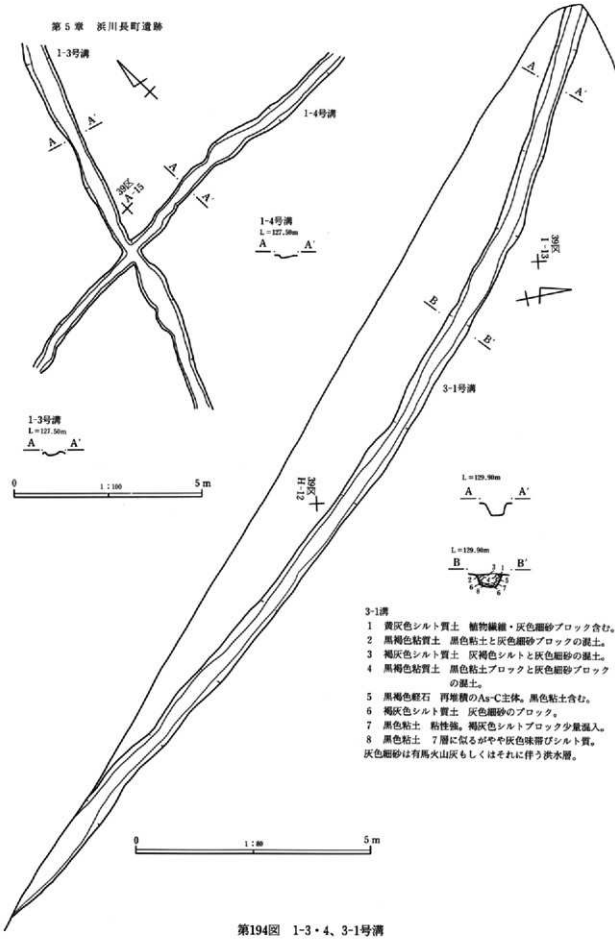
このシルト層直下では、１区画で溝４条、３区画で溝１条、４区画では自然の流路と考えられる浅い溝が見つかった。２区画では、As-C下の水路がこの段階まで継続している。５・６区画ではこの層が堆積していなかったため、調査は行わなかった。明確な水田遺構は確認できなかったが、１区画ではイネのプラント・オパールが検出されており、水田耕作の可能性が指摘されている。以下、各区画ごとに記載する。



第192図　Hr-AA？下2～4区画全体図



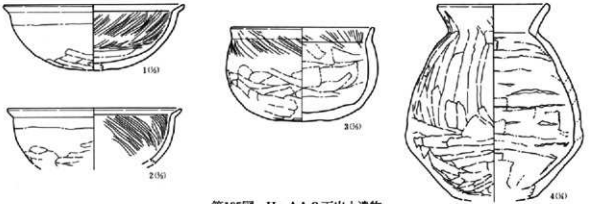
第193図　Hr-AA？下１区画全体図、1-1・2号溝



3-1溝

1　黄灰色シルト質土　植物繊維・灰色細砂ブロック含む。
2　黒褐色粘質土　黒色粘土と灰色細砂ブロックの混土。
3　褐灰色シルト質土　灰褐色シルトと灰色細砂の混土。
4　黒褐色粘質土　黒色粘土ブロックと灰色細砂ブロックの混土。
5　黒褐色軽石　再堆積のAs-C主体。黒色粘土含む。
6　褐灰色シルト質土　灰色細砂のブロック。
7　黒色粘土　粘性強。褐灰色シルトブロック少量混入。
8　黒色粘土　7層に似るがやや灰色味帯びシルト質。
灰色細砂は有馬火山灰もしくはそれに伴う洪水層。

第194図　1-3・4、3-1号溝



第195図　Hr-AA？下出土遺物

１）１区画（第193図）

シルト層の堆積が部分的であったため、当時の地表面を検出するには至らなかった。そのため、全体図中の等高線は省略してある。幅50～80cm、深さ5～10cm程の浅い溝が４条見つかっている（1-1～4溝、第193・194図）。走向に方向性は見られない。覆土上位にHr-AAと見られる灰色の細砂が認められる。

ここではプラント・オパール分析の結果イネが検出されたが、水田耕作の痕跡は確認できなかった。

２）２区画（第192図）

Hr-FAの噴火に伴う泥流によって一部旧地表が削られており、シルト層は部分的に認められたのみであった。As-C下の水路はこの段階まで存在している。明確な遺構は検出できなかった。

３）３区画（第192図）

全体に北西から南東方向へ緩く傾斜している。調査区の南側から溝が１条発見された（3-1溝、第194図）。幅40～50cm・深さ30cm程度でほぼ一定しており、壁の立ち上がりも明瞭である。覆土中に再堆積の灰色細砂をブロック状に含むことから、実際はHr-AAと思われるシルト層の堆積よりは新しい。ただし、Hr-FA下面ではすでに埋没していたことから、本調査面で扱うこととした。内部より土師器坏が出土している（第195図-１～３）。

４）４区画（第194図）

北西から南東方向に緩く傾斜している地形で、自然の流路と見られる浅い溝が見つかっている。溝は地形の傾斜に沿って流れ、途中でランダムに分岐、合流している。水田耕作の痕跡は確認できず、プラント・オパール分析によってもイネは検出されなかった。調査区の南東側で土師器甕が１個体、押しつぶされたような状況で出土している（第195図-4）。

３　様名ー渋川テフラ（Hr-FA）下

全域でHr-FAが認められた。本調査面は、北西から南東方向へ緩く傾斜し、２区画の南側が谷状に浅くへこんでいる。６区画南側で土層断面を確認した部分と１区画の南端では、約5.2mの比高差がある。

火山灰層直下の様相は、南端の１区画では水田が、３・４区画では傾斜に沿って走る縦方向の小畦のみが検出された（付図11）。２区画ではHr-FAに伴う泥流によって旧地表面が一部削られていた。水田の痕跡

は見られなかったが、調査区を横切る水路と溝が発見されている。５・６区画では、試掘調査の結果、水田等の遺構が見つからなかったため、それ以上の調査は行わなかった。以下、各区画ごとに記載する。

１）１区画

水田面の様相の異なる４つの区画が見つかっている。

まず、一番南端では、Ｌ字形に曲がった大畦に区画された中に小区画水田が作られていた（第200図）。大畦は下幅60～100cm、高さ25cm程で、他の小畦とは明らかに規模が異なっている。縦畦は、ほぼ地形の傾斜に沿って作られ、横畦が直交する。水口はすべて横畦にあり、傾斜に沿って水回しをしている。小畦は下幅が30～60cmとやや広く、高さも低い。畦の立ち上がりも不鮮明で、のっぺりとした印象を受ける。後述する北側の水田とは、明らかに様相が異なっている。馬の足跡はここでは見られなかった。

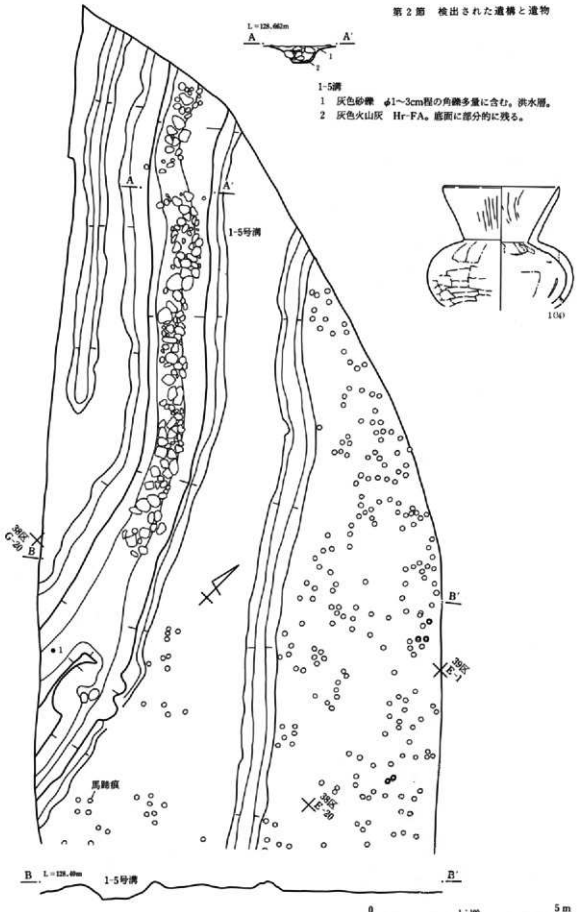
北側の38区７～14列にかけては、大部分が凹凸の激しい面であったが、一部平坦にならした後に畦畔が作られていた（第199図）。この部分は他の水田に比べて区画が大きく、通常の２～４倍程度である。小畦の幅や高さもやや不揃なことから、畦畔を作っている最中のもので、凹凸の激しい面は粗起こしの段階である。区画の最も南側には他より太い畦畔が作られており、大畦になる可能性もある。北東側には縦方向の大畦があり、さらに北へ延びる。こちらの大畦は、幅50cm、高さ15cm程度でしっかりと作られ、すでに完成した状態である。ここでは馬の足跡が多数見つかっているが、すべて粗起こしの部分に残され、畦畔のある部分には見られない。馬の足跡は、この畦畔を避けるようにして回り込んだ後に、さらに北側へと進んでいく。

38区14～18列付近では、再び小区画水田が作られている（第197・198図）。南端の水田同様縦畦が傾斜に沿っており、横畦に水口が作られていた。ただし、南端の区画のものに比べて畦畔が高く、形もはっきりしている。東端に縦方向の大畦が見られるが、南北両端には大畦は作られていない。南から続く馬の足跡は、調査区東端の大畦脇を通り北へ抜ける。足跡は、一部他の水田部分にも見られるが主に大畦脇に集中し、歩く範囲が規制されていたようである。西側では、北へ向かって歩く人間の足跡も見つかっている。

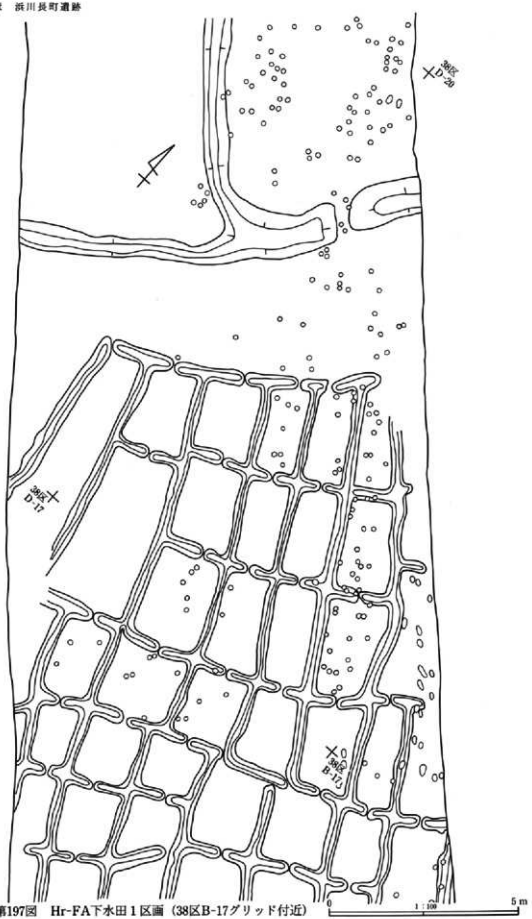
最も北側の38区18列以北では、大畦と溝のみが作られていた（第196・197図）。大畦は、横方向のものと、Ｔ字状に横の大畦にぶつかる縦方向の大畦である。縦の大畦は下幅50～90cm、高さ25cm、横の大畦は西半が下幅40～70cm、高さ15cm程度、東半は下幅100～120cm、高さ20cm程度で水口が作られていた。他は凹凸の激しい面で、多数の馬の足跡がランダムについていた。足跡は大畦の水口を通っており、水口に続く東側の区画により多い。ここも粗起こしの段階のものと推測されるが、大畦のみが作られていたのか、あるいは前年のものをそのまま残していたのかは不明である。ただし、縦の大畦を挟んで西側の区画が東側よりも5～10cm高くなっていることから、この位置は固定されていたものと考えられる。水口部分については大畦の断割りを行ったが、浜川館・高田で見られたような木材の埋め込みは認められなかった。

縦の大畦の西側には、大畦に並行して溝（1-5溝）が作られている。上幅1.0～1.5m、深さ10～30cm程度で、両脇は畦状に高く作られており、南側で西に緩く曲がり二股に分かれる。底部には成層したHr-FAの降下火山灰層が認められた。この溝の北側３分の２ほどには、中に人頭大から一抱え以上もある大きさの円礫が詰め込まれていた。このような円礫は周辺の水田面にはなく、泥流によって運ばれたものでないことは明確であった。また、土層断面の観察から、礫が投げ込まれたのがHr-FAの降下後で、泥流発生以前であることがわかった。礫の投入の意図は不明であるが、火山灰降下後のなんらかの復旧の意味を持っていた可能性が考えられよう。溝からは、底部に貼り付くようにして土師器坩が出土している（第196図-1）。

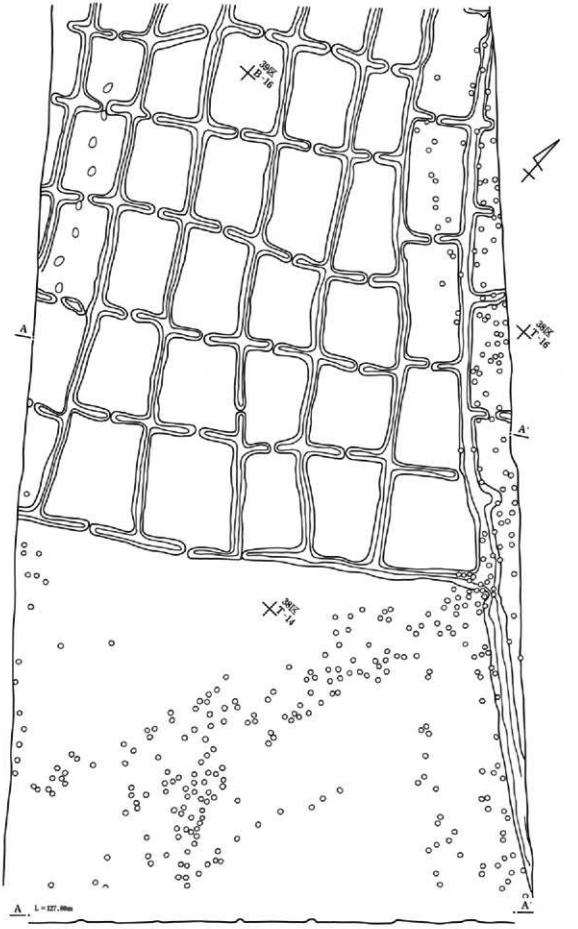
以上のような様相の違いは、畦畔形成時の工程差を表しているものと考えられる。北側と南側の水田の差



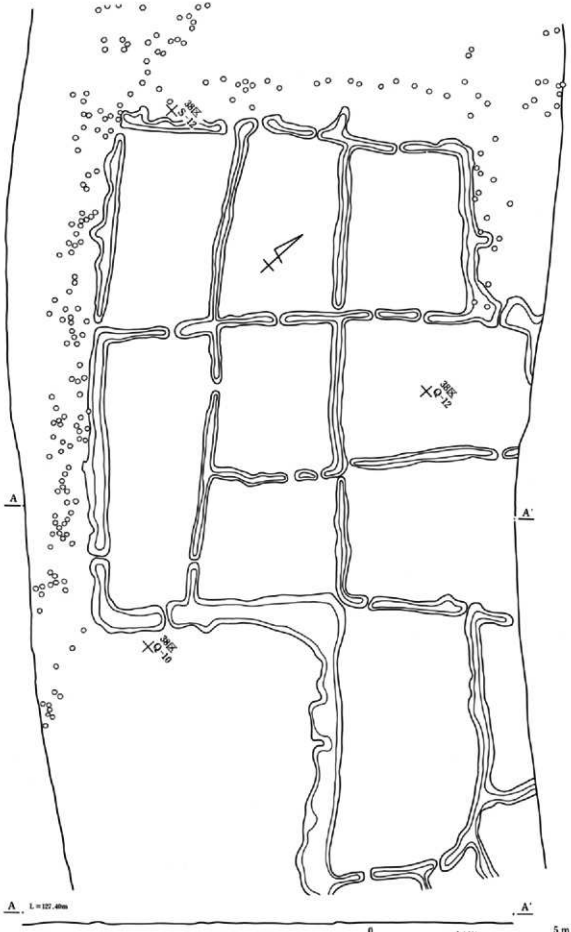
第196図　Hr-FA下水田１区画北端、1-5号溝



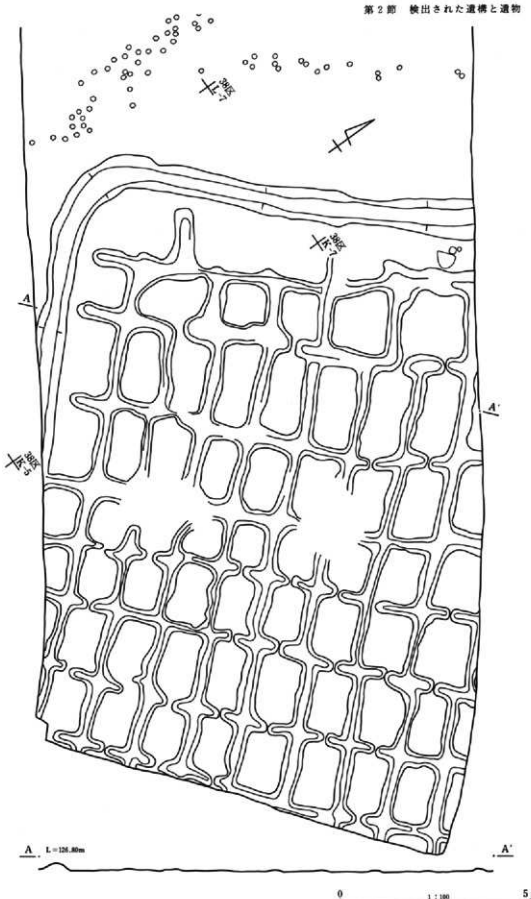
第197図　Hr-FA下水田１区画（38区B-17グリッド付近）



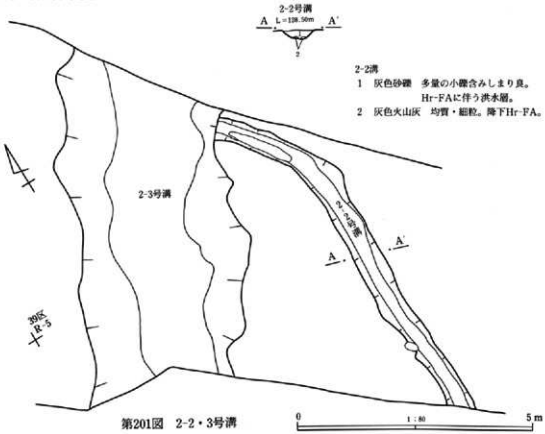
第198図　Hr-FA下水田１区画（38区T-14グリッド付近）



第199図　Hr-FA下水田１区画（38区Q-10グリッド付近）



第200図　Hr-FA下水田１区画南端部



第201図　2-2・3号溝

は、新しく作った部分と、粗起こし前で前年の水田が残っている部分との違いであろう。畦畔の形成行程の詳細については、第６章で述べる。

2）２区画

全体に北西から南東に向かって緩く傾斜しているが、かなり凹凸が認められる。調査面には泥流によって運ばれた大小の礫が散らばっており、一部地表面が削られていた。

中央部には調査区を横断する上幅3.0～3.5m程の水路が作られていた（2-3溝、第201図）。この水路は湧水のため完掘できなかったが、80cm以上の深さであることが確認できた。As-C下の水路が埋没した後に隣接して作られており、位置がほぼ踏襲されている。水路の北側は泥流によって地表面が削られ、中央が浅く幅広の溝状にくぼんでいた。水路の南側では溝が見つかっている（2-2溝、第201図）。溝は幅40～70cm・深さ18cm程で南北に走り、北端で西側に曲がり水路につながる。覆土下底にはHr-FAが堆積していた。

3）３区画

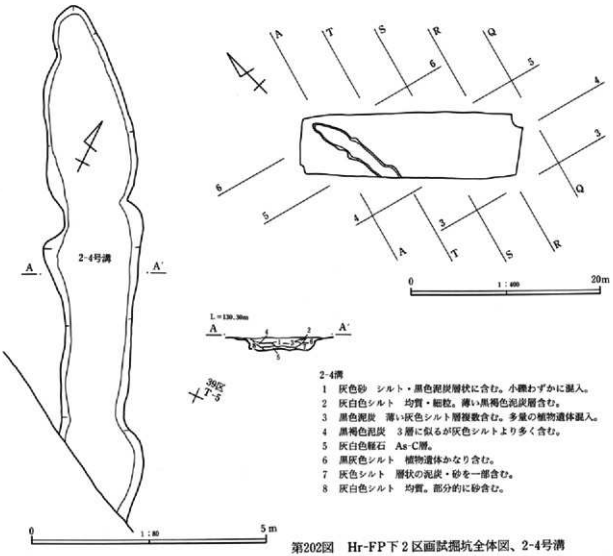
傾斜に沿って北西から南東方向に向かう縦畦が見つかっている。３本のより明確な畦の間に、不明確な畦状の高まりが認められる。最も南側の畦が他に比べてやや大きく、下位のHr-AA下面で確認された溝とほぼ並行することから、大畦として区画を踏襲していた可能性がある。水田面は明瞭な畦畔を境として、西から東へ向かって棚田のように低くなっている。はっきりした横畦はなかったが、不明瞭な高まりが一部で認められた。以上から、ここでは縦畦のみが作られた段階にあると判断した。不明瞭な畦状の高まりは、以前に耕作されていた水田の痕跡と思われる。

4）4区画

非常に不明瞭ではあるが、畦状の高まりが見つかっている。畦畔の方向は3区画のものと一致している。横畦と思われる高まりも部分的に見られたが、はっきりしなかった。このような状況は、3区画の以前に耕作されていた水田の痕跡に類似する。この他に、畦畔と方向を異にする小さな溝が1条見つかっている（4-1溝）。上幅35cm、深さ10cm程で、両脇が畦状にやや高くなっていた。調査段階では水田址と断定するに至らなかったが、プラント・オパール分析の結果イネが検出され、水田耕作が行われていたことが指摘されている。3区画の状況なども考慮し、以前に耕作されていた水田と判断した。3区画のように新たに縦畦を作り直している状況は認められず、休耕地、もしくは作業開始以前の区画と思われる。

4　榛名ー伊香保テフラ（Hr－FP）下（第202図）

試掘によって水田址が確認できなかったため、この面での調査は行っていない。しかし、南側に隣接する浜川高田遺跡では水田が見つかっており、プラント・オパール分析でも1区画でイネのプラント・オパールが検出されている。したがって、本遺跡でも、少なくとも南側では水田が営まれていたものと推測される。遺構としては、試掘の段階で2区画から溝が1条見つかっている。上幅2.0m、深さ24cm程度の溝である。



第202図　Hr-FP下2区画試掘坑全体図、2-4号溝

5　泥流堆積物上面

浅間Ｂ軽石（以下As-B）下の水田耕作土を取り除いた段階で、複数の遺構が見つかった。遺構確認面はHr-FPの噴火に伴う泥流堆積物中である。火山灰もしくは泥流層直下の調査面のようにある特定時期の生活面として捉えられないため、全体図中の等高線は省いてある。時期的には７世紀から11世紀頃までの長い期間にわたる。

３・４区画からは住居が各１軒、２区画でも住居の痕跡と考えられる炭化物の集中箇所が調査されている。いずれも７世紀代の遺構であり、洪水の発生が止み地形が安定した段階で、この近辺が居住域になっていたものと考えられる。しかし、２軒の住居はともに洪水層によって埋没しており、その後再び住居が構築されることはなく、As-B下の段階では生産域に戻っている。本調査面でも、１区画で見つかった石列がAs-B下水田の畦畔と一致することから、石列が作られた段階で水田に復帰していた可能性が高い。その他４区画で溝１条、６区画で土坑４基が調査されている。

以下、各遺構ごとに記す。

１）住居

１号住居（３区画、第203～208図）

位置　10地区50区Ｉ～Ｊ－12・13グリッド　**主軸方位**　Ｎ－22°-W　**残存壁高**　23cm　**重複**　なし

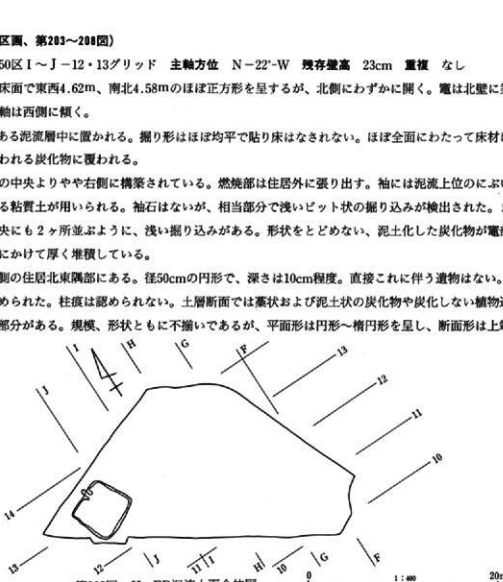
規模と形状　床面で東西4.62m、南北4.58mのほぼ正方形を呈するが、北側にわずかに開く。竈は北壁に築かれ、住居主軸は西側に傾く。

床面　地山である泥流層中に置かれる。掘り形はほぼ均平で貼り床はなされない。ほぼ全面にわたって床材に由来すると思われる炭化物に覆われる。

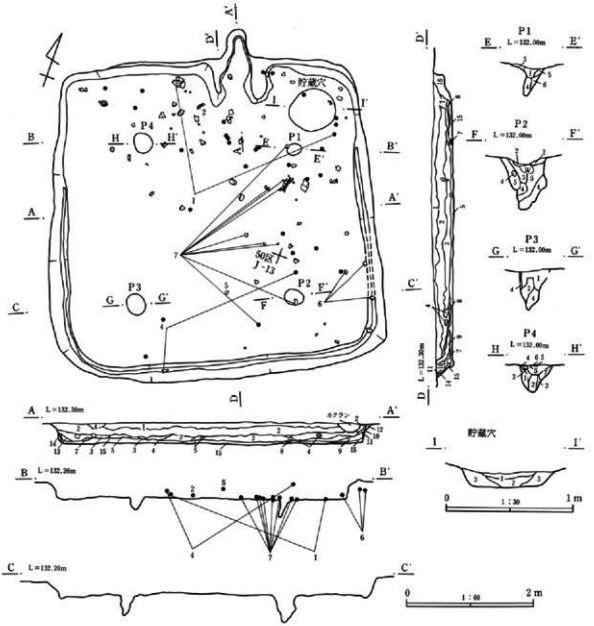
竈　住居北壁の中央よりやや右側に構築されている。燃焼部は住居外に張り出す。袖には泥流上位のにぶい黄褐色を呈する粘質土が用いられる。袖石はないが、相当部分で浅いピット状の掘り込みが検出された。また、燃焼部中央にも２ヶ所並ぶように、浅い掘り込みがある。形状をとどめない、泥土化した炭化物が竈部からその右側にかけて厚く堆積している。

貯蔵穴　竈右側の住居北東隅部にある。径50cmの円形で、深さは10cm程度。直接これに伴う遺物はない。

柱穴　４本認められた。柱痕は認められない。土層断面では薄状および泥土状の炭化物や炭化しない植物遺体が集中する部分がある。規模、形状ともに不揃いであるが、平面形は円形～楕円形を呈し、断面形は上端



第203図　Hr-FP泥流上面全体図



ベルトセクション

1　暗褐色土　洪水層の再堆積土。多量の砂礫・火山灰・炭化物含む。
2　暗赤褐色土　洪水層の再堆積土。火山灰ブロック・炭化物含む。
3　褐灰色砂礫　火山灰ブロック・炭化物含む。
4　火山灰ブロック
5　黒褐色土　炭化物含む。粘性強い。
6　褐色土　砂礫多量に含む洪水層の再堆積土。多量の炭化物混入。
7　灰黄褐色土　砂層のブロック主体。炭化物含む。
8　腐食した植物遺体の集中層。樹皮状のものを含む。
9　にぶい黄褐色土　洪水層上位の粘質土主体。多量の砂粒・炭化物含む。
10　褐色土　砂礫多量に含む洪水層の再堆積土。多量の軽石・炭化物混入。
11　灰黄褐色土　砂層のブロック主体。壁の崩落土か。
12　にぶい黄褐色土　9層に似るが炭化物をより多く含む。
13　暗褐色砂質土　炭化物多量に含む。
14　にぶい黄褐色土　洪水層上位の粘質土主体。壁に貼ってある。
15　炭化物・植物遺体の集中層。
16　カマド袖部分。

柱穴セクション

1　褐色砂質土　地山洪水層の再堆積。
2　葉様植物の集中部。一部炭化。
3　灰色砂　葉様植物多量に含む。
4　炭化物の集中部。
5　黒褐色砂質土　地山洪水層の再堆積。炭化物含む。
6　灰色砂　少量の炭化物含む。
7　にぶい黄褐色砂質土　地山洪水層の再堆積。

貯蔵穴セクション

1　炭化した葉・小枝等をランダムに含む。下部に小礫混入。
2　黒色砂質土　地山洪水層の再堆積土。多量の炭化物含む。
3　黒褐色砂質土　地山洪水層の再堆積土。

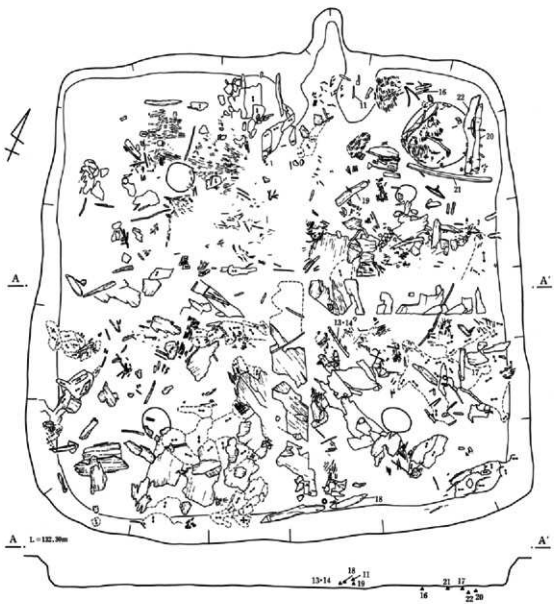
第204図　1号住居

が広く下端が狭まる崩れたU～V字形を呈する。

周溝　住居の南部３／４ほどを取り巻くようにもうけられる。柱穴A－Dを結ぶ線以北では認められない。床面からの深さ４～５cm、幅10cm程度。

出土遺物　住居のほぼ全面を、住居構築材と見られる植物質遺物が覆っている。加工痕の明確なものについては第207図に示してある。小形品のうち９は掘串、10･11はなんらかの日用道具であろう。土器類は竈周辺から住居東半部に認められ、住居の西南四半にはごく少ない。竈左脇の土師器坏（１）、東半中央近くの甕（７）以外は破片である。桃核かと思われる種子、炭化米なども認められた。この他に、土師器坏４点（２～６）、土製の小玉（８）が出土している。

調査所見　泥流層を地山として構築され、この堆積物を主体とする泥流（洪水）層で埋没する。泥流層中の住居跡である。出土遺物から７世紀初頭～前半の年代が与えられ、Hr－FPの噴火、およびこれに起因する



第205図　1号住居炭化材出土状況

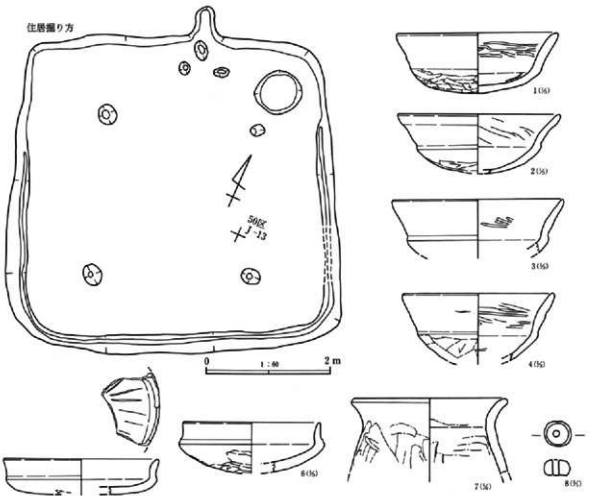
カマド

カマド掘り形

カマドセクション

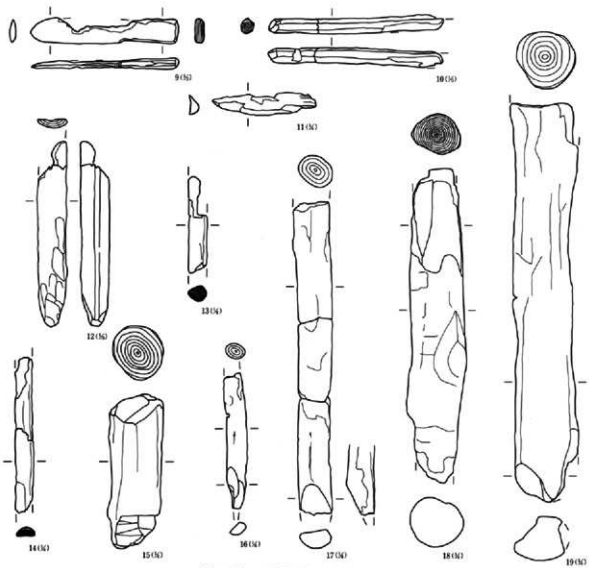
1　炭化物層　灰を多量に含む。
2　粘質土　炭化物含む。天井の崩落土か。
3　粘質土　多量の炭化物・灰を含む。
4　粘質土　少量の炭化物含む。
5　炭化物層　1層よりも黒味強くしまり良。
6　にぶい黄褐色粘質土　洪水層上位の土。カマドの構築材。

住居掘り方

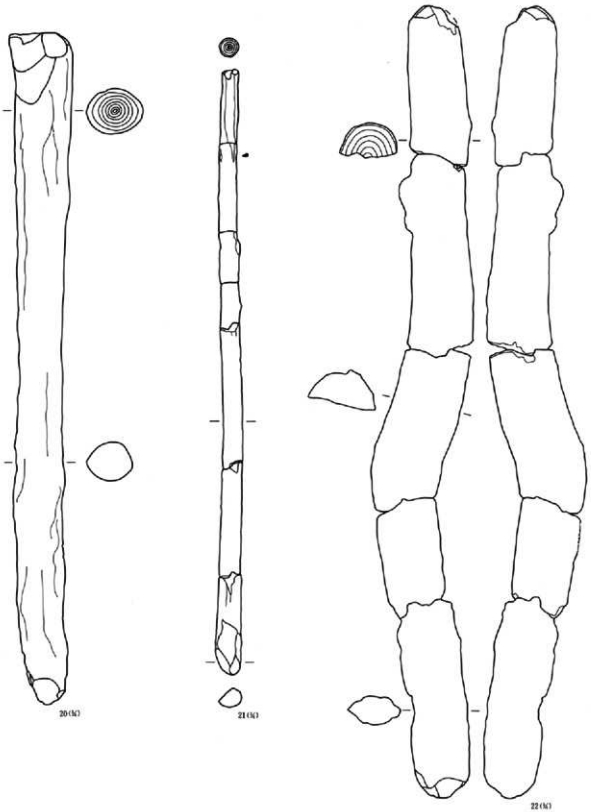


第206図　１号住居、出土遺物（１）

泥流の堆積開始から半世紀ほどを経て構築されたもので、この地域の泥流堆積後の遺構としては最古段階に位置づけられる。埋土上層の洪水層を除去すると、住居内一面に樹皮状の植物を敷きつめたような状況が認められた。これの多くは炭化しておらず、繊維の方向を異にしつつ重ねられている。部分的に、樹皮状物の間に灰色の粘質土が挟まれるような状況も見られる。樹皮状物の下には植物の茎、細い枝状材などが炭化して、一部では方向をそろえ、一部では交差するように配されている。茎状の植物は、植物珪酸体分析から示唆されるススキ、ネザサ、ヨシなどにあたるものだろう。上層の炭化しない樹皮状物は屋根の外面被覆材に相当し、下層の茎・細い枝等の炭化材は屋根の内面や床の用材に相当するものと思われる。竈周辺の泥土状の炭化物の集中から見て、竈を火元として出火し、ある段階で屋根が崩落した状態が想定される。屋根に土を挟む構造であったことも加わって、床や屋根の内側面にあたる材は高熱を受けつつも燃え尽きずに炭化したものであろう。柱材をはじめとする大形材が認められない点も注意される。樹種同定の結果からはヤシャブシ亜属の多用が注意されているが、大形樹木に乏しかったであろう当時の周辺環境から見て、再利用のために持ち去ったものと見ることもできる。



第207図　１号住居出土遺物（２）



第208図　１号住居出土遺物（３）

２号住居（４区画、第209図）

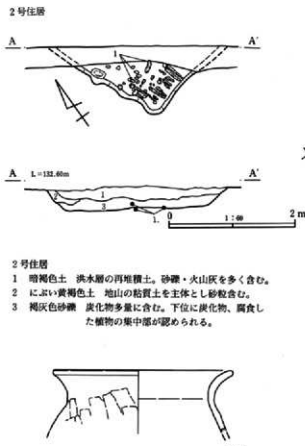
位置　10地区50区Ｌ－17グリッド　**主軸方位**　不明　**残存壁高**　15cm　**重複**　なし

規模と形状　南西隅を検出したのみで、住居域の大半は調査区外に位置する。そのため正確な規模、形状、竈方位などは不明である。

床面　地山泥流層中に置く。断面の観察から若干西側が低いが、ほぼ平坦である。貼り床などは見られない。

出土遺物　床面直上から土器の小破片とともに炭化材が出土している。炭化材は、住居の南壁沿いにほぼ西壁に並行するように並んで複数見つかっている。住居の構築材であろう。土器は大半が小破片で、器形の復元が可能な遺物は土師器甕１点のみであった（１）。

調査所見　本住居は、１号住居と同様に地山泥流堆積物の再堆積土で埋没している。床面上に炭化材が出土していることから消失住居と考えられるが、１号住居のような屋根材と思われる樹皮状物は見られなかった。覆土の状況と出土遺物から、７世紀代の住居と推定される。



第209図　Hr-FP泥流上面４区画全体図、２号住居

２）土坑

６区画で４基の土坑を検出。調査区内に散在し、集中する傾向は見られない。遺物の出土がなく正確な所属時期は不明であるが、As-B下水田の耕作土下にあったことから、古代に属するものと判断される。

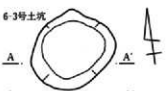
6-1・2号土坑は12地区51区Ｐ－11グリッドに隣接して所在。ともに不定楕円形状で、6-1号土坑が長軸138cm、短軸52cm、深さ19cm。6-2号土坑は長軸224cm、短軸133cm、深さ18cmで覆土上位にAs-Bを含む。6-3・6号土坑は12地区51区Ｋ－７グリッドに位置し、大きさ・形状とともに類似している。6-3号土坑は長軸87cm、短軸75cm、深さ23cm、6-6号土坑は長軸72cm、短軸65cm。内部からはφ10～20cm程度の礫が複数出土した。

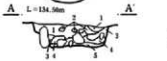
6-1土
1　黒色粘土　黄褐色シルトブロック一部混入。粘性強。
2　暗灰黄色砂　小礫含む。

6-2号土坑

6-2土
1　黄褐色粘質土　小礫多量に含む。
2　暗褐色軽石　As-B。
3　黒色粘土　黄褐色シルトブロック一部混入。粘性強。
4　褐色粘質土　鉄分の凝集見られる。
5　灰黄褐色シルト質土　灰褐色粘質土と黄褐色砂の混土。

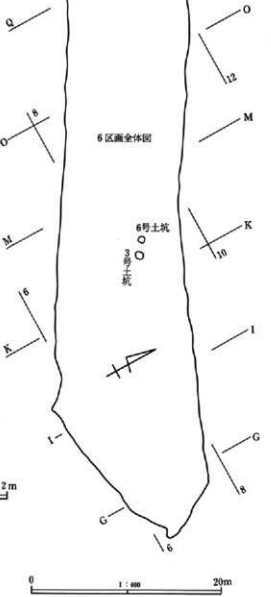
6-3号土坑





6-6号土坑

6-3土
1　灰黄褐色シルト質土　φ2cm程の角閃石安山岩少量含む。
2　黒色粘土　黄褐色シルトブロック一部混入。粘性強。
3　褐灰色粘土　φ2mm程の軽石粒を霜降り状に含む。
4　にぶい黄褐色砂質土　φ2cm程の小礫含む。
5　黒褐色粘土　粘性非常に強い。



第210図　Hr-FP泥流上面６区画全体図、6-1～3・6号土坑

３）溝

４区画で１条検出（4－2号溝、第211図）。10地区50区N・O－18・19グリッドに所在し、上幅が最大で66cm、深さ16cm程で、ほぼ南北に走る。地山泥流層の再堆積土で埋没している。

４）石列（第212図）

１区画北よりの部分で南北に走る石列が発見された。石列は、東側が一段下がった段差に沿って拳大から人頭大の円～亜角礫が敷きつめられていた。段差の下方に一部礫が崩れ散らばっていた。幅50～150cm、段差の高さは10cm程度である。上位のAs-B下水田の畦畔と一致することから、水田耕作に伴う施設と考えられる。礫に混じって坏を含む土師器の小破片が少量出土している。

この石列は、As-B下水田の検出時にはすでに上部の礫が一部露出しており、上面を洪水層が厚く覆うような状況ではなかった。おそらく１・２号住居を埋めた洪水が収束した後に、この地域が生産域に復帰するに伴って構築されたものであろう。出土した土師器坏は８世紀代のもので、住居に後出するものであることを裏付けよう。

５）炭化物集中（第212図）

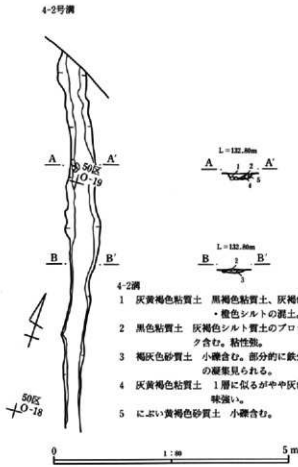
２区画の北端部で炭化物の集中が２ヶ所隣接して見つかっている。いずれも洪水層上位の黄色砂礫層中に、ごくわずかな凹みに貼り付くような形で炭化物が残存していた。おそらく、住居もしくはピットなどの上部が削平され、底面のみが残ったものであろう。遺物と出土層位から、１・２号住居とほぼ同時期の遺構と判断される。

１号炭化物集中

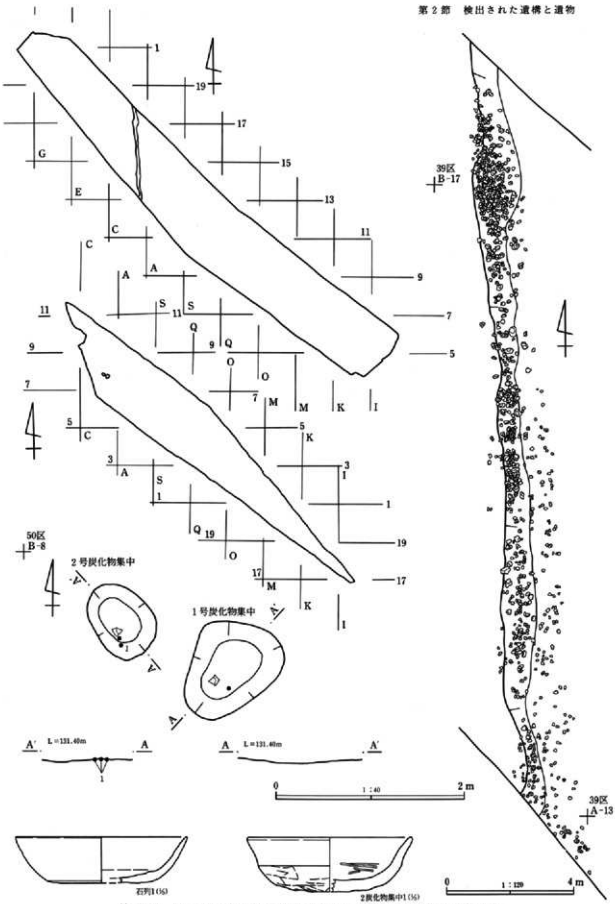
10地区50区Ａ－7グリッドに位置する。長軸118cm、短軸92cmの不整楕円形である。内部より土師器の小破片が僅かに出土しているが、図化可能な遺物はない。

２号炭化物集中

10地区50区Ａ－７グリッドに位置する。長軸83cm、短軸63cmの楕円形状である。内部より土師器坏が出土している。７世紀後半の遺構と判断される。



第211図　4-2号溝



第212図　Hr-FP泥流上面1・2区画全体図、石列、1・2号炭化物集中

6　浅間Ｂ軽石（As-B）下

近年の圃場整備によって一部As-Bが削られていたが、削平がおよばなかった部分では、ほぼ全域で水田を検出（付図12）。より南側の１・２区画では水田の残存状況は比較的良好であったが、北側の３～６区画では畦畔は不明瞭で、小さな段差を境に棚田の様な状況を呈していた。

調査区は全体に北西から南東方向に向かって緩く傾斜している。北西端の６区画では、畦畔は土地の傾斜に沿って等高線に並行、もしくは直交する方向に作られているが、南東側に向かうにつれて、畦畔が東西または南北方向にほぼ一致するようになる。また、水田面には耕作の痕跡と思われる多数の凹みが見られたが、確実な性格は不明である。以下、各区画ごとに示す。

1）１区画

調査区南側の38区G～M-6グリッドでは東西方向、北半の39区A-12～18グリッドでは南北方向に、小さな溝を伴う畦畔が作られている（第213・215図）。北側の畦畔は、洪水堆積物上面で検出された石列を踏襲している。他の畦畔も南北もしくは東西方向を基本とするが、調査区の北端部など、部分的に方向の乱れている所もある。水田１枚の面積が確認できる部分では、ほぼ一定している。水口は、縦畦・横畦ともに見られるが、前述の溝を伴う畦畔とその他の畦畔との接合部分はすべて水口となっている。

2）２区画

圃場整備による削平のため部分的な検出にとどまり、水田の形状のわかるものはなかった。畦畔は、１区画同様南北・東西を基本とするものと思われる。

3）３区画

東半でのみ検出。西側は削平されていた。ほぼ南北方向のわずかな段差が２ヶ所に見られ、その段差に直交するように横方向の畦が作られていた。畦畔はあまり明瞭ではない。水田面は西から東にわずかに傾斜しており、段差を境として棚田状になっている。

4）４区画

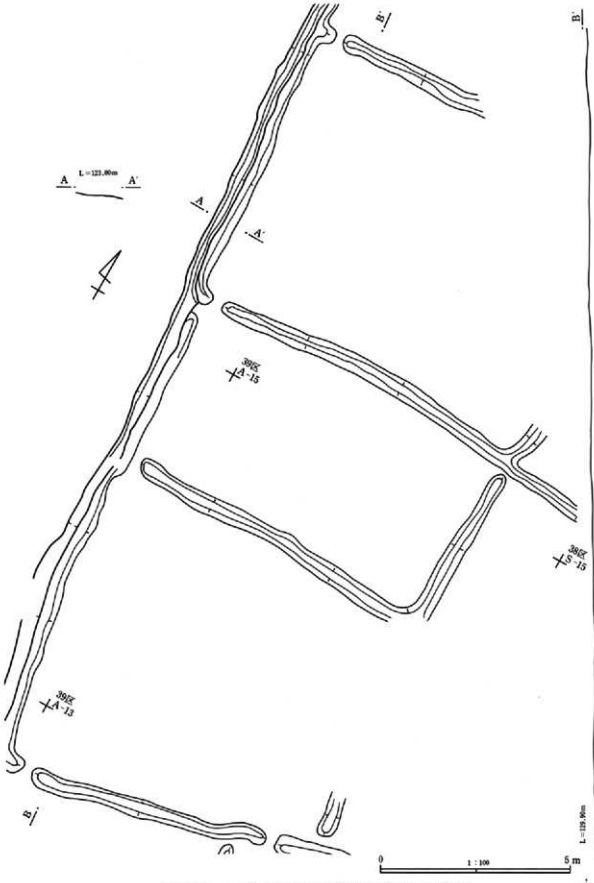
東半は畦畔の残りが比較的良好で、南北・東西を基本とする畦畔が作られていた。一方、西半でははっきりした畦畔はなく、北東から南西方向に斜めに走るわずかな段差が見つかったのみである。この段差は等高線にほぼ沿っており、段差を境として棚田状を呈している。

5）５区画

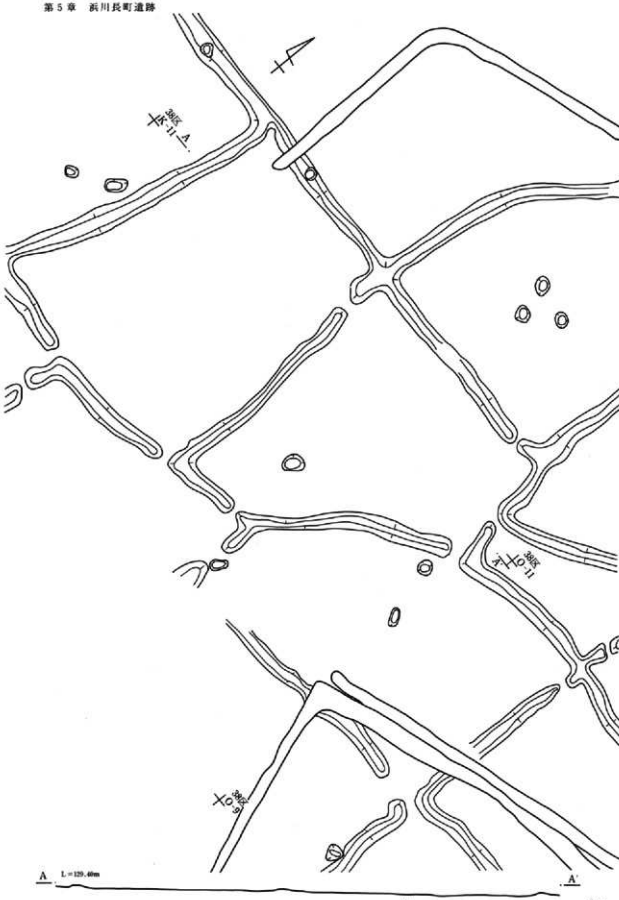
明確な畦畔は検出できず、４区画同様不規則なわずかな段差が見つかったのみである。北から南にわずかに傾斜している調査区の、等高線に沿うような形で蛇行している。高低差はわずかであるが、段差を境として棚田状になっている。

6）６区画

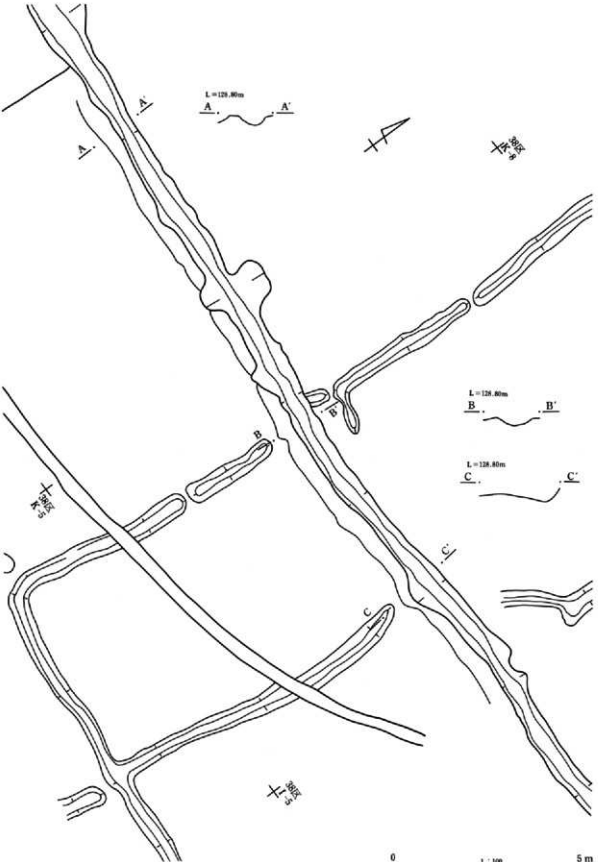
明確な畦畔は検出できなかった。西半で比較的はっきりした畦畔が１本あった他は、等高線に沿ってわずかな段差が見られただけである。４・５区画同様段差を境に高低差の少ない棚田状になっている。



第213図　As-B下水田１区画（38区T-13グリッド付近）



第214図　As-B下水田１区画（38区O-9グリッド付近）



第215図　As-B下水田１区画（38区I-5グリッド付近）

7　中・近世

各区画から少数の溝・ピットが見つかっている。いずれも遺物の出土はなく、正確な時期認定はできなかったが、覆土に再堆積のAs-Bを含み、As-B下水田の畦畔を切ることから、中・近世の遺構と判断した。圃場整備の削平によって大半の遺構の掘り込み面が失われていたため、全体図中の等高線は省略した。３区画では、並行する６本の溝が見つかっているが、相互に関連する一連の遺構と判断し、溝群として取り扱う。

１）溝

1-6号溝（第216図）

10地区39区B－18～D－17グリッドに位置する。ほぼ東西方向に走り、西端で南側に屈曲する。調査段階での上幅は最大で140cm、深さ44cm程度である。覆土中に再堆積のAs-Bを含む。

1-7号溝（第216図）

10地区38区H～K－5グリッドに所在。ほぼ東西方向に走り、東側で緩く北方向に曲がる。調査段階での上幅は35～45cm、深さ5～10cm程度である。As-B下水田の畦畔を切ることから、中・近世の遺構と判断した。

1-8号溝（第217図）

10地区38区P-12～Q－11グリッド。北東から南西へ走り、中央部で屈曲し南北に方向を変える。上幅40cm、深さ15cm程の小規模な溝である。覆土中に再堆積のAs-Bを含む。

1-9号溝（第217図）

10地区39区A－17～C－15グリッドに位置する。北東から南西方向に走った後南側に屈曲、その後さらに南西方向に屈曲する。上幅30cm、深さ5cm程度の小規模な溝である。規模、および方向が1-8溝に類似している。

2-5号溝（第218図）

10地区49区Q－6～T－5グリッド。ほぼ東西に走る。上幅504cm、深さ36cm程度。As-B下水田畦畔を切る。

3-2号溝（第219図）

10地区50区H－11～14グリッド。南北に走るが、北端で西側に直角に曲がる。上面を近年の圃場整備によって削平されている。調査段階での上幅は最大で95cm、深さは10～20cm程度である。

6-1号溝（第220図）

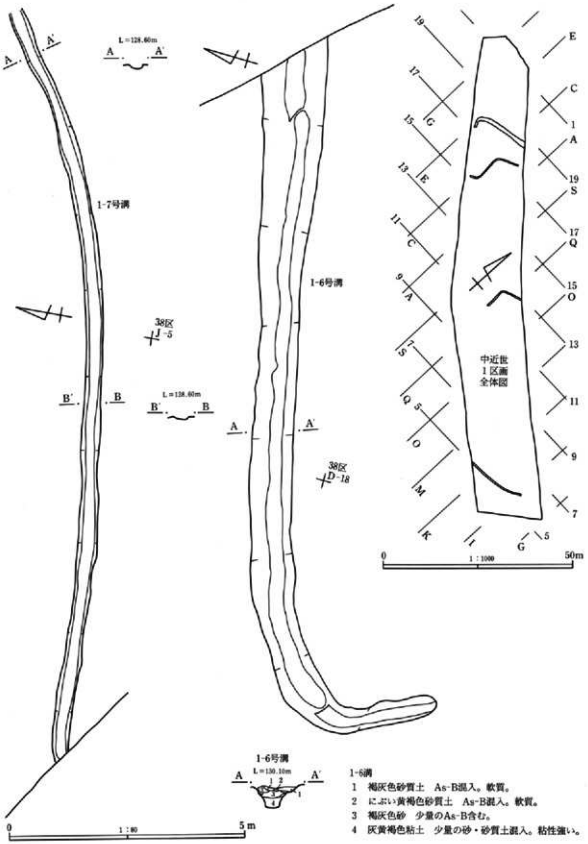
10地区51区K-9～Q-10グリッド。ほぼ東西に走る。上幅110cm程度。As-B下水田の畦畔を切る。

6-2号溝（第220図）

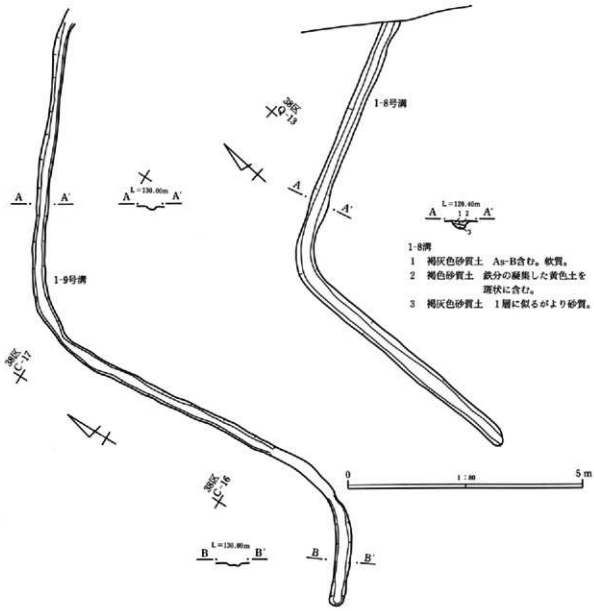
10地区51区M-10～Q-11グリッド。6-1溝に並行して走る。上幅70～110cm程度。As-B下水田畦畔を切る。

6-3号溝（第220図）

10地区51区M～Q－11グリッド。6-1・2溝に並行する。上幅70～120cm。As-B下水田畦畔を切る。



第216図　中・近世１区画全体図、1-6・7号溝



第217図　1-8・9号溝

6-4号溝（第220図）

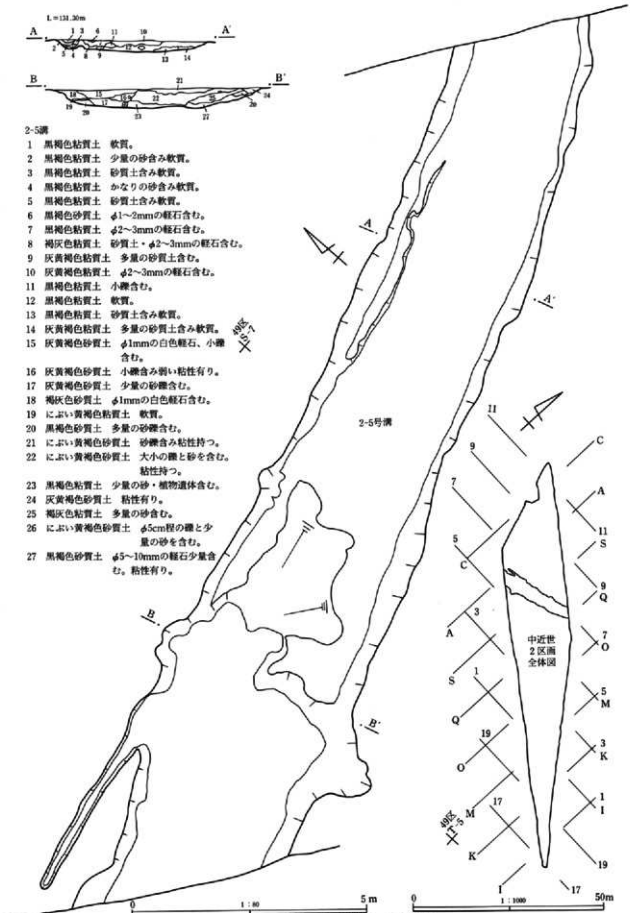
10地区51区P-11・12グリッド。6-1～3溝に並行し、東端で南側に屈曲して6-3溝につながる。

6-5号溝（第220図）

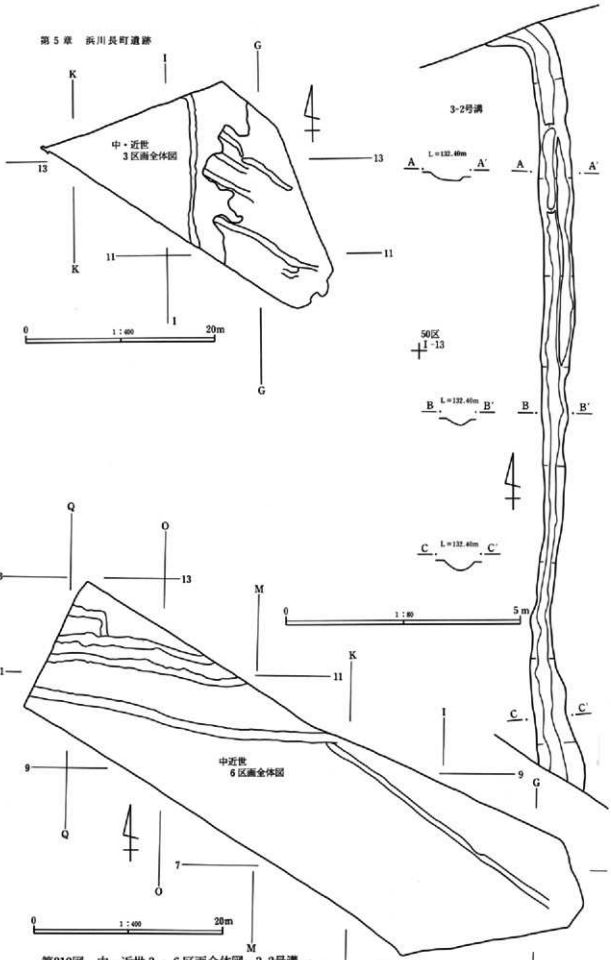
10地区51区F-6～K-9グリッド。北西から南東に走る。上幅80～100cm程度。As-B下水田畦畔を切る。

２）溝群（第221図）

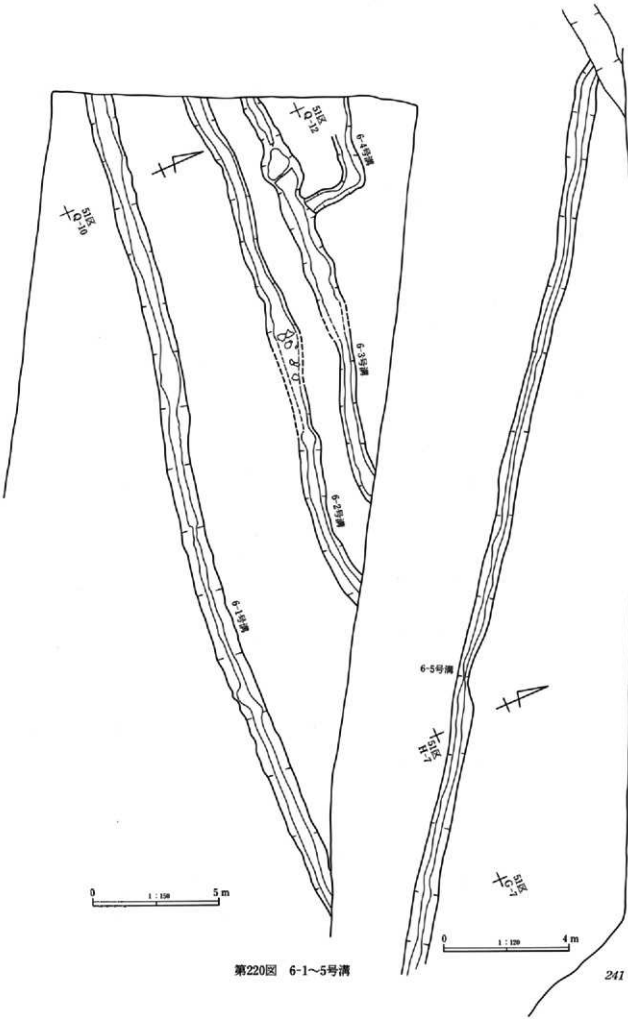
３区画で、並行して走る６本の溝を検出した。地形の傾斜に沿って、北西から南東方向に走る。検出段階の大きさはいずれも幅60～80cm、深さ5～10cm程度で非常に浅いが、圃場整備によって上部を削平されているため、本来の掘り込み面はより上位であった。遺物などはなく、正確な時期は不明であるが、As-Bを切っていることから、中・近世の遺構と判断した。水田、もしくは畑作などの耕作に伴うものか。



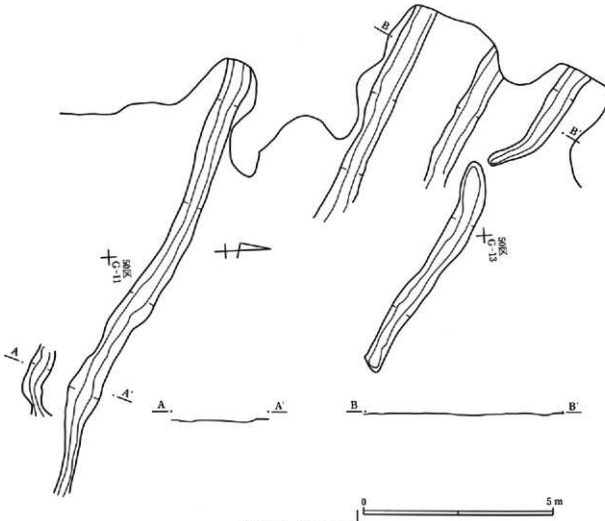
第218図　中・近世2区画全体図、2-5号溝



第219図　中・近世３・６区画全体図、3-2号溝



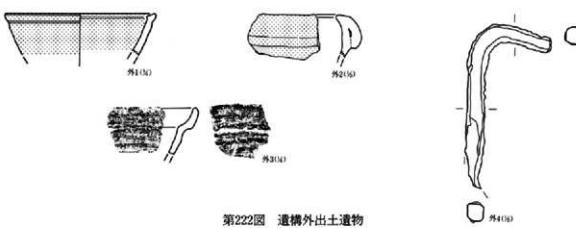
第220図　6-1～5号溝



第221図　３区画溝群

３）遺構外出土遺物（第222図）

調査区内の表土や遺構外から、遺物が小数出土している。いずれも中・近世に属する遺物で、圃場整備時の削平によって本来の所属遺構から移動したものである。陶器鉢や鉄製品があった。



第222図　遺構外出土遺物